

絶滅 (EX)

ヒメハイホラゴケ

コケシノブ目 コケシノブ科

Vandenboschia nipponica (Nakai) Ebihara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5~10cm の常緑性シダ。褐色から黒褐色の毛を密生する根茎は横走し、所々で分岐し、狭い間隔で葉をつける。葉身は深緑色で、大きさに変異が多い。3 回羽状複葉で、中軸・羽軸・小羽軸には翼がある。裂片は多く、隣り合うものが重なり合うため、立体的に見える。
- ❖ 分布の概要 奥州市から報告されたが、その後、県内からの情報はない。北海道・本州（日本海側）・北九州、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の溪流沿いにある陰湿な岩壁に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。以前に報告があった生育地ではダム工事によって消失した。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

絶滅 (EX)

ウスヒメワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 II ナヨシダ科

Acystopteris japonica (Luer ss.) Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40~80cm の夏緑性シダ。根茎は横に匍匐する。葉柄は暗褐色~紫褐色で光沢がある。葉身は三角状卵形で、鋭先端、3 回羽状複葉。葉の両面に白色の軟毛をつける。孢子囊群は裂片の辺縁近くにつき、小さく、包膜は半球状となる。
- ❖ 分布の概要 大船渡市珊瑚島で採集されたことがある（1953 年）。本州（東北地方南部以南）・四国・九州、中国（南西部）・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 陰湿な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 1953 年以降、県内からの情報はない。珊瑚島は東日本大震災の津波を受け、生育環境が大きく変化した。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

絶滅 (EX)

コウライイヌワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 II メシダ科

Deparia coreana (H.Christ) M.Kato

環境省 絶滅危惧 II 類

- ❖ 形態 高さ 30~60cm の夏緑性シダ。根茎はごく短く匍匐する。葉柄は下部の鱗片は茶褐色で披針形、全縁となる。葉身は単羽状で、裂片は深く切れ込み、羽軸に達する。孢子囊群は小羽軸近くにつき、半月形や鉤形で包膜も同形で全縁となる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市からの記録があるが、それ以外の県内からの情報はない。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 林床のやや日当たりが良い湿った場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。記録された場所では生育環境が大きく変貌したため、絶滅した。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）、2. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤⑥

ミズスギ

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

Lycopodiella cernua (L.) Pic.Serm.

環境省 なし

- ❖ 形態 常緑性シダ。高さは暖地のもので 50cm になるが、北方のものは 10cm 前後で小さく、多くの枝を出しながら匍匐する。全体が柔らかい。葉は淡緑色で、針状線形、全縁、やや開出するが基部は小枝に短く合着する。孢子囊穂は直立した側枝の先端に 1~2 個が頂生し、無柄、卵形で下向きにつく。
- ❖ 分布の概要 雫石町滝ノ上温泉と一関市須川温泉から報告されたが、現状は不明。北海道・本州・四国・九州・琉球・小笠原、熱帯~亜熱帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりの良い法面や斜面、林縁などのやや湿性な場所に生育するが、北日本では火山地帯で、噴気が見られるような地熱のある緩斜面や温水路周辺に生育する。
- ❖ 脅威 火山活動の消長に伴う環境変化や踏みつけ、登山道開設など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地が限られ、近年、確認されていない。
- ❖ 文献 3. 大場達之 (1974)、4. 千田善喜・村井三郎 (1978)、5. 海老原淳 (2016)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

スギラン

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

Phlegmariurus cryptomerinus (Maxim.) Satou

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10~30cm の常緑性シダ。葉は緑色から深緑色で、革質、線状~狭披針形で中肋は不明瞭で、全縁、長短が揃いでやや開出状に密生する。孢子囊群は枝端近くにつき、孢子葉は栄養葉よりもやや小さい。
- ❖ 分布の概要 雫石町、花巻市、西和賀町、奥州市、遠野市、宮古市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・屋久島、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林内で、ブナやミズナラなどの老齢木の樹幹上、まれに岩上に着生する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地、個体数ともにきわめて少ない。
- ❖ 文献 6. 大森鉄雄 (1980)、7. 大森鉄雄・高橋久 (1980)、8. 大森鉄雄・高橋久 (1989)、9. 大森鉄雄・高橋久 (1992)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

コケスギラン

イワヒバ目 イワヒバ科

Selaginella selaginoides (L.) P.Beauv. ex Schrank et C.F.P.Mart.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1~10cm の小形の常緑性シダ。匍匐する細い茎は短く、地面に圧着するようにつき、そこからやや直立した長さ 5cm 程度の枝を出す。葉は広披針形で、茎に開出してらせん状につく。孢子囊穂は直立した茎に頂生し、胞子が熟する頃には淡黄緑色になる。
- ❖ 分布の概要 烏帽子岳、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、ヨーロッパ~北アメリカに至る周極分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山~高山帯で、湿り気のある明るい草原や湿原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、水分環境の変化にともなう自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。全国的に生育地が少なく、個体数も少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、5. 海老原淳 (2016)

(竹原 明秀)

サンショウモ

サンショウモ目 サンショウモ科

Salvinia natans (L.) All.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 浮遊性の水生シダ。茎は多少分岐し、多細胞毛がある。茎の各節より3個の葉がつき、2個は対生する浮葉で、10対前後ある。1個の葉は水中葉で、細裂して根状となり、垂れ下がる。葉の表面には短い突起が密にあり、その先に数本の刺状の毛がつく。孢子嚢群は水中葉の基部に集まってつく。
- ❖ 分布の概要 花巻市、北上市、奥州市、一関市などに分布する。本州・四国・九州、アジア～ヨーロッパに分布する。
- ❖ 生育状況 水田や池沼、流れの緩やかな水路などの水面に生育する。
- ❖ 脅威 水田の乾田化、池沼の改修、水質悪化、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともいちじるしく減少している。
- ❖ 文献 11. 吉田繁 (1985)、12. 大森鉄雄 (2001)、13. 大森鉄雄 (2010)

(竹原 明秀)

デンジソウ

サンショウモ目 デンジソウ科

Marsilea quadrifolia L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ10～20cmの夏緑性の水生シダ。細い根茎が地表を長く横走し、不規則に分岐して、やや密に葉をつける。葉柄は無毛、緑色で、基部は暗色。葉身は4個の小葉からなり、四つ葉のクローバーのように「田」の字型に並ぶ。孢子嚢果は有柄で、葉柄の基部より少し上から出る短い枝に1～3個つけ、密に軟毛がある。
- ❖ 分布の概要 紫波町、花巻市東和町、一関市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・奄美大島、東アジア～インド北部～ヨーロッパに広く分布する。
- ❖ 生育状況 水田、池沼、湿地などの水域に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、乾田化、池沼の改修、除草剤使用、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 水田での除草剤が使われる以前、県中部以南で普通に分布したが、現在では激減し、生育地・個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 14. 鈴木實 (1984)

(竹原 明秀)

リシリシノブ

ウラボシ目 イノモトソウ科

Cryptogramma crispa (L.) R.Br. ex Richards.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる繊細な夏緑性シダ。根茎は短く、斜上してやや大きい株となる。葉は栄養葉と孢子葉（実葉）の二型からなり、孢子葉は大型となる。葉身は 3 回羽状に分裂し、裂片は披針形で、ふさふさして軟らかい。孢子囊群は裂片の辺縁に近くつき、反転した葉縁が薄い祇包膜となる。
- ❖ 分布の概要 烏帽子岳、和賀岳、焼石岳、早池峰山、五葉山などに分布する。北海道・本州、アジア～ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩場で、岩石の割れ目や砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。分布の南限に近く、いずれの生育地も個体数は少ない。
- ❖ 文献 15. 井上幸三（1979）

(竹原 明秀)

ウサギシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ ナヨシダ科

Gymnocarpium dryopteris (L.) Newman

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる夏緑性シダ。根茎は長く横走し、ほぼ黒色でまばらに葉をつける。葉柄は葉身よりはるかに長く、わら色から帯緑色、無毛で、細くもろい。葉身は 3 回羽状複生、3 出葉のように見え、葉質は薄く草質で無毛。孢子囊群は円形で、裂片の辺縁近くにつき、包膜はない。
- ❖ 分布の概要 姫神山、岩泉町からの記録がある。北海道・本州（中部地方以北）、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林の林床、蛇紋岩地帯や風穴地の岩塊地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・栗駒指定植物。生育地、個体数とも限られている。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2016）

(竹原 明秀)

イワウサギシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ ナヨシダ科

Gymnocarpium robertianum (Hoffm.) Newman

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる夏緑性シダ。根茎は長く横走り、暗褐色で先端付近にややまとまって葉をつける。葉柄は長さ 5～25cm で細く、全面に無柄の腺毛がある。葉身は長三角形で、第 2 羽片より漸次短くなり、頂部が長く伸びるため、3 出葉にならない。孢子嚢群は円形で、裂片の辺縁近くにつき、ほぼ円形となる。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町の石灰岩地帯に分布する。北海道・本州（近畿地方以北）・四国、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩地帯の岩場で、日当たりのよい林縁や林床などに生育する。県外では蛇紋岩地帯にも見られる。
- ❖ 脅威 斜面崩壊、森林開発などによる環境の変化。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも限られている。
- ❖ 文献 16. 清水建美 (1958)、17. 菊地政雄 (1965)、18. 村井三郎ほか (1978)

(竹原 明秀)

トキワトラノオ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ チャセンシダ科

Asplenium pekinense Hance

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の常緑性シダ。根茎は短く、斜上し、葉が叢生する。葉柄基部にある鱗片は褐色で、付着点の背面に毛がある。葉は厚く革質で、光沢があり、深緑色となる。葉身は広披針形、2 回羽状複生となる。下部羽片はやや短くなり、最下羽片は三角形で、幅と長さがほぼ等しい。孢子嚢群は裂片の中間につく。
- ❖ 分布の概要 釜石市から報告されたが、従来の分布から大きく離れている。本州（東北地方南部以南）・四国・九州・琉球、中国・台湾・南アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 山野の岩上や石垣など、陰湿な場所に着生する。
- ❖ 脅威 着生する石垣などの倒壊、日当たりや水分環境の変化など。
- ❖ 特記事項 災害復旧工事に伴う生物調査で新たな生育地が発見され、それらの個体は新規に創成された場所に移植、保全措置がとられた。
- ❖ 文献 5. 海老原淳 (2016)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

タチヒメワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ ヒメシダ科

Phegopteris bukoensis (Tagawa) Tagawa

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm の夏緑性シダ。根茎は長く横走し、まばらに鱗片をつける。葉身は下部の羽片はやや短くなる長楕円状披針形で、2 回羽状全裂。小羽片の基部は羽軸に流れて狭い翼でつながれ、羽状中裂する。披針形の羽片は水平に開出し、やや対生で、基部は無柄であることが特徴となっている。羽軸から葉脈にかけての軸に単純な構造の鱗片がある。
- ❖ 分布の概要 遠野市、住田町などに分布する。本州（岩手県・新潟県・長野県・山梨県）・四国、中国～チベットに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や林縁の明るく、やや湿気がある場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、開発事業などによる生育環境の変化。
- ❖ 特記事項 個体数は少なく、分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 19. 上野雄規（1985）、5. 海老原淳（2016）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤

イワヘゴ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅰ オシダ科

Dryopteris atrata (Wall. ex Kunze) Ching

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm の常緑性シダ。根茎は太く短く、直立して、葉を叢生し、鱗片がある。葉柄は葉身の半分より短く、鱗片を密につける。鱗片は黒褐色から光沢のある黒色で、先端が糸状に伸びる。葉身は単羽状複生、長楕円状披針形から倒披針形で、先は尖る。羽片は 20～30 片つき、線形。胞子嚢群は羽片全面に散在し、包膜は腎円形で全縁。
- ❖ 分布の概要 一関市から報告がある。本州・四国・九州、中国・台湾・インドシナ半島・南アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床や林年に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 現在の生育状況は確認されていないが、生育地、個体数とも少ない。

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤

ニオイシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅰ オシダ科

Dryopteris fragrans (L.) Schott

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の常緑性シダ。根茎は斜上し、葉を叢生する。枯れた葉は長い間残り、鱗片をつける。葉柄にはわずかに腺毛があり、やや密に鱗片をつける。葉身は長楕円形から倒披針形で、羽状深裂から全裂する。葉質はやや厚くて柔らかい紙質、全体にまばらに腺毛がある。胞子嚢群は羽軸に近く、包膜はしばしば重なり合う。
- ❖ 分布の概要 早池峰山からの報告がある。北海道（東北地方・長野県）、ロシア・朝鮮半島・中国（北部）・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや乾いた岩壁の隙間に生育することが多い。
- ❖ 脅威 踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 葉に弱い芳香がある。
- ❖ 文献 2. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

オオエゾデンダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅰ ウラボシ科

Polypodium vulgare L.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の小形の常緑性シダ。根茎は横走し、密に鱗片をつける。鱗片は一様に淡褐色をなし、中央部だけが暗褐色となる。葉身は羽状に深裂し、側裂片は 5～15 対つく。胞子嚢群は裂片の辺縁と中肋の中間～わずかに中肋よりにつく。
- ❖ 分布の概要 和賀岳、六角牛山に分布する。北海道・本州（北部・山陰地方）、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林内で、岩礫や樹幹の上、湿度が保たれる場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。全国的に生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）、20. 高野祐晃（1998）、21. 高野祐晃（2004）

(竹原 明秀)

コスギラン

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

Huperzia selago (L.) Bernh. ex Schrank et C.F.P.Mart.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～105cm の常緑性シダ。茎の基部は分岐してやや斜上し、分岐して直立茎を伸ばす。葉は開出するものから茎に圧着する傾向があり、上半分は内曲がる。黄緑色から緑色で線状披針形から狭披針形で、革質で光沢があり、中肋はない。植物体の大きさや葉の形に変異が多い。胞子葉は栄養葉よりも少し
- ❖ 分布の概要 葛巻町、滝沢市、早池峰山、大船渡市などに分布する。北海道・本州（石川県以北）・屋久島、ロシア・中央アジア・朝鮮半島・台湾・南アジア・北アメリカ・ヨーロッパに広く分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩上や土上に生育する。
- ❖ 脅威 踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。これまでの報告の中、誤同定が含まれている可能性がある。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2016）

(竹原 明秀)

スギカズラ

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

Lycopodium annotinum L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～15cm の常緑性シダ。匍匐茎は地上を長く匍匐し、まばらに分岐し、やや開出した葉をつける。直立茎は斜上し、1～数回分岐する。直立茎の葉は輪生し、深緑色でかたく、開出または反曲して、線状披針形で鋭尖頭となる。胞子嚢穂は小枝の先に 1 個頂生して無柄、円柱形となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、薬師岳、五葉山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山～高山帯の草原、ハイマツ林の林床などのやや乾燥した場所に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ヒメミズニラ

ミズニラ目 ミズニラ科

Isoetes asiatica (Makino) Makino

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 5~10cm の夏緑性の水生シダ。塊茎は 2 分し、孢子嚢を覆う蓋膜をもつ。葉は 3~7 個が叢生し、長さ 10cm 以下で短い、水深などの生育環境によって変異が大きい。大孢子の表面に細かい突起がやや密に生える。
- ❖ 分布の概要 八幡平、千沼ヶ原、焼石岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山~高山帯の冷水湖沼の湖底に生育する。
- ❖ 脅威 自然災害などによる水質汚濁や土砂の流入、湧水による干上がりなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地は限定され、個体数も少ない。
- ❖ 文献 22. 高野祐晃（1983）、23. 井上幸三（1986）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ミズニラ

ミズニラ目 ミズニラ科

Isoetes japonica A.Braun

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10~30cm の夏緑性の水生シダ。肥厚した茎が塊茎となり、中心から放射状に出る 3 条の溝で 3 分し、太い根を多数つける。葉は叢生する。葉の基部は広がって卵状となり、小舌と孢子嚢をつけ、蓋膜はない。大孢子は白色で、表面に規則正しく並んだ穴がある。
- ❖ 分布の概要 軽米町、盛岡市、紫波町、花巻市、北上市、金ケ崎町、奥州市、一関市、陸前高田市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 平地の流れのゆるやかな小川や池沼の底やまれに湿地に生育する。特に山間部の湿田や休耕田に見られる。
- ❖ 脅威 圃場整備、水質汚濁、除草剤による水質悪化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともいじりく減少している。
- ❖ 文献 22. 高野祐晃（1983）、24. 高野祐晃・須川直義（2009）、25. 宮崎佑介ほか（2010）、26. 大森鉄雄（2012）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

イワヒバ

イワヒバ目 イワヒバ科

Selaginella tamariscina (P.Beauv.) Spring

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10~15cm の常緑性シダ。担根体や根がからまって仮幹を作る。その上に葉身状の枝を何十個も放射状につける。葉身状の枝はやや斜上に開出し、2~3 回羽状に分岐し、中央部がへこんで漏斗状になる。乾くと著しく内側に巻き込むが、湿気を得ればもとに戻る。孢子嚢穂は小枝に 1 個頂生し、四角柱状となる。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、雫石町、花巻市、北上市、奥州市、宮古市、釜石市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、東アジア~東南アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿った岩上や岩壁に生育し、乾燥に対しても強い。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・栗駒指定植物。江戸時代から観葉植物として栽培されている。観賞用に盗掘されることがしばしばあり、生育地・個体数とも減少している。
- ❖ 文献 27. 大森鉄雄（1982）、28. 鈴木實（2006）

(竹原 明秀)

ヒメハナワラビ

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

Botrychium lunaria (L.) Sw.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 5~10cm の小形の夏緑性シダ。根茎は短く、1 年に葉を 1 個出す。栄養葉は卵形から長卵形で、円形、3~5 個の裂片を持つ単羽状で、短い柄がある。孢子葉は穂状~円錐状で、3 回羽状に深裂し、栄養葉とほぼ同じ大きさからなる。球状の孢子嚢はやや密に接してつける。
- ❖ 分布の概要 岩手山、平庭高原、早池峰山から記録されている。北海道・本州（中部地方以北・鳥取県）、北半球の温帯・オーストラリア・ニュージーランド・アルゼンチンに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日の当たる草原や岩場などに生育する。
- ❖ 脅威 小型の植物のため、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。
- ❖ 文献 29. 村井三郎・安本広静（1982）、5. 海老原淳（2016）

(竹原 明秀)

ホソバコケシノブ

コケシノブ目 コケシノブ科

Hymenophyllum polyanthos (Sw.) Sw.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 2~10cm の常緑性シダ。マット状に発達することが多い。根茎は長く横走り、褐色~黒色、細い針金状で褐色の毛をまばらにつける。葉身は三角状卵形~倒卵形~披針形で、2~3 回羽状複葉。葉は 1 層の細胞層で、薄く、脈が見える。羽片は 4~15 対つく。孢子嚢は葉身の内側列片の先につく。包膜は 2 弁状で、全縁。
- ❖ 分布の概要 遠野市、山田町、釜石市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、熱帯~暖温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 岩上、樹幹上、時に地上生もある。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 地理的分布域が広く、生態的・形態的な変異も大きい。分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2016）

(竹原 明秀)

ハコネシダ

ウラボシ目 イノモトソウ科

Adiantum monochlamys D.C.Eaton

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~40cm のやや下垂している常緑性シダ。根茎は斜上から匍匐し、密に鱗片をつける。葉軸は紫褐~赤褐色で、針金状となりかたく、光沢がある。葉身は狭三角形から三角状卵形で、3 回羽状に分岐する。小葉は倒三角状卵形から扇形で上縁に鋸歯があり、孢子嚢群を一個つける。
- ❖ 分布の概要 一戸町、一関市、沿岸地域に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿性な岩場に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、自然災害などによる崖崩れ、盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、30. 鈴木實（1991）、31. 小守一男・千葉高男（2004）

(竹原 明秀)

ヒメウラジロ

ウラボシ目 イノモトソウ科

Cheilanthes argentea (S.G.Gmel.) Kunze

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の常緑～夏緑性（寒冷地）のシダ。根茎は短く、直立から斜上する。葉柄は光沢のある紫褐色で、折れやすい。その先に数対の羽片をもつ五角形状の葉身がつく。葉身は厚紙質で無毛、表面は褐緑色で、裏面は粉白色ないし緑白色を帯びる。孢子嚢群は小羽片の辺につき、葉縁が裏側に折れ反って連続する。
- ❖ 分布の概要 岩泉町に分布する。本州（岩手県・群馬県以西）・四国・九州・琉球、シベリア～マレーシアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山地の岩場や石垣の岩の隙間などに生育する。県内では石灰岩を好む傾向にある。
- ❖ 脅威 斜面崩壊などの生育地の消失、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたり、生育地が限定され、個体数も少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、18. 村井三郎ほか（1978）、30. 鈴木實（1991）

（竹原 明秀）

イチョウシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ チャセンシダ科

Asplenium ruta-muraria L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 2～5cm の小形の常緑性シダ。根茎は短い塊状で、基部付近に大きな歯芽のある鱗片をつける。草丈は高さ 10cm 程で小さく。葉柄は淡緑色で、翼はない。葉身は円形から倒卵形で、2 回羽状分岐するが、小さな葉は単羽状となる。葉の表面は深緑色で、葉縁には歯牙状の鋸歯があり、ややかたく、葉脈ははっきりしない。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、釜石市、一関市に分布する。北海道・本州・四国・九州、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩地帯の林床や崖地にある裸出した岩上や岩の割れ目などに生育する。
- ❖ 脅威 斜面崩壊などの生育地、道路工事（改修・法面保護など）など。
- ❖ 特記事項 石灰岩を指標する植物で、個体数は少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、32. 小水内長太郎・三浦徳蔵（1980）、33. 新井隆介・皆川拓（2021）

（竹原 明秀）

サクライカグマ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I オシダ科

Dryopteris gymnophylla (Baker) C.Chr.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～50cm になる常緑性シダ。根茎は短く、横走し、葉は混み合っつく。葉柄は淡緑色からわら色で、葉身よりも長い。葉身は五角形状広卵形で、3 回羽状、最下羽片は特に大きく、やや長い柄がある。葉質はかたい紙質で淡緑色となる。孢子嚢群は裂片の辺縁と中肋の中間に付き、包膜はほぼ全縁。
- ❖ 分布の概要 一関市花泉町に分布する。本州（岩手県以南）・九州（大分県）、朝鮮半島・中国・タイに分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地の石灰岩や岩石が滑落した崩壊地などに生育する。
- ❖ 脅威 生育地が水辺に近いことから、増水による埋没や刈り取り、踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の北限で、個体数は少ない。
- ❖ 文献 34. 鈴木實（2000）

（竹原 明秀）

イワカゲワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I オシダ科

Dryopteris laeta (Kom.) C.Chr.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～70cm の夏緑性シダ。根茎は横走し、葉をやや密につける。葉身は卵状長楕円形で、3 回羽状深裂する。羽片の基部はやや狭まり、中部が最も広い。小羽片は無柄で、基部は広いくさび形、羽状に深裂する。裂片は円頭～鈍頭、鋭鋸歯があり、先は芒状となる。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町に分布する。北海道・本州（岩手県・宮城県・長野県）、朝鮮半島・中国（東北部・北部）・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 やや明るい石灰岩の崩壊地やその周辺の林床などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然災害、道路工事（改修工事や法面保護工事など）など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、18. 村井三郎ほか（1978）、35. 阪口寿子・佐藤利幸（1999）

（竹原 明秀）

ヒメサジラン

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I ウラボシ科

Loxogramme grammitoides (Baker) C.Chr.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 2～10cm の小形の常緑性シダ。根茎は長く横走し、非常に細い。葉柄はほとんどなく、葉身は倒卵形で基部が細く、先端に近い部分がもっとも広い。葉質はやや厚い角質、葉面は暗緑色で無毛。孢子嚢群は葉の上半分に限られる。
- ❖ 分布の概要 姫神山、奥州市に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島～中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林内で、湿った岩や枯木の樹幹上に着生する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 36. 北上彌逸（1966）、34. 鈴木實（2000）

（竹原 明秀）

イワオモダカ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅰ ウラボシ科

Pyrrosia hastata (Houtt.) Ching

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～15cm の小形の常緑性シダ。根茎は短く横走し、広披針形で黒褐色の小さい鱗片が密につく。葉柄は長さ 12～25cm、淡褐色で、星状毛を密生するが、古くなれば落ちる。葉身は掌状で 3～5 裂する。中央の裂片は大きく、三角状披針形で、基部か中央部が最も広く、先端に向けて次第に細くなる。1 対の側裂片は狭三角形で、先端は尾状の鋭尖頭となる。
- ❖ 分布の概要 奥州市、北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の岩場や枯木の樹幹などに着生し、適湿を保つ場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、森林開発、盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰指定植物。生育地と個体数とも減少している。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、37. 玉川七郎 (1980)

(竹原 明秀)

ヤチスギラン

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

Lycopodiella inundata (L.) Holub

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 3～8cm の小形の夏緑性シダ。匍匐する茎は湿地の表面をはい、まれに分岐し、まばらに根を出す。匍匐茎につく葉は線形で、やや弓状に開出、直立茎の葉は腹側から上に向くように曲がる。孢子囊穂は直立茎の頂端に 1～2 本つく。孢子葉はやや開出し、狭披針形で、基部は広く、先端は細くとがる。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、奥州市、一関市、遠野市などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 ミズゴケ湿原内にある日当たりの良い小凹地に生育することが多い。
- ❖ 脅威 湿原開発、周囲の開発による水分環境の変化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。
- ❖ 文献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵 (1980)、38. 小水内長太郎・高野祐晃 (1986)

(竹原 明秀)

オニヒカゲワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ メシダ科

Diplazium nipponicum Tagawa

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 70～120cm になる大型の常緑性または夏緑性シダ。太い根茎が長く匍匐し、葉が混み合っつく。葉柄は緑色～わら色、基部は汚褐色で鱗片がつく。葉身は 2 回羽状複生～3 回羽状深裂し、葉の下面の羽軸や裂片中肋などの脈上にやや密生した短毛がはえる。孢子囊群は線形で、中肋寄りにつく。
- ❖ 分布の概要 奥州市から報告がある。本州・四国・九州、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の樹下のやや湿った半日陰地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然災害などによる環境の変化など。
- ❖ 特記事項 分布の北限に近く、個体数は少ない。
- ❖ 文献 39. 鈴木實 (1989)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ミドリヒメワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 II ヒメシダ科

Macrothelypteris viridifrons (Tagawa) Ching

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～80cm の夏緑性シダ。根茎は短く、斜上し、塊状となり、葉を叢生する。葉柄はわら色で、毛はあるが古くなるとほとんど無毛となる。葉身は 3 回羽状深裂し、広披針形から狭三角形となる。葉面は鮮緑色、ときに下部から中部にかけて紫黒色になるものもある。小羽片はややまばらにつき、短柄がある。包膜にやや長い毛がある。
- ❖ 分布の概要 北上市、奥州市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）・中国（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 平地～山地のやや明るい林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたり、個体数は少ない。
- ❖ 文献 40. 鈴木實（1980）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ゲジゲジシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 II ヒメシダ科

Phegopteris decursivopinnata (H.C.Hall) Fée

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる夏緑性シダ。根茎は短く、斜上し、葉を叢生する。葉柄は短く、全体が鱗片と毛で覆われている。葉身は軟らかい草質、緑色、両面とも有毛、狭披針形で、中央部の幅が最大で上下に向かうにしたがい幅は狭まる。胞子囊群は円形から楕円形で、裂片の中肋と辺縁の中間につき、包膜は微少で、多数の毛をつける。
- ❖ 分布の概要 北上市、金ケ崎町、奥州市、一関市などで確認されている。北海道～九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾～インドネシア～インドに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や林縁のやや明るく、湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 分布の準北限にあたり、個体数は少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、41. 高野祐晃（1992）、42. 鈴木實（1996）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ヤワラシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 II ヒメシダ科

Thelypteris laxa (Franch. et Sav.) Ching

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm の夏緑性シダ。根茎は横走し、ややまばらに葉を出す。葉柄は細く、わら色～淡緑色、紫色を帯びることもあり、基部には鱗片と宿在性の毛がある。葉身は 2 回羽状深裂～全裂、下部の羽片の基部は狭くなる広披針形～披針形となる。葉柄から葉面まで、あらゆるところに単細胞の短い毛がある。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、北上市、奥州市などに分布する。本州（岩手県・秋田県以南）・四国・九州、済州島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 平地～山地の林床や林縁、路傍などの半日陰地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 いずれの生育地も個体数が少ない。
- ❖ 文献 30. 鈴木實（1991）、43. 高野祐晃（2007）、44. 上野雄規（2009）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

アイアスカイノデ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I オシダ科

Polystichum longifrons Sa.Kurata

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80~120cm になる大形の常緑性シダ。太い根茎は短く、斜上し、塊状となり、鱗片をつける。葉柄の下部につく大きな鱗片は披針形、全縁に近く、中央部で濃褐色、周辺で褐色の 2 色となる。葉身は披針形に近く、2 回羽状となる。葉面は光沢がある。孢子嚢群は小羽片の辺縁寄りにつく。
- ❖ 分布の概要 金ケ崎町、奥州市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 低山のやや明るい疎林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 県内での生育地は少ない。
- ❖ 文献 45. 鈴木實 (1987)、42. 鈴木實 (1996)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

シノブ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I シノブ科

Davallia mariesii T.Moore ex Baker

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15~30cm の夏緑性シダ。根茎は長く匍匐し、間隔をおいて葉がつく。葉柄には早落性の鱗片をつけることがある。葉身は三角状卵形で 3~4 回羽状深裂し、無毛。孢子嚢群は裂片に 1 個つき、コップ状となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、奥州市、久慈市、岩泉町、宮古市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の沢沿いなどにある岩上や樹幹上に着生する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。古くからシノブ玉として鑑賞されているため、採取圧が強い。
- ❖ 文献 46. 大森鉄雄 (1982)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヒメノキシノブ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I ウラボシ科

Lepisorus onoei (Franch. et Sav.) Ching

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5~10cm の小形の常緑性シダ。根茎は長く横走し、やや密に鱗片をつけ、葉はまばらにつける。葉柄は短く、葉身は線形、上端付近が最も広く、鈍頭から鋭頭で伸びず、葉質は革質で無毛、葉脈ははっきりしない。孢子嚢群は数個、葉身の上部の中肋と辺縁の中間に並んでつく。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。北海道 (南西部) ・本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 やや乾燥気味の枯木樹幹上や岩上、崖地に着生する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 47. 笹村祥二 (1969)、48. 村井三郎 (1973)、49. 吉田繁 (2001)

(竹原 明秀)

オオバノイノモトソウ

ウラボシ目 イノモトソウ科

Pteris cretica L.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 40～60cm の常緑性シダ。根茎は短く、匍匐するか斜上し、密に葉をつける。鱗片は褐色で、長さ 5mm ある。葉柄はわら色から褐色あるいは暗紫色で、基部は黒色になる。葉身はやや二形になるが、いずれも頂羽片がはっきりした単羽状となる。葉質は紙質から薄い革質、淡緑色となる。
- ❖ 分布の概要 釜石市、大船渡市に分布する。本州（東北地方中部以南）・四国・九州、世界中の熱帯・亜熱帯に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 42. 鈴木實（1996）

（竹原 明秀）

イノモトソウ

ウラボシ目 イノモトソウ科

Pteris multifida Poir.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 40～60cm の常緑性シダ。根茎は短く、匍匐し、光沢のある黒褐色の鱗片をつける。葉は 2 型があり、葉柄はわら色、葉身は頂羽片がはっきりした単羽状となる。栄養葉は辺縁に鋸歯があり、中軸の翼は顕著、葉質は薄い紙質。胞子葉は葉柄と葉身はほぼ等長のことが多い。
- ❖ 分布の概要 釜石市から報告がある。本州（東北地方南部以南）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 平地の川沿いの岩場、人里の石垣などの日当たりがよい場所に生育する。
- ❖ 脅威 開発による生育環境の変化、盗掘など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。生育地の一部が人家周辺のため、逸出の可能性はある。
- ❖ 文献 50. 大森鉄雄（1995）、5. 海老原淳（2016）

（竹原 明秀）

ヒメオニヤブソテツ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I オシダ科

Cyrtomium falcatum (L.f.) C.Presl subsp. *littorale* S.Matsumoto et Ebihara

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 10～15cm になる小型の常緑性シダ。根茎は直立し、塊状となり、葉を叢生する。葉は厚く堅い。葉身は頂羽片がはっきりした単羽状複生で、広披針形で鋭頭、側羽片は 2～6 対ある。羽片辺縁は波打ち、平面的ではない。辺縁の所々で切れ込み不規則な突起状になる。胞子囊群は羽片のほぼ全体に散在し、円形で包膜は盾状につく。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。北海道・本州・四国（高知県）・九州（福岡県）に分布する。
- ❖ 生育状況 波の高い日には飛沫のかかるような海岸の崖、岩場の隙間にしがみつくように生育する。
- ❖ 脅威 崖崩れなどの生育環境の変化。
- ❖ 特記事項 最近、記載された変種。同所で母種のオニヤブソテツが生育するため、両種の分布を検討する必要がある。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

情報不足

ヤチスギナ

トクサ目 トクサ科

Equisetum pratense Ehrh.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～60cm の夏緑性シダ。根茎は地中を横走する。以上茎は二形。栄養茎は緑色で、隆条の上には細かい刺がある。歯辺は狭三角形で、辺縁には幅の広い白い膜がある。枝は茎の上半分に輪生して斜上する。孢子囊穂をつける茎は淡紅色から褐色。孢子の散布後も緑色の枝を出して孢子茎が栄養茎と同じ姿になる。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。北海道・本州（岩手県）、ロシア・朝鮮半島・中国・モンゴル・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 日蔭の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 生育環境の悪化。
- ❖ 特記事項 分布の南限にあたる。生育地、個体数とも少なく、詳細な調査がされていない。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2016）

（竹原 明秀）

情報不足

コヒロハハナヤスリ

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

Ophioglossum petiolatum Hook.

環境省 なし

- ❖ 形態 夏緑高さ 10～20cm の小形の常緑性シダ。根茎はあまり発達せず、短い塊状で、そこから葉を 1～3 個出す。栄養葉は長楕円形から広卵形で、鋭頭から鈍頭、薄い紙質で、柔らかい緑色、基部はやや切形で急に狭くなり、短い柄を持つ。
- ❖ 分布の概要 二戸市、一関市、釜石市、陸前高田市などに分布するという。本州（東北地方中部以南）・四国・九州・琉球、世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 山野の路傍、林床などに見られる。
- ❖ 脅威 道路工事、強度の草刈り、踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 一関市からの記録があるが、現状は明らかでない。特に県南部からの報告にはヒロハハナヤスリの誤認が含まれている可能性がある。さらに、造成された芝地では他所からの混入もあり、自然分布とは疑わしい。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

情報不足

イワヒメワラビ

ウラボシ目 コバノイシカグマ科

Hypolepis punctata (Thunb.) Mett. ex Kuhn

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm の夏緑性シダ。根茎は長く匍匐し、密に毛をつけるが、古い部分は裸出する。葉柄はわら色で下部では暗褐色となり、ざらざらする。葉身は長楕円形から三角状長楕円形、先端は鋭頭。3 回羽状複葉で、表裏面ともに毛が生える。孢子囊は小型の円形で小羽片の辺縁近くにつき、包膜はない。
- ❖ 分布の概要 北上市、金ヶ崎町、大船渡市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾・東南アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の日当たりの良い荒地から明るい林床などに生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 分布することは知られているが、詳細は知られていない。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2016）

（竹原 明秀）

情報不足

コバノヒノキシダ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ チャセンシダ科

Asplenium anogrammoides H.Christ

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の常緑性シダ。根茎は短く、斜上し、葉が叢生する。鱗片は披針形～線状披針形、濃褐色で、辺縁に突起や毛はない。葉柄は淡緑色で、下部は濃褐色となり、鱗片をつける。葉身は広披針形、2～3 回羽状複生。葉質は草質で、あまり厚くならない。胞子囊群は裂片に 1～3 個が接近してつく。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市に分布するという。本州（東北地方南部以西）・四国・九州、朝鮮半島・モンゴル・中国・インドシナ・ヒマラヤに分布する。
- ❖ 生育状況 山野や路傍の日当たりのよい岩上や石垣に着生する。
- ❖ 脅威 着生する石垣などの倒壊、日当たりや水分環境の変化など。
- ❖ 特記事項 県内からの報告は、従来の分布域から大きく離れており、再検討が必要といえる。
- ❖ 文献 5. 海老原淳（2016）

（竹原 明秀）

情報不足

オクヤマワラビ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅱ メシダ科

Athyrium distentifolium Tausch ex Opiz

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm の夏緑性シダ。根茎は太く、斜上し、葉を叢生する。葉柄はわら色で、葉身の半分ほどの長さがあり、基部に鱗片を密につける。葉身は狭長楕円形～卵状楕円形、基部はほとんど狭くならず、3 回羽状に中裂～深裂する。羽片は 8～10 対あり、無柄。胞子囊群は円形～楕円形、包膜はごく小さく、胞子囊群に埋まっている。
- ❖ 分布の概要 早池峰山からの記録がある。北海道・本州（中部地方以北）、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 高山～亜高山帯の草原や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 誤同定の可能性もあり、再検討する必要がある。
- ❖ 文献 51. 大迫町立山岳博物館編（1983）、2. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

情報不足

アスカイノデ

ウラボシ目 真正ウラボシ類Ⅰ オシダ科

Polystichum fibrillosopaleaceum (Kodama) Tagawa

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～100cm の常緑性シダ。根茎は塊状で、鱗片をつける。葉は 2 回羽状複生、葉身は三角状長楕円形～三角状狭長楕円形、革質で光沢があり、ややねじれる。中軸、葉柄には線形～糸状で全縁の鱗片が密につく。胞子囊は小羽片の中肋から辺縁の中間につき、円形。包膜は円形で盾着し、灰白色で全縁。
- ❖ 分布の概要 金ヶ崎町、奥州市に分布する。本州（岩手県～紀伊半島）・四国（高知県）・九州（大分県）に分布する。
- ❖ 生育状況 森林の林床に生育する
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたり、個体数は少ない。
- ❖ 文献 2. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

情報不足

アヅミノデ

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I オシダ科

Polystichum microchlamys (H.Christ) Matsum. var. *azumiense* Seriz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm の夏緑性シダ。根茎は短く、斜上し、塊状となり、鱗片をつける。葉柄の鱗片は長楕円状披針形から広披針形で、薄い紙質、赤みを帯びた淡褐色。葉身は 3 回羽状浅裂～中裂し、鋸歯や裂片の先は芒状に伸びる。小羽片は羽軸から独立につき、中軸の鱗片は小さい。胞子嚢群は小羽片の中肋寄りにつき、包膜は円形。
- ❖ 分布の概要 雫石町、北上市、一関市に分布する。北海道・本州（日本海側）に分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 基準変種のカラクサイノデも分布するため、両種の分布を検討する必要がある。
- ❖ 文献 2. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

情報不足

エゾデンド

ウラボシ目 真正ウラボシ類 I ウラボシ科

Polypodium sibiricum Sipliv.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の常緑性シダ。根茎は横走し、鱗片がある。鱗片は膜質、中央部が暗褐色で周辺部が淡褐色となる。葉柄はわら色。葉身は長楕円状披針形から披針形で、羽状深裂する。葉質はややかたい草質、葉脈は両面ともはっきりしない。胞子嚢群は裂片の中肋よりもやや辺縁寄につく。
- ❖ 分布の概要 1904 年に盛岡市から報告されているが、近年、確認の情報はない。北海道・本州（中部地方以北）、ロシア（極東部）・朝鮮半島・中国（北部）・モンゴルに分布する。
- ❖ 生育状況 林内の樹冠や岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 東北地方から報告があるが、いずれも個体数は少ない。
- ❖ 文献 2. 海老原淳（2017）

（竹原 明秀）

絶滅（EX）

マイヅルテンナンショウ

オモダカ目 サトイモ科

Arisaema heterophyllum Blume

環境省 絶滅危惧 II 類

- ❖ 形態 高さ 60～120cm になる多年草。葉は 1 個で、鳥足状に 17～21 枚の小葉をつけ、小葉は狭倒卵形またはしばしば線形となる。5～6 月、花茎の先端に肉穂花序をつける。仏炎苞は緑色で一部、紫色を帯び、先端は尾状に鋭くとがる。付属体は基部がやや太く、上部は前に曲がり、さらに上方に向かって長く伸びる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、奥州市からの記録があるが、絶滅したと考えられる。本州（秋田県～岡山県）・四国・九州、朝鮮半島（南部）・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の河川敷や湿地などの草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発や管理放棄による自然遷移による自然消失や踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 主な生育地が人里のため、生育地・個体数とも減少が著しい。秋田県北秋田市（旧鷹巣町）では天然記念物に指定され、保護柵で囲み、管理されている。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）、38. 小水内長太郎・高野祐晃（1986）

（沼宮内 信之）

絶滅 (EX)

トチカガミ

オモダカ目 トチカガミ科

Hydrocharis dubia (Blume) Backer

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 浮葉性の多年草。茎は水中に伸び、各節から 5～6 個の葉と根、花柄を出す。葉身は円形、基部は心形または深く切り込む。葉の中央に気胞があり、浮く。浮葉が密生するにしたがい抽出葉となる。8～10 月、花柄を伸ばし、白色の単性花をつける。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、紫波町、北上市、遠野市などに分布したが、現在は確認されていない。本州・四国・九州・琉球、東アジア・オーストラリアなどに分布する。
- ❖ 生育状況 池沼や水路、用水路などの富養性の水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・湿地開発、圃場整備、農薬汚染、乾田化などの水環境の変化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定され、そこでの生存が現在、確認されていないことから絶滅とした。希少種のため、植栽されている池沼がある。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会 (1970)

(島田 直明)

絶滅 (EX)

マツラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Gastrochilus matsuran (Makino) Schltr.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 着生する小形の多年草で、全体が暗紫紅色の細かい斑紋をつける。多数のやや太い気根を 10 本程度つける。茎は細く、2 列互生に革質の葉をつける。5～6 月、花茎が葉腋から出て、2 個の鱗片葉と 1～4 個の花をつける。花は黄緑色の地に暗紫色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市に分布したが、現在は確認されていない。本州 (宮城県以南の太平洋側)・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 クロマツなどの常緑樹の幹や太い枝にコケと共に着生する。
- ❖ 脅威 着生木の枯死や強風による枝落ちなどの生育環境の変化、盗掘など。
- ❖ 特記事項 発見時の報告から、生育地、個体数ともきわめて少ないと考えられる。その後、発見の報告がないため、絶滅とした。
- ❖ 文献 52. 及川邦夫 (1982)

(沼宮内 信之)

絶滅 (EX)

オオミズトンボ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Habenaria linearifolia Maxim.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 40～60cm の多年草。茎は楕円形の球茎から出る。葉は茎の下部に数個あり、線形で先端は次第に細くなって尖る。花は白色で、5～7 個を総状につける。唇弁は淡緑色で、3 裂して十字形をし、側裂片は湾曲して下垂し、ふつう歯牙がある。距は先端に向かい太くなる。
- ❖ 分布の概要 一関市の湿原で発見されたという報告があるが、その後、確認されていない。北海道・本州 (中部地方以北)、朝鮮半島・中国 (東北部)・アムール・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりが良い湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発による生育環境の縮小、水環境の変化による乾燥化、盗掘など。
- ❖ 特記事項 全国的にも生育地、個体数ともきわめて少なく、絶滅した場所も多い。同じような湿地環境には近縁種のミズトンボも生育するため、誤同定が含まれている場合がある。
- ❖ 文献 29. 村井三郎・安本広静 (1982)

(沼宮内 信之)

絶滅 (EX)

ヌマハコベ

ナデシコ目 ヌマハコベ科

Montia fontana L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 3～8cm の一年草。茎は水中に生えたものでは長さ 50cm に達するが、地表では倒れて這うように広がる。葉は対生し、へら型で狭い。6～8 月、枝の先端にまばらに花をつける。小花柄は短く細く、花後に下を向くようになる。5 個の花弁は大きさが不ぞろいで、白緑色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 滝沢市柳沢で採集された標本がある。北海道・本州（岩手県・秋田県・栃木県・群馬県など）、アジア・ヨーロッパ・北アメリカ・アフリカ・ニュージーランドに分布する。
- ❖ 生育状況 寒冷地の湧水地や溪流の縁、湿原などの湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 湧水や流水の減少による乾燥化など。
- ❖ 特記事項 標本が採集された生育地において、再確認されたという報告があるが、継続的に生育しているかは現状が不明であり、一年草であることから、ここでは絶滅として扱う。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

絶滅 (EX)

マメダオシ

ナス目 ヒルガオ科

Cuscuta australis R.Br.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 マメ科植物などに寄生する一年草。茎は細く、糸状で、寄主に絡みつき、黄色を帯びる。葉をつけず、7～10 月に茎の上部に花を数個、束生する。花冠は 5 裂する。萼は薄膜状、鈍頭で、長さは花冠の半分強ある。さく果はほぼ球形で、花冠から大きく露出する。
- ❖ 分布の概要 遠野市、久慈市、大槌町などに分布したというが、近年、発見されていない。北海道・本州・四国・九州・琉球、中国・東南アジア。オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 低地や海岸の日当たりの良い草原などに生育する。マメ科植物などに寄生する。
- ❖ 脅威 海岸開発、草刈り、踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 近縁種で帰化植物のアメリカネナシカズラが同様の場所に生育することから、各地で種の置き換えが起こったと考えられる。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

絶滅 (EX)

バアソブ

キク目 キキョウ科

Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 つる性の多年草。茎は細く、下部にしばしば開出毛があり、全体には白毛がある。側枝の葉の多くは卵形で、鈍頭またはやや鋭頭、裏面に白色毛を密生させる。花冠は小さく、内面の上半分は濃紫色、下半分は濃紫色で斑点がある。種子は濃褐色で、光沢があり、翼がない。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、盛岡市、花巻市などから報告があるが、近年はない。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリー・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床に生育する。
- ❖ 脅威 草刈り、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。花がない個体は近縁種のツルニンジンときわめてよく似ていることから、これまでの報告のうち、いくつかは誤同定の可能性がある。ここでは絶滅したと判断した。
- ❖ 文献 53. 北上彌逸（1985）、54. 戸澤順子（1988）

（竹原 明秀）

野生絶滅

エゾオグルマ

キク目 キク科

Senecio pseudoarnica Less.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になるやや多肉の多年草。茎は基部で分枝し、全体にくも毛がある。葉は倒卵状長楕円形で、基部はやや狭くなって茎を抱く。8 月、茎の先に鮮黄色の頭花花序を 10～30 個ほどを散房状につける。
- ❖ 分布の概要 宮古市に分布する。北海道・本州（北部）、中国（東北部）・ウスリー・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂浜、磯浜で砂が堆積する場所に生育する。
- ❖ 脅威 高潮・時化、砂浜の減少、海岸整備など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。環境省特定植物群落調査の指定地にされ、従来からモニタリングが行われていたが、生育地は 1 ヲ所となった。東日本大震災の津波によって大きく個体数が減少し、その後の台風の高波と時化によって生育地が失われ、野生絶滅とした。津波後に一部の個体を岩手県環境保健研究センターに持ち帰り、栽培されている。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか（2012）、56. 島田直明（2012）、57. 大上幹彦・小水内正明（2013）、58. 島田直明（2014）、59. 大上幹彦（2016）、60. 小山田智彰ほか（2020）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

アカエゾマツ

マツ目 マツ科

Picea glehnii (F.Schmidt) Mast.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 30～40m、胸高直径 1.5m になる常緑針葉樹。円錐状の樹冠となり、枝は水平に出て、先端は下垂する。樹皮は帯紫赤褐色で、不ぞろいの薄い鱗片にはがれる。葉は針状で湾曲する。6～7 月、開花し、その年の秋に熟する。毬果は円筒形で先が円く、下垂する。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（岩手県）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 湿原の周辺部、岩礫地、砂丘などの過湿地から乾燥地までに生育する。
- ❖ 脅威 生育地のアイオン沢は 1948 年、1980 年、1990 年に崩壊が起こり、災害復旧事業が行われた。その事業に伴う環境変化、導入されたミヤマハシノキが繁茂し、影響が懸念される。
- ❖ 特記事項 1960 年に発見され、国の天然記念物「早池峰山のアカエゾマツ自生南限地」に指定されている。
- ❖ 文献 61. 石塚和雄（1961）、62. 松田彊ほか（1978）、63. 杉田久志（2004）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ユモトマムシグサ

オモダカ目 サトイモ科

Arisaema nikoense Nakai subsp. *nikoense*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50cm になる多年草。葉は 2 個で、偽茎と花柄はほぼ同長となる。小葉は 5～7 枚、倒卵形から楕円形で、先端は尖り、全縁または不ぞろいのあらい鋸歯がある。5～7 月、開葉よりも早く花序は開き、葉よりも高いところに黄緑色～紫褐色で、口辺部が狭く開出する仏炎苞をつける。付属帯は棍棒状となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、薬師岳、遠野市、五葉山に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の林床に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、人の踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。テンナンショウ属植物ではもっとも標高が高い高所まで分布する。
- ❖ 文献 64. 笹村祥二（1971）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

オオマムシグサ

オモダカ目 サトイモ科

Arisaema takedae Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～70cm になる多年草。鞘状の葉や偽茎は淡緑色で、ほとんど斑がない。葉は 1～2 個で、小葉は全縁で多くあり、葉軸の先が巻き上がる。5～6 月、花茎の先端に肉穂花序をつける。仏炎苞は葉よりも遅く開き、筒部は太い筒状で淡色、口辺部はやや広く開出～耳状になる。脰部は通常、黒紫色から紫褐色で、白条がある。花序の付属体は有柄で紫褐色の斑がある。
- ❖ 分布の概要 一関市、遠野市、釜石市、住田町などに分布する。北海道（南部）・本州に分布する。
- ❖ 生育状況 湿った草原や明るい疎林などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、草原の管理放棄による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 類縁種のマムシグサやコウライテンナンショウと混同されている場合があり、再検討する必要がある。生育地・個体数ともに少ないと判断した。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（沼宮内 信之）

ヒメカイウ

オモダカ目 サトイモ科

Calla palustris L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30cm になる多年草。根茎は横に這いながら広がる。葉身は心形で全縁、葉柄鞘部の上端に長い葉舌がある。6～7 月、花茎は根生し、白色の仏炎苞をつけるが、肉穂花序を包むことはない。花は花被がなく、両性であるが、頂部では雄花となることがある。果実時まで仏炎苞は残る。
- ❖ 分布の概要 奥州市に分布する。北海道・本州（青森県・岩手県・宮城県）、北半球の冷温帯域に分布する。
- ❖ 生育状況 低地から山地～亜高山帯の湿原や湖沼の湖岸、用水路などの水域に生育する。
- ❖ 脅威 周囲の森林伐採などによる環境の変化、乾燥化による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 奥州市の生育地の一部は県の天然記念物「若柳のヒメカユウ群落」に指定されている。群生することで横に這う根茎が絡み合い、水域の陸化を促進する働きがある。
- ❖ 文献 65. 大森鉄雄（2000）

(沼宮内 信之)

ヒンジモ

オモダカ目 サトイモ科

Lemna trisulca L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 浮遊性の水生多年草。植物体は水面下で絡み合って群生する。葉状体は卵状長楕円形で、先端は鋭頭からやや鈍頭で、上縁に微小な鋸歯がある。細長い柄があつてお互いが連なって群体をつくる。根は 1 本ある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、雫石町、滝沢市、盛岡市の岩手山周辺に分布する。北海道・本州、南アメリカ以外の全世界の温帯から暖帯までの広い地域に分布する。
- ❖ 生育状況 池沼、湧水地、そこから流出した小川などの水域で、水温が 9～15℃程度で年間を通して一定している。時としてやや富栄養化した水域にも見られる。
- ❖ 脅威 水量の減少、水質汚濁、池沼の開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定され、県外では多くの生育地で絶滅している。
- ❖ 文献 66. 亀山喜作（1995）、67. 大和敬子（2000）、68. 荒木田昭子（2006）、69. 杉田修一（2009）、70. 亀山喜作（2020）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ミヤマゼキショウ

オモダカ目 チシマゼキショウ科

Juncus yakeisidakensis Satake

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎の節間は短く、茎を束生する。茎は圧扁の 2 稜形でやや広い翼がある。葉は多管質で隔壁は明瞭でなく、基部の葉耳は白色で大型となる。8～9 月、4～8 花からなる頭花を 2 個つけ、最下苞は花序よりも短い。花被片は披針形で、先端はいちじるしく尖る。雄ずいは 3 個ある。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 深山の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。焼石岳で発見されたことで命名された。焼石岳以外からも報告されているが、疑問が残る。また、コウガイゼキショウ (*Juncus prismatocarpus* R.Br. subsp. *leschenaultii* (J.Gay ex Laharpe) Kirschner) の別名と考えもあり、独立種であるかは検討を要する。
- ❖ 文献 71. 高野祐晃 (2005)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

アッカゼキショウ

オモダカ目 チシマゼキショウ科

Tofieldia coccinea Richards. var. *akkana* (T.Shimizu) T.Shimizu

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 15～20cm になる小型の多年草。地下茎は短く、根出葉は線形で、鎌形に曲がることもあり、先端は鋭尖頭となる。7～8 月、花茎には 1～2 個の小型の苞葉をつけ、先端に短い総状花序をつける。花は白色からやや紫色を帯び、やや下向きに開く。外花被片は内花被片よりも半分長で、明らかに短いという特徴がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町に分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩の岩場に生育する。
- ❖ 脅威 生育地が限定的で、生育環境が限られ、園芸用の盗掘などもある。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物のゲイビゼキショウとは同種の変種にあたる。石灰岩植物で、岩手県固有変種、生育地、個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 72. 清水建美 (1958)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

チシマゼキショウ

オモダカ目 チシマゼキショウ科

Tofieldia coccinea Richards. var. *coccinea*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm になる小型の多年草。地下茎は短く、根出葉は線形から線状鎌形で、縁に細かい突起がある。7～8 月、花茎には 1～2 個の小形の苞葉をつけ、先端に密な総状花序をつける。花はやや斜め下向きに開く。花被片は白色で、花柄よりやや長く、雄ずいと同長となる。葯は黄褐色から赤褐色となる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、焼石岳、早池峰山などに分布する。北海道・本州・四国、朝鮮半島・中国（中北部）・シベリア・サハリン・千島・カムチャツカ・アラスカ・カナダに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩場に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも非常に少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ゲイビゼキシヨウ

オモダカ目 チシマゼキシヨウ科

Tofieldia coccinea Richards. var. *geibiensis* (M.Kikuchi) H.Hara

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 15～25cm になる小型の多年草。地下茎は短く、根出葉は線形から線形鎌形になることもある。6～7 月、花茎には 1～2 個の苞葉をつけ、やや疎らな総状花序を先端につける。花はあまり點頭しない。花柄と雄ずいは花被片より少し長いという特徴となる。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、一関市、釜石市などに分布する。本州（岩手県・山形県・富山県）、朝鮮半島に分布するというのが、確実な分布は岩手県のみ。
- ❖ 生育状況 石灰岩の岩場で、水がすこし滴り落ちるようなところを好む。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。生育地は国指定名勝「梟鼻溪」となっている。石灰岩植物で、個体数がきわめて少ない。
- ❖ 文献 73. 藤元淳ほか (1996)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

チャボゼキシヨウ

オモダカ目 チシマゼキシヨウ科

Tofieldia coccinea Richards. var. *gracilis* (Franch. et Sav.) T.Shimizu

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 6～20cm になる小型の多年草。地下茎は短く、根出葉は線形から線状鎌形で、縁に細かい突起がある。6～7 月、花茎はやや長く、途中で小さな苞葉をつけ、先端に疎らな総状花序をつける。花は横向きに開く。花被片は白色から暗紫色で、花柄よりやや長い。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、一関市に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 岩場で、水がわずかに滴り落ちるようなところを好む。
- ❖ 脅威 斜面崩壊などの生育地の消失、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 74. 片山千賀志 (2007)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

カラフトグワイ

オモダカ目 オモダカ科

Sagittaria natans Pall.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 多年生の浮葉植物。成長初期は沈水状態で、細長い葉を根生する。成長すると細い楕円形～矢尻形の浮葉を数個つける。土中にある塊茎で増殖する。
- ❖ 分布の概要 八幡平市のみに分布する。北海道・本州（岩手県）、ユーラシア大陸（亜寒帯）に広く分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯や寒冷地の池沼に生育する。多くが沈水状態で、浮葉をつける個体は少ない。
- ❖ 脅威 生育地が限られ、水質の悪化や土砂の流入など、わずかな環境改変も脅威になりうる。
- ❖ 特記事項 特定第一種国内希少野生動植物種。国内では北海道にのみ分布とされたが、2012 年に県内から発見された。沈水状態では他種と見分けがつきにくいいため、ほかにも生育地が存在する可能性がある。
- ❖ 文献 75. Shiga *et al.* (2017)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

スブタ

オモダカ目 トチカガミ科

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 沈水生の一年草。茎は短く、葉は根生する。葉は線形で、先端は鋭先端、葉縁は細かな鋸歯がある。7～10月、葉腋から円筒状の苞鞘を持つ花柄を伸ばし、白色の細長い花を先端につける。果実は筒状で、多数の種子をつける。種子は表面に細かい突起を散生し、両端が長く伸び、尾状突起となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、東アジア・東南アジア・オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 水田やため池、水路などの浅い水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・湿地開発による生育環境の縮小、水質汚濁、農薬汚染、乾田化による乾燥など。
- ❖ 特記事項 水田環境が大きく変化したため、生育地のほとんどが失われたと考えられる。花巻市や北上市の全域での水生植物調査でも数カ所のみで発見されたにすぎない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

ヤナギスブタ

オモダカ目 トチカガミ科

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ10～30cmになる沈水生の一年草。茎は水中で伸長しながら分枝し、下部の節からひげ根を出す。葉は互生し、紫褐色を帯びた線形で、先は細くなり、葉縁に細かな鋸歯がある。7～10月、葉腋から円筒状の苞鞘を持つ花柄を水面上に出し、白色の細長い花を先端につける。果実は細長く、種子には突起がない。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、北上市、奥州市、一関市、遠野市、宮古市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、東アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 水田や水路、ため池などの水域に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、池沼・湿地開発、水質汚濁、農薬汚染、乾田化による乾燥など。
- ❖ 特記事項 水田雑草とされていたが、水田環境が大きく変化し、生育地、個体数とも著しく減少。
- ❖ 文献 76. 阿部幸之助ほか(2003)、77. 高野祐晃・須川直義(2007)、13. 大森鉄雄(2010)、25. 宮崎佑介ほか(2010)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

サガミトリゲモ

オモダカ目 トチカガミ科

Najas chinensis N.Z.Wang

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 一年生の沈水植物。茎はよく分枝し、折れやすい。葉身は線形、縁に細かい鋸歯がある。トリゲモ類の中では最も葉の幅が広い。7～9月に葉腋に雄花と雌花を別々につける。種子の表面に正方形から六角形の網目がある。
- ❖ 分布の概要 釜石市、陸前高田市に分布する。本州・四国・九州・琉球、アジア(東部)に分布する。
- ❖ 生育状況 東日本大震災の津波によって攪乱された池沼や水田に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、湿原開発、水質汚染など。
- ❖ 特記事項 確認されている生育地が非常に少ない。
- ❖ 文献 78. 高野祐晃(2013)、79. 島田直明ほか(2024)

(島田 直明)

イトトリゲモ

オモダカ目 トチカガミ科

Najas gracillima (A.Braun ex Engelm.) Magnus

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 長さ 30cm の繊細な沈水生の一年草。茎はきわめて細く、よく分枝する。葉は細く、各節から 5 個を輪生し、葉縁に細かな鋸歯がある。葉鞘の先端は円形で、縁に小さい刺がある。6～9 月、各節の葉腋に 1 個の雄花と 2 個の雌花をつける。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市などで確認された。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 貧栄養のため池や水田などの水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・河川・湿地開発、土地造成、水質汚濁、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 沿岸の生育地は、東日本大震災の津波後に水田跡地などで生じたが、その後、造成工事によって多くが消失した。
- ❖ 文献 78. 高野祐晃 (2013)、79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

ホッスモ

オモダカ目 トチカガミ科

Najas graminea Delile

環境省 なし

- ❖ 形態 一年生の沈水植物。茎は細く、よく分枝する。葉身は糸状で、葉縁に鋸歯があるが小さく目立たない。葉鞘の先端が耳状に突き出る。7～9 月に雄花と雌花を葉腋につける。種子は長楕円形で、表面に細かな四角形の網目がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、一関市、遠野市、陸前高田市に分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、アジア・オーストラリア・ヨーロッパ・アフリカに分布する。
- ❖ 生育状況 貧栄養なため池や水田に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、湿原開発、水質汚染など。
- ❖ 特記事項 確認されている生育地がきわめて少ない。

(島田 直明)

ミズオオバコ

オモダカ目 トチカガミ科

Ottelia alismoides (L.) Pers.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる沈水生の一年草。水深によって植物体のサイズは変化する。葉は披針形から広卵形で質が薄く、葉縁は波状のしわがあり、柄がある。8～10 月、葉の間から花茎を伸ばし、先端に白色～淡紅色の大型の両性花を 1 個つける。さく果は多数のひだがあり、水中に沈む。その中に毛のある微少な種子が多数ある。
- ❖ 分布の概要 花巻市、北上市、金ケ崎町、奥州市、一関市、宮古市、山田町、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池や水田、水路などの水域で、水深が 20cm 程度までの停滞水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・湿地開発、圃場整備、農薬汚染、水質悪化、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 水田雑草であるが、乾田化により個体数・生育地とも減少している。東日本大震災の津波後に出現した池沼に出現したこともあるが、その後、埋め立てられ、絶滅した場所が多い。
- ❖ 文献 11. 吉田繁 (1985)、77. 高野祐晃・須川直義 (2007)、25. 宮崎佑介ほか (2010)、26. 大森鉄雄 (2012)、79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

オオシバナ

オモダカ目 シバナ科

Triglochin maritima L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる多年草。地下茎は斜上し、強く太いひげ根を出し、枯死した葉の繊維が覆う。葉は根生し、線形で半円形の断面を持ち、やわらかい。5～9 月、数本の花茎を出し、総状に小型の花を多数つける。花には花被はなく、葯隔付属突起が発達し、葯を包む。果実は卵形で、種皮は薄くやわらかい。
- ❖ 分布の概要 久慈市、宮古市、大船渡市などに分布する。北海道・本州（関東地方以北）、北半球・南アメリカ・北アフリカに分布する。
- ❖ 生育状況 河川の河口や干潟の縁などの塩性湿地で、あまり冠水することはないような場所に生育する。
- ❖ 脅威 海岸・河川開発、水質の変化（特に淡水化）、自然遷移などによる生育環境の縮小など。
- ❖ 特記事項 これまで記録したシバナは検討した結果、オオシバナであることが判明したため、ここで修正する。東日本大震災の津波による影響を受け、個体数が激減した。わずかに残存した個体も、河道掘削や防潮堤建設などの海岸・河川開発で絶滅寸前にある。また、移植が行われた事例があるが、定着せずにすべて流出した。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか（2012）、60. 小山田智彰ほか（2020）、80. 関根清正（2020）

(沼宮内 信之)

ホソバノシバナ

オモダカ目 シバナ科

Triglochin palustris L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の弱々しい多年草。地下茎は短く、走出枝を出す。葉は根生し、細長く、やわらかい。7～8 月、花茎を出し、小型の花を少数つける。葯隔付属突起に雄ずいは包まれる。心皮は 6 個からなり、上部の 3 個だけに稔性があり、下部の 3 個は不稔性で、果軸に合着する。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、一関市に分布する。北海道・本州（東北地方・関東地方）、北半球の温帯域～亜寒帯に分布する。
- ❖ 生育状況 湿原や池沼の縁などの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、周囲の森林伐採などの環境の変化などによる自然消滅など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。十和田八幡平・栗駒指定植物。2 ヲ所の生育地はいずれも保護対象地に指定されているが、1 ヲ所では現状が不明となっている。
- ❖ 文献 81. 鈴木まほろ・小水内正明（2008）

(沼宮内 信之)

オオアマモ

オモダカ目 アマモ科

Zostera asiatica Miki

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 2m になる海産沈水生の多年草。根茎は横走し、各節から根と葉を出す。非開花株では葉の先端は楕円形で中央に微突起がある。シュートの長さや葉身の幅はアマモ属で最大となる。開花株は葉がなく、肉穂花序で終わる。種子は褐色～淡褐色で、長楕円形、表面は平滑で稜はない。
- ❖ 分布の概要 大槌町に分布する。北海道（太平洋沿岸）・本州（岩手県）、サハリン・千島・ロシア（沿海州）・朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 水深が 8～10m の砂質の海底に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、陸からの雑排水による水質汚染、富栄養化、植物プランクトンの増加（赤潮）、透明度の低下、無酸素層の発生など。
- ❖ 特記事項 県内では 1 ヶ所のみで確認されている。東日本大震災の津波による影響を受けたが再生されている。
- ❖ 文献 82. Aioi *et al.* (2000)、83. 大森雄治 (2000)

(沼宮内 信之)

スゲアマモ

オモダカ目 アマモ科

Zostera caespitosa Miki

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 1m 程度になる海産沈水生の多年草。根茎は横走し、節間が短く、叢生するようにみえる。株元には枯死した葉の基部が多数集まる。葉の先端は U 字形にくぼむ。開花株は主茎から伸びて肉穂花序を頂生する。種子は褐色～淡褐色で、卵形、20 本程度の縦の稜があり、表面に微細な突起物がある。
- ❖ 分布の概要 山田町、大槌町に分布する。北海道・本州（日本海沿岸・岩手県以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 水深 2～6m の砂から砂泥の海底に生育する。大潮の時も空中に出ることはない。
- ❖ 脅威 海岸開発、陸からの雑排水による水質汚染、富栄養化、植物プランクトンの増加（赤潮）、透明度の低下、無酸素層の発生など。
- ❖ 特記事項 分布が限られる。東日本大震災の津波による影響を受けたが再生されている。
- ❖ 文献 84. 大森雄治ほか (1996)、83. 大森雄治 (2000)

(沼宮内 信之)

タチアマモ

オモダカ目 アマモ科

Zostera caulescens Miki

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 長さ 7m を超すこともある海産沈水生の多年生。葉の中肋両側に横走脈が密集した部分がある。葉の先端は楕円形でくぼまず、縁辺部には鋸歯がない。生殖枝は直立する茎の上部から出て、各節に 1 個の肉穂花序をつける。生殖枝の先端は葉で終わる。種子は長楕円形で、黒斑があり、縦横に微細な条がある。
- ❖ 分布の概要 大槌町に分布する。北海道・本州（日本海沿岸・陸奥湾～相模湾）、千島列島・朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 内湾で深さ 6～12m の砂質の海底に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、陸からの雑排水による水質汚染、富栄養化、植物プランクトンの増加（赤潮）、透明度の低下、無酸素層の発生など。
- ❖ 特記事項 世界で最も全長が大きいアマモ科の海草という。東日本大震災の津波による影響を受けたが再生されている。
- ❖ 文献 85. 相生啓子ほか（1996）、83. 大森雄治（2000）

(沼宮内 信之)

コアマモ

オモダカ目 アマモ科

Zostera japonica Asch. et Graebn.

環境省 なし

- ❖ 形態 小型の沈水生の多年草。根茎は細く、横走し、各節から根と直立茎を出す。葉には 2～3 本の葉脈があり、先端は楕円形で、くぼむこともある。肉穂花序は頂生する。種子は褐色で、卵形、わずかに稜がある。
- ❖ 分布の概要 大槌町、大船渡市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、サハリン・北アメリカ西海岸に分布する。
- ❖ 生育状況 内湾の奥や河口、干潟などの潮間帯下部で、干潮時に干上がるような浅い砂泥質に生育する。
- ❖ 脅威 海岸・河川・干潟開発による埋め立てによる生育環境の縮小、水質や底質の悪化など。
- ❖ 特記事項 宮古市～陸前高田市の沿岸に分布していたが、東日本大震災以前に多くが絶滅した。一部で移植が行われたが、定着できずにすべてが流出した。
- ❖ 文献 86. 相生啓子（1998）、83. 大森雄治（2000）、87. 猪苗代正憲（2008）

(沼宮内 信之)

ツツイトモ

オモダカ目 ヒルムシロ科

Potamogeton pusillus L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 多年生の沈水植物で、密生することが多い。葉は線形で、湾曲することがなく、鈍頭。托葉の両側が合着して筒状になる。7～9月、上下2段に分かれた花穂をつける。秋に枝先に細長い越冬芽を形成する。
- ❖ 分布の概要 山田町、釜石市、陸前高田市に分布する。北海道・本州・四国・九州、世界に広く分布する。
- ❖ 生育状況 主に沿海部の湖沼や河川、水路などに生育する。東日本大震災の津波によって攪乱された池沼で確認されている。
- ❖ 脅威 湿原開発、水質汚染、水質の変化など。
- ❖ 特記事項 確認されている生育地が非常に少ない。
- ❖ 文献 78. 高野祐晃 (2013)、79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

リュウノヒゲモ

オモダカ目 ヒルムシロ科

Stukenia pectinata (L.) Börner

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 沈水葉のみからなる多年生の水草。地下茎は横走し、節ごとに水中茎と根を出す。水中茎はきわめて細く、上部で分枝する。沈水葉は狭線形、全縁で1脈がある。葉の基部は托葉と合着して葉鞘となり、茎を抱く。7～9月、穂状花序を伸ばし、水面を横たわるようにまばらに花をつける。夏頃から地下茎の先端に塊茎を形成し、栄養繁殖と越冬を行う。
- ❖ 分布の概要 山田町、大槌町、釜石市に分布する。陸前高田市、一関市で記録がある。北海道・本州・四国・九州・琉球、世界の温帯から熱帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 河口付近の汽水域に主に生育するが、内陸の湖沼や河川にも見られる。
- ❖ 脅威 池沼・河川・海岸開発、土地造成、水質汚濁、塩分濃度の変化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。東日本大震災の津波による被害を受けた河口域の池沼で確認されている。きわめて少ない池沼や湿地でのみ確認されているので、開発などには留意が必要である。塩分濃度によって消失する場合もあるので、塩分濃度とともにモニタリングしていく必要がある。
- ❖ 文献 79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

イトクズモ

オモダカ目 ヒルムシロ科

Zannichellia palustris L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 繊細な一年生あるいは越年生の沈水植物で、地中を這う地下茎から水中茎を出し、マット状に広がる。葉は対生もしくは輪生状につき、線形で全縁。花は単生花、雄花と雌花が同じ葉腋に並んでつける。果実は両端に突起がある湾曲する長楕円球形で、ほとんど無柄で、特徴がある。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市に分布する。北海道・本州・琉球、世界に広く分布する。
- ❖ 生育状況 沿海地の湖沼、塩湿地、汽水域などに生育する。東日本大震災の津波によって攪乱された水田跡などで確認された。
- ❖ 脅威 沿海地の水域の埋立、湿地開発、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 確認されている生育地が非常に少ない。
- ❖ 文献 78. 高野祐晃 (2013)、79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

カワツルモ

オモダカ目 カワツルモ科

Ruppia maritima L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 全草が繊細な糸状の沈水生の多年草。地下茎は水底を這い、水中茎を分枝する。葉は狭線形で、葉縁に鋸歯があり、基部は葉鞘となって茎を抱く。5～9月、葉腋から伸びた花茎の先端に2個の花をつける。花は花被がなく、雄ずいと心皮からなる。果実は黒色で、堅く、卵球形となる。
- ❖ 分布の概要 山田町、釜石市、陸前高田市に分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、全世界に分布する。
- ❖ 生育状況 河口や海岸沿いの水域で、淡水と海水が混ざり合う汽水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・海岸・湿地などの開発事業、水質汚濁、水質の変化（特に淡水化、海水流入）など。
- ❖ 特記事項 以前は沿岸の数ヵ所で確認されていた。東日本大震災後に5ヵ所で確認されたが、確実な生育地は2ヵ所のみ。塩分濃度の変化によって、消失する可能性があるため、モニタリングを続けていく必要がある。
- ❖ 文献 79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②③

オオバナノエンレイソウ

ユリ目 シュロソウ科

Trillium camschatcense Ker Gawl.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる多年草。根茎は太く短い。葉は卵状菱形で、先端は急に短く尖り、基部は広いくさび形になる。4～5 月、茎頂に 1 個、やや横向きに大きな花を開く。内花被片は白色で、先端は尖らず、葯は花糸より長く、花粉は紫褐色となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町、岩泉町、宮古市などに分布する。北海道・本州（北部）、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリー・サハリン・千島・カムチャツカ・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 腐葉土の多い場所を好んで生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。群生することが多いが、生育地は少ない。種間雑種が多く知られ、県内にもまれに見られる。
- ❖ 文献 88. 猪苗代正憲（2000）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑤⑥

ミヤマクロユリ

ユリ目 ユリ科

Fritillaria camschatcensis (L.) Ker Gawl. var. *keisukei* Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～50cm になる多年草。葉は 3～5 個が輪生し、数段につく。葉は被針形～長楕円状被針形で、鋭頭、毛はない。6～8 月、茎頂に 1～数個の花を斜め下向きにつく。花被片が暗紫褐色で、網目模様がある。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道・本州（中北部）、中国（東北部）・ウスリー・千島・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 雪田植生の周辺で、比較的遅くまで雪が残り、融雪期には湿潤であるがそれ以降、乾燥傾向が強くなるような高山草原に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘される可能性がきわめて高い。
- ❖ 特記事項 岩手県内の生育地は 1 ヲ所に限られて、個体数も著しく少ない。
- ❖ 文献 89. 工藤公也（1982）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ヒメアマナ

ユリ目 ユリ科

Gagea japonica Pascher

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の繊細な多年草。鱗茎は小さく、広卵形となる。そこから 1 個の根出葉と葉をつける花茎を出す。葉は広線形で、断面は三日月形になる。5 月、花茎の上部にある 2 個の苞葉の間から 3～8 個の黄色い花を散形に開く。苞葉のうち、外側は大きく、内側は非常に小さい。花被片は線状楕円形で、先端は鋭形となる。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。北海道・本州・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿った原野や林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけによる消失、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともきわめて少なく、洋野町では絶滅した。開花個体ではない場合、近縁種と間違える可能性があるため、これまでの記録は再検討する必要がある。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

コアニチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Amitostigma kinoshitae (Makino) Schltr.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10~20cm の多年草。茎は斜上し、細く、中央部に広線形の先端が尖った葉を 1~2 個つける。6~8 月、茎の先端に白色の花を 2~5 個つける。側萼片は斜卵形、背萼片は楕円形で同長となる。側花弁は広卵形、唇弁は 3 裂する。唇弁の基部に 2 条の濃紫紅色の斑紋がある。花序の先端にムカゴをつける。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈と北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地~亜高山帯の湿性な岩場の割れ目、湿性草原などに生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。個体数がきわめて少なく、盗掘によりほとんど見られなくなった。
- ❖ 文献 7. 大森鉄雄・高橋久 (1980)、90. 大森鉄雄・高橋久 (1981)、91. 大森鉄雄・高橋久 (1984)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

ミスズラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Androcorys pusillus (Ohwi et Fukuy.) Masam.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 8~15cm の小型の多年草。球茎は卵形で、1 個の葉は倒披針状楕円形、鈍頭で基部は細くなって葉柄状になる。6~7 月、鱗片葉がない花茎に淡緑色で目立たない花を数個つける。背萼片は楕円形、側萼片は長楕円形となり、側花弁は斜卵円形で背萼片よりも短い。唇弁は舌状披針形で距はない。
- ❖ 分布の概要 八幡平市に分布する。本州（中部地方以北）、朝鮮半島・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。十和田八幡平指定植物。小さな植物で、開花しないと発見できない。そのため、これまでに報告がなく、近年、発見された。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

キソエビネ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Calanthe alpina Hook.f. ex Lindl.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 20~30cm になる多年草。偽球茎は球状で、連珠状に並ぶ。葉は 3~4 個つき、縐子状の光沢がある。6~7 月、花茎の上部に 3~8 個の帯紫微紅色の花を総状につける。萼片は広披針形で鋭頭となる。側花弁は披針形で短い。唇弁は萼片よりも短く、半円形で、分裂しない。全体にうつむき加減で開花する。
- ❖ 分布の概要 葛巻町、花巻市、遠野市、岩泉町、宮古市に分布する。本州（中部地方以北）・四国（石鎚山）に分布する。
- ❖ 生育状況 腐植土からなる適潤な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地は点在するが、個体数はきわめて少ない。
- ❖ 文献 52. 及川邦夫 (1982)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

キンセイラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Calanthe nipponica Makino

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。偽球茎は球状で、連珠状に並ぶ。葉は 3～5 個つき、倒披針形で深緑色となる。6～7 月、花茎の上部にまばらに淡黄緑色の花を 5～12 個つける。萼片は広披針形で鋭先端となる。側花弁は萼片よりも短く、細い。唇弁は 3 中裂し、中央にとさか状のひだが 3 条あり、ほぼ平坦に開く。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈と北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州（宮崎県）に分布する。
- ❖ 生育状況 スギ林、アカマツ林、ヒノキ林などの針葉樹林の適湿な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、砂防堰堤工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地は点在し、個体数は多くない。
- ❖ 文献 27. 大森鉄雄 (1982)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

ナツエビネ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Calanthe puberula Lindl.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。偽球茎は球状となる。葉は 5～8 個がつき、縦じわが深く、やや白みの帯びた緑色で、光沢がある。7～8 月、基部の葉腋から花茎を伸ばし、まばらに総状に白色～桃紫色の花を 10～20 個つける。萼片は鋭尖頭で、反曲する。側花弁は線形で鋭尖頭、唇弁は心状広卵形、3 深裂し、先端は突出する。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州・四国・九州、済州島・中国（南部）・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿った林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地は限られ、個体数もきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

サルメンエビネ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Calanthe tricarinata Lindl.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。葉は 3～4 個つく、急鋭尖頭となる。5～6 月、葉柄の基部から太い花茎を伸ばし、7～15 個の花を総状につける。萼片は狭長楕円形で鋭頭、側花弁は広倒披針形で鋭頭、黄緑色となる。唇弁は紫褐色～朱紅褐色を帯び、3 裂する。側裂片は小さく、中裂片は大きく、先端の縁にひだがあり、中央に 3 条のとさか状突起がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈と北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、台湾・ヒマラヤに分布する。
- ❖ 生育状況 ブナ林などの夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路・砂防堰堤工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 92. 安藤亮太・国崎貴嗣 (2009)、93. 藤澤英俊 (2022)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②③

キンラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。葉は 5～8 個が互生し、広披針形、先端は尖り、基部は茎を抱く。5～6 月、黄色の花を 3～12 個、穂状につける。萼片は卵状長楕円形、鈍頭で、背萼片は背面に突き出る。側花弁は卵形で、唇弁の基部は筒状で距となり、舷部は 3 裂する。最盛期になると花弁が少しだけ開き、小さい距が少し出る。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低山の夏緑広葉二次林の林床や草原に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、草原開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数とも減少が著しい。
- ❖ 文献 93. 藤澤英俊 (2022)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②③

クゲヌマラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる多年草。葉は 3～6 個が互生し、長楕円形、明らかな葉脈があり、やや厚く光沢があり、基部は茎を抱く。5～6 月、白色の花を 5～10 個、穂状につける。萼片は披針形、先端はやや尖る。唇弁の基部にある距はほとんど突き出ることなく、花被片はあまり開かない。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、葛巻町、岩泉町などに分布する。北海道・本州・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 明るい林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。個体数が少ない。近縁種があり、これまでの記録を精査する必要がある。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

ユウシュンラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cephalanthera subaphylla Miyabe et Kudô

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20cm ほどの小型の多年草。葉は退化し、鱗片状で、苞の下部は小型の葉状になる。5～6 月、純白色の花を数個つける。萼片と側花弁の先端は鈍頭で、唇弁の距は長く、先が尖る。花被片相互に少し間隙がある。
- ❖ 分布の概要 花巻市、北上山地から沿岸地域などに分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床で、やや暗く腐植の多い湿った斜面に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 94. 大森鉄雄 (1975)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

モイワラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cremastra aphylla T.Yukawa

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる寄生植物。偽球茎は球茎で、サンゴ状の根と花茎を出し、普通葉はまったくない。花茎の先端に褐色を帯びた赤紫色の花を総状に一方に偏ってつける。萼片と側花弁は線状披針形で、唇弁の基部は少しふくれる。花はあまり開かず、下向きに咲く。
- ❖ 分布の概要 八幡平市に分布する。北海道・本州（青森県・岩手県）に分布する。
- ❖ 生育状況 モギダケの菌糸に寄生して栄養を取っている可能性がある。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。菌従属栄養植物。近年、生育地での発生は確認されていない。
- ❖ 文献 95. 猪苗代正憲 (1999)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

トケンラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる多年草。偽球茎は細長い地下茎でつながる。葉は 2 個で、長楕円形、先端は鋭頭、葉面に紫紅色の丸い斑紋をつける。4 月末に葉が枯れ、花茎を直立させる。5～6 月、花茎の上部に疎らに花をつける。萼片と側萼片は倒皮針形で基部に向かって狭くなり、唇弁は上唇と下唇都に分かれる。
- ❖ 分布の概要 雫石町、花巻市、西和賀町などに分布する。北海道・本州・四国、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 アカマツ林や夏緑広葉樹林などの林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地がいくつか発見されたが、いずれも個体数は少ない。
- ❖ 文献 96. 及川和夫 (1978)、97. 大森鉄雄 (2011)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

コアツモリソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cypripedium debile Rchb.f.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は横に這い、茎を疎らにつける。葉は心臓形で光沢があり、2 個が対生状につける。5～6 月、葉の間から出る繊細な花茎の先に花を 1 個つけ、葉の下に隠れるようにして花を開く。唇弁は袋状で暗紅紫色の条斑があり、それ以外の花被片は淡黄緑色となる。果期には花茎は直立する。
- ❖ 分布の概要 花巻市、宮古市、五葉山などに分布する。北海道（南西部）・本州（中部地方以北）・四国・九州、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 アカマツ林などで腐植土が堆積し、日光が直接当たらないような林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともきわめて少なく、絶滅した生育地も多い。
- ❖ 文献 98. 大森鉄雄 (1996)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②③

クマガイソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cypripedium japonicum Thunb.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。根茎は横に這い、群生することもしばしばある。茎は有毛で、2 個の大型の葉を対生状につける。葉は扇円形で、放射状の多数の脈があり、縦じわが著しい。4～5 月、茎頂に袋状の大きな花を 1 個つける。花被片は淡黄緑色で、唇弁は紅紫色の脈がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道（南西部）・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 スギ植林などの比較的湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路・砂防堰堤工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地、個体数とも減少し、いくつかの地域では絶滅した。
- ❖ 文献 99. 関根清正 (2011)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

アツモリソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cypripedium macranthos Sw.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は横に這うが、節間はつまる。葉は 3～5 個で互生し、基部は短い鞘となる。茎と葉には毛がある。5～7 月、茎頂に球形で淡紅色の花を 1 個つける。萼片は卵形、側花弁は卵状披針形で、いずれも鋭先端となる。唇弁は大きな袋状で、内部に長毛を散生する。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、南千島・アジア北東部～ヨーロッパ東部に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原や疎林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、草地の管理放棄による自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 特定第一種国内希少野生動植物種。三陸復興・早池峰指定植物。生育地、個体数とも減少が著しく、久慈市や洋野町では絶滅した。
- ❖ 文献 100. 関根清正 (2006)、101. 小山田智彰 (2019)、102. 小山田智彰ほか (2021)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

セッコク

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～25cm の着生する多年草。根茎は短く、多数の根がある。葉は 2～3 年生で、互生し、披針形、光沢がある。5～6 月、茎の上部の節に白色または淡紅色の花が 1～2 個つく。背萼片は披針形で鋭頭となる。側萼片と側花弁は狭楕円形になる。唇弁は狭卵状三角形で、中央に多数の短毛がある。
- ❖ 分布の概要 山田町に分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の常緑樹林内の樹上や岩上に着生する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。分布の北限にあたる。絶滅したとされていたが、山野草として採集されていたことから、再調査の結果、生育が確認された。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ハマカキラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Epipactis papillosa Franch. et Sav. var. *sayekiana* (Makino) T.Koyama et Asai

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は短いが匍匐する。全草に褐色の短い縮毛がある。葉は 5～7 個で、楕円状卵形、基部はやや鞘となる。7～8 月、茎の先端に 20～30 個の帯黄色の花が総状につく。萼片は狭長卵形で、帯黄色になる。唇弁は卵状披針形で、白色～黄緑色、唇弁には赤紫色の斑紋がある。
- ❖ 分布の概要 宮古市、大船渡市などに分布する。本州（青森県～愛知県）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸付近のクロマツ林やアカマツ林の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、刈り払い、海岸開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。東日本大震災の津波により、陸前高田市の生育地は消失し、全滅した。ほかの生育地も個体がわずかしかなかった。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか (2012)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

アオキラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Epipogium japonicum Makino

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる菌従属栄養植物。根茎は卵形で、そこから肉質で淡黄色の茎を伸ばす。膜質の鞘状葉を 2～5 個つける。8～9 月、4～7 個の花が総状につく。苞は卵形で、膜質、淡褐色となる。萼片は狭卵形、側萼弁は紫色の斑点がある。唇弁は広卵形で、両面に紫色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採の影響を受けやすく、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 最初に発見された以来、生存が確認されていなかったが、2009 年に再確認された。
- ❖ 文献 103. 小山田智彰ほか (2010)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

カモメラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Galearis cyclochila (Franch. et Sav.) Soó

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。根茎は短く、根は多少肥厚し、横に匍う。茎は翼があり、根生する葉を 1 個つける。5～7 月、茎頂に淡い紅紫色の花を 2 個つける。苞は狭長楕円形でやや大きい。萼片は広披針形、側花弁は披針形となる。唇弁は広楕円形で、紫色の細点がある。距は線形で後ろに反る。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北、紀伊半島）・四国、朝鮮半島・ウスリー・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の薄暗い湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸による盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地、個体数とも限られている。
- ❖ 文献 104. 猪苗代正憲 (2006)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

シロテンマ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Gastrodia elata Blume f. *pallens* Kitag.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる菌従属栄養植物。根茎は太く肥厚し、菌類と共生する。茎は円柱状で、直立、帯黄褐色で、膜質の鱗片葉をつける。6～7 月、8～20 個の白色の花を総状につける。萼片は合着して壺状となり、基部の下部はややふくらみ、横向きにわずかに開く。裂片の内側にある唇弁の縁は全縁となる。
- ❖ 分布の概要 一関市室根町に分布する。母種は北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国～ヒマラヤ・ロシア（極東）・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の明るい林床や林縁の草地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。オニノヤガラの変種と考えられることで、いわてレッドデータリストでは対象外となるが、環境省では対象としていること、独立種と考えられることもあるため、ここでは収録した。オニノヤガラとされたものに本種が含まれる可能性がある。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

ツリシュスラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Goodyera pendula Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 長さ 10～20cm の常緑性の着生多年草。茎の基部は横に這い、先端は下垂する。葉は広披針形、鋭頭で、基部はくさび形になる。7～9 月、花序は基部が湾曲して立ち上がり、白色の花を一方に偏って多数つける。子房、胞、花柄にはまばらに縮毛をつける。萼片は狭卵形、側花弁は狭倒披針形、唇弁は広卵形になる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。北海道・本州・四国・九州、台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林内の大木の樹上や岩上で、コケや落葉などに埋もれるように生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともきわめて限られている。近縁種と確認する必要がある。
- ❖ 文献 98. 大森鉄雄 (1996)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

ヒメミヤマウズラ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Goodyera repens (L.) R.Br.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。茎の基部は這い、節から太いひも状の根を出す。葉は数個が互生し、卵形、鈍頭、表面に白色の網目状の斑紋がある。7～8 月、汚白色の花が 5～12 個、偏って総状につく。苞、子房、萼片ともに長い縮毛がある。唇弁は萼片と同長で、基部の背面は半球状にふくらむ。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、秋田駒ヶ岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北・大台ヶ原）、千島・中国・朝鮮半島・サハリン・シベリア～ヨーロッパ～北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯針葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数ともきわめて限られている。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②③⑥

ヤチラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Hammarbya paludosa (L.) Kuntze

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 5~20cm の小形の多年草。偽球茎は紡錘形で、ロゼット状に 2 個の葉を出す。葉は狭長楕円形で鈍頭、開花後、先端にむかごをつけることがある。7~8 月、淡緑色の花を多数総状につける。萼片は狭卵形、側花弁は卵形、唇弁は三角状卵形になる。唇弁は上側に位置し、直立する。
- ❖ 分布の概要 八幡平市に分布する。北海道・本州（中部地方以北）・サハリン・南千島・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯のミズゴケ湿原に埋もれるように生育する。花茎がでない場合、発見できない場合がある。
- ❖ 脅威 水分環境の変化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数とも限られている。
- ❖ 特記事項 105. 山口一彦 (2021)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

ヒメノヤガラ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Hetaeria sikokiana (Makino et F.Maek.) Tuyama

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10~20cm の菌従属栄養植物。根茎はやや太く、横に這い、小型の鱗片がある。茎は直立し、肉質で鱗片葉を互生する。7~8 月、穂状花序を出し、5~10 個の花をつける。苞は卵状長楕円形または卵形で小さい。萼片は長卵形、鈍頭で、側萼片がやや大きい。唇弁の下部は胞状にふくれる。
- ❖ 分布の概要 花巻市に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床で、南向きの斜面に生育する
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。菌従属栄養植物で、移植したという情報もあるが、危機的な状況には変わらない。
- ❖ 文献 106. 大森鉄雄 (1964)、107. 大森鉄雄 (1999)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ハクウンラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Kuhlhasseltia nakaiana (F.Maek.) Ormerod

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5~13cm の小型の多年草。茎の下部は匍匐するが、根を持たない。葉は卵円形で、葉柄があり、基部は茎を抱く。7~8 月、直立した茎の先端に 1~4 個の白色の花をつける。子房、苞、萼片は細かい軟毛がある。側萼片の基部は合着してふくらみ、唇弁の基部を包む。唇弁の先端は長楕円状四角形となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、盛岡市、西和賀町、奥州市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の暗くない林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地、個体数とも限られている。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ムヨウラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Lecanorchis japonica Blume

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる菌従属栄養植物。根茎は細いひも状で、地中深くに入り、良く分枝する。茎は無毛で、数個の鞘状葉をつける。6～7 月、総状に数個の汚白色の花を斜め上向きにつける。花被片は倒披針形、唇弁も倒披針形で先端は 3 裂する。果実は茎と平行につき、種子を放出した後も果皮は遅くまで残る。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林やアカマツ林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 生育地は限られ、個体数が非常に少ない。変種にホクリクムヨウランがあり、同定を含めて、再検討する必要がある。
- ❖ 文献 108. 上野雄規 (1978)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ギボウシラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis auriculata Blume ex Miq.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる多年草。偽球茎は卵形で、1～2 個の葉を出す。葉は広卵形で、葉面に縦じわがある。7～8 月、やや穂状に十数個の帯白色あるいは紫黒色の花をつける。萼片は線状長楕円形で鋭頭、側花弁は線形で、鈍頭となる。唇弁は円頭で、基部に 2 個の突起がある。
- ❖ 分布の概要 沿岸を除く県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州・屋久島、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 スギやコナラなどからなる森林内にあるやや暗い湿性の草地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路・砂防堰堤工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数とも著しく減少している。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

フガクスズムシソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis fujisanensis F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 3~10cm の多年生の着生植物。偽球茎は卵形で、1~2 個の葉を出す。葉は卵形で、葉面に縦じわ、光沢がある。7~8 月、3~5 個の淡暗紫色の花をつける。側萼片は広線形で横に伸び、側花弁は下垂する。唇弁は強く巻き込み、中央に濃い暗紫褐色の紋が大きくて目立つ。ずい柱上端には狭い翼がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。本州 (中部地方以北) に分布する。
- ❖ 生育状況 空中湿度が高い森林内で、大木の樹幹や大枝に着生するコケに混じって生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 110. 竹原明秀 (2001)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

セイタカスズムシソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis japonica (Miq.) Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~40cm になる多年草。偽球茎は楕円状球形となる。葉は広楕円形で、基部はくさび形となる。6~7 月、淡緑色または帯紫色の花を多数疎らにつける。萼片は線状披針形、側花弁は糸状で、同長となる。唇弁は倒卵形、円頭で微凸端がある。下部から開花が始まるにしたがい、花茎は伸長する。
- ❖ 分布の概要 一戸町、八幡平市に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国 (東北部) ・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 明るいアカマツ林や夏緑広葉樹林の林床、岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。年々、減少する傾向にある。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑤⑥

オオフガクスズムシ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis koreojaponica Tsutsumi, Yukawa, N.S.Lee, C.S.Lee et M.Kato

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10~30cm になる多年生。偽球茎は卵形で、1~2 個の葉を出す。葉は卵形で、葉面に縦じわ、光沢がある。7~8 月、4~12 個の淡暗紫~淡緑色の花をまばらにつける。側萼片は広線形で横に伸び、側花弁は下垂する。唇弁は強く巻き込み、基部が紫色に着色する。
- ❖ 分布の概要 県内に分布するというのが詳細は不明。北海道、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 空中湿度が高い森林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも著しく少ないと考えられる。類似種が多く、再検討が必要といえる。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

スズムシソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis makinoana Schltr.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。偽球茎は楕円状球形となる。葉は広楕円形で、基部はくさび形、二次脈が網条となる。5～6 月、太く角張った花茎に 5～20 個の淡暗紫色の花をまばらにつける。萼片は広線形、側花弁は糸状、同長となる。唇弁は広倒円形、円頭で斜め前方に突き出る。
- ❖ 分布の概要 県北地域から北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 明るいアカマツ林、夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。年々、生育地、個体数とも減少している。
- ❖ 文献 54. 戸澤順子 (1988)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ヒメスズムシソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis nikkoensis Nakai

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 4cm 前後の小型の多年草。開花個体の葉は 2 個で、小さい。7 月に数個の花をつける。花の色は黄色から淡黄緑色で唇弁に紫色の条線がある。ジガバチソウの小型にした以外、形態として異なるところあまりない。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、焼石岳に分布する。本州 (長野県・山梨県・栃木県) に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の風衝草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏み荒らし、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。亜高山帯風衝草原に適応したジガバチソウの変種と考えられている。小型で目立たない草本のため、複数の生育地が存在する可能性がある。
- ❖ 文献 111. 鈴木まほろ・八重樫理彦 (2018)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

シテックモキリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis purpureovittata Tsutsumi, Yukawa et M.Kato

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～40cm になる多年草。葉は 2 個つき、広卵形で、葉脈は横脈があり、縁は細かく縮れる。花は茎頂に 4～14 個が疎らにつく。側萼片は線形でねじれて強く外側に巻き、淡紫色、唇弁は黄緑色で、基部が紫色に着色し、先端はくさび形または円頭、中央の溝に紫褐色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する可能性がある。北海道・本州 (中部地方以北)・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 湿った疎林の林床などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 2008 年に新種として記載されたが、以前から存在は知られていた。近縁種をあらためて検討する必要がある。生育地、個体数ともきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

クモイジガバチ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Liparis truncata F.Maek. ex T.Hashim.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 3~10cm の多年生の着生植物。偽球茎は卵形で、2 個の葉を出す。葉は卵形で、葉面に縦じわ、光沢がある。7~8 月、淡緑色または淡暗紫色の花を 3~5 個つける。側萼片は広線形で横に伸び、側花弁は下垂する。唇弁は倒三角形で強く巻き込み、中央に濃い暗紫褐色の平行脈が大きくて目立つ。
- ❖ 分布の概要 雫石町に分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 ブナやトチノキなどの夏緑広葉樹の樹幹上で、コケの中に着生する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数ともきわめて限られている。
- ❖ 文献 112. 工藤公也・佐藤正樹 (1982)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ホザキイチヨウラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Malaxis monophyllos (L.) Sw.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15~30cm になる多年草。偽球茎は卵形で、広卵形の葉を 1 個出し、基部は葉鞘となる。葉は柔らかく、少し光沢がある。7~8 月、淡緑色の花を多数、総状につける。萼片は披針形で開出して反曲する。唇弁は萼片と同長で、上半部は急に細く突きだし、下半部は腎円形、基部近くの両縁に肉質の裂片がある。
- ❖ 分布の概要 岩手山、早池峰山に分布する。北海道・本州 (近畿地方以北)・四国 (剣山・石鎚山)、朝鮮半島・中国・台湾・サハリン・シベリア・ヒマラヤ・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地~亜高山帯の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地、個体数とも限られている。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

サカネラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Neottia papilligera Schltr.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20~40cm になる菌従属栄養植物。根茎は地中で直立し、肉質で肥厚した根を斜め上に向き、多数束生する。茎は太く多肉で、筒状の鞘状葉を互生する。5~6 月、総状花序に多数の汚黄色の花をつける。茎の上部と子房に縮れた褐色の短腺毛を密生する。萼片と側萼片は倒卵形、唇弁は基部がやや袋状で、先端は 2 裂する。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、盛岡市、雫石町、岩泉町、花巻市などに分布する。北海道・本州 (中部地方以北)・九州、朝鮮半島・中国 (東北部)・サハリン・南千島・シベリア (東部) に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林のやや暗い湿った林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地、個体数とも限られている。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

フジチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Neottianthe fujisanensis (Sugim.) F.Maek.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 4~7cm の小型の着生植物。茎は細く、楕円形の先端が尖った葉が 1 個ある。6~7 月、淡紫色の花を 3~5 個、片側に疎らにつける。萼片と側花弁がかぶと状になる。唇弁は舌状楕円形で、側裂片は小さく目立たず、中央部に縦に濃紫色の斑紋がある。距は萼片より短く、前方に曲がり、先端は円い。
- ❖ 分布の概要 二戸市、西和賀町、岩泉町に分布する。本州に分布する。
- ❖ 生育状況 空中湿度が高い沢沿いで、大木の樹上や岩壁に着生し、コケとともに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、斜面崩壊などの生育地の消失、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数ともきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

サギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 15~40cm になる多年草。小さな球茎から地上茎を伸ばす。茎の下部に 3~5 個の葉をつけ、上部は鱗片葉となる。7~8 月、白色の花を 1~3 個つける。萼片は緑色、側花弁は白色、これらでかぶとをつくる。唇弁は大きく、3 深裂し、中裂片は披針形、側裂片の縁は糸状に深く細裂する。距は斜めに下垂する。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい酸性の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、湿原周囲の開発による水質悪化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも著しく減少している。
- ❖ 文献 113. 鈴木實 (1974)、114. 大谷雅人ほか (2013)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑤⑥

ミヤケラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera chorisiana (Cham.) Rehb.f. var. *elata* Finet

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~40cm になる多年草。葉は円形または広楕円形で、表面は光沢がなく、網目状、2 個が対生状に相接してつく。7~9 月、淡緑色の花を 10 個以上を穂状につける。萼片は長楕円~楕円形、側花弁は卵~広卵形となる。唇弁は卵円形で鈍頭、距は楕円形で短い。
- ❖ 分布の概要 県内の分布は不明。北海道・本州 (東北地方) に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 高山に生育するタカネトンボの変種で、より低地に見られる。生育地・個体数ともにきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ヒロハトンボソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera fuscescens (L.) Kraenzl.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 25～50cm になる多年草。根茎は横に這い、前年に延びた根茎の背から地上茎が伸びる。茎は直立し、中部に広卵形の葉を 2～3 個つけ、その上部に鱗片葉が数個つく。6～7 月、黄緑色の花を穂状にやや密につける。背萼片、側萼片、側花弁でかぶとをつくる。唇弁は基部で 3 裂し、側裂片は鋭三角形となる。
- ❖ 分布の概要 久慈市に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、千島・サハリン・カムチャツカ・朝鮮半島・東シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床や林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 これまで記録されていなかったが、近年、少数個体が発見された。
- ❖ 文献 115. 小守一男・鈴木まほろ (2009)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

イイヌマムカゴ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera iinumae (Makino) Makino

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 30cm になる多年草。根茎は横に這い、前年に延びた根茎の背から地上茎が伸びる。茎は直立し、中部に楕円形または倒卵状楕円形の葉を 2 個つけ、基部は茎を抱く。その上部に鱗片葉が数個つく。7～8 月、黄緑色の花を穂状につける。背萼片と側花弁は同長でかぶとをつくる。唇弁は舌状で、鋭頭、側裂片は小さい。
- ❖ 分布の概要 雫石町、花巻市、奥州市、遠野市などに分布する。北海道（南部）・本州・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 低山のやや湿った林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地、個体数とも限られている。
- ❖ 文献 98. 大森鉄雄 (1996)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②③

ツレサギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～60cm になる多年草。根茎は横に這う。茎は直立し、下方の 3～5 個の葉は狭長楕円形で基部は短い鞘となる。上方の 2～3 個の葉は小さく、広線形となる。5～6 月、白色の花を多数つける。背萼片は楕円形、側萼片は斜卵形、側花弁は半切三角形で、これらでかぶとをつくる。唇弁の基部の両側に突起がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草地、湿性な林床～林縁に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 11. 吉田繁 (1985)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ヒナチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Ponerorchis chidori (Makino) Ohwi

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 7~15cm の小型の着生する多年草。根は楕円形に肥厚し、茎を伸ばす。葉は下部に 1 個、広披針形で、基部は茎を抱く。7~8 月、紅紫色の花を数個つけ、一方に傾く。背萼片は長楕円形、側萼片は斜卵形、側花弁は広卵形となる。唇弁はやや深く 3 裂する。距は長楕円形で、基部はわずかに太くなる。
- ❖ 分布の概要 雫石町、西和賀町、早池峰山などに分布する。本州・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 大木の樹上に着生し、コケとともに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数ともきわめて少ない。再確認されていない生育地がある。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③⑥

ウチョウラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Ponerorchis graminifolia Rchb.f.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 7~20cm の多年草。根は球状に肥厚し、茎を斜上に伸ばす。葉は 2~3 個、線状または広線状で、上方はやや湾曲する。6~8 月、紅紫色の花を 5~10 個、一方に傾けてつける。背萼片は卵円形、側萼片は斜形、側花弁は斜卵形となる。唇弁は長く、3 深裂する。距は湾曲し、暗紫紅色の線がある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山などの北上山地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよく、湿性の岩壁の割れ目にへばりつくように生育する。
- ❖ 脅威 自然災害による崩壊、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地や個体数が少なく、さらに減少が進む。玄武洞に生育した個体は岩盤が崩落したことで絶滅した。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③

ヒトツボクロ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Tipularia japonica Matsum.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~30cm になる多年草。偽球茎はやや地上に露出し、2~3 個が連なる。葉は卵状楕円形、鋭先端、表面は光沢のある深緑色、裏面は紫色で、葉縁にシワがある。5~6 月、黄緑色の花を 5~15 個、短い花柄の先に下向きに開く。萼片と側花弁は狭倒披針形で鈍頭となる。唇弁は倒卵形で、距は下垂する。
- ❖ 分布の概要 沿岸を除く、県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 低山にあるアカマツ林などのやや明るい林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地は点在するが、いずれも個体数が少ない。
- ❖ 文献 92. 安藤亮太・国崎貴嗣 (2009)

(沼宮内 信之)

オキナグサ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) クサスギカズラ科

Pulsatilla cernua (Thunb.) Berchtold et J.Presl

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根は太く、根出葉は束生し、長い葉柄があり、2 回羽状複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻する。全体に白毛を密生するが、葉の表面はやや無毛となる。5 月、花を 1 個、頂生し、鐘形で下向きに開く。萼片の外面に白毛を密生する。そう果は多数が球形に集まり、花柱は伸長し、白毛を密生する。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、葛巻町、盛岡市、遠野市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たり草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、草原の管理放棄、アカマツなどの樹木侵入による自然遷移、希少種ということによる盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・栗駒指定植物。生育環境のシバ草原などの半自然草原が自然遷移や人工草地に改良されたことで大きく減少したため、個体数も著しく減少した。
- ❖ 文献 116. 千田貞蔵 (1991)、117. 千葉高男ほか (2002)、109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)、99. 関根清正 (2011)、118. 新井隆介・大窪久美子 (2014)

(島田 直明)

ミズアオイ

ツユクサ目 ミズアオイ科

Monochoria korsakowii Regel et Maack

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多孔質で柔らかい一年草。葉は心形で全縁、深緑色で光沢がある。9～10 月、茎の先端に多数の花からなる総状花序をつける。花被片は青紫色で楕円形、花柱は湾曲する。果実は下垂する。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、平泉町、久慈市、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。一部の地域で絶滅した。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・ウズリーに分布する。
- ❖ 生育状況 圃場整備を行っていない自然性の高い休耕田、小さな池、沼、河川沿いなどに生育する。
- ❖ 脅威 耕作、圃場整備、乾燥化、埋め立て、園芸用の盗掘、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 以前から生育地が少なかった。東日本大震災の津波の攪乱によって、それまで生育地として知られていないところからも個体が確認された。しかし、復興工事や自然遷移の進行によって多くの場所から消失した。
- ❖ 文献 119. 吉田繁 (2000)、120. 新井隆介・永幡嘉之 (2013)、58. 島田直明 (2014)、121. 鈴木まほろ (2016)、122. 新井隆介 (2021)、123. 新井隆介 (2022)、79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

ホソバウキミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium angustifolium Michx.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 沈水～浮葉性の水生多年草。葉は水面に達すると浮葉状態となり、長さ 200cm に達するが、徐々に細くなる線形で、先端は円みを帯びる。7～8 月、分枝しない花茎を水面に出し、腋性または腋上性の 2～5 個の雌性頭花と 2～3 個の雄性頭花を離れるようにつける。果実は水面に浮いた状態につく。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、雫石町に分布する。北海道・本州（岩手県・長野県）、ヨーロッパ・シベリア・アラスカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯以上にある湿原内のやや深い池塘（水深 70～150cm）や湖沼に生育する。
- ❖ 脅威 水質汚濁、人為的攪乱、原因不明の自然消滅など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。北半球の寒冷地に広く分布する周北極植物で、日本では限られた地域にのみ分布する。生育状況により浮葉が確認できない年もあるという。
- ❖ 文献 124. 井上幸三・吉田稔（1982）、23. 井上幸三（1986）、125. 吉田稔（2003）

(沼宮内 信之)

ヒメミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium subglobosum Morong

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～90cm の多年生の抽水植物。根茎は走出枝を伸ばし、広がる。葉は細く、直立し、裏面に稜があり、断面は三角状となる。6～9 月、葉よりも短い花茎を出す。花茎が分枝しない場合、2～4 個の雌性頭花が着生する。1～2 個の枝を腋生する場合、0～2 個の雌性頭花と 2～7 個の雄性頭花が着生する。堅果は倒卵形で、中央部が盛り上がる。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、奥州市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 池沼、ため池、湿原などの浅い水域に生育する。
- ❖ 脅威 河川・池沼・湿原開発、圃場整備、水質汚濁、水量の変化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地が限られ、多くの生育地では絶滅した可能性が高い。
- ❖ 文献 126. 高野祐晃（2006）、109. 鈴木まほろ・小水内正明（2010）、26. 大森鉄雄（2012）

(沼宮内 信之)

エゾノミクリゼキシヨウ

イネ目 イグサ科

Juncus mertensianus Bong.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。根茎の節間は明らかで、節から葉を数個出す。茎葉は円筒状単管質で、隔膜は明らかにあるが、乾燥しても現れない。8～9 月、茎の先端に 10～25 花からなる半球形～球形の頭花を 1 個つける。花被片は披針形で、黒褐色または栗色、雄しべは 6 本、花被片の 2/3 の長さがある。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道・本州、アリューシャン・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿原の乾燥化など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。本州でただ一つの生育地とされていたが、他県からの報告もある。個体数がきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ヌマアゼスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex cinerascens Kük.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 60cm になる多年草。根茎は疎に叢生し、長い匍匐枝を出す。茎は 3 稜形でやや平滑となる。基部の鞘は一部が無葉で、帯暗褐色となる。頂小穂は雄性で線形、短い柄がある。側小穂は雌性、2~4 個つけ、短円柱形、密に花をつける。雌鱗片は長楕円形で、濃褐色となる。果胞には嘴がなく、無脈となる。
- ❖ 分布の概要 一関市、陸前高田市（記録のみ）に分布する。本州（東北地方・関東地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 湖畔、河岸の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、道路工事、土地改良など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。古くから報告があった陸前高田市古川沼の生育地は東日本大震災の影響で、絶滅したものと考えられる。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

キタノカワズスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex echinata Murray

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~50cm の多年草。根茎は密に叢生する。茎は 3 稜形で、上方はざらつく。稈の基部の鞘は暗褐色、葉は鮮緑色となる。小穂は茎の上方に 3~4 個が接近し、雌雄性で、上部は雌花、下部に少数の雄花をつける。果胞は広卵形で、縁辺は鋭形、中部以上はざらつく。
- ❖ 分布の概要 五葉山に分布する。北海道・本州（北部）、東アジア北部・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 寒冷地や高層湿原に生育する。
- ❖ 脅威 登山道の整備による湿原の乾燥化など。ニホンジカによる食害も懸念される。
- ❖ 特記事項 分布の南限にあたる。
- ❖ 文献 127. 須川直義 (2005)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

イトスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex fernaldiana H.Lév. et Vaniot

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15~30cm の多年草。根茎はやや叢生し、細い匍匐枝を出す。稈の基部の鞘は淡いわら色、葉は扁平で、基部のものは常に内巻きし、柔らかい。小穂は 2~3 個で、最下が隔離することがある。頂生穂は雄性、線形、側小穂は雌性で、短円柱形、まばらに花をつける。果胞は鈍三稜形で、口部は 2 歯となる。
- ❖ 分布の概要 大槌町に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 暗い林内の岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林攪乱による環境変化など。
- ❖ 特記事項 個体数がきわめて少ない。
- ❖ 文献 128. 大森鉄雄 (2001)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

タカネシバスケ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex fuscidula V.I.Krecz. ex T.V.Egorova

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は短く、匍匐枝は出さない。稈の基部の鞘は褐色、一部は暗赤色で、後に繊維状に細裂する。頂小穂は雄性で線状披針形、糸状の短い柄がある。側小穂は雌性で狭長楕円形、長い柄があり、下部の苞は長鞘となり、短葉をつける。果胞は平滑、無毛で少し光沢がある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道（夕張岳）・本州（早池峰山・白馬山）、朝鮮半島（北部）・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい岩の割れ目や礫地に生育する。
- ❖ 脅威 不用意な抜き取り、盗掘など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地、個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

スナジスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex glabrescens (Kük.) Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。横走する長い根茎がある。全体的にざらつき、基部は赤褐色で、糸網が生じる。小穂は上部に雄性、下部は雌性で、雌鱗片は赤紫色を帯びる。果胞は雌鱗片よりやや長く長卵形、有脈で毛がある。厚膜質で嘴は徐々に狭まり長く、口部は鋭い2歯となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町、陸前高田市などに分布する。北海道（南西部）・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 河川の砂地、湿った草地などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ネムロスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex gmelinii Hook. et Arn.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。根茎は密に叢生し、匍匐枝を出さない。稈の基部は暗赤色で、しばしば糸網状に細裂する。小穂は3～5個あり、やや密につけ、最下のものは少し隔離する。頂小穂が雌雄性で、上部が雌花、基部が雄花となる。側小穂は雌性で、最下のものは短い柄がある。果胞は楕円形で多くの脈がある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、釜石市に分布する。北海道・本州（東北地方）、サハリン・千島・カムチャツカ・ウスリー・朝鮮半島（北部）・アラスカ・北アメリカ（北西部）に分布している。
- ❖ 生育状況 海岸の砂地から礫浜に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設など）、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。分布の南限にあたる。東日本大震災以前に、絶滅した場所があるという。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

カンチスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex gynocrates Wormsk.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10~20cm の多年草。根茎は細く短い。葉は非常に細く、やや厚い。小穂は 1 個しかつかず、上部に雄花、下部に雌花をつける。あるいは雌雄異株となる。果胞は楕円形で、厚いレンズ形、両縁は鋭く、熟すと水平に開出する。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道（東部）・本州（岩手県）、サハリン・千島・カムチャツカ・北アメリカ北部に分布する。
- ❖ 生育状況 高山や寒冷地のミズゴケ湿原に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、踏み荒らし、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。分布の南限にあたる。生育地が限定され、個体数もきわめて少ない。
- ❖ 文献 127. 須川直義 (2005)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

クジュウツリスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex kujuzana Ohwi

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 50~60cm になる多年草。根茎は開花後に横に這い、稈を伸長させる。稈の基部の鞘は一部が濃赤紫色を帯びる。頂小穂は雄性で長い柄があり、側小穂は 2~3 個あり、雌性で短円柱形、まばらに花をつけ、短い柄で點頭する。果胞は広倒卵形細い脈がある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、盛岡市、陸前高田市から記録されている。本州（中部地方以北）・九州、朝鮮半島南部に分布する。
- ❖ 生育状況 疎林内の草原に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともきわめて少ない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

イトナルコスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex laxa Wahlenb.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20~40cm になる柔らかい多年草。根茎は疎に叢生し、細い匍枝を出す。葉は青緑色で、下面は粉白色となる。頂小穂は雄性で線柱状、長い柄がある。側小穂は 1~3 個あり、雌性で長楕円形、多数花をつけ、長柄で點頭する。果胞は卵形で、無毛、多数の脈があり、小乳頭突起を密につける。上部は急に狭まる。
- ❖ 分布の概要 春子谷地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部）・千島・シベリア・ヨーロッパ北部に分布する。
- ❖ 生育状況 湿原内のより湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 水質汚染、水質変化、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地は限定され、個体数もきわめて少ない。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

アカンスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex loliacea L.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる細くて軟らかい多年草。根茎は叢生し、細い匍匐枝を出す。葉は線状で細い。小穂は雌雄性で倒卵形、3～5 個が離れてつく。雌鱗片は卵状長楕円形で淡色、口部は全縁、柱頭は 2 本ある。
- ❖ 分布の概要 五葉山に分布する。北海道・本州、シベリア・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 湿地に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともきわめて少ない。
- ❖ 文献 127. 須川直義 (2005)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ヤラメスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex lyngbyei Hornem.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～100cm になる多年草。根茎は太い匍匐枝を伸ばし、群生することがある。稈の基部の鞘は紅色から紅紫色で、後に糸網状に細裂する。頂部の 1～3 個は雄小穂で、狭柱状で直立する。下部の 2～4 個は雌小穂で、円柱状、長い柄があり、下垂する。果胞は楕円状広卵形で、乳頭突起を密につける。
- ❖ 分布の概要 山田町、釜石市、五葉山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・シベリア・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の湿性、山地帯の湿性に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、踏みつけ、海岸整備、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。海岸と山地に分布する。山田町では海岸に流出する小さな流れに見られたが、東日本大震災の津波後に乾燥化によってほぼ絶滅した。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

エゾノコウボウムギ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex macrocephala Willd. ex Spreng.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～30cm で、全体にざらつき革質の多年草。根茎は強剛で、太く長い這い、広がる。稈の基部の鞘は無葉で、黒褐色、長い繊維状に細裂する。小穂は多数密生し、穂状花序となる。頂部に雄花、基部に雌花をつける両性株と雌雄異株がある。後者の場合、雌花序の果胞ははなはだ開出して外曲し、黒褐色になる。
- ❖ 分布の概要 山田町、大槌町に分布する。北海道・本州（岩手県・秋田県）、サハリン・千島・オホーツク沿岸・北アメリカ（西海岸）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸整備（防潮堤建設など）、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 県内の生育は 2008 年に発見された。東日本大震災の津波を直接受けたが、影響はほぼ見られなかった。しかし、防潮堤工事によって一部の生育地は消失した。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか (2012)、58. 島田直明 (2014)、60. 小山田智彰ほか (2020)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

マメスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex pudica Honda

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～15cm の小型の多年草。根茎は密に叢生し、匍匐枝はない。葉は開花後、伸長するために茎や小穂は葉の間に隠れる。頂小穂は雄性で長披針形、長い柄があり直立する。側小穂は雌性で、ほぼ全部が根出状となる。果胞は緑色で、卵状紡錘形、短軟毛が少しあり、多数の脈がある。
- ❖ 分布の概要 奥州市、陸前高田市に分布する。本州（東北地方～近畿地方の太平洋側）に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。陸前高田市の生育地では再確認されていない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ヌマスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex rostrata Stokes var. *borealis* (Hartm.) Kük.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 40～60cm の多年草。茎は鈍い3稜があり、基部は葉鞘につつまれ、太くなり、一部が赤紫色を帯びる。上方の小穂は雄性で、下方の小穂は雌性で無柄、直立する。果胞は光沢があり、有脈、無毛、上方は急に短い嘴となり、口辺は浅く2裂する。
- ❖ 分布の概要 八幡平市に分布する。本州（岩手県）、朝鮮半島（北部）～ヨーロッパ（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 湿原や湖畔の湿性に生育する。
- ❖ 脅威 湿原の乾燥化、水質変化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。国内唯一の生育地となっている。現在、再確認されていない。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

シオクグ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex scabrifolia Steud.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年生で、ヨシ群落の中には1mを超す場合もある。葉は深緑色で全体がざらつく。花茎の上方には雄小穂が2～4個、下方に雌小穂が1～2個、互いに離れてつく。5～7月に果胞が熟す。雌花の鱗片は卵状三角形で、果胞の半長。果胞はコルク質で細脈があって無毛、先端が急に狭まって太い短い嘴となる。
- ❖ 分布の概要 山田町、大船渡市に生育する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の塩分が出入りする泥地に生育する。
- ❖ 脅威 河川開発、河道掘削、海岸開発など。
- ❖ 特記事項 以前、海水の出入りする河畔湿地に見られたが、近年、ほとんど確認されていない。

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

サヤスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex vaginata Tausch

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 20～50cm の多年草。根茎は叢生せず、細長い匍枝を出す。葉はやわらかく扁平で、上方のものほど短葉となる。小穂は 2～4 個で、互いに離れて直立する。頂小穂は雄性で広線形、長柄がある。側小穂は雌性で短円柱形、長い鞘がある。最下の小穂は根出状となることがある。果胞は 3 稜卵形で、上部は急に縮まる。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道・本州（岩手県）、朝鮮半島・サハリン・千島・シベリア・ヨーロッパに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯や寒冷地にあるミズゴケ湿原に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 登山道が整備されたことで、生育地の環境に変化が認められる。

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

シロミノハリイ

イネ目 カヤツリグサ科

Eleocharis margaritacea (Hultén) Miyabe et Kudo

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 25～50cm の多年草。根茎は短く、小さな株をつくる。茎は枝分かれせず、鞘はわら色となる。小穂は狭卵形または広披針形で光沢がある。果実は倒卵形で、鈍 3 稜形、白色となる。
- ❖ 分布の概要 春子谷地に分布する。北海道・本州（岩手県）、千島・カムチャツカに分布する
- ❖ 生育状況 山地湿原内の湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、水質汚染、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の南限にあたる。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

チャボイ

イネ目 カヤツリグサ科

Eleocharis parvula (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 3～5cm の小形の一年草。叢生し、匍枝の先に小さな塊茎をつける。稈は糸状で、やや短い葉をつける。小穂は稈頂に 1 個を頂生する。小穂は卵形～長楕円形で、稈よりも明らかに太い。小花は 3 個あり、鱗片は膜質となる。そう果は倒卵形で、柱基は膨らまず、そう果との間は漸次移行する。刺針状花被片は 4 個、瘦果とほぼ同長で小逆刺がある。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市に分布する。本州・四国・九州、ヨーロッパ・シベリア・北アフリカ・北アメリカ・南アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 河口域などの塩性湿地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、圃場整備など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波を受けた水田などに生育することが確認された。ほかにも生育地が存在する可能性もある。
- ❖ 文献 78. 高野祐晃 (2013)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ザラツキヒナガリヤス

イネ目 イネ科

Calamagrostis nana Takeda subsp. *hayachinensis* (Ohwi) Tateoka

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は長く伸ばし、節ごとに発根し、稈を束生する。茎の基部の鱗片葉はやや少なく、それが分解した繊維に覆われる。7～8 月、円錐状の花序を直立させる。花序の枝や小穂枝はざらつき、小穂は 1 小花からなる。苞穎は同形同大で、やや光沢がある。護穎は苞穎と同長で、芒は短い。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。本州（青森県・岩手県・群馬県）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。早池峰山以外の分布は疑問とされている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

ケカモノハシ

イネ目 イネ科

Ischaemum anthephoroides (Steud.) Miq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～80cm になる多年生。大きな株をつくる。全体に毛で覆われている。葉は線状披針形、両面に白色の毛がある。7～9 月に茎の先端に花序をつける。花序は 2 個の扁平な総からなり、くちばし状に合わさって一個のように見える。
- ❖ 分布の概要 洋野町、宮古市、釜石市、陸前高田市に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 砂浜に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、過度な環境整備など。
- ❖ 特記事項 砂浜の比高が高い内陸側に優占群落をつくる。東日本大震災の津波によって砂浜の幅が狭くなることで生育地が大きく減少し、確認されている生育地が少ない。
- ❖ 文献 129. 関根清正（2007）、80. 関根清正（2020）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

カモノハシ

イネ目 イネ科

Ischaemum aristatum L. var. *crassipes* (Steud.) Yonek.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年生。全体が無毛。葉は線形。7～11 月に茎の先端に花序をつける。花序は 2 個の扁平な総からなり、くちばし状に合わさって一個のように見える。
- ❖ 分布の概要 洋野町、釜石市、陸前高田市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂地、湿地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、湿原開発など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波によって生育地が大きく影響を受け、消失した生育地もあると考えられる。
- ❖ 文献 80. 関根清正（2020）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤

アイアシ

イネ目 イネ科

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80～130cm になる多年生。葉は広線形、先端は鋭く尖り、基部は長い鞘となって茎を包む。葉質はやや厚く、淡緑色。6～7 月に茎の先に放射状に広がった花序をつける。
- ❖ 分布の概要 洋野町に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 塩性湿地（ほかの塩生植物にくらべて比高が高い立地）、湿性な礫浜、海岸の岩礁の凹地の停滞水域に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。
- ❖ 文献 130. 鐵慎太郎ほか（2017）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②④⑥

ナンブソモソモ

イネ目 イネ科

Poa hayachinensis Koidz.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎はやや伸ばし、稈を疎らに束生、基部は斜めに立ち上がる。葉身は扁平で、葉舌は切形で小さい。7～8 月、円錐花序を直立させ、小穂は大型で、2～4 個の小花からなる。包穎と護穎は先端が鋭くとがる。護穎の中央脈と縁脈の下半分にはやや長い軟毛を密生させるが、基部に綿毛はない。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（岩手県）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の水辺岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、乾燥化、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地周辺には近縁種（スズメノカタビラなど）が侵入しているため、雑種ができる可能性がある。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

フォーリーガヤ

イネ目 イネ科

Schizachne purpurascens (Torr.) Swallen subsp. *callosa* (Turcz. ex Griseb.)
T.Koyama et Kawano

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 50cm 前後の多年草。葉は少数で細長い。短い地下茎をもち、まばらに叢生する。6 月に長い花茎の先に 3～10 個の小穂からなる円錐花序をつけ、先はやや垂れ下がる。小穂には明らかな柄があり、4～5 個の小花をもつ。小花の基盤に短く密な毛束があり、護穎には真っ直ぐな芒がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町で確認されている。北海道・本州（長野県・山梨県）に分布する。
- ❖ 生育状況 岩塊が積み重なる斜面に成立した落葉広葉樹林の林床で、岩上に生育している。開花個体数はいずれの生育地でも数株と少ない。
- ❖ 脅威 個体数がきわめて少なく、わずかな環境改変なども脅威になりうる。
- ❖ 特記事項 目立たない草本で、確認された 2 ヲ所以外にも生育地が存在する可能性がある。
- ❖ 文献 131. 鈴木まほろほか（2016）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

ツルケマン

キンポウゲ目 ケシ科

Corydalis ochotensis Turcz.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 長さ1mになる二年草のつる植物。全草が柔らかく、毛はない。茎には稜があり、分枝しながら広がる。葉は互生し、葉柄があり、三角状、2~3回3出の複葉で、小葉は3深裂する。8~10月、淡黄色の花をつける。花は距の先端がすこし湾曲する。さく果は長倒卵形で、種子は数個あり、2列に並ぶ。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、遠野市に分布する。本州（関東・中部地方）、シベリア（東部）・オホーツク沿岸に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林内の半日陰などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、圃場整備、道路・砂防堰堤工事、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 近縁種のナガミノツルケマンは対して、本種は生育地、個体数とも多くない。未開花個体では同定を誤ることがあり、これまで報告された情報も再検討する必要がある。
- ❖ 文献 132. 関根清正（2018）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

トガクシソウ

キンポウゲ目 メギ科

Ranzania japonica (T.Itô ex Maxim.) T.Itô

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ30~50cmになる多年草。葉は2個で、3出複葉を対生させる。小葉はほぼ円心形、先端は尖り、基部は心状に湾入し、葉縁に欠刻状の鋸歯がある。5~6月、茎葉の間から花を束生するように出る。花は淡紫色で、萼片は9個で、外側の3個は小型で早落性、内側の6個は大きく花弁状となる。花弁は6個で、内萼片よりも小さい。
- ❖ 分布の概要 雫石町、西和賀町、北上市、奥州市などに分布する。本州（青森県~長野県北部の日本海側）に分布する。
- ❖ 生育状況 多雪地帯における夏緑広樹林の沢沿い斜面など、湿性が高い林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定種。日本特産の一属一種で、多雪地のみに見られる。いずれの生育地とも個体数は少ない。
- ❖ 文献 8. 大森鉄雄・高橋久（1989）

（鈴木 まほろ）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③

カザグルマ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Clematis patens C.Morren et Decne.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 夏緑広葉性のつる草で半低木。茎は茶褐色で、木化する。葉は羽状複葉、小葉は3~5個、卵形で、先端は尖る。5~6月、今年伸びた枝先に1個の花を上向きに頂生する。萼片は8個で、淡紫色または白色、狭倒卵形で、上部が広がり、先端は急に尖る。そう果は広卵形、黄褐色の長毛がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、雫石町、花巻市、山田町、釜石市などでわずかに確認されている。本州・四国・九州（北部）、朝鮮半島・中国（東北部の南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 主として湿性で、林縁から草地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 花が美しいことから、開花時に発見されると盗掘される可能性がきわめて高く、その採取圧も強い。奈良県では天然記念物に指定されている。

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

チチブシロカネソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Enemion raddeanum Regel

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～35cm の小型の多年草。根茎は発達し、1 回 3 出複葉で、鋸歯のある根出葉を数個出す。茎葉のうち、下部のものは有柄で互生し、上部のものは無柄で 3 個が輪生する。5 月、茎頂に数個の花を散形状につける。花弁はなく、5 個の萼片で、楕円形、白色となる。袋果は 3～5 個で、斜上する。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、早池峰山に分布する。本州（長野県以北）、朝鮮半島・中国（東北部）・ウズベキスタンに分布する。
- ❖ 生育状況 深山の沢沿いの林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、河川の増水など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地、個体数とも非常に少ない。
- ❖ 文献 133. 土井信夫（1980）、134. 猪苗代正憲（2003）、135. 大上幹彦（2017）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑤

ヒメキンポウゲ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Halerpestes kawakamii (Makino) Tamura

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10cm ほどで、無毛の小型の多年草。根茎はごく短く、5～10 個の根出葉を出す。葉身は楕円形で、先端は浅く 3 裂し、3 本の平行脈がある。6～8 月、根出葉の間から 1 本の花茎を出し、花をつける。集合果は球形で、側面に 2～3 本の隆起線がある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、宮古市、大船渡市、陸前高田市などに生育した記録があるが、絶滅した可能性が高い。本州（太平洋側：青森県～千葉県、日本海側：秋田県～福井県）分布する。
- ❖ 生育状況 海岸付近の湿地、潮だまり付近の湿った岩礁に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、湿地の乾燥化、高潮、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。かつては沿岸各地に分布したというが、沿岸中南部には見られない。沿岸北部では東日本大震災の津波前後でも生育の報告はないが、八戸市から報告があるように生育する可能性がある。
- ❖ 文献 136. 菊地政雄・林崎輝雄（1960）、99. 関根清正（2011）、55. 小山田智彰ほか（2012）、130. 鐵慎太郎ほか（2017）、80. 関根清正（2020）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

イチヨウバイカモ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Ranunculus nipponicus Nakai var. *nipponicus*

環境省 なし

- ❖ 形態 流水中にたなびくように成長する多年性水草。茎は長さ 1～2m になり、節から白い根を出す。沈水葉の葉身は 3～4 回 3 出し、裂片はさらに 2 分裂する。時に茎の上部の節から小形の浮葉を出す。6～8 月、花は葉腋に単生させる。花柄は果時に伸びる。
- ❖ 分布の概要 西和賀町に分布する。本州に分布する。
- ❖ 生育状況 山間部の清流、特に一年中、水が途切れない水中に生育する。
- ❖ 脅威 水量の減少、水質の悪化、草取りなど。
- ❖ 特記事項 これまでに報告された生育地は限られている。その生育地は農業用水路のため、保護する必要がある。
- ❖ 文献 137. 高野祐晃（2011）

(島田 直明)

ベニバナヤマシャクヤク

ユキノシタ目 ボタン科

Paeonia obovata Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50cm になる多年草。根茎は横に匍匐し、太い根を出す。茎には 3~4 個の 2 回 3 出複葉が互生し、小葉は楕円形~倒卵形で、先端は尖る。葉の裏面に毛があることが多い。5~6 月、茎の先端に 1 個の花を上向きにつける。花弁は淡紅色まれに白色で、5~7 個つける。柱頭の先端は長く巻くようになる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 明るい夏緑広葉樹林（主に代償二次林）の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、森林開発、道路・砂防堰堤工事、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。シャクヤクの近縁種のため、園芸的価値が高く、盗掘がきわめて多い。
- ❖ 文献 92. 安藤亮太・国崎貴嗣 (2009)、99. 関根清正 (2011)、132. 関根清正 (2018)、138. 藤澤英俊 (2023)

(島田 直明)

シコタンソウ

ユキノシタ目 ユキノシタ科

Saxifraga bronchialis L. subsp. *funstonii* (Small) Hultén var. *rebunshirensis* (Engl. et Irmsch.) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5~10cm の小型の多年草。根茎はよく分枝して、大きな株をつくる。地上茎は短く、暗紅紫色を帯び、互生の葉を密につける。葉はさじ状披針形で、小さく、先端は鋭形で、刺状毛をつける。夏季、茎頂に集散花序をつけ、白色~淡黄色の花を 5~10 個つける。花弁は倒披針形で、小さい。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、中国（東北部）・サハリン・千島・カムチャツカ・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩礫地、岩上に生育する。
- ❖ 脅威 崖崩れによる生育環境の悪化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 1982 年に生育が発見された後、断片的な情報として特殊な生育環境で、個体数は少ない。
- ❖ 文献 139. 鈴木實 (1993)

(竹原 明秀)

アズマツメクサ

ユキノシタ目 ベンケイソウ科

Tillaea aquatica L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 2~5cm になる小型の一年草。茎は基部で分枝し、束状につく。葉は線状披針形で托葉はなく、先端は鋭く尖り、開出または斜開する。4~8 月、茎の上部の葉腋に花を単生させる。花弁は白色、花時には直立する。雄ずいは花弁より明らかに短い。
- ❖ 分布の概要 洋野町、野田村、岩泉町、陸前高田市から記録されたが、近年、情報がない。北海道・本州・四国、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 海浜の泥地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設など）、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波以前にも確実な情報は得られていない。生育していた場合でも津波とその後の海岸整備などで絶滅の可能性が高い。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか (2012)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑤

マルバヌスビトハギ

マメ目 マメ科

Hylodesmum podocarpum (DC.) H.Ohashi & R.R.Mill

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～120cm になる多年草。茎の基部は木質となる。頂小葉は広倒卵形で、両面に短毛がある。7～8 月、紅紫色の小花を多数つける。花序は茎頂および上部の葉腋につき、総状、あるいは円錐状になる。
- ❖ 分布の概要 一関市、宮古市、陸前高田市に分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州、中国・ヒマラヤ・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 平地から低山の日当たりのよい草原や道端などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、森林伐採、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 一関市、陸前高田市での生育は確認されていないが、新たな生育地が確認された。分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、39. 鈴木實（1989）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

ヒナノキンチャク

マメ目 ヒメハギ科

Polygala tatarinowii Regel

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 7～15cm になる一年草。全草が無毛で、茎は基部から分枝する。葉は薄く、卵円形または楕円形で、全縁で、縁には細毛がある。7～9 月、総状花序を茎や枝に頂生する。花は黄色みのある淡紫色で小さく、側萼片は楕円状で花弁のように大きい。さく果は扁平な円形、種子は楕円形で非常に小さく、表面に微毛がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、一関市に生育する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・フィリピン・東南アジア・インド・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日当たりのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 石灰岩地帯にも分布するが石灰岩植物ではなく、草原生といえる。以前は北上山地の草原にも分布していたが、草原開発によってほぼ絶滅した。
- ❖ 文献 18. 村井三郎ほか（1978）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

エゾツルキンバイ

バラ目 バラ科

Argentina anserina (L.) Rydb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。茎は這い、節から根を出す。葉には長い柄があり、羽状複葉で 9～19 枚の小葉がある。小葉は長楕円形で、縁にあらい鋭鋸歯、裏面に白綿毛と脈上に長毛がある。6～7 月、長い柄の先に黄色い花を単生する。萼片は卵状 3 角形、副萼片はやや小さい。花弁は倒卵形で、そう果は平滑となる。
- ❖ 分布の概要 宮古市、山田町などの沿岸に分布する。北海道・本州（北部）、朝鮮半島・ウスリー・サハリン・千島・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 河口の汽水域で、塩性湿地に生育する。高潮などで冠水する場合もある。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸・河口整備（防潮堤建設、河道変更など）、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 以前は沿岸に広く点在していたが、東日本大震災の津波以前から開発で生育地が限られていた。津波以降、生育地の大部分は消失した。残存している塩性湿地がきわめて稀で、高波などで生育環境が喪失する可能性もある。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか（2012）、60. 小山田智彰ほか（2020）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

ミヤマヤマブキショウマ

バラ目 バラ科

Aruncus dioicus (Walter) Fernald var. *astilboides* (Maxim.) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 25～50cm になる多年草。根茎は太く分岐する。葉は暗緑色でやや光沢があり、裏表面とも無毛で、先端は母種のヤマブキショウマとは異なり、尾状に伸長しない。7～8 月、白色の花を多数つけ、小花柄は果時にも直立し、垂れることはない。袋果が上を向く。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 早池峰山のみに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の蛇紋岩の岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。早池峰山の固有変種で、ほかには分布しない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

ナンブトウウチソウ

バラ目 バラ科

Sanguisorba obtusa Maxim.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は太く、葉は羽状複葉を根生する。茎や羽軸に赤褐色の縮れた毛がある。小葉は 13～17 枚で、小葉柄はほとんどない。8～9 月、円柱状の穂状花序を出し、先端は垂れ下がる。花は淡紅色で、上方から開花する。雄ずいは 4 本で、葯は乾くと黄褐色になる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山のみに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。早池峰山の固有種で、ほかには分布しない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

ワレモコウ

バラ目 バラ科

Sanguisorba officinalis L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～100cm になる多年生。奇数羽状複葉、小葉は 9～13 枚、長楕円形から楕円形、細かい鋸歯がある。花は 7～10 月。穂状花序は楕円形から長楕円形で直立し、暗赤色の花弁のない花を花序の先から開花する。花糸は白色から暗赤色で、葯は暗赤色。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、陸前高田市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、ヨーロッパ・ロシア・朝鮮半島・中国・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 草刈りがなされている草原、法面など日当たりが良い場所に生育する。
- ❖ 脅威 宅地開発、道路開発、草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 一部の産地は宅地開発により消失した。草原の草刈りが行われなくなったことで自然遷移が進むことも消失要因の一つとなっている。

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

ホザキシモツケ

バラ目 バラ科

Spiraea salicifolia L.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 1～2m になる夏緑広葉低木。若枝は淡褐色、微細な白毛がある。葉は狭長卵形から狭卵形、両面と縁に縮れた短い軟毛があり、裏面に主脈は隆起する。6～8 月、枝の先端に円錐花序を伸ばし、密に淡紅色の花をつける。小花柄や萼片の外面に軟毛を密につける。雄ずいは約 50 個で、長さは花弁の 2 倍ある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、岩泉町に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、ユーラシア大陸に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日当たりのよい湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、森林伐採、水分環境の変化による乾燥化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 植栽されることもあり、自然分布と区分する必要がある。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）、140. 藤澤英俊（2024）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

オオバグミ

バラ目 グミ科

Elaeagnus macrophylla Thunb.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 3m ほどになるつる性の常緑低木。枝は伸長し、高く上昇し、分枝は下向きになる。小枝はやや太く、明らかな稜があり、白茶色の鱗片に覆われている。葉は革質で、広卵形、表面は深緑色で光沢があり、裏面は銀白色の鱗片がある。10～11 月、葉腋に少数個の花を束生する。果実は翌春に赤く熟し、果面に白鱗が残る。
- ❖ 分布の概要 大船渡市、陸前高田市に分布する。本州（岩手県・秋田県以南）・四国・九州・琉球、朝鮮半島（南部）・中国（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 クロマツ林やアカマツ林の明るい林床や林縁、暖地の日当たりよい斜面に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 海岸林に生育した個体の一部は東日本大震災の津波の影響を受けた。
- ❖ 文献 141. 吉田繁（1984）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

サクラバハンノキ

ブナ目 カバノキ科

Alnus trabeculosa Hand.-Mazz.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 樹高 20m になる夏緑広葉高木。枝はやや灰色を帯び、若い時には帯黄色の毛がある。葉身は卵状楕円形または長楕円形で、整った細かな鋸歯があり、先端は短鋭尖頭、基部は円形から浅い心形で、表面は光沢があり、乾くと赤褐色を帯びる。3~4 月、開葉に先立ち、開花する。雄花序は枝の先に 4~5 個つき下垂する。雌花序はその下方に 2~3 個つく。
- ❖ 分布の概要 西和賀町に分布する。本州（岩手県・福島県・栃木県・石川県など）・九州（宮崎県）、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 ミズゴケ類が生育するような湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、乾燥化による生育環境の悪化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 石川県や宮崎県では天然記念物に指定されている。県内では 1996 年に西和賀町で発見され、その後、町の天然記念物に指定された。
- ❖ 文献 142. 竹原明秀（1997）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

チチブミネバリ

ブナ目 カバノキ科

Betula chichibuensis H.Hara

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 樹高 8~10m になる夏緑広葉小高木。小枝は灰褐色で、小型の皮目が著しく、若枝では軟毛を密生する。葉は長枝で互生し、短枝で 2 個が対生状に互生する。葉身は卵形~卵状長楕円形で、側脈は 14~18 対と多い。4~5 月、雄花序は長枝の先に 2~4 個つけて下垂する。果穂は円柱形で直立する。堅果は上端に細毛があり、翼はほとんどない。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、遠野市、釜石市、住田町に分布する。本州（岩手県・群馬県・埼玉県・東京都・長野県）に分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩地帯の岩壁や尾根筋などの岩盤が露出する場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、崩壊による自然消滅など。
- ❖ 特記事項 石灰岩地帯のみに生育し、いずれも群生するが個体数は少ない。
- ❖ 文献 18. 村井三郎ほか（1978）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ヒメウメバチソウ

ニシキギ目 ニシキギ科

Parnassia alpicola Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5~15cm になる小形の多年草。根茎は短く、数個の有柄のある根出葉を束生する。葉身は腎円形または広卵形で、基部は心形、先端は円形で小さい。8 月、花茎の先端に 1 個の花をつける。花は小さく、仮雄ずいは 3~5 裂し、裂片の先に腺体はない。裂開直前の葯は灰褐色となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の湿性な草原や雪田などに生育する。
- ❖ 脅威 登山道の開設、踏みつけ、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 近縁種のウメバチソウとは仮雄ずいの分裂数、腺体の有無で区分される。これまでに報告された本種とされる多くはウメバチソウの小型化した個体で、本種は限られた場所でのみ確認されている。

(竹原 明秀)

チシマウスバスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola hultenii W.Becker

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 8cm ほどの精細な多年草。地下茎は糸状で細く、節の上には褐色の托葉が残る。葉は少数がまばらにつき、腎円形で薄く、基部は深く幅狭く湾入し、先端は円い。表面には白色の細毛がまばらに生える。5～6 月、細い花柄を出し、白色の花をつける。花弁は長楕円状倒卵形、側弁は無毛、唇弁に紫条がある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、遠野市、五葉山に分布する。北海道・本州（秋田県～長野県）、サハリン（南部）・千島・カムチャツカ（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 ミズゴケ湿原や沢沿いの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、踏みつけ、自然遷移、ニホンジカによる食害、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。県内の生育地は数ヵ所のみで、一部ではほぼ絶滅したと考えられる。
- ❖ 文献 143. 菊地政雄（1954）、134. 猪苗代正憲（2003）、144. 武田眞一（2019）

（竹原 明秀）

オオバタチツボスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola kamtchadalorum W.Becker et Hultén

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる多年草。地下茎は太く、密に結節し、伸長する。茎は伸長するが倒れやすく、3～4 個の葉を互生する。葉は縁が深く、円心形で、波状の鋸歯があり、先端は鈍頭、基部は心形となる。托葉は大型で、離生する。6 月、花柄は茎上の葉に腋生する。花弁はやや淡い紫色で、多くの紫条が入り、大きい。
- ❖ 分布の概要 盛岡市に分布する。北海道・本州（青森県・岩手県・福島県・長野県・群馬県）、サハリン・千島・カムチャツカ・アラスカに分布する。
- ❖ 生育状況 低地から山地の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 生育地はダム湖岸に近くで、不安定な立地にある。環境整備に伴う草刈り、園芸用の盗採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。県内の生育地は 1 ヲ所のみ。
- ❖ 文献 144. 武田眞一（2019）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

マルバヤナギ

キントラノオ目 ヤナギ科

Salix chaenomeloides Kimura

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 20m になる夏緑広葉高木。樹冠は円くなり、樹皮は深く縦に裂ける。成葉は互生し、広楕円形で縁に有腺鋸歯がある。葉柄の上部には盤状の腺があり、大きな托葉が基部にある。雌雄異株で、雄花序はまばらに花をつける。雄しべは 3~5 本で、ほかのヤナギと明らかに区別することができる。雌花序は初夏に結実、裂開し、種子が散布される。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州（岩手県・山形県以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 平野の河川中・下流域の河岸や湖沼、ため池の湖岸などの湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修に伴う伐採、個体更新が起こりうる裸地の出現する機会の減少、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 暖温帯に分布するヤナギで、岩手県は分布の北限となっている。
- ❖ 文献 114. 大谷雅人ほか（2013）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ユビソヤナギ

キントラノオ目 ヤナギ科

Salix hukaoana Kimura

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 樹高 20m になる夏緑広葉高木。枝の樹皮の裏側は鮮やかな黄色となる。葉は披針形で、縁にやや不規則な波状鋸歯がある。4~5 月、開葉する前に開花する。花は密につけ、苞は倒卵形で、上半は黒色、中央部は帯紅色、両面とも長軟毛を密生する。雄花の 2 本の花糸は合着し、1 本になる。雌花の子房は無毛で柱頭は淡黄色、先端は全縁となる。
- ❖ 分布の概要 雫石町、西和賀町に分布する。本州（秋田県~群馬県）に分布する。
- ❖ 生育状況 河川中・上流域の不安定な氾濫原や河岸などに生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、林道建設、森林伐採、洪水の減少など。
- ❖ 特記事項 1972 年、群馬県水上町湯桧曾で発見されたヤナギで、近年、東北地方の各地から生育地が報告されている。その多くは個体数が少なく、保護の対象とされている。先駆種であるため、継続的に個体群が維持させるためには適度な洪水が必要といえる。
- ❖ 文献 145. 竹原明秀（1995）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑤

トウダイグサ

キントラノオ目 トウダイグサ科

Euphorbia helioscopia L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~40cm になる一年草。茎は直立し、わずかに基部から分枝して束生し、無毛あるいは軟毛を密につける。葉はへら形で、互生し、茎端に 5 個の葉を輪生する。葉縁には細鋸歯がある。5~9 月、茎頂に 1 個の杯状花序をつけ、輪生葉の葉腋から 5 本の散形枝を広げ、各枝にも花序をつける。植物体を切ると白い乳液が出る。
- ❖ 分布の概要 大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、北半球に広く分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい路傍や畑地の縁に生育する。
- ❖ 脅威 道路工事、土地造成、刈り払いなど。
- ❖ 特記事項 近年、生育の報告がない。有毒植物であることから、殺虫剤として利用されたこともある。
- ❖ 文献 146. 吉田繁（1985）、55. 小山田智彰ほか（2012）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

センダイタイゲキ

キントラノオ目 トウダイグサ科

Euphorbia sendaica Makino

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 50cm になる多年草。地下茎は細く、長く伸ばす。茎に毛はなく、まばらに葉を互生する。葉は長楕円状披針形、先端はにぶく尖り、基部は広いくさび形となる。5 月、主軸や枝の頂上に杯状花序をそれぞれ頂生する。花序の総苞には半月形の腺体が 4~5 個あり、花被がない雌花の子房は平滑となる。
- ❖ 分布の概要 宮古市に分布する。本州（関東地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林やスギ植林の林床、林縁などのやや湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 全国的にも生育地は限られ、一関市から報告された生育地はすでに絶滅したと考えられる。近縁種が多く、これまでに報告されている情報を再検討する必要がある。
- ❖ 文献 147. 黒沢高秀・大橋広好（2000）、148. 黒沢高秀・鈴木まほろ（2005）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑤

マツバニンジン

キントラノオ目 アマ科

Linum stelleroides Planch.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 40~60cm になる一年草。全体が無毛。茎は上部で枝分かれする。葉は互生し、狭長楕円形、3 脈あり、先端は尖り、基部はしだいに狭くなり、葉柄はない。8~9 月、茎先に集散花序を出し、淡紫色の花をつける。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、東アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草地や道ばたなどに生育する。
- ❖ 脅威 草地開発、道路開設、草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。全国的に絶滅に瀕しており、県内でも 1970 年代以降、確実な生育情報はほとんどない。
- ❖ 文献 149. 瀬川幸一（1973）、150. 小水内長太郎ほか（1983）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑤

ミズキカシグサ

フトモモ目 ミソハギ科

Rotala rosea (Poir.) C.D.K.Cook ex H.Hara

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10~30cm の小型の一年生。茎は直立し、多くの枝を出す。葉は披針形で、先端は鋭形となる。枝上の葉は茎上の葉よりも明らかに小さい。秋、花は葉腋につけ、柄がなく、赤色を帯びる。さく果は直径 2mm ほどの球形で、紫色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、紫波町、花巻市、奥州市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州・南西諸島、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 平地の水田や低湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、農薬汚染、耕作・管理放棄（休耕田化）による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定され、人間の生産活動の場所と重なっていることから、個体数は大きく減少・絶滅し、現在、生育する場所でも絶滅する可能性がきわめて高い。
- ❖ 文献 151. 高野祐晃（2003）、152. 大森鉄雄（2008）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

ヒメビシ

フトモモ目 ミソハギ科

Trapa incisa Siebold et Zucc.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 水域に群生する浮葉性の一年草。浮水葉は広卵状菱形で、上部の縁はあらい鋸歯があり、表面は光沢があり、裏面は無毛で脈上にまばらな毛がある。7～8月、白色から薄い紅色を帯びた小型の花を開く。果実は倒3角形で、4個の刺があり、ヒシ類の中ではもっとも小さい。
- ❖ 分布の概要 奥州市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 ため池や池沼などの水域に生育する。
- ❖ 脅威 埋め立てなどの開発、水質の悪化、水量の減少による干上がり、浚渫など。
- ❖ 特記事項 北上市から報告された生育地では絶滅した可能性が高い。奥州市の生育地では開発に関連して移植が行われた。そのため、自然分布はきわめて限られている。
- ❖ 文献 153. 井上幸三 (1987)、126. 高野祐晃 (2006)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

オオアカバナ

フトモモ目 アカバナ科

Epilobium hirsutum L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 1.5m になる多年草。茎は直立し、多くの枝を出して広がり、長軟毛と短い腺毛を密生する。葉は上部を除いて対生し、柄はなく、長楕円形から長楕円状披針形で、縁に鋸歯があり、両面に長い軟毛がある。6～8月、紫紅色の大型の花を腋性する。花柄や子房にも長毛と腺毛があり、花卉の先端は2浅裂する。
- ❖ 分布の概要 洋野町に分布する。本州(青森県・岩手県・福島県・佐渡島)、ユーラシア・アフリカ(北部)に分布する。
- ❖ 生育状況 湿性な草原などに生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 最初に発見された場所ではほぼ絶滅したが、その後、新たな生育地が発見された。今後とも生育が維持される保証は高くない。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか (2012)、60. 小山田智彰ほか (2020)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

クロビイタヤ

ムクロジ目 ムクロジ科

Acer miyabei Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 樹高 25m になる夏緑広葉高木。樹皮は黒灰色で、縦に不規則な裂け目がある。葉は掌状に3～5中裂し、基部は心形となる。裂片はさらに大きく不揃いに1～2裂し、先端は円形ないし鈍形、両面に短立毛をつける。5～6月、複総状花序を頂生し、淡黄色の小さな花を開く。分果には白色の密毛があり、翼果は水平に開く。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、葛巻町、洋野町、久慈市、軽米町、岩泉町、宮古市、遠野市などに分布する。北海道(南部)・本州(秋田県・岩手県・長野県)に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の沢筋や小河川の河川敷の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、砂防堰堤工事、森林伐採、道路開設など。
- ❖ 特記事項 品種のシバタカエデ(果実が無毛)も分布する可能性が高く、同品種も同様の扱いとする。
- ❖ 文献 100. 関根清正 (2006)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①

カラスノゴマ

アオイ目 アオイ科

Corchoropsis crenata Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる一年草生。茎は丸く直立し、茎葉に星状毛がある。葉は互生し、卵形で先端はやや尖り、基部は円形または切形で、鈍鋸歯がある。8～9 月、葉腋に 1 個の黄色の花をつける。花弁は倒卵形で、同じ長さの仮雄蕊が目立つ。果実は星状毛をつけ、湾曲する。
- ❖ 分布の概要 宮古市、山田町、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 畑や道ばたなどに生育する。
- ❖ 脅威 道路開発、道路整備、草刈り、除草剤の利用など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。暖地では耕作地雑草に該当する。

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

ハマハタザオ

アブラナ目 アブラナ科

Arabis stelleri DC. var. *japonica* (A.Gray) F.Schmidt

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる 1 回繁殖型の多年生草本。茎は太く直立し、白色の短毛と 2～3 分枝する毛がある。根出葉は長楕円形または倒披針形で、少数の鋸歯、両面に星状毛がある。茎葉には柄がなく、茎を抱く。5～7 月、白色の花をつけ、花弁の先端はへこむ。長角果は直立し、主軸に密に接する。
- ❖ 分布の概要 洋野町、野田村、田野畑村、岩泉町などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島南部・アムール・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂地や岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設など）、高波による生育場所の消失など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波による影響を受け、生育場所が消失した場所もある。残存群落は個体数が少ないため、今後の海岸整備や高波などの自然撓乱の影響が懸念される。
- ❖ 文献 129. 関根清正 (2007)、99. 関根清正 (2011)、56. 島田直明 (2012)、154. 島田直明ほか (2014)、60. 小山田智彰ほか (2020)、80. 関根清正 (2020)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①

アイヌワサビ

アブラナ目 アブラナ科

Cardamine valida (Takeda) Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる多年草。茎は無毛または基部にだけ少し毛があり、基部から長い匍枝を出す。上方は少し分枝し、数個の葉がつく。下部の葉は奇数羽状複葉で、頂小葉は大きく、側小葉はやや小さい。5～9 月、総状花序に多数の白色の花をつける。長角果は線形となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、葛巻町、花巻市、岩泉町、宮古市などに分布する。北海道・本州（北部）、ウスリー・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の沢沿いや湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 これまでの資料は、近縁種と混同されている場合がある。
- ❖ 文献 155. 小守一男・鈴木まほろ (2011)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ナンブイヌナズナ

アブラナ目 アブラナ科

Draba japonica Maxim.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 20cm ほどになる多年草。全体に星状毛がある。茎は下部から分枝し、数個の葉をつける。葉は広い倒針形で、全縁または粗鋸歯、先端は鋭形、基部はしだいに細くなる。6～8月、有毛で、後にやや伸長する花序をつける。花弁は黄色、広倒卵形で、先端は凹形となる。短角果は両面が無毛から短毛がある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道（夕張岳・日高山系）・本州（早池峰山）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。蛇紋岩地帯の高山性荒地植生の標徴種で、砂礫が不安定な場所に生育する。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ハクセンナズナ

アブラナ目 アブラナ科

Macropodium pterospermum F.Schmidt

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。茎は直立し、太い地下茎で匍匐する。根出葉は長い柄があり、広卵形となる。茎につく葉は広披針形、先端は尖り、基部は心形～くさび形、鋸歯がある。7～9月、直立した総状花序をつけ、小花柄には水平に開いた細毛がある。萼片や花弁は細長く、内側の雄ずい4本が長く伸びる。
- ❖ 分布の概要 焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、中国（東北部）・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯から高山の湿った草原に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。ただし早池峰山では近年、確認されていない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）、151. 高野祐晃（2003）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ハリナズナ

アブラナ目 アブラナ科

Subularia aquatica L.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10cm 以下の一年生の沈水植物。茎は伸長せず、葉を根生する。葉は線形で、先は細くなる。花は沈水状態で閉鎖花、抽水状態では白い花弁を持つ開放花をつける。果実は長橢円形状で、中に種子が数個入っている。
- ❖ 分布の概要 八幡平に分布する。本州（岩手県）、ユーラシア大陸・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 水深 2m 程度の湖底に生育する。
- ❖ 脅威 土砂の流入による堆砂や水質の悪化、釣り人によるかく乱など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。1982年に岩手県から報告された水生植物で、2ヵ所の生育地が報告されている。
- ❖ 文献 23. 井上幸三（1986）、156. 鈴木まほろ・森長真一（2008）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ナンブトラノオ

ナデシコ目 タデ科

Bistorta hayachinensis (Makino) H.Gross

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる多年草。根茎は太く短く、しばしば曲がる。茎は直立し、根出葉は有柄で、数個つく。葉は厚く、卵状楕円形で、先端は鈍形、基部は円形、表面は深緑色で光沢があり、裏面は緑白色となる。8 月、短い円筒形の総状花序を出し、淡紅色の花を密につけ、一方向に傾く。萼片は 5 裂し、雄しべは 10 本ある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山のみに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。早池峰山の固有種で、ほかには分布しない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

エゾノミズタデ

ナデシコ目 タデ科

Persicaria amphibia (L.) Delarbre var. *amurensis* (Korsh.) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 水中型と陸生型では異なる葉をもつ多年草。水中型では、茎は水面に横たわるように伸長分枝し、葉を互生する。葉は長い柄があり、葉身は長楕円形、先端は鈍頭となり、無毛、時に水面上に立ち上がる。陸生型では、茎は直立し、葉身は長倒披針形で、先端は鋭頭、両面にあらわい伏毛がある。7～9 月、先端の葉腋から総状花序を伸ばし、密に花をつける。
- ❖ 分布の概要 紫波町から報告されている。北海道・本州（中部地方以北）、北半球に広く分布する。
- ❖ 生育状況 池沼や湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、圃場整備、周囲の環境の変化による水質や水量の変化など。
- ❖ 特記事項 典型的な両生植物で、特異的な生態を有する。岩手県内では生育地が限られ、個体数もきわめて少ない。
- ❖ 文献 153. 井上幸三 (1987)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤⑥

ナガバノウナギツカミ

ナデシコ目 タデ科

Persicaria hastatosagittata (Makino) Nakai

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる一年草。茎の下部ははい、上部は直立し、下向きの短い刺がまばらに生える。葉は短い葉柄があり、線状楕円形～卵状長楕円形で、基部は小さく 3 裂またはほぼ切形、托葉鞘はやや長く、先は切形で、短い縁毛がある。9～10 月、短い総状花序に密に花をつける。花は下部が白色で上部が淡紅色、花序の柄や小苞、小花柄に腺毛がある。
- ❖ 分布の概要 野田村、矢巾町の標本があるが、現状の情報はない。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島（中北部）・中国（東北物・中南部）・台湾・ウスリー（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池の縁、休耕田、水路などの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・河川・湿地開発、土地造成、水質汚濁、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 生育地は少なく、生育環境が不安定なため、生育が存続している可能性は小さい。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会 (1970)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

カトウハコベ

ナデシコ目 ナデシコ科

Arenaria katoana Makino var. *katoana*

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 5～10cm で叢生する多年草。茎は地を這い、枝は多数、直立させ、2 列に短い毛が並ぶ。葉は無柄で対生し、卵形～披針形、先端は尖り、薄く、毛がない。7～8 月、花は茎の頂生か腋生で、1～3 個つける。花弁は卵形、白色で目立つ。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道（夕張山・アポイ岳など）・岩手県（早池峰山）・群馬県（至仏山・谷川岳）に分布する。
- ❖ 生育状況 蛇紋岩からなる高山の岩礫性の崩壊地、岩隙などに生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、岩礫の移動、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。蛇紋岩地帯のみに生育し、特定の母岩や環境に依存して生育する特徴が強くみられる。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

ハマナデシコ

ナデシコ目 ナデシコ科

Dianthus japonicus Thunb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～50cm になる多年草。茎は株状に広がり、下部は木化する。葉は厚く、縁だけに毛がある。対生する葉の基部は合着する。ロゼット状の葉は倒披針状長楕円形、花茎の葉は長卵形～長楕円状披針形で異なる。6～11 月、頂生の集散花序に多くの花をつける。萼筒は円柱状で 5 裂する。花弁は紅紫色で倒三角形、上縁は細かく裂ける。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市のみに分布する。本州・四国・九州・琉球、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設など）、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。海岸特有の植物で、東日本大震災の津波によって絶滅が危惧されたが、その後、再確認された。ただし、生育地がきわめて少ないことから、今後の海岸整備時に注意が必要である。
- ❖ 文献 146. 吉田繁（1985）、55. 小山田智彰ほか（2012）、60. 小山田智彰ほか（2020）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

クシロワチガイソウ

ナデシコ目 ナデシコ科

Pseudostellaria sylvatica (Maxim.) Pax

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 5～25cm になる多年草。地下には紡錘状の根が 1 個ある。茎は細長く、枝分かれし、1～2 列の下向きの毛がある。葉は線形～線状披針形で先端は細く、脈上に毛がある。5～6 月、白色の花を 1～8 個頂生するか、側生の 2 出集散花序に付ける。花柄や小花柄に短毛がある。茎の下部の節から有柄の閉鎖花を少数つける。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、宮古市などに分布する。北海道・本州（青森県・岩手県・栃木県）、朝鮮半島・中国・ウスリー・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山地の明るい林床に生育する。花崗岩が風化したマサ土に生育する傾向がある。
- ❖ 脅威 森林伐採、草地開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 同属のナンブワチガイソウ、ワダソウとともに個体数がきわめて少ない。
- ❖ 文献 110. 竹原明秀（2001）、135. 大上幹彦（2017）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

シラオイハコベ

ナデシコ目 ナデシコ科

Stellaria fenzlii Regel

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～35cm になる多年草。茎は直立し、上部は分枝し、節には短毛がある。葉は葉柄がなく、広披針形～披針形で、先端は鋭く尖る。6～8 月、花は集散花序につく。萼片は広披針形で、先端は尖る。花弁は白色で、2 深裂し、萼よりも短い。
- ❖ 分布の概要 岩手山、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、アムール・ウスリー・サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 針葉樹林下の岩の上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、登山道の整備など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地が限定され、現状が不明な場所もある。早池峰山では近年、確認されていない。
- ❖ 文献 157. 村井三郎（1976）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

イワアカザ

ナデシコ目 ヒユ科

Chenopodium gracilispicum H.W.Kung

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 35～100cm になる一年草。茎は斜上し、上部で分枝する。葉は互生し、三角状卵形または菱状卵形、薄く、全縁で長い柄がある。9～10 月、枝頂に円錐状花序がまばらにつく。花被片は長楕円形または狭倒卵形で狭い。胞果の表面に粒状突起があり、種子は離れづらい。種子はやや光沢があり、黒色となる。
- ❖ 分布の概要 久慈市、宮古市などに分布する。本州、中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の岩地、特に石灰岩地に生育する。
- ❖ 脅威 斜面崩壊などによる消失、道路工事（法面保護工事）、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 別種のミドリアカザの異名としてイワアカザを記している図鑑があり、分類学的に混乱している。
- ❖ 文献 158. 菊地政雄（1967）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③⑥

トチナイソウ

ツツジ目 サクラソウ科

Androsace chamaejasme Host subsp. *capitata* (Willd. ex Roem. et Schult.)
Koroblkov

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 3～5cm の小型の多年草。茎は細く短く、よく分枝し、小型の葉を輪生状につける。葉は倒披針形または倒卵形で、全縁、白色の長毛がまばらにはえる。7～8 月、群生する葉の間から白色の長毛で被われた花茎を伸ばし、その先端に 2～4 個の白色の花をつける。花冠は高杯形で、先端は広く開く。苞や萼には白色の軟毛がやや密につける。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（岩手県）、朝鮮半島（北部）・中国（北部）・シベリア・サハリン・千島・ヨーロッパ（東部）・アラスカ・カナダ（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の乾いた岩地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏み荒らし、岩礫の自然崩壊、ニホンジカによる食害、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。生育地では頻繁に盗掘された。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

ウミミドリ

ツツジ目 サクラソウ科

Lysimachia maritima (L.) Galasso, Banfi et Soldano var. *obtusifolia* (Fernald.) Yonek.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる小型の一年草から多年草。茎は円く、下部は地上を這い、上部は直立する。葉は対生し、光沢がある。7～8 月、葉腋に 1 つの花をつける。花冠はなく、萼は 5 裂し、白色または淡紅色になる。
- ❖ 分布の概要 沿岸に点在していたが、現在、久慈市、宮古市、山田町などに分布する。北海道・本州（北部）、アジア・北アメリカ（北部）に生育する。
- ❖ 生育状況 海岸や河口の塩性湿地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設、水門建設、港湾建設、埋め立てなど）、地盤沈下、河川改修、浚渫、高潮など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。以前は沿岸の河口近くの塩性湿地に普通に生育していたが、水門工事や港湾建設、浚渫などで大部分が消失した。残された生育地も東日本大震災の津波によって生じた地形の変化とともに、大きく減少した。さらに今後の海岸整備や浚渫などで影響を受ける可能性があるため、十分注意が必要である。
- ❖ 文献 159. 高橋大等 (1997)、87. 猪苗代正憲 (2008)、55. 小山田智彰ほか (2012)、56. 島田直明 (2012)、60. 小山田智彰ほか (2020)、80. 関根清正 (2020)

(島田 直明)

オオサクラソウ

ツツジ目 サクラソウ科

Primula jesoana Miq. var. *jesoana*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～40cm になる多年草。根茎は短く、横に這う。葉は長い柄があり、花茎とともにほとんど無毛、葉身は円形で、基部は心形、掌状にやや深く 7～9 裂し、ふぞろいの尖った歯牙があるに。6～7 月、長い花茎を出し、4～8 個の花が 1～2 段に輪状につく。花冠は濃紅色で花喉部は黄色い。さく果は卵状長楕円形で、萼よりも少し長い。
- ❖ 分布の概要 八幡平市から報告された。北海道（南西部）・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯のやや湿性な場所、林床などに生育する。
- ❖ 脅威 道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 現在、確認されている個体数はきわめて少ない。

(竹原 明秀)

ヒメコザクラ

ツツジ目 サクラソウ科

Primula macrocarpa Maxim.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 10cm ほどの小型の多年草。根茎は短く、葉を根生する。葉は広卵形または卵円形で、先端は尖り、下部で急に狭まって葉柄となる。若い葉は白い粉をつけるが、後でなくなる。6 月、葉の間から花茎を伸ばし、1~4 個の花を散形につける。萼は筒形で 1/3~1/2 の深さに 5 裂する。花冠は白色で、花喉部は黄白色となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。
- ❖ 生育状況 蛇紋岩地の日当たり良いやや湿った礫地から岩の間に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、岩礫に崩壊や移動による埋藏、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。一関市大東町から報告されていたが、盗掘によって絶滅した。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、160. 小水内長太郎 (1971)、138. 藤澤英俊 (2023)
(竹原 明秀)

ユキワリコザクラ

ツツジ目 サクラソウ科

Primula modesta Bisset et S.Moore var. *fauriei* (Franch.) Takeda

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15cm 以下の小形の多年草。根茎は短く、葉を根生する。葉は広卵形または楕円形で、下部は急に狭まって柄状となり、縁は裏側に強く反り返り、不明瞭な波状の歯牙がある。6~7 月、葉の間から花茎を出し、3~15 個の花をつける。萼は短筒形で、半ばまで 5 裂する。花冠は紅紫色で、花喉部は黄白色となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平、岩手山、姫神山、焼石岳に分布する。北海道・本州（北部）、千島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の日当たりのよい岩場や崩壊地斜面に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地のいくつかは登山道にそって分布するため、容易に盗掘される可能性が高い。すでに絶滅した場所もある。
- ❖ 文献 161. 高橋大等 (2006)
(竹原 明秀)

チシマツガザクラ

ツツジ目 ツツジ科

Bryanthus gmelinii D.Don

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 5~10cm になる常緑広葉小低木。細い茎はよく分枝し、地面を匍匐するように広がり、細かい葉を密につける。葉は互生し、楕円形で厚く、裏面は中軸の両面に毛が密生し、光沢がある。7~8 月、枝先に総状花序を伸ばし、淡紅色の花を 2~10 個つける。花は 4 数性、つぼみは濃色で、よく目立つ。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（青森県・岩手県）、千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 雪田の周辺の岩礫地など、やや湿気が高いところに生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。十和田八幡平指定植物。生育地が限られ、氷河期の遺存植物といわれている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)
(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

ハリガネカズラ

ツツジ目 ツツジ科

Gaultheria japonica (A.Gray) Sleumer

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の常緑小低木。細い茎は地面を這い、上向きの硬い毛が密生する。葉は互生し、倒卵状楕円形で、表面に短い剛毛が散生する。6 月、葉腋から短い花柄が伸び、白色で鐘形の花を頂生する。萼は果時に肥大し、さく果を包み、倒卵形で白色の液果状の果実をつくる。果実にはサロメチール様の香りがある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、薬師岳に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 自然崩壊などの環境かく乱、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。奥羽山系には分布せず、早池峰山の針葉樹林帯を特徴づける植物にあたる。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

エゾノツガザクラ

ツツジ目 ツツジ科

Phyllodoce caerulea (L.) Bab. var. *caerulea*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の常緑性小低木。茎は地上を這い、茎上部は斜上し、若枝に微毛が生じる。葉は密に互生し、線形、中脈の裏面に白毛のはえる条がある。7～8 月、枝先に紅紫色の卵形の壺形をした花を 2～7 個つける。花柄は細く、微毛と腺毛がはえ、萼片の背面の基部にも腺毛が密生する。花柱がしばしば花冠の外へ伸びる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（岩木山・早池峰山・鳥海山・月山）、北半球の北部に広く分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の雪田周辺の日当たりがよく、やや湿性な草原や岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

カラフトイチャクソウ

ツツジ目 ツツジ科

Pyrola faurieana Andres

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。細い地下茎が地中に伸び、その先端に数個の葉を束生する。葉は広楕円形で、先端は円形またはやや短く尖り、縁には小さな鋸歯がある。7～8 月、1～2 個の鱗片葉をつける花茎を伸ばし、10～20 個の花をつける。花冠は赤みをおびた白色を帯び、花柱は曲がらない。
- ❖ 分布の概要 烏帽子岳、和賀岳山系に分布する。北海道・本州（東北地方）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地が限定され、個体数も少ない。
- ❖ 文献 162. 大森鉄雄・高橋久（1987）

(竹原 明秀)

キバナシャクナゲ

ツツジ目 ツツジ科

Rhododendron aureum Georgi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 0.2～1mの常緑小低木。茎は黒褐色の鱗片に包まれ、下部は地面を這うように広がり、枝は斜上する。葉は枝先に密に互生し、楕円形で、両面とも無毛で、表面にはしわがある。6～7月、枝先に黄色の花を4～8個つける。花冠は漏斗状鐘形で、筒部内面に短毛がまばらに生える。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・サハリン・千島・カムチャツカ・東シベリアなどに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい高山の風衝地、雪田付近の岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。焼石岳が県内唯一の生育地とされている。早池峰山からの標本が存在するというのが、生育は確認されていない。
- ❖ 文献 163. 須川直義（1986）、164. 堀口徹夫・工藤公也（2020）

(竹原 明秀)

ゴヨウザンヨウラク

ツツジ目 ツツジ科

Rhododendron goyozanense (M.Kikuchi) Craven

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 樹高 1～2mになる夏緑広葉低木。若枝に短毛があるが、やがて無毛となる。葉は楕円形で、先端は尖るか円く、基部は鋭形、葉身の表面はあらい毛が散生し、裏面はやや白みを帯び、脈上に鱗片状の毛が生える。6～7月、短い花序の軸に3～6個の花を束生状につけ、下向きに開花する。花冠は筒状、下側は黄緑色、上側は紅色、先端は浅く4裂する。花柄、萼、花冠内面、花糸の下部には長い軟毛、腺毛、短毛などが密生からやや密生する。
- ❖ 分布の概要 五葉山のみに分布する。
- ❖ 生育状況 やや乾燥した林床や林縁の岩場に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。1961年に発見された五葉山の固有種。
- ❖ 文献 165. 菊地政雄（1962）、166. Maki *et al.*（2002）、167. 千葉博・小水内正明（2011）

(竹原 明秀)

ヒメクロマメノキ

ツツジ目 ツツジ科

Vaccinium uliginosum L. var. *alpinum* Bigelow

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20cm程度の夏緑広葉小低木。よく分枝し、若枝はやや角張る。葉は互生し、倒卵形または楕円形で、鋸歯はなく、網状の脈がやや目立つ。6～7月、前年の枝先に黄緑色で、紅色をおびた花を1～2個つける。花冠は壺形、果実は球形で、黒紫色に熟し、表面に白粉がつく。
- ❖ 分布の概要 和賀山系、焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・サハリン・カムチャツカ・千島・北アメリカ・グリーンランドに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山～高山帯の針葉樹林やハイマツ林の林床、矮性低木林、岩礫地、高層湿原などに生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、自然遷移、果実の採取など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定されている。
- ❖ 文献 162. 大森鉄雄・高橋久（1987）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②③

ムラサキセンブリ

リンドウ目 リンドウ科

Swertia pseudochinensis H.Hara

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 50～70cm になることもある一年草。茎は太く、隆起する細点があり、暗紫色を帯びる。葉は線状披針形で、やや密に対生する。9～10 月、円錐花序に花をやや密につける。花冠は淡紫色、花冠裂片は幅広く、濃紫色の脈が目立ち、蜜腺溝の毛に波状隆起がある。
- ❖ 分布の概要 岩手町、滝沢市などに分布する。本州・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよいところ草原や道ばたに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、土地造成、自然遷移、薬草としての採取など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。近縁種に薬草のセンブリがあり、本種も同様の苦みがある。形態もよく似ていることから、間違えられることがある。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑤⑥

アイナエ

リンドウ目 マチン科

Mitrasacme pygmaea R.Br.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の小型の一年生。葉は茎に 2～4 対につき、長楕円形で、卵状または長楕円形で、先端はやや尖り、3 本の脈がある。8～9 月、茎頂と葉腋から花茎を 1～3 本伸ばし、3～15 個の花を散形状につけう。花冠は白色で、4 裂する。
- ❖ 分布の概要 北上市、奥州市などに分布するが、現在、確認されていない。本州・四国・九州・南西諸島、朝鮮半島・中国・マレーシア・ミクロネシア・オーストラリア・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい低湿地に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、宅地造成などによる土地改変、水環境の変化など。
- ❖ 特記事項 生育環境が不安定のため、絶滅した可能性が高い。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

フナバラソウ

リンドウ目 キョウチクトウ科

Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。茎は直立し、全体に密に軟毛をつける。葉は対生し、楕円形または広卵形で、先端は急に尖り、基部は円く、葉柄となる。葉の裏面の葉脈は浮き出す。6 月、上部の葉腋ごとにごく短い集散花序を出し、やや密に花をつける。花冠は濃褐紫色、内面は無毛で、外面は短毛がある。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 草原や明るい林床に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、管理放棄による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。以前は県内各地に分布していたが、半自然草地の消滅とともに減少が著しい。現在の生育地での個体数はいずれも少ない。
- ❖ 文献 116. 千田貞蔵 (1991)、93. 藤澤英俊 (2022)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①③

サワルリソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Ancistrocarya japonica Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。茎は直立し、全体に圧毛がある。葉は互生し、長楕円形、基部は細くなり茎に続く。葉の裏面には圧毛があり、主脈が隆起し、光沢がある。5～6 月、茎の茎頂付近に長い総状の花序を数個つけ、まばらに花をつける。花冠は筒状鐘形で、青紫色、喉部には上向きの細毛がある。果実は灰白色となる。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 林床の湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られ、個体数は少ない。
- ❖ 文献 168. 小林隆二 (1972)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

スナビキソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Heliotropium japonicum A.Gray

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 25～30cm になる多年草。長い地下茎があり、大きな株状となり、地面に広がる。葉は互生し、へら形で柄がなく、厚く、茎とともに圧毛がある。5～8 月、白色の花を開く。果実はコルク質で、中に 4 つの小角がある。
- ❖ 分布の概要 沿岸に点在していたが、現在、洋野町、宮古市、大船渡市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・シベリア・ヨーロッパに生育する。
- ❖ 生育状況 海岸砂地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設、水門建設、港湾建設、埋め立て）、道路建設など。
- ❖ 特記事項 以前は沿岸の海岸砂地に普通に生育したが、海岸開発などで多くが消失した。残された生育地も東日本大震災の津波によって失われた。自然状態が残された場所では再生が進んだが、いずれの生育地も個体数は少なく、高波などの自然災害や海岸整備などによって消失する可能性がある。
- ❖ 文献 129. 関根清正 (2007)、56. 小山田智彰ほか (2012)、60. 小山田智彰ほか (2020)、80. 関根清正 (2020)

(島田 直明)

ムラサキ

ムラサキ目 ムラサキ科

Lithospermum murasaki Siebold.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 40～70cm になる多年草。茎は直立し、上部は分枝し、葉とともに荒い毛がある。葉は互生し、披針形で、表面の平行する葉脈はへこむ。7～8 月、葉腋の包葉の間から、白色の花をつける。花冠喉部には黄色みを帯びた突起がある。分果は灰白色で光沢がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、盛岡市、岩泉町、宮古市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原に生育することが普通で、草原から生じた疎林にも残存的に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、森林伐採、自然遷移、原料としての盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。半自然草地が利用放棄され、自然遷移が進行していくに伴い、生育地、個体数とも減少が著しい。根は太く紫色で、シニコンという色素を持つ。これを乾燥させると濃紫色になり、染料や薬用に使われた。岩手県産のものとして「南部紫」があり、この染料の原料として有名であった。

(島田 直明)

イワタバコ

シソ目 イワタバコ科

Conandron ramondii Siebold et Zucc. var. *ramondii*ides

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎に褐色の長毛があり、1～3 個の葉を束生する。葉には翼のある柄があり、楕円状倒卵形で、先端は尖り、不ぞろいの鋸歯がある。葉はやわらかく、表面の脈はへこんでしわのように見え、光沢がある。6～8 月、葉腋の間から 1～2 個の散形花序を出し、多数の花をつける。花冠は紅紫色で、底部は白色地に黄橙色の斑紋がある。
- ❖ 分布の概要 花巻市、田野畑村、山田町、大槌町に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりが悪く、垂直で湿性な岩壁に付着する。
- ❖ 脅威 自然崩落などの攪乱、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 田野畑村の生育地が「イワタバコ北限自生地」として岩手県天然記念物に指定されている。特殊な環境に生育するために存続基盤が脆弱といえる。
- ❖ 文献 169. 小水内長太郎 (1990)、98. 大森鉄雄 (1996)、31. 小守一男・千葉高男 (2004)

(島田 直明)

キクモ

シソ目 オオバコ科

Limnophila sessiliflora (Vahl) Blume

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～60cm の水生多年草。地下茎は泥中を這い、水中にただよう茎の上部は水上に立つ。葉は 4～8 個輪生し、水中葉と水上葉がある。水中葉は多くの細かい裂片にさけ、水上葉はやや幅広の裂片に深裂する。8～9 月、水上葉の腋に 1 個の花をつける。花冠は紅紫色で、筒状で先は唇形となる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、陸前高田市などから報告されたが、確認されていない場所もある。本州（岩手県以南）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国（東北部）・東南アジア、オーストラリア・インドに広く分布する。
- ❖ 生育状況 水田や浅い沼などの水中に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、宅地造成、湿地開発など。
- ❖ 特記事項 東北地方北部ではいずれの生育地で絶滅に瀕している。

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

ヤマクワガタ

シソ目 オオバコ科

Veronica japonensis Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～35cm になる多年草。茎は分枝し、地面を這うように広がり、開出する軟毛がやや密にはえる。葉は対生し、広卵形で、先端はやや尖り、両面に白毛を散生する。7～8 月、上部の葉腋から花序を出し、まばらに 3～8 個の花をつける。花冠は淡紅白色で、広く開いた皿形になる。さく果はくさび形となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市に分布する。本州（関東地方・中部地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 ブナ林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路工事、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 県内での生育地は 1 ヶ所のみで、道路工事によって生育地はかなり狭められた。
- ❖ 文献 170. 大森鉄雄（1972）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②

ミミカキグサ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia bifida L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm になる小型の多年草。茎は白色糸状で地中に伸び、所々に捕虫囊と線状の地上葉を出す。8～10 月、地中の鱗片葉の腋から総状花序を伸ばし、花を 2～7 個つける。花柄は明らかで、距は後方斜め下を向く。花後、花柄は伸びて開出し、宿存萼も伸び広がり、さく果を覆い、耳かき状になる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、一関市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、中国・インド・マレーシア・オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地やため池の土手などの泥質土壌などに生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、踏みつけ、水環境の変化に伴う自然遷移など。
- ❖ 特記事項 食虫植物。湿原の減少とともに生育地、個体数とも大きく減少し、絶滅する危険がきわめて高い。
- ❖ 文献 171. 竹原明秀（1985）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①

フサタヌキモ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia dimorphantha Makino

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 長さ 1m になる浮遊する水生の多年草。茎はややまばらに分枝し、根はなく、土に埋もれるように固着することもある。葉は互生し、細かく分裂し、小さな捕虫囊をごく少数つける。7～8 月、3～10 個の花をつける総状花序を水中から伸ばす。花は黄色で、距は下唇よりも短く、前に向く。葉腋に閉鎖花をつける。
- ❖ 分布の概要 平泉町に分布する。本州（岩手県～兵庫県）に分布する。
- ❖ 生育状況 やや富栄養化した水域で、流れがゆるやかな水田縁の溝、水路、ため池などに生育する。
- ❖ 脅威 水路改修、埋め立て、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 食虫植物。人間活動が盛んな場所に生育するため、絶滅に瀕している生育地が多い。
- ❖ 文献 172. 上野雄規（1997）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑥

ヒメタヌキモ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia minor L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 5～10cm になる小型の多年草。植物帯は水中を浮遊するか、水底の泥中に固着する。茎には根がなく、地中葉を出す場合もある。水中葉は二叉状に細裂し、まばらに捕虫囊をつける。8～9 月、2～10 個の花をつける総状花序を出す。花は細長く、淡黄色で、距は短く、円錐状で、下に向く。開花しない個体が多い。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、一関市に分布する。北海道・本州・四国・九州、北半球に分布する。
- ❖ 生育状況 貧栄養な湖沼や溜池、湿地などに生育するが、特に湿原内の浅い泥質の水域に生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、水質汚濁、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 食虫植物。数カ所の生育地が知られているが、きわめて少ない。
- ❖ 文献 81. 鈴木まほろ・小水内正明 (2008)、25. 宮崎佑介ほか (2010)、173. 上野雄規 (2011)、26. 大森鉄雄 (2012)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤

ルリハッカ

シソ目 シソ科

Amethystea caerulea L.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる一年草。茎は 4 角で直立する。葉は対生し、羽状に 3～5 全裂する。萼は球状の釣り鐘形で、先端はほぼ等しく中裂する。花冠はるり色で、萼よりは少し長く、雄ずいは 2 本が長く、花外に突き出る。分果の着点は大きく、分果の 2/3 に達する。
- ❖ 分布の概要 過去に軽米町、盛岡市、岩泉町、宮古市、釜石市などから記録がある。現在、県内で生育が確認されている場所はない。本州・九州、朝鮮半島・中国・トルコなどに分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい草原や明るい林床、荒地などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、圃場整備、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 山火事跡地から生育の報告があり、不安定な環境を好む傾向があると考えられる。近年では人工林の伐採直後に出現し、数年後に消失した例がある。
- ❖ 文献 18. 村井三郎ほか (1978)、174. 高橋大等 (2002)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

コムラサキ

シソ目 シソ科

Callicarpa dichotoma (Lour.) K.Koch

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 1～1.5m になる夏緑広葉低木。枝は細長く伸び、紫色を帯び、はじめ星状毛があるがのちに無毛となる。葉は対生し、倒卵状楕円形で、上半部に鋸歯がある。7～8 月、葉腋のやや上部から集散花序を出し、淡紅紫色の花を密につける。果実は球形で、紫色に熟す。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、花巻市、北上市、奥州市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 平野の湿地周辺、河川敷内に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、河川工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 果実が美しいことから、庭園木として植栽されている。盛岡市の生育地はすでに絶滅したと考えられる。野生化した個体も多く含まれ、さらに詳細な調査が必要とされる。
- ❖ 文献 21. 高野祐晃 (2004)、24. 高野祐晃・須川直義 (2009)、26. 大森鉄雄 (2012)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ムシャリンドウ

シソ目 シソ科

Dracocephalum argunense Fisch. ex Link var. *japonicum* (A.Gray) Kudô

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 15～50cm になる多年草。茎は 4 角で、直立し、下向きの細毛があり、下部は木化する。葉は広線形で、厚く、縁はやや裏側に巻く。6～7 月、茎頂に短い穂状の花序を出し、青紫色の花をつける。
- ❖ 分布の概要 久慈市、葛巻町、岩泉町などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（北部）・サハリン・ロシア（沿岸州）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、管理放棄による草原の消失、宅地化などの環境の変化である。
- ❖ 特記事項 以前は県内各地に生育していたが、草原の減少とともに生育地、個体数とも著しく減少した。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤

ミゾコウジュ

シソ目 シソ科

Salvia plebeia R.Br.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる一年草。茎は方形で直立し、上方で分枝し、稜に下向きの細毛がある。葉は短い葉柄があり、葉縁には鈍い鋸歯、葉脈は凹入して葉面は細かいしわがある。5～6 月、花穂ははじめ短く、後に伸びる。萼は唇型に浅く 5 裂し、花が終わると左右を閉じるが、果時にまた開く。花冠の下唇は上唇より大きく、大きい紫色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 北上市に分布する。本州・四国・九州・琉球、東アジア・マレーシア・インド・オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 田の畦や湿った草地、道端、湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、河川工事、過度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 北上市から採集された標本があるが、それ以外の情報はない。
- ❖ 文献 175. 北上市史編さん委員会編（2021）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

ハマゴウ

シソ目 シソ科

Vitex rotundifolia L.f.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～60cm の落葉低木。茎は砂上や中を匍匐し伸び、枝は四角形となる。葉は対生し、楕円形ないしは倒卵状円形で、裏面には灰白色の軟毛が密生する。7～9 月、枝先に円錐花序を出し、紫色の唇形花を開く。果実は球形で、淡黒色に熟す。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市で確認されていたが、現在は発見されていない。本州・四国・九州・南西諸島、朝鮮半島・東南アジア・太平洋諸島・オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂礫浜に生育する。
- ❖ 脅威 防潮堤などの海岸造営物建設による砂浜の減少、津波による砂浜の変化、過度な砂浜整備など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。陸前高田市に生育が確認されていたが、1960 年 5 月のチリ地震津波で生育地の砂が洗い流され、絶滅した。その後、2021 年に陸前高田市で再発見された。しかし、2023 年に過度な砂浜整備によって再び失われた。
- ❖ 文献 176. 吉田繁（1994）、177. 島田直明（2021）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

オオナンバンギセル

シソ目 ハマウツボ科

Aeginetia sinensis G.Beck

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～30cm の一年草の寄生植物。茎はごく短く、葉は鱗片葉となる。7～9 月、葉腋から花柄を伸ばし、大型の花をつける。萼は淡紅紫色を帯び、先端はあまり尖らない。花冠は明紅紫色で大きく、先端は浅く 5 裂し、縁に細かな歯牙がある。さく果は大きい。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、中国（中部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発（牧草地転用など）、圃場整備、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 ススキやノガリヤスなどのイネ科、カヤツリグサ科の植物の根に寄生する。草原の減少に伴い、生育地は大きく減少した。また、毎年、発生しているとは限らないため、継続的な確認が必要となる。
- ❖ 文献 105. 山口一彦（2021）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①

ハマウツボ

シソ目 ハマウツボ科

Orobanche coerulescens Stephan ex Willd.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の一年草で寄生植物。塊状に肥大した根茎から黄褐色の太い茎が直立する。鱗片葉は黄褐色、狭卵形で、先端は膜質、白い軟毛がある。5～7 月、茎の茎の上部に淡紫色の花を密につける。花軸、苞、萼、花冠に白い軟毛がやや密にはえる。苞と萼は先端が尖る。花冠は 2 唇形で、上唇は浅く 2 裂、下唇は 3 裂する。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・シベリア・ヨーロッパ（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸や河原の砂地、あるいは丘陵地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、河川改修など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。ハマオトコヨモギやカワラヨモギなどのヨモギ属植物の根に寄生する。東日本大震災の津波による影響は明らかでないが、海岸整備によって生育地は大きく変化するため、絶滅が危惧される。

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

ミヤマシャジン

キク目 キキョウ科

Adenophora nikoensis Franch. et Sav. var. *nikoensis* f. *nipponica* (Kitam.) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎はやや太く、茎は直立し、群生することが多い。葉は披針形または狭長楕円形、先端は鋭く尖り、基部はくさび形で葉柄はきわめて短い。8～9 月、茎頂に 1～数個の花が総状花序につく。萼裂片は披針形で全縁、花冠は鐘形で紫色、花柱は花冠から突き出る。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の明るい草原やガレ場に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰・栗駒指定植物。近縁種が多く、これまでの報告を再検討する必要がある。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

モイワシヤジン

キク目 キキョウ科

Adenophora pereskiiifolia (Fisch. ex Schult.) Fisch. ex G.Don

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は太く、茎は直立する。根出葉は腎形または卵心形で、長い柄がある。茎葉は披針形あるいは卵形で、ほとんど柄がなく、多くは輪生する。6～9月、総状花序をつける。花柄は短く、萼裂片は披針形で全縁となる。花冠は広鐘形で、淡紫色または白色、花柱は花冠より少し突き出る。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、早池峰山に分布するという。北海道・本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿性な岩場に生育する。
- ❖ 脅 威 園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。近縁種が多く、これまでの報告を再検討する必要がある。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

チシマギキョウ

キク目 キキョウ科

Campanula chamissonis Fed.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 5～15cm の小型の多年草。根茎は横に這い、よく分枝する。根出葉は束生し、表面は光沢があり、縁と裏面の主脈に長毛が散生し、縁に波状の小さな鈍鋸歯がある。7～8月、茎頂に花を横向きにつける。花冠は鐘形で、青紫色、先端は5裂し、裂片の縁と内面に白色の長毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・アリューシャン・カムチャツカ・千島・アラスカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山の明るい砂礫地に生育する。
- ❖ 脅 威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が限られ、個体数も少ない。
- ❖ 文 献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

アサザ

キク目 ミツガシワ科

Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 多年生の浮葉水生植物。根茎は泥の中を長く這い、それから太く長い茎を出す。葉は卵形または円形で、やや厚く、縁に波状歯牙がある。表面は緑色、裏面は紫褐色で、柄は長く、基部が鞘状になる。6～8月、葉柄の基部に多数の花を束状につける。萼裂片は広披針形で、やや厚い。花冠は黄色で、5深裂し、裂片の先端はへこみ、縁に長毛がある。
- ❖ 分布の概要 奥州市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・ユーラシア大陸の温帯に分布する。
- ❖ 生育状況 池や沼に生育する。
- ❖ 脅 威 池沼開発、浚渫、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 過去には盛岡市都南のみに分布すると記録されているが、すでに絶滅した。そのため、現在の生育地はきわめて少ない。植栽されたものもある。
- ❖ 文 献 1. 岩手植物の会（1970）、71. 高野祐晃（2005）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①

カワラニガナ

キク目 キク科

Ixeris tamagawaensis (Makino) Kitam.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる多年草。根茎はやや太く、叢生する。茎は無毛で、先端はしばしば二分する。根出葉は線状披針形で、先端は尖り、基部は次第に細まり、短柄がつき、普通は全縁となる。葉は無毛で、表面は緑色、裏面はやや粉白となる。5～8 月、帯黄色の頭花を枝先にやや密につける。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 河川敷内の日当たりのよい砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、流路が変動するなどの大規模な洪水、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 普通種であったが、自然性の礫河原の減少とともに少なくなった。

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ハヤチネウスユキソウ

キク目 キク科

Leontopodium hayachinense (Takeda) H.Hara et Kitam.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。地下茎は硬く横に這い、茎を叢生する。根出葉は線状倒披針形で、中部の葉は上に向き、線状披針形、鋭頭となる。葉の裏面と茎には灰白色の綿毛を密生する。7～8 月、4～8 個の頭状花を茎頂に密につける。星形の苞葉群は 5～15 個の苞葉からなり、白綿毛を密生する。
- ❖ 分布の概要 早池峰山のみに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい岩場や岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県条例指定希少野生動植物。早池峰指定植物。早池峰山の固有種で、蛇紋岩植物の代表とされている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）、178. 石塚和雄・土井信夫（1978）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑤

オタカラコウ

キク目 キク科

Ligularia fischeri (Ledeb.) Turcz.

環境省 なし

- ❖ 形態 開花時には 1～2m になる大型の多年草。地下茎は太く横走し、群生する。中空の茎の上部にはちぢれた短毛がある。根出葉は腎心形で、葉縁には細かい鋸歯があり、先端は円形、基部は心形となる。7～10 月、茎頂に総状花序をつける。頭花には柄があり、上向きに開く。舌状花は 5～9 個ある。
- ❖ 分布の概要 一関市、北上市に記録がある。本州（秋田県以南）・四国・九州、中国・サハリン・シベリア（東部）・ヒマラヤに広く分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿地や沢沿いの湿性地に群生する。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事、河川改修など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。平成 20 年岩手・宮城内陸地震により、一関市の生育地付近では大規模な山崩れが起こり、その後の治山事業などを含め、生育環境が大きく変わったため、生育を確認する必要がある。
- ❖ 文献 179. 加藤辰己（1987）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ナガバキタアザミ

キク目 キク科

Saussurea riederi Herder var. *yezoensis* Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30cm ほどになる多年草。茎は直立し、狭い翼がある。葉はやや硬く、広卵形から長三角形で、下部の葉には長柄があり、上部ほど短くなり無柄となる。葉柄は基部で茎を抱く。8~9 月、茎頂に頭花花序を密に散房状につける。総苞は上部が黒紫色でくも毛があり、4~6 列ある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい草原や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。本亜種に近縁である亜種や変種が北海道にいくつか分布する。
- ❖ 文献 178. 石塚和雄・土井信夫（1978）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

エゾヒヨウタンボク

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera alpigena L. subsp. *glehnii* (F.Schmidt) H.Hara

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 樹高 2~3m になる夏緑広葉低木。若枝は稜があり、無毛で中実となる。葉は卵形から長楕円形で、基部は広い楔型か浅心形となる。葉縁には長い粗い毛があり、上面脈上に細毛、下面脈上に開出毛と腺毛がある。5~6 月、黄色を帯びた花をつける。花冠は二唇形で、内面に毛がある。果実は濃紅色に熟し、光沢がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、遠野市、釜石市、住田町などに分布する。北海道・本州（北部）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の岩礫地とその周辺に生育し、時に風穴地にも見られる。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 変種のスルガヒヨウタンボクも分布するため、検討する必要がある。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

キタカミヒヨウタンボク

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera demissa Rehder var. *borealis* H.Hara et M.Kikuchi

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 樹高 1~4m の夏緑広葉低木。枝は密に分枝し、老成すれば脱毛し、縦に裂けて剥離し、中空となる。葉は倒卵形から長楕円形で、先端は長く尖り、基部は円形となる。両面に軟毛、脈上に長毛があり、下面は粉白色を帯びる。5~7 月、明らかな二唇形で黄色の花をつける。液果は赤熟し、球状で離生する。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。早池峰指定植物。母種のイボタヒヨウタンボクは本州中部に分布するため、本種は隔離分布といえる。
- ❖ 文献 180. 原寛・菊地政雄（1961）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

ヤブヒョウタンボク

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera linderifolia Maxim. var. *linderifolia*

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 樹高 1~2m の夏緑広葉低木。枝は中実で、密に分枝し、古くなると縦に裂けて剥離する。葉は楕円形から披針形で、下面は粉白色となり、先端はやや鈍頭、基部はくさび形で、両面には短い屈毛がある。5~6 月、枝の上方に 2 花が下垂する。苞は線形で、短屈毛と細腺毛がある。花冠は広鐘形、暗紫色、花筒は同形となる。
- ❖ 分布の概要 姫神山、早池峰山、五葉山に分布する。
- ❖ 生育状況 山地~亜高山帯の林床で岩角地に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 国内希少野生動植物種。早池峰指定植物。変種のコゴメヒョウタンボクは本州中部に分布するため、本種は隔離分布といえる。
- ❖ 文献 167. 千葉博・小水内正明 (2011)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

ハナヒョウタンボク

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera maackii (Rupr.) Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 樹高 2~5m の夏緑広葉低木。枝は中空で、よく分枝し、若い枝には鈍稜がある。葉は狭倒卵形から狭倒披針形で、先端は尖り、基部はくさび形となる。縁は全縁で、葉には毛が多い。6 月、葉腋から短い花柄が伸びて先に 2 花がつく。苞は線状披針形で早落性、花冠は白色で、二唇形となる。液果は球形で、紅熟する。
- ❖ 分布の概要 遠野市以北の北上山地に分布する。本州 (岩手県・長野県)、朝鮮半島・中国 (北部)・モンゴル・アムール・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 河岸や氾濫原に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、道路工事など。
- ❖ 特記事項 河川改修に伴い移植を行った場所がある。庭園木として利用される場合もある。葛巻町には天然記念物に指定されている集団がある。
- ❖ 文献 181. 高橋大等・河野隆年 (2003)、182. 高橋大等 (2005)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

オニヒョウタンボク

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera vidalii Franch. et Sav.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 樹高 5m ほどになる夏緑広葉小高木。枝は中実で、微細な腺点がある。葉は倒卵形から長楕円形、先端は尖り、両面には立毛が多い。5~6 月、葉腋から花柄が伸びて 2 花をつける。花冠は二唇形、帯緑白色で、外面は花糸と花柱の下部ともに毛がある。液果は球形で、紅熟し、下半分は合着する。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州 (岩手県・群馬県・長野県・岡山県・広島県)、朝鮮南部に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床などに生育する。
- ❖ 脅威 強度の伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 2012 年に県内から報告があった。発見当時、8 株が確認されたが、いずれも定期的な伐採を受けた萌芽株で、本来の生育状況とはいえない。
- ❖ 文献 183. 高橋大等 (2013)、184. 高橋大等 (2016)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑥

マツムシソウ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Scabiosa japonica Miq. var. *japonica*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～90cm になる二年草。根は垂直に伸び、茎は上部で枝を広げる。葉は対生し、下部や中部の葉は羽裂し、さらに分かれる。8～10 月、枝頂に頭状花序を上向きにつける。総苞片は 2 列で線形となり、外側の裂片は大きく伸びる。中心部の小花は青紫色または白色で、筒状となり、等しく 5 裂する。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、奥州市、金ヶ崎町などに分布したが、現在、わずかに残る程度となっている。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい草原や道端に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、強度の草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 草原に普通に生育するとされているが、以前の生育地ではほぼ絶滅した。保護されている場所にわずかな個体が残った状況にある。
- ❖ 文献 113. 鈴木實 (1974)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①⑤⑥

ヤマナシウマノミツバ

セリ目 セリ科

Sanicula kaiensis Makino et Hisauti

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる多年草。茎は細長く直立し、枝をよく伸ばす。根出葉には長い柄があるが、茎葉は無柄となる。7～9 月、枝頂に小散形花序を出し、まばらに白色から帯紫色の花をつける。小総苞片は小さく、果実は卵形で、刺毛は上のものほど長くなり、鉤状に曲がる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市からの情報がある。本州（岩手県・山梨県・長野県）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の明るい林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 開発事業に関連し、生育地の保護と移植による個体群の増殖対策が行われた。それらの個体は現在、確認されていない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ①②⑤

ヌマゼリ

セリ目 セリ科

Sium suave Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～100cm になる多年草。茎は中空で、多くの枝を出す。葉は有柄で 3 出葉か、単羽状複葉、側小葉は無柄で、7～9 個ある。7～9 月、やや小さい花序を出し、広線形の総苞片や小総苞片をつける花柄は 7～12 本ある。花弁は白色、果実は倒卵形、分果の隆条はすべて太くて相接する。
- ❖ 分布の概要 二戸市、岩手町、八幡平市、宮古市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 水路の縁や湿性地などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、土地造成、湿地の乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 県内各地に生育した可能性があるが、生育地の開発などで減少している。滝沢市では絶滅したと考えられる。
- ❖ 文献 53. 北上彌逸 (1985)

(竹原 明秀)

リシリビャクシン

ヒノキ目 ヒノキ科

Juniperus communis L. var. *montana* Aiton

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 0.5～1m の常緑針葉低木。幹は高くならず横に広がり、マット状になる。葉は3個が輪生し、かなり密につけ、いちじるしく弓状に曲がり、表面はやや深くくぼみ、白色の気孔帯の幅は狭く、裏面は濃緑色となる。6～7月に開花し、毬果は翌年の秋に結実し、球形、紫黒色で白色を帯びる。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 雫石町に分布するというが、確認されていない。北海道、千島・サハリン・朝鮮半島・中国（東北部）から北半球の寒帯に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩場から高層湿原の周縁部に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化による生育環境の変化など。
- ❖ 特記事項 ミヤマネズの変種のため、誤同定の可能性が高く、確認する必要がある。

(沼宮内 信之)

ミヤマネズ

ヒノキ目 ヒノキ科

Juniperus communis L. var. *nipponica* (Maxim.) E.H.Wilson

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 0.5～1.5m の常緑針葉低木。幹は褐色で縦に裂け、地を這うように斜上する。枝は赤褐色を帯びる。葉は針形状で3輪生し、先端は鋭く尖り、上面に深い溝があり、基部はわずかに弓状に曲がる。6～7月に開花し、毬果は翌年の秋に結実し、球形、紫黒色に熟す。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 岩礫の崩壊、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が限られ、個体数は多くない。
- ❖ 文献 185. 須川直義 (2003)

(沼宮内 信之)

ミチノクサイシン

コショウ目 ウマノスズクサ科

Asarum fauriei Franch. var. *fauriei*

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の小型の多年草。茎は細長く、地面を這い、節間が長い。葉は小型で、広卵形～腎円形、先端は円く、基部は心形となる。表面は深緑色で光沢があり、斑紋はない。4～5月、暗紫色の小型の花を開く。萼筒は短い鐘形で、花柱の先端は萼筒から突出する。
- ❖ 分布の概要 二戸市、八幡平市、西和賀町、遠野市、宮古市、一関市などに分布する。本州（東北地方・長野県・新潟県）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 7. 大森鉄雄・高橋久 (1980)

(島田 直明)

アヤメ

ショウブ目 ショウブ科

Iris sanguinea Hornem.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm の多年草。根茎は褐色の繊維に覆われる。葉は剣状で、中脈はあるが目立たない。5～7 月、花茎の頂部に 2～3 個の花をつける。花は紫色で、外花被片の拡大部は広倒卵形で平開し、爪部は黄色地に紫色の細脈がある。内花被片は楕円状倒披針形で直立する。さく果は長楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町、岩泉町、盛岡市、奥州市、釜石市、大船渡市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の乾性草原に生育する。
- ❖ 脅威 土地造成、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地が少ない。栽培されることもある。
- ❖ 文献 186. 亀山喜作（2011）

(島田 直明)

ヒメイワショウブ

オモダカ目 チシマゼキショウ科

Tofieldia okuboi Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 6～17cm の小型の多年草。根出葉は線形で、先端は急に尖り、葉縁に細かい突起がある。花茎には 1～2 個の小形の葉がある。7～8 月、花茎の先端に穂状に少数の花をつけ、花柄は直立する。花被片は長楕円形で、淡緑白色、雄ずいは花被片より少し短い。蒴果は上を向く。
- ❖ 分布の概要 八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の湿性の草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。チシマゼキショウなど、近縁種が多い。個体数は少ない。
- ❖ 文献 187. 千葉博・小水内正明（2010）

(沼宮内 信之)

マルバオモダカ

オモダカ目 オモダカ科

Caldesia parnassiiifolia (Bassi. ex L.) Parl.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる浮葉性～抽水性の一年草。茎は短く、葉は根出する。葉柄は水深によって変化し、70cm に達することもある。葉身は長楕円形（初期浮葉）から卵心形（浮葉）～円心形（抽水葉）に変化する。8～9 月、花茎に枝を三輪生し、円錐花序を出す。花は両性で、花弁は白色で、歯牙のある卵円形となる。水中の花序の上に殖芽ができ、越冬器官になるとともに無性的に繁殖する。
- ❖ 分布の概要 花巻市に分布する情報がある。本州・四国・九州・奄美諸島、中国・インド・オーストラリア・マダガスカルに分布する。
- ❖ 生育状況 ため池や水田、湖沼などの浅い水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・湿地開発、水質汚濁、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定され、現在、生育の確認されていない。
- ❖ 文献 188. 井上幸三（1988）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ウリカワ

オモダカ目 オモダカ科

Sagittaria pygmaea Miq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30cm になる多年草。地下茎の先端に塊茎をつけ、叢生する。葉は先端がやや広がるへら形で、葉柄はなく、ロゼット状となる。7～9 月、葉の間から花茎を伸ばし、花序の基部に雌花を 1～2 個、花柄の先に雄花を 3～6 個つける。花弁は白色で 3 個ある。萼片は 3 個で、緑色で果時にも残る。
- ❖ 分布の概要 北上市に分布する。北海道（南西部）・本州・四国・九州・琉球、東アジアの温帯から亜熱帯に分布する。
- ❖ 生育状況 池の縁や水田に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、圃場整備、乾田化、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 水田雑草と呼ばれていたが、水田環境が大きく変わったため、個体数が減少している。
- ❖ 文献 24. 高野祐晃・須川直義（2009）

（島田 直明）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ホロムイソウ

オモダカ目 ホロムイソウ科

Scheuchzeria palustris L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。根茎は長く横に這い、節から叢生する葉と根を出す。葉は線形で、半円形の断面を持ち、太く堅く、基部に葉鞘と葉舌がある。葉身と葉鞘は明らかに区分できる。6～7 月、花茎の上部の葉鞘に花をつける。花被片は 6 個で、黄緑色、目立たず、花期後も宿存する。袋果の中に 2～3 個の褐色で、堅い種子をつける。
- ❖ 分布の概要 八幡平、西和賀町に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 ミズゴケ湿原で、水深が 5cm 以下の浅い小凹地に生育する。
- ❖ 脅威 木道の設置、踏みつけ、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。ミズゴケ湿原のシュレンケを代表する指標植物で、氷期からの残存植物にあたる。
- ❖ 文献 189. 井上幸三・吉田稔（1983）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ホソバヒルムシロ

オモダカ目 ヒルムシロ科

Potamogeton alpinus Balb.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 沈水葉のみ、あるいは浮葉もつける多年生の水草。地下茎は泥中を長く這い、ほとんど分枝しない水中茎を出す。沈水葉は無柄で、狭披針形、葉縁は鋸歯がなく、波状のしわとなる。浮葉は葉身と葉柄の区分が不明瞭で、倒披針形、基部は次第に細くなる。6～8 月、穂状花序を水面に出し、やや密に花をつける。果実の背面の稜は全縁かわずかに凹凸がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、雫石町、奥州市、一関市に分布する。北海道・本州（東北地方・長野県）、北半球の北部に広く分布する。
- ❖ 生育状況 湖沼や河川、水路などの水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・河川・湿地開発、水質汚濁、土砂流入など。
- ❖ 特記事項 全国的に分布が限られ、集団によって浮葉の有無の違いがある。
- ❖ 文献 23. 井上幸三（1986）、25. 宮崎佑介ほか（2010）

（島田 直明）

イトモ

オモダカ目 ヒルムシロ科

Potamogeton berchtoldii Fieber

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 細身で、群生する多年生の沈水植物。地下茎は細く、横走し、1節おきに水中茎を出す。沈水葉は狭線形、1~3脈ある。葉の内側に茎を抱く托葉がある。6~8月、穂状花序を水面に出す。果実は細長く、まばらにつける。枝の先端が殖芽となり、水底で越冬する。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、花巻市、西和賀町、北上市、奥州市、一関市、大槌町、釜石市などに分布する。本州・四国、ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 沼やため池、河川、水路などの水深3mまでの浅い水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・河川開発、水質汚濁、水量減少、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 環境の変化を受けやすく、生育地や個体数が減少している。沈水葉の幅が1mm前後の沈水植物を本種と同定されることがしばしばあるが、近縁種と誤っている場合が多い。東日本大震災の津波後に出現した池沼もあるが、復興工事によって消失した場所もある。
- ❖ 文献 18. 井上幸三・吉田稔 (1983)、190. 高野祐晃・須川直義 (2005)、77. 高野祐晃・須川直義 (2007)、25. 宮崎佑介ほか (2010)、55. 小山田智彰ほか (2012)、79. 島田直明ほか (2024)

(島田 直明)

ウラゲキヌガサソウ

ユリ目 シュロソウ科

Kinugasa japonica (Franch. et Sav.) Tatew. et C.Sutô var. *tomentosa* Miyabe et Tatew.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ30~80cmになる多年草。太く短い地下茎があり、茎も太い。葉は倒卵状楕円形または広披針形で大きく、8~10個が輪生する。6~8月、茎頂に出る短い花柄の先端に花を1個つける。花は白色の外花被片と線形白色の目立たない内花被片がそれぞれ7~9個からなる。液果は球形で、暗紫色に熟す。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、奥州市などに分布する。本州（中部地方以北の日本海側）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の湿性な窪地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、乾燥化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 母種のキヌガサソウ（旧RDBではBランク）も生育することになっているが、詳細を検討する必要がある。ここでは本変種に統合することを前提とした。生育地・個体数ともに少ない。果実は芳香と甘味があり、食用となる。
- ❖ 文献 7. 大森鉄雄・高橋久 (1980)

(沼宮内 信之)

ミヤマスカシユリ

ユリ目 ユリ科

Lilium maculatum Thunb. var. *bukosanense* (Honda) H.Hara

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 長さ40~80cmになる多年草。鱗茎は卵形で、白色となる。茎は稜角があり、下垂する。葉は広線形で、多数つける。7月、茎頂に1~3個の赤色の花を上向きに開く。花被片は狭倒披針形で、先端は強く反り返り、花被片の隙間は広い。さく果は倒卵状楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 住田町に分布する。本州（東北地方・関東地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩地帯の岩壁に生育する。
- ❖ 脅威 道路工事（法面保護工事など）、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 関東地方から報告されていたが、宮城県と岩手県にも分布することが確認された。
- ❖ 文献 191. 大橋広好ほか (2004)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②③

ヤマスカシユリ

ユリ目 ユリ科

Lilium maculatum Thunb. var. *monticola* H.Hara

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。鱗茎は卵形で、白色となる。茎は稜角があり、下部には乳頭状突起がある。葉は披針形で、多数つける。6～7 月、茎頂に 1～数個の橙赤色の花をつける。花柄やつぼみに綿毛はなく、花被片の先端は軽くそり返り、花被片の隙間は狭い。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州（新潟県・福島県・山形県・秋田県）に分布する。
- ❖ 生育状況 溪谷の岩場や崩壊地などに生育する。
- ❖ 脅威 道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。母種のスカシユリにくらべ、個体数がやや少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②③

チシマアマナ

ユリ目 ユリ科

Lloydia serotina (L.) Rchb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 7～15cm になる小形の多年草。鱗茎は円柱状で、やや大きい。根出葉は線形で 2 個つき、茎葉は 2～4 個が互生する。6～8 月、細い茎の先端に白色の花が 1 個、やや横向きに開く。花被片は狭長楕円形で、基部に黄赤色の腺体がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国・サハリン・千島・ヒマラヤ・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の岩場に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（沼宮内 信之）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②③

ホソバノアマナ

ユリ目 ユリ科

Lloydia triflora (Ledeb.) Baker

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。鱗茎は楕円状で、小さい。根出葉は広線形で、1 個つく。5～6 月、花茎の先は 1～5 個に分枝し、それぞれの枝先に花をつける。花被片は白色で、基部には腺体がない。
- ❖ 分布の概要 遠野市、一関市、洋野町、岩泉町、山田町などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・サハリン・千島・カムチャツカ・シベリア・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の草原や道端などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地がいくつかあるが、いずれも個体数が少なく、絶滅した場所もある。
- ❖ 文献 38. 小水内長太郎・高野祐晃（1986）、49. 吉田繁（2001）

（沼宮内 信之）

エビネ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Calanthe discolor Lindl.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。偽球茎は球形で、横に 5～10 個が連結する。葉は 2～3 個で根出し、長楕円形で無毛、鋭頭、基部は狭い葉柄状になる。4～5 月、総状にやや密に 8～15 個の花をつける。花被片は暗褐色、萼片は狭卵形、側花弁はやや狭く、萼片と同長となる。唇弁は 3 深裂する。花被片の色には変化が多い。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道（南西部）・本州・四国・九州・琉球、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 低山のスギ植林、アカマツ林、夏緑広葉樹林などのやや湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。山草愛好家の増加と共に、盗掘が多発し、絶滅した地域が多い。
- ❖ 文献 192. 及川邦夫 (1980)、92. 安藤亮太・国崎貴嗣 (2009)

(沼宮内 信之)

ツチアケビ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cyrtosia septentrionalis (Rchb.f.) Garay

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm の多年生の菌従属栄養植物。根茎は太く、横に這い、大型の鱗片葉をつける。茎は黄褐色を帯び、太く、まばらに分枝し、鱗片葉をつける。6～7 月、多数の花からなる複総状花序を枝先につける。花は黄褐色で半開する。萼片と側花弁は長楕円形、唇弁は広卵形で縁は細かく分裂する。肉質の果実は大型で、赤色か黄色に熟する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道（札幌以南）・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路工事、盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。果実は漢方薬の強精剤として利用されることがある。
- ❖ 文献 93. 藤澤英俊 (2022)

(沼宮内 信之)

アオチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Dactylorhiza viridis (L.) R.M.Bateman, A.M.Pridgeton & M.W.Chase

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる多年草。葉は長楕円形または広披針形で、基部は鞘状に茎を抱き、1～3 個ある。5～7 月、茎の上部に淡緑色の花を総状に多数つける。苞は狭披針形で、花より長い。萼片は狭卵形、側花弁は線状披針形で、萼片よりも短い。唇弁は紅紫色を帯び、先端は 3 浅裂する。距は太くて短く袋状となる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国、千島・アラスカ・サハリン・朝鮮半島・中国（北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰指定植物。生育地は多いが、いずれも個体数は少ない。
- ❖ 文献 193. 関根清正 (2003)

(沼宮内 信之)

イチョウラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Dactylosteinia ringens Rchb.f.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は細く、短く匍匐し、毎年 1 本の太い根を出す。根出葉は 1 個つき、卵円形で厚く、葉縁にはしわがよる。5～7 月、茎頂に 1 個の花をつける。花は横向きに開き、大きい。萼片と側花弁は広線状倒披針形で、淡緑色、基部近くに紫色の斑がある。唇弁は白色で直立し、卵形、基部は短いくさび形となり、ほぼ中央で 3 裂する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が減少している。
- ❖ 文献 50. 大森鉄雄 (1995)

(沼宮内 信之)

サワラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Eleorchis japonica (A.Gray) F.Maek.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～30cm の多年草。偽球茎は緑色で球形となる。花茎の基部に少数の鞘状葉と 1 個の線状披針形または狭長楕円形で、先端が尖る葉をつける。7～8 月、花茎の先端に 1 個の花を横向きに半開する。萼片と側花弁は倒披針形で同形、鮮やかな濃紅紫色となる。唇弁は萼片より長く、先端は 3 裂し、中裂片に縦の隆起線がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州 (中部地方以北)、南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよいミズゴケ湿原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化による生育環境の悪化、踏み荒らし、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。北上山地ではほぼ絶滅した。
- ❖ 文献 22. 高野祐晃 (1983)、109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

コイチョウラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Ephippianthus schmidtii Rchb.f.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は糸状で横に這い、先端に葉と花茎を直立させる。葉は広卵形で、やや厚く、長柄があり、暗緑色または暗紫色になる。7～8 月、細い花茎に小さな花をまばらに 2～7 個つける。花は淡黄緑色で、横向きに開く。萼片と側花弁は狭長楕円形で鈍頭となる。唇弁に長楕円形で、紅紫色の斑紋がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州 (中部地方以北)・四国、サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の針葉樹林や夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。個体数が少なく、減少している。
- ❖ 文献 50. 大森鉄雄 (1995)、110. 竹原明秀 (2001)

(沼宮内 信之)

ミズトンボ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Habenaria sagittifera Rchb.f.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 40～70cm になる多年草。球茎は楕円形で、そこから出る茎は三角柱状で、毛はない。葉は線形で、茎の下部に数個つき、上部に鱗片葉がある。7～9 月、茎頂に淡緑色の花を総状にやや多数つける。背萼片は円心形、側萼片は半切腎形、側花弁はゆがんだ卵形となる。唇弁は 3 裂して十字形となり、距は長く下垂し、先端は球状にふくらむ。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道（南西部）・本州・四国・九州、中国（中部）に分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山地の日当たりのよい湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地、個体数とも年々、減少する傾向にある。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明（2010）、114. 大谷雅人ほか（2013）

(沼宮内 信之)

タカネトンボ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Limnorchis chorisiana (Cham.) J.P.Anderson

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。葉は円形または広楕円形で、表面は光沢があり、網目状、2 個が対生状に相接してつく。7～9 月、淡緑色の花を 10 個程度、穂状につける。萼片は長楕円形または楕円形、側花弁は卵形または広卵形となる。唇弁は卵円形で鈍頭、距は楕円形で短い。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・カムチャツカ・アリューシャンに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山～高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 194. 及川邦夫（1981）

(沼宮内 信之)

アリドオシラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Myrmechis japonica (Rchb.f.) Rolfe

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の小型の多年草。茎の下部は地上を匍匐し、各節からムカゴ状の芽を出す。葉は広卵形で小さく、表面に粒状の微突起があり、3～5 個が互生する。7～8 月、花茎には白色の多細胞の縮毛があり、1～3 個の花を横向きにつける。萼片は合着し、側花弁は同長となる。唇弁の先端は 2 裂する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州（近畿地方以北）・四国、千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。小型の植物で、気づかれないことがあるため、情報が少ない。
- ❖ 文献 193. 関根清正（2003）

(沼宮内 信之)

アオフタバラ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Neottia makinoana (Ohwi) Szlach.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10~20cm の多年草。葉は茎の中央より下部に対生状につき、三角状卵形で、表面は暗青緑色で、不鮮明な白斑がある。7~8 月、直立する細い花茎の先端に緑色の花をまばらにつける。萼片は長楕円状披針形、側花弁は線形で、暗緑色の唇弁は長倒卵形で、先端は 2 裂する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のスギ植林などの林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が減少している。移植が行われた場所もあるが、その後、定着していない。
- ❖ 文献 195. 金田宜昭 (2022)

(沼宮内 信之)

ミヤマフタバラ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Neottia nipponica (Makino) Szlach.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10~25cm の多年草。細い茎は紫褐色で直立し、下部に 2 個の葉が対生状につく。葉は広心形で、先端は急に短く尖り、基部は切形、濃緑色で光沢がある。7~8 月、緑褐色の花を 3~10 個、まばらにつける。萼片は基部から著しく反り返り、側花弁は狭長楕円形、唇弁はくさび状広倒卵形で、先端は 2 深裂する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山、薬師岳などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国・九州、ウスリー・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林内の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 50. 大森鉄雄 (1995)

(沼宮内 信之)

ミヤマモジズリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Neottianthe cucullata (L.) Schltr.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10~20cm の多年草。茎は球状に肥厚する根から出て、直立する。葉は長楕円形で、根ぎわで 2 個が対生状につく。7~9 月、多数の紅紫色の花を穂状につける。萼片と側花弁は同形で狭披針形となる。唇弁は狭いくさび形で、3 裂し、基部に紅紫色の斑点がある。裂片は細く尖り、距は短く、湾曲する。
- ❖ 分布の概要 北上市、岩泉町などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国、朝鮮半島・サハリン・千島・シベリア・ヨーロッパに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の針葉樹林の林床、岩石が露出する斜面に生育する。特に石灰岩地帯に多い。
- ❖ 脅威 自然崩壊、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。石灰岩植物に該当しないが、石灰岩地帯にも多い。
- ❖ 文献 18. 村井三郎ほか (1978)

(沼宮内 信之)

ミズチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera hologlottis Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 50～100cm になる大型の多年草。葉は線状披針形で、鋭先端、葉の基部は鞘状となり茎を抱き、下方の 4～6 個は大きく、上方はしだいに小さくなる。6～7 月、花茎の上部に白色の花を多数、穂状につける。苞は線状披針形で花より長い。背萼片は楕円形、側萼片は狭長楕円形、側花弁は斜卵形となる。唇弁は舌状で、倒卵形、肉質で距は長い。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿原に生育する。
- ❖ 脅 威 乾燥化による生育環境の悪化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 開花時には大形で、目立つ。個体数は少ない。
- ❖ 文 献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

マイサギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *macrocentron* (Franch. et Sav.) Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～40cm になる多年草。茎には稜がある。葉は下部の 1 個が大きく、線状長楕円形で、基部はわずかに茎を抱く。茎の上部の苞は披針形で小さい。6～7 月、黄緑色の花を 10 個程度、穂状につける。背萼片は円形、側花弁は背萼片と同長となる。唇弁は舌状で、長い距は上向きに反り返る。
- ❖ 分布の概要 奥州市、大船渡市などに分布する。北海道（南部）・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 低地や山地のやや湿性な平坦地に生育する。
- ❖ 脅 威 圃場整備、草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定される。
- ❖ 文 献 104. 猪苗代正憲 (2006)、114. 大谷雅人ほか (2013)、105. 山口一彦 (2021)

(沼宮内 信之)

ハシナガヤマサギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *mandarinorum*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～40cm になる多年草。茎にやや稜があり、下部に線状長楕円形、葉柄がない葉を 1 個つける。鱗片葉は披針形で、2～5 個つける。5～7 月、黄緑色の小花を 10 個ほど、穂状につける。苞は披針形。背萼片は広卵形、側花弁は広卵形、背萼片より少し長い。唇弁は舌状で、長い距がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、岩手山、真昼岳、焼石岳、早池峰山に生育するというが、近年、確認されていない。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日当たりがよく、やや乾燥ぎみの草原に生育する。
- ❖ 脅 威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 変種にヤマサギソウがあり、分布も同じであることから、報告されている情報を再検討する必要がある。
- ❖ 文 献 105. 山口一彦 (2021)

(沼宮内 信之)

ヤマサギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。茎には稜がある。葉は下部の 1 個が大きく、線状長楕円形で、基部はわずかに茎を抱く。茎の上部の苞は披針形で小さい。6～7 月、黄緑色の花を 10 個程度、穂状につける。背萼片と側花弁は広卵形、側萼片は披針形となる。唇弁は舌状で、長い距は下向きに伸びる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・サハリンに分布している。
- ❖ 生育状況 高山や高原の日当たりのよい、やや乾性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発 (太陽光パネルの設置など)、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。個体数は年々、減少している。

(沼宮内 信之)

ノヤマトンボ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera minor (Miq.) Rchb.f.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。茎には明らかな稜から翼がある。葉は長楕円形で、下方の 2～3 個が大きく、上方はしだいに小さく披針形になる。6～7 月、黄緑色の花を 10～25 個、穂状につける。背萼片は広卵形、側萼片は狭長楕円形、側花弁は半切卵形となる。唇弁は広線形で、距は下垂し、鈍頭となる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地の明るい林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 196. 片山千賀志 (2009)

(沼宮内 信之)

トキシウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Pogonia japonica Rchb.f.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の多年草。根茎は細く伸長する。茎は直立し、中央部にやや厚みのある長楕円形の葉を 1 個つける。6～8 月、茎頂に 1 個の紅紫色の花を横向きに半開する。苞葉は長楕円形で、茎と同じ方向に伸びる。背萼片は直立し、側萼片と側花弁は唇弁を覆うようにつく。唇弁の先端は複雑に変形し、肉質突起を多数つける。距はない。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりよいミズゴケ湿原から低層湿原に生育する。
- ❖ 脅威 湿原・草原開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地、個体数とも減少している。以前に報告されたものにはミヤマトキシウが含まれている可能性がある。
- ❖ 文献 149. 瀬川幸一 (1973)、109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)、197. 遠藤慎一ほか (2017)

(沼宮内 信之)

ヤマトキソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Pogonia minor (Makino) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は細く伸長する。茎は直立し、中央よりやや上部に長楕円形の葉を 1 個つける。6～7 月、茎頂に 1 個の淡紅色の花を上向きにつけるが、ほとんど開かない。苞葉は長楕円形で、茎と同じ方向に伸びる。萼片は線状披針形、側花弁は幅広い。唇弁は長楕円形で、少し短く、距はない。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、西和賀町、奥州市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい湿性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。生育地が減少している。同じ場所で、毎年、出現するとは限らない。
- ❖ 文献 33. 小水内長太郎・高野祐晃 (1986)、193. 関根清正 (2003)、105. 山口一彦 (2021)
(沼宮内 信之)

ミヤマトキソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Pogonia subalpina T.Yukawa et Y.Yamashita

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は細く伸長する。茎は直立し、中央部にやや厚みのある長楕円形の葉を 1 個つける。6～8 月、茎頂に 1 個の紅紫色の花を横向きに開出する。背萼片は直立し、側萼片と側花弁は唇弁を覆うようにつく。唇弁の中央に沿って幅広い淡紫色の帯がある。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州 (中部地方以北) に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の湿地から湿性の草原などに生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化による生育環境の消失、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。2017 年に新種として記録された。これまでに報告されたトキソウの中に含まれている可能性がある。生育地・個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 198. Yukawa, Yamashita (2017)
(沼宮内 信之)

ショウキラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Yuania japonica Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm になる多年生の菌従属栄養植物。根茎は肥厚し、よく分枝する。茎は多肉で淡紅色となり、鱗片葉をまばらにつける。7～8 月、分枝した枝先に淡紅紫色の大きな花をつける。萼片は広楕円形で、鈍頭、大きく開出する。側花弁は萼片よりも短く、白色、直立する。唇弁は袋状で、中央に幅広い細突起を持つ条があり、そこに紫色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道 (南西部) ・本州・四国・九州・屋久島に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林などのやや湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。花が目立つ腐生ランで、地上部は 1 週間程度で枯れる。個体数が少ない。
- ❖ 文献 117. 千葉高男ほか (2002)、193. 関根清正 (2003)
(沼宮内 信之)

カキツバタ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) アヤメ科

Iris laevigata Fisch.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 40～90cm の多年草。根茎は分枝して多くの繊維で覆われる。葉は剣状で、中脈はない。5～6 月、花茎の頂部に 2～4 個の花をつける。花は青紫色で、外花被片の拡大部は楕円形で垂れ、中央から爪部は白色～淡黄色となる。内花被片は倒披針形で直立する。さく果は長楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、盛岡市、花巻市、一関市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 水辺や低層湿原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 盛岡市に県指定天然記念物「山岸のカキツバタ群落」があり、盛岡市の花になっている。
- ❖ 文献 199. 菅原亀悦・有泉智之（1989）

(島田 直明)

エゾミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium emersum Rehm.

環境省 なし

- ❖ 形態 多年生の水生植物。水深により抽水、浮葉、枕水植物となる。葉は線形で、抽水葉は背稜があり、断面は三角形となる。沈水葉には稜はない。7～9 月、球状の頭状花序をつける。上部は雄性頭花が 4～7 個、下部には腋性～腋上性～着性で雌性頭花が 3～4 個つける。
- ❖ 分布の概要 岩手山、雫石町、紫波町、宮古市などに分布する。北海道、本州（中部地方以北）、北半球に広く分布する。
- ❖ 生育状況 水位の浅い池、河川、水路、湿地に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、水路改修、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。類似の生育状況からなるナガエミクリと誤同定されている場合がある。そのため、DNA 分析などが必要といえる。生育地、個体数ともに少ない。

(沼宮内 信之)

タマミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium glomeratum (Beurl. ex Laest.) L.M.Newman

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年生の抽水植物。根茎は横に這う。下部の葉は浮葉となる場合があり、上部は抽水葉となる。葉はやや円形の断面を持ち、上部になるにつれて次第に細くなり、先端は尖る。7～8 月、葉よりも短い花茎を出し、数個の球形の頭状花序を腋生する。花茎の上部の 1～2 個は雄性で、下部の 3～6 個は雌性で、柄がある。堅果は紡錘形で、短い柄があり、稜はない。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、アジア・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 湖沼、河川、水路、湿原内の池塘などの水深が 50cm よりも浅い水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・湿原開発、圃場整備、道路工事（水路）、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。近縁種のミクリにくらべ、小型で、個体数も少ない。

(沼宮内 信之)

イヌノヒゲ

イネ目 ホシクサ科

Eriocaulon miquelianum Koern.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10cm ほどの小型の一年草。葉は線形で 7~9 脈あり、先端は尖る。9 月、4~5 肋がある花茎を出し、茎頂に楕円錐形の頭花をつける。総苞片は披針形で淡緑色、先は長く尖る。花床に毛はない。花苞は倒卵形くさび形で先が尖り、上端に少数の白色短毛がある。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、山田町、大船渡市で記録されている。本州・四国・九州、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低湿地、山地の貧栄養な湿地など。
- ❖ 脅威 湿地開発、水環境の変化など。
- ❖ 特記事項 県内で見つかっているものは、東北地方に広くみられる柱頭が 1~2 本に減数する型である。県内のホシクサ科に関する知見は乏しく、調査が進むことで新たな生育地が発見される可能性がある。
- ❖ 文献 81. 鈴木まほろ・小水内正明 (2008)、114. 大谷雅人ほか (2013)

(鈴木 まほろ)

タカネスズメノヒエ

イネ目 イグサ科

Luzula oligantha Sam.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10~15cm になる多年草。根出葉は線形で、少数がつき、茎葉は 1~2 個で、白長毛がすこしある。7~8 月、少数の花からなる頭花を少数つける。花被片は濃褐色から黒褐色で、葯は花糸の半分長で小さい。さく果は花被片と同色で、種枕は明らかでない。
- ❖ 分布の概要 焼石岳、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国（剣山）、朝鮮半島・中国・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。近縁種が多く、再同定する必要がある。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、200. 大森鉄雄・高橋久 (1993)

(沼宮内 信之)

オクタマツリスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex filipes Franch. et Sav. subsp. *kuzakaiensis* M.Kikuchi

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 30~60cm になる多年草。根茎は短く、叢生する。稈の基部の鞘は無葉で、赤紫色を帯びる。葉は深緑色で、前年の葉が花時まで残る。小穂は離れてつく。頂部の雄小穂は淡緑色、側小穂はまばらに数個の雌花をつける。雌鱗片は淡緑色で、果胞は有脈で、無毛。
- ❖ 分布の概要 宮古市、花巻市に分布する。本州（岩手県~岐阜県）に分布する。
- ❖ 生育状況 低木林のやや湿性な林床に生育している。
- ❖ 脅威 森林開発、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 滝沢市のコナラ二次林に生育するが個体数は少ない。また、登山路に近い場所に生育するが個体数が非常に少ないため、保全対策が必要となる。
- ❖ 文献 12. 大森鉄雄 (2001)、201. 大森鉄雄 (2013)、202. 沼宮内信之 (2017)、203. 沼宮内信之 (2017)、204. 大森威宏 (2019)

(沼宮内 信之)

サナギスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex grallatoria Maxim. var. *heteroclita* (Franch.) Kük. ex Matsum.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の小形の多年草。根茎はやや伸長し、ゆるく叢生する。葉はやや硬く、幅広いが二つ折りにはならない。花茎は葉より長くなく、1つの雄雌性の小穂をつける。先端は雄花部で短く、雌花部は2～5個の花をまばらにつける。果胞は有毛。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市に分布する。本州・四国・九州、台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 樹林下の岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 母種ヒナスゲとは雌雄同株という点で異なるが、全体が大きく、葉の幅なども異なる。
- ❖ 文献 205. 大森鉄雄 (2016)

(沼宮内 信之)

ハタベスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex latisquamea Kom.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 40～80cm の多年草。根茎は短く伸長し、ゆるく叢生する。基部の鞘は暗赤褐色で、短軟毛がある。葉はやわらかく、扁平で、短軟毛をつける。小穂は3～4個で、頂小穂は雄性、側小穂は雌性で、いずれも密に多数の小花をつける。果胞は雌鱗片よりも大きく、斜めに開き、黄褐色で、有脈、無毛、上方は長嘴となり、口辺は2裂する。
- ❖ 分布の概要 岩手町、滝沢市、盛岡市に分布する。北海道・本州（中部地方以北）・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 湧水地などの湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。

(沼宮内 信之)

ヌマクロボスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex meyeriana Kunth

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm の多年草。根茎は短く、密に叢生し、匍匐枝を出さない。基部の鞘は無葉身で栗褐色、光沢があり、硬い。葉は粉緑色で硬い。小穂は上部に集まり、頂小穂は雄性、側小穂は1～2個で、雌性となり、柄がなく、直立する。果胞はやや扁平で、密に細突起があり、灰緑色で、先端はきわめて短い嘴となる。
- ❖ 分布の概要 滝沢市などに分布する。本州（中部地方以北）・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地湿原に群生することが多い。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化による生育環境の悪化など。
- ❖ 特記事項 低層湿原で谷地坊主を作ることが知られている。湿原の減少とともに生育地も減少した。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

ウスイロスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex pallida C.A.Mey.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は地下に長く這い、まばらに叢生する。基部の鞘は褐色で、繊維状に細裂することがある。小穂は 4～10 個が上部では密に、下部ではやや間を開けてつく。苞には葉身がない。小穂は雄雌性で、時に雄性あるいは雌性が混じる。果胞は狭倒卵形で、縁に狭翼があり、圧短毛がはえる。
- ❖ 分布の概要 久慈市、一関市に記録がある。北海道・本州（北部）、東南アジア（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 低地から山地の湿性な草原や林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、河川改修など。
- ❖ 特記事項 生育地がきわめて少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

(沼宮内 信之)

ダケスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex paupercula Michx.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm の多年草。根茎は横に這い、叢生する。基部の鞘は赤褐色を帯び、わずかに繊維状に細裂する。葉は鮮緑色で、やや柔らかい。苞は無鞘で、最下部は長い葉身となる。頂小穂は雄性、側小穂は 2～4 個で、いずれも長い柄があって下垂する。果胞は扁平な 3 稜形で、微細な突起があり、無脈、口部は全縁となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、北千島・北半球の北部に分布する。
- ❖ 生育状況 寒冷地や亜高山帯の湿原の小凹地に生育する。
- ❖ 脅威 登山道の整備、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。個体数がきわめて少なく、生育地も限られる。

(沼宮内 信之)

カミカワスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex sabynensis Less. ex Kunth var. *sabynensis*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は密に叢生し、匍枝は出さない。基部の鞘は黒褐色で、著しく繊維状に細裂する。小穂は茎の上方にややまとまってつき、頂小穂は雄性で 1 個、側小穂は雌性で 1～2 個つく。果胞は倒卵形で、細脈が明らかで、有毛、上部は急に狭まり短嘴となり、口部は明瞭な 2 歯になる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（北部）、朝鮮半島・シベリア（東部）・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山路の整備、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。きわめて生育地が少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

サハリントスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex sachalinensis F.Schmidt var. *sachalinensis*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる多年草。根茎は叢生せず、細い匍匐枝を出す。基部の鞘は褐色となる。葉は扁平でやや硬く、前年の葉が果期にも残る。小穂は 2～4 個で、間隔を開けて直立する。果穂はやや密につき、鈍 3 稜形の倒卵形、無毛、脈があり、頂部はきわめて短い嘴となり、淡暗緑色で、後に帯褐色となる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、岩泉町、早池峰山などに分布する。千島・サハリン・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 変種コイトスゲと再検討する必要がある。分布の南限にあたる。
- ❖ 文献 201. 大森鉄雄 (2013)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

センダイスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex sendaica Franch.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の多年草。根茎は横に這い、長い匍匐枝を出す。基部の鞘は栗色で、糸網条に細裂する。稈は 3 稜形で、上部がざらつく。苞は有鞘で、上部は刺状、下部は小穂よりも長い葉身になる。小穂は 3～4 個で柄があり、上部の 1/3 は雄花部、下方の 2/3 は雌花部となる。果胞は脈目立ち、やや開出した短毛をつける。
- ❖ 分布の概要 一関市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 疎林の林床で日当たりのよい岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 スゲの仲間としては数少ない秋季 (8～10 月) に開花・結実する。分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 34. 鈴木實 (2000)、206. 吉田繁・高野祐晃 (2007)

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミヤケスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex subumbellata Meinsh. var. *subumbellata*

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。根茎はやや叢生し、細い匍匐枝を伸ばすことがある。基部の鞘は黄褐色で、繊維状に分裂しない。葉は花茎よりも短く、やや細い。雄小穂は短く、雌小穂は 1～3 個で上部まとまってつくものと、根際につくものがある。果穂は密につき、鈍 3 稜形で脈が不明で、微細毛がある。口部は凹形となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州 (早池峰山)、朝鮮半島・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 自然災害、登山者の踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。変種クモマシバスゲは本州 (中部地方以北) に分布し、本種の本州での分布は早池峰山のみといわれている。

(沼宮内 信之)

オノエスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex tenuiformis H.Lév. et Vaniot

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 15～40cm になる多年草。根茎は短く、叢生する。基部の鞘は褐色の繊維となる。葉は花茎よりも短く、やや軟質で、裏面は淡緑色になる。頂小穂は雄性で、棍棒状で、長い柄がある。側小穂は雌性で、長い柄があって斜上から點頭する。果胞は卵状紡錘形で、嘴は長く、その縁は著しくざらつき、口部は凹形となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部）・サハリン・千島・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい岩の間や砂礫のある草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(沼宮内 信之)

ホロムイクグ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex tsuishikarensis Koidz.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～50cm の多年草。根茎はまばらに叢生し、匍枝を伸ばす。基部の鞘は灰褐色で、少し繊維状に裂ける。葉は三角柱状で灰緑色となる。雄小穂は 1 個で頂生し、1～2 個の雌小穂が離れてつく。苞は葉状で、上方は鞘がなく、下方は鞘がある。果胞は倒広卵形で、上方やや急に狭まり、短嘴となり、口部は濃褐色になる。
- ❖ 分布の概要 滝沢市に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、南千島・北アメリカ（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 寒冷地や湿原の浅い水域に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化による生育環境の悪化、水質汚染など。
- ❖ 特記事項 生育地がきわめて少ない。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明（2010）

(沼宮内 信之)

ヌイオスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex vanheurckii Müll.Arg.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～40cm になる多年草。根茎は斜上して伸長し、疎生あるいは叢生する。基部の鞘は濃赤紫色で、やや光沢があり、糸網状に細裂する。葉は緑色で、柔らかい。小穂は茎頂にまとまって 2～3 個つき、直立する。頂小穂は雄性で黒紫色、側小穂は雌性。果胞は球状倒卵形で、毛は上方ほど多く、2 肋脈があり、上部は急に狭まり、短い嘴、暗紫褐色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・シベリア（東部）・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の日当たりのよいやや乾いた草原や砂礫の間に生育する。
- ❖ 脅威 登山路の整備、登山者の踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。いずれの生育地も個体数が少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

(沼宮内 信之)

エゾサワスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex viridula Michx.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の多年草。根茎は短く叢生する。葉は硬く、黄緑色で、つやがある。小穂は 3～5 個が茎頂にかたまってつけ、柄はほとんどない。苞は葉状で、花序よりも高い。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で密に果胞を多数つける。果胞は無毛で、多数の脈があり、広卵形、わずかにふくらみ、上部は急に狭まり短嘴になり、口部は硬化して 2 歯となる。
- ❖ 分布の概要 岩手町、盛岡市に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、東アジア（北部）・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿原や冠水地などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化による生育環境の悪化など。
- ❖ 特記事項 生育地がきわめて少ない。
- ❖ 文献 12. 大森鉄雄（2001）、81. 鈴木まほろ・小水内正明（2008）

(沼宮内 信之)

タカネクロスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Scirpus maximowiczii C.B.Clarke

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる多年草。根茎は短く、斜上する。稈は 1～3 節があり、葉は稈の基部に集まり、稈上の葉の基部は鞘となる。7～8 月、稈の頂に小型の散房状花序をつけ、4～18 個の小穂がある。苞は無葉身の鞘となり、黒色を帯びる。小穂は楕円形～卵状楕円形で、黒色に熟す。果実は倒卵形で、扁 3 稜形で刺針花被片は 6 個ある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・ウスリー・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の湿性な斜面に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏み荒らし、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）、207. 須川直義（2007）

(沼宮内 信之)

コシンジュガヤ

イネ目 カヤツリグサ科

Scleria parvula Steud.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～90cm になる一年草。茎は 3 稜形で翼となる。葉は線形で先は尖る。葉鞘には広い翼があり、花茎を囲む。花序は円錐形で、2～4 節ある。分花序は 3～8 個でまばらに小穂をつける。果実は球形から楕円形で、白色で細かい格子紋があり、全体に光沢があり、無毛から少し細毛がある。
- ❖ 分布の概要 花巻市、奥州市、遠野市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）・中国（東北部）・東南アジア・インド・アフリカに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりの良い湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地・個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 171. 竹原明秀（1985）、114. 大谷雅人ほか（2013）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

チシマドジョウツナギ

イネ目 イネ科

Puccinellia kurilensis (Takeda) Honda

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20~50cm になる小型の多年草。根茎はごく短く、外鞘的に匍匐枝を出すこともある。葉は柔らかい膜質で、粉緑色を帯び、葉舌は高さ 2mm ほどある。6~10 月、やや赤紫を帯びた円錐花序が直立に出る。花序の枝はほぼ平滑で、斜上し、熟期には横から下向きになる。小穂も赤紫色を帯び、護穎の基部近くに短毛がある。
- ❖ 分布の概要 宮古市津軽石川河口、大船渡市盛川河口、陸前高田市古川沼から報告されている。北海道、サハリン・ウスリー・千島・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 河口の塩性湿地など。
- ❖ 脅威 海岸開発（防潮堤建設、埋め立てなど）、高潮・時化などによる攪乱など。
- ❖ 特記事項 近縁種のタチドジョウツナギとの判別が難しく、精査する必要がある。県内に塩性湿地はわずかしがなく、生育環境の保護が急務である。
- ❖ 文献 159. 高橋大等（1997）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ヒゲシバ

イネ目 イネ科

Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim. ex Rendle

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10~30cm の小型の一年草。全草にきわめて小さな腺点がある。葉は狭披針形で硬く、葉縁には多くの腺点と基部がふくらんだ硬い長毛がややまばらに生える。8~10 月、線形の円錐花序を直立させ、やや密に花をつけることで穂状花序のようにみえる。小穂は 1 小花からなり、紫色を帯びた赤褐色で、光沢がある。
- ❖ 分布の概要 花巻市などに分布する。本州・四国・九州、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低地~山地の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、踏みつけ、乾燥化による生育環境の悪化など。
- ❖ 特記事項 小型の一年草のため、県内の生育地は明らかにされていない。
- ❖ 文献 171. 竹原明秀（1985）

(沼宮内 信之)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

マツモ

マツモ目 マツモ科

Ceratophyllum demersum L.

環境省 なし

- ❖ 形態 多年生の沈水性浮葉植物。根はなく、水面に浮遊する。茎は伸長し、盛んに分枝する。葉は 5~8 個が輪生し、線状の裂片が 1~2 回二叉状に分かる。裂片の縁には鋸歯がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、矢巾町、花巻市、奥州市、陸前高田市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、世界に広く分布する。
- ❖ 生育状況 池沼やため池、河川、水路などに生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、湿原開発、河川整備、河川開発、水質汚染など。
- ❖ 特記事項 確認されている生育地が少ない。
- ❖ 文献 79. 島田直明ほか（2024）

(島田 直明)

ヤマキケマン

キンポウゲ目 ケシ科

Corydalis ophiocarpa Hook.f. et Thomson

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。茎は斜上し、白っぽい青緑色で無毛となる。葉は卵形～狭卵形で、羽状複葉になる。5～7 月、総状に多数の花をつける。花は緑黄色で、時に暗紫色を帯びる。蒴果は線形で、いちじるしく屈曲し、基部に小さな苞がある。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、釜石市などに分布する。本州（関東地方以西）・四国、中国・台湾・インド（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 半日陰の岩上、あるいは石灰岩地帯の岩礫地などに生育する。
- ❖ 脅威 草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。個体数は多くない。
- ❖ 文献 208. 片山千賀志（2008）

（竹原 明秀）

コマクサ

キンポウゲ目 ケシ科

Dicentra peregrina (Rudolph) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の小形の多年草。根茎は短く、数個の葉を根生し、全体に無毛で粉白色を帯びる。葉は柄があり、3 出状に多数に細かく分裂する。7～8 月、総状花序を出し、2～7 個の淡紅色の花をつける。花弁は 4 個あり、外側の 2 個はボート状で基部は胞状にふくれ、上半分は反り返り、内側の 2 個はやや小さい。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、シベリア東部・サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の火山砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。岩手山の群生地では個体数が増加しているという情報もある。
- ❖ 文献 209. 井上幸三ほか（1983）、210. 千葉博・小水内正明（2011）

（鈴木 まほろ）

ナンブソウ

キンポウゲ目 メギ科

Achlys japonica Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 多年草。高さ 20～cm になる多年草。根茎は細く、横に長く這う。葉は根出葉で、長い葉柄があり、3 小葉からなる。頂小葉は倒卵形で、先端は 3 浅裂、側小葉はゆがんだ扇状となる。5～7 月、根茎から伸び出した細い茎に穂状花序をつける。花は花被がなく、9～15 個の不同長の白い雄ずいと 1 個の雌ずいがある。
- ❖ 分布の概要 二戸市、八幡平市、盛岡市、岩泉町、遠野市、久慈市などに分布する。北海道・本州（北部）、中国（北部・東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林のやや薄暗い林床の岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 風穴地や岩塊流地帯に見られる。個体数はきわめて少ない。
- ❖ 文献 211. 八幡輝夫・三浦敢弘（1970）

（鈴木 まほろ）

オオレイジンソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Aconitum iinumae Kadota

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。茎は直立し、下部はすこし分枝する。根出葉は長い柄があり、腎円形で 7～9 中裂し、裂片はさらに浅裂する。茎葉は上部ほど小さく、柄も短くなる。7～8 月、長い総状花序に 10～40 個の淡黄色の花がつき、花柄には曲がった毛がある。花弁にある距は細長い。
- ❖ 分布の概要 遠島山、焼石岳、牛形山、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・中国（東北部）・ウスリー・オホーツク沿岸に分布する。
- ❖ 生育状況 針葉樹の林床や林縁のやや湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が限られ、個体数が減少している。早池峰山では近年、食害により消失した。
- ❖ 文献 200. 大森鉄雄・高橋久（1993）

(鈴木 まほろ)

アズマレイジンソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Aconitum pterocaulle Koidz. var. *pterocaulle*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80～150cm になる多年草。茎は途中で曲がり、上部はしばしば地に垂れ、上部には曲がった毛があり、下部の稜は翼状になる。葉は腎円形、5～7 中裂し、さらに裂片は浅裂し、粗い鋸歯がある。8～10 月、淡い紅紫色の花を総状につける。花軸と花柄には曲がった毛がある。雄ずいは無毛で、雌ずいは曲がった毛がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、奥州市、遠野市、一関市、住田町などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 個体数が減少し、絶滅した地域も多い。
- ❖ 文献 212. 吉田繁（1997）

(鈴木 まほろ)

ミチノクフクジュソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～25cm になる多年草。根茎は太く短く、多数の根を出す。葉は互生し、3～4 回羽状に細かく分裂する。4～5 月、茎の先端付近に 3～4 個の明黄色の花を水平に開く。萼片は 5～7 個で、長さは花弁の 1/2～2/3、緑色、花弁の裏側は赤みを帯び、10～15 個ある。瘦果は多数で、卵円形の集果となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、葛巻町、岩手町、盛岡市、紫波町、一関市などに分布する。本州・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 草原の管理放棄、圃場整備、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。農地周辺の管理されている草原に出現するが、耕作放棄などに伴い、管理放棄され、自然遷移が進み、個体数が減少している。
- ❖ 文献 213. Suda, Adachi（1991）

(島田 直明)

フクジュソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Adonis ramosa Franch.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の多年草。根茎は太く肥大する。葉は互生し、3～4 回羽状に細かく分裂する。3～4 月、茎の先端付近に 1～4 個の黄色～朱黄色の花をボウル状に開く。萼片は 5～10 個で、長さは花弁よりもわずかに短く、赤みを帯び、9～20 個ある。瘦果は多数で、卵円形の集果となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林縁、湿性な斜面などに生育する。
- ❖ 脅威 草原などの管理放棄、圃場整備、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。農地周辺の管理されている草原に出現する個体群は、耕作放棄などに伴い、管理放棄され、自然遷移が進み、個体数が減少している。
- ❖ 文献 213. Suda, Adachi (1991)、99. 関根清正 (2011)

(島田 直明)

ハクサンイチゲ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Anemone narcissiflora L. subsp. *nipponica* (Tamura) Kadota

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～40cm になる多年草。根茎は垂直で、長い柄のある根出葉を束生する。長い白長毛が密生する。葉身は 3 小葉に分かれ、さらに羽状分裂する。茎葉は 4 個で輪生し、柄はなく、細い裂片に欠刻する。6～8 月、茎の先端に花を 1～5 個を散形状につける。萼片は 5～7 個で、白色となる。瘦果は広楕円形、広い翼がある。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地が限られる。

(竹原 明秀)

レンゲシウマ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Anemonopsis macrophylla Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。根出葉と下部の茎葉は大型で、2～4 回 3 出複葉で、小葉は卵形、先端は鋭く尖り、不揃いの粗い鋸歯がある。7～8 月、花茎を高く伸ばし、数～十数個の淡紫色の花を下向きに開く。萼片は長楕円形で円頭となる。花弁は倒卵形で開出しない。袋果、葉の両面、茎は無毛となる。
- ❖ 分布の概要 遠野市、一関市、住田町、大船渡市などに分布する。本州（岩手県～奈良県の太平洋側）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿潤な林床に生育する。耐陰性が高く、スギの人工林にも生える。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。1 属 1 種で日本固有種にあたる。花や果実が美しいことから、山野草として販売されている。
- ❖ 文献 214. 吉田繁 (1980)、11. 吉田繁 (1985)、38. 小水内長太郎・高野祐晃 (1986)、138. 藤澤英俊 (2023)

(鈴木 まほろ)

ミヤマオダマキ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Aquilegia flabellata Siebold et Zucc. var. *pumila* (Huth) Kudô

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 10～25cm の多年草。根は太く長く垂直に伸びる。根出葉は数個あり、2 回 3 出複葉で、小葉は扇形で、裏面の基部近くに軟毛がまばらに生える。茎は葉柄とともに軟毛がある。6～8 月、茎の先端に 1～数個の花をつける。萼片は青紫色、広卵形で、花弁は細めで、上半分は白色、基部から距にかけては青紫色となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 高山草原に生育する。
- ❖ 脅 威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地が少ない。栽培されているオダマキはミヤマオダマキの改良したものといわれている。
- ❖ 文 献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

トウゴクサバノオ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は発達せず、基部に数個の根出葉が束生する。葉は鳥足状に 3～5 枚の小葉に分裂し、頂小葉は広卵形～倒卵形で、鈍鋸歯がある。4～5 月、茎の先端に数個の花をやや垂れ下がるようにつける。萼片は淡黄緑色～白色、花弁は黄色で小さく直立する。茎の基部に閉鎖花をつける。
- ❖ 分布の概要 大船渡市に分布する。本州（宮城県以南）・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林内から林縁に生育する。
- ❖ 脅 威 森林開発、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られる。
- ❖ 文 献 215. 猪苗代正憲（2005）

(竹原 明秀)

ミスミソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 高さ 10～15cm の常緑性の多年草。根茎は細長く這い、若い新葉と葉柄には長い白毛が多い。葉は根生し、長柄があり、葉身はやや三角形で、3 浅裂して先端は尖る。4～5 月、茎頂に 1 個の花をつける。花弁状の萼片は 6～10 個、白色が多く、淡紅色、淡青紫色になることもある。
- ❖ 分布の概要 花巻市、西和賀町、北上市、奥州市、一関市に分布する。本州・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅 威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。ミスミソウには 4 品種があり、全国的に住み分けられているという。県内で報告されている本種は日本海側分布にあたり、オオミスミソウに該当する。オオミスミソウはミスミソウの品種にあたることから、種名はミスミソウを採用する。

(島田 直明)

コキツネノボタン

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Ranunculus chinensis Bunge

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 25～60cm になる一年草。茎は直立し、葉柄とともに全体に開出した荒い毛が多い。葉に 1 回 3 出複葉で、小葉はさらに 2～3 回 3 出状に中～深裂し、両面に伏毛をまばらにつける。5～6 月、茎の先端付近に数個の花をつける。花弁と萼片はほぼ同長で、萼片の外側に長毛がある。花床は伸び、集合果は長楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 奥州市、岩泉町、釜石市などに分布する。北海道（南部）・本州・四国・九州、中国・朝鮮半島・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 休耕田、低地の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 耕作、湿地開発、刈り払いなど。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 216. 小水内長太郎・鈴木弘文（1985）、71. 高野祐晃（2005）

(竹原 明秀)

チャボカラマツ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Thalictrum foetidum L. var. *glabrescens* Takeda

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。茎は稲妻状に屈曲し、上部は分枝する。葉は 2～4 回 3 出複葉で、小托葉はない。小葉には腺毛がなく、表面は明らかにへこみ、裏面は隆起し、緑色で、やや大きい。6 月、まばらに花をつける。萼片は狭楕円形で、早落する。果実は紡錘形でやや扁平、8～10 本の稜がある。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町などに分布する。北海道（後志・石狩地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩の岩壁に生育する。
- ❖ 脅威 斜面崩壊などの生育地の消失、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 石灰岩に特有の植物とされるが、石灰岩以外からの報告もあり、検討が必要とされる。
- ❖ 文献 72. 清水建美（1958）、17. 菊地政雄（1965）

(竹原 明秀)

ヤマシャクヤク

ユキノシタ目 ボタン科

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Takeda

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～40cm になる多年草。根茎は横に這い、太い根を出す。茎には 3～4 個の 2 回 3 出複葉が互生し、小葉は楕円形～倒卵形、先端は尖る。葉の両面は毛がなく、裏面は白色を帯びる。5 月、茎の先端に大型の花を 1 個、上向き半開する。花弁は白色で倒卵形、5～7 個をつけ、完全に開ききらない。袋果は熟すと裂開する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の日当たりがよい林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。観賞用や薬用として栽培されているシャクヤクの近縁種で、園芸的価値が高い。近年、減少が著しい。
- ❖ 文献 107. 大森鉄雄（1999）、117. 千葉高男ほか（2002）、217. 高野祐晃ほか（2007）

(島田 直明)

ヒロハカツラ

ユキノシタ目 カツラ科

Cercidiphyllum magnificum (Nakai) Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 15m になるが、通常は高さ 5m、胸高直径 5cm 程度の夏緑広葉小高木。樹皮は楕円形の皮目が多く、老木になってもあまり割れない。葉は対生につくが、短枝では 1 個ずつつく。葉は円心形、先端は鈍円頭、基部は深く心形なる。鋸歯は明瞭にある。4～5 月、開葉と同時に開花する。種子の両端には翼が発達する。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、五葉山などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の溪谷沿いの湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、雪崩、ニホンジカによる実生の食害など。
- ❖ 特記事項 以前から複数の箇所から報告されているが、近縁種のカツラと誤同定されている場合があるため、再確認が必要といえる。
- ❖ 文献 49. 吉田繁（2001）

(鈴木 まほろ)

ヤシャビシヤク

ユキノシタ目 スグリ科

Ribes ambiguum Maxim.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～50cm の夏緑広葉小低木。ブナなどの老木の幹上に着生し、長枝と短枝に枝分かれする。太目の根が老木のまたに定着し、細い幹を伸ばし、枝を広げる。若い枝は褐色の短毛をつけるが、のちに脱毛し、灰色の樹皮になる。葉は互生で短枝の先に集まってつく。葉柄は短毛が密生する。葉身は円味を帯びた五角形で、掌状に 3～5 浅裂するほか、全体に浅い鈍鋸歯があり、両面に短毛が見られる。液果は球形で全面に毛があり、緑色に熟す。
- ❖ 分布の概要 岩手山、焼石岳、早池峰山などに広く分布する。本州・四国・九州、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 深山のブナ、ミズナラなどの老木の幹上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 樹木着生することから珍重されることもあり、盗掘による個体数が減少している。

(竹原 明秀)

ヤブサンザシ

ユキノシタ目 スグリ科

Ribes fasciculatum Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1m になる夏緑広葉低木。下部から分枝し、株状となる。若い枝は灰白色で軟毛を密生するが、のちに褐色、無毛となる。葉は互生し、短枝に集まってつく。葉身は広卵形で、掌状に 3～5 浅裂ないし中裂し、両面に短い軟毛を生じる。4～5 月、短枝の葉腋に黄緑色の花を束状につける。液果は球形、無毛で赤色に熟す。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 二戸市、一戸町、葛巻町、久慈市、岩泉町、宮古市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 山野、傾斜地などのやや乾燥した低木林などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともに少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

エゾスグリ

ユキノシタ目 スグリ科

Ribes latifolium Jancz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1~1.5mになる夏緑広葉低木。よく分枝し、株状となる。若い枝は白毛を密生するが、やがて無毛となる。葉は短い白毛が密生し、長腺毛がまじる。葉身は腎円形で、掌状に3~5浅裂し、葉縁は重鋸歯、両面とも灰白色となる。5~6月、軸に軟毛を密生する総状花序をつける。萼は紅紫色で倒円錐形、萼筒は短い鐘形。液果は赤熟し、腺毛はない。
- ❖ 分布の概要 遠別岳、安家森、六角牛山、愛染山などに分布する。北海道・本州（北部）、サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地~亜高山帯のやや湿性な斜面に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 98. 大森鉄雄 (1996)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

ザリコミ

ユキノシタ目 スグリ科

Ribes maximowiczianum Kom.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1.5~2mの夏緑広葉低木。幹は下部から分枝し、株状になる。若い枝ははじめ軟毛と腺毛があるが、のちに無毛となる。葉身は三角状卵形、基部は浅く心形または切形で、掌状に3~5中裂し、欠刻状の鈍鋸歯となる。両面には伏した腺毛がある。5月、黄緑白花の花が総状花序につく。液果は卵状球形で赤熟する。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、盛岡市、遠野市、釜石市、大船渡市などに分布する。本州（岩手県から中国地方）・四国、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地~亜高山帯のやや乾性な斜面などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地は点在するが、いずれも個体数は少ない。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄 (1965)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

トガスグリ

ユキノシタ目 スグリ科

Ribes sachalinense (F.Schmidt) Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50~80cmの夏緑広葉小低木。幹の株は地面を這い、途中から立ち上がる。若い枝は短毛がやや密生し、まばらに腺毛を混じる。葉は長柄があり、葉身は腎円形で、基部は深い心形となり、掌状に3中裂する。5~6月、総状花序に多数の両性花をつけ、淡黄緑色となるが、ときに紫紅色を帯びる。液果は赤熟し、腺毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 安家森、青松葉山、早池峰山、六角牛山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国、サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地~亜高山帯の谷沿いなど、やや湿性な斜面に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地は多いが、個体数は少ない。
- ❖ 文献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵 (1980)

(竹原 明秀)

ミヤママンネングサ

ユキノシタ目 ベンケイソウ科

Sedum japonicum Siebold ex Miq. subsp. *japonicum* var. *senanense* (Makino) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 3~10cm の小型の多年草。根茎は多少、地表を這う。茎は紅紫色を帯び、細く、多肉で円柱状になり、下部から多くの枝を出す。葉はまばらに互生し、線状で、先端はやや尖頭、黄緑色で下部の葉は紅紫色を帯びることが多い。6~8 月、枝の先に 3 出集散状の花序をつけ、多数の黄色の花を上向きに開く。
- ❖ 分布の概要 真昼岳、焼石岳に分布する。本州に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山~高山帯の岸壁や岩の割れ目、砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 土砂流出、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 218. 高野祐晃・村井三郎 (1980)

(竹原 明秀)

タコノアシ

ユキノシタ目 タコノアシ科

Penthorum chinense Pursh

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30~80cm になる多年草。根茎は肥厚し、数個の走出枝を出す。茎は直立し、分枝せず、無毛で淡紅色を帯びる。葉は狭披針形~披針形、草質で、両端は長い鋭尖形で、細鋸歯がある。8~9 月、茎頂に数本の分枝した花枝をつけ、やや円味のある黄緑色の花を列状につける。萼裂片は直立から反転し、花弁はない。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州・奄美大島、東アジアに広く分布する。
- ❖ 生育状況 河川敷内の湿地、休耕田、沼地の周辺などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、河川の改修、海岸整備、道路建設、乾田化、湿地の乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地は減少傾向にある。休耕田の増加で増えている場所もあるが、自然遷移で消失することが多い。東日本大震災の津波によって絶滅した場所も多いが、その後、大発生した場所もある。これらは復興工事や自然遷移によって消失した場所も多い。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄 (2010)、26. 大森鉄雄 (2012)、55. 小山田智彰ほか (2012)、219. 渋谷晃太郎ほか (2014)

(島田 直明)

タチモ

ユキノシタ目 アリノトウグサ科

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 5～50cm になる両生の多年草。根茎は節が詰まり、茎を多数伸ばす。水中葉は 3～4 個が輪生し、羽状に細裂し、羽片はきわめて繊細となる。気中葉と陸生葉は線形で厚みがある。6～8 月、気中葉の葉腋に花をつける。雄花は 4 個の淡紅色の花弁からなる。雌花は花弁が早落性で、残った萼内に 4 本の柱頭が目立つ。石果は卵円形。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 花巻市、西和賀町、奥州市、一関市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・台湾・アムール・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 平地～山間地の貧養な湖沼やため池などの浅い水中などに生育する。夏季に水位が低下し、干上がっても生育する。
- ❖ 脅威 湿地・池沼開発、圃場整備、農薬汚染、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。水中と陸上で顕著な異形葉を示し、水位の変動とともに葉の形態を変化させる。
- ❖ 文献 220. 井上幸三ほか（1988）、13. 大森鉄雄（2010）、26. 大森鉄雄（2012）、197. 遠藤慎一ほか（2017）

(島田 直明)

タイツリオウギ

マメ目 マメ科

Astragalus mongholicus Bunge

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～70cm になる多年草。根茎は太く、木質化し、地上茎を叢生する。全体に白色の軟毛を散生する。葉は 1 回奇数羽状複葉で、小葉は 17～21 枚、長卵形、鈍頭となる。7～8 月、葉腋から総状花序を出し、黄白色の花を 5～10 個、密に横向きにつける。萼裂片は三角形で、黒褐色の短毛がある。豆果はいちじるしくふくらみ、下垂する。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町に分布する。北海道・本州（岩手県・中部地方）、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原、砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 石灰岩地帯に生育するが、草原生植物と考えられる。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 18. 村井三郎ほか（1978）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

イワオウギ

マメ目 マメ科

Hedysarum vicioides Turcz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～80cm になる多年草。小葉は 11～25 枚あり、狭卵形または狭楕円形で、裏面に伏した白軟毛がある。6～8 月、上方の葉腋から数個の花序が出て、10～30 個の花を下向きに開く。花は黄白色で、わずかに紅色を帯びる。節果は広線形で、2～4 個の小節果からなり、縫合線に幅狭い翼がある。
- ❖ 分布の概要 和賀岳、真昼岳などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の開けた場所、特に崩壊法面や砂礫質土壤に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られる。
- ❖ 文献 7. 大森鉄雄・高橋久（1980）、45. 大森鉄雄（1982）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

イヌハギ

マメ目 マメ科

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 60～150cm になる夏緑広葉半低木。全体に黄褐色の軟毛がある。葉は羽状に 3 小葉となり、頂小葉は長楕円形となる。7～9 月、茎頂および茎上部の葉腋から花茎が伸び、長い総状花序をつける。花は黄白色で、閉鎖花が葉腋にまとまってつく。節果は卵形で、閉鎖花のものはやや小さい。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、雫石町、西和賀町などに分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・インド・ヒマラヤに分布する。
- ❖ 生育状況 河原、草原、日当たりのよい砂地に生育する。
- ❖ 脅威 河川工事、道路工事、過度の草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地は点在するが個体数は少なく、いずれも減少している。

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

センダイハギ

マメ目 マメ科

Thermopsis lupinoides (L.) Link

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年生。葉は互生で三出複葉、小葉は卵形～楕円形～倒卵形で、表面は無毛で、裏面は白軟毛がある。花茎や萼には毛が密生する。5～8 月に総状花序を出し、黄色の大型の花をつける。豆果は広線形で上向きにつく。
- ❖ 分布の概要 沿岸各地に分布したとされている。北海道・本州、朝鮮半島・中国・ロシア（極東地方）・北アメリカ（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸草原に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、草原開発など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災前から生育地は減少傾向であった。津波によって生育地が大きく影響を受け、消失した生育地もあると考えられる。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

(島田 直明)

ツガルフジ

マメ目 マメ科

Vicia fauriei Franch.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。葉は偶数羽状複葉で、4～8 枚の小葉からなる。小葉は狭卵形で、先端は長くとがり、葉縁は細かく波状に縮れる。托葉はゆがんだ卵形または半切卵形で、歯牙がある。7～8 月、10 個前後の花を密に片側につける。花は紅紫色または青紫色の蝶形で、花柄はほとんどない。豆果は狭楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、北上市、金ヶ崎町、奥州市、一関市などに分布する。北海道（南西部）・本州（新潟県以北）、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の林縁や草原などに生育する。
- ❖ 脅威 雪崩などの生育環境の悪化、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地も限られ、個体数も少ない。

(竹原 明秀)

ヒロハクサフジ

マメ目 マメ科

Vicia japonica A.Gray

環境省 なし

- ❖ 形態 長さ 100cm になる多年生のつる植物。茎を四方に広げ、長く伸びた地下茎は木質化する。葉は 10～16 個の小葉からなり、小葉は長楕円形で、先端は円頭、両面に白軟毛があり、のちに表面は無毛となる。托葉は 2 裂し、目立つ。6～9 月、淡青紫色の花を総状に多数つける。花の翼弁は竜骨弁より長い。豆果は狭楕円形で、無毛、褐色に熟す。
- ❖ 分布の概要 久慈市に分布する。北海道・本州（近畿地方以北）、朝鮮半島・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の日当たりのよい砂地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波の影響は不明で、確認する必要がある。
- ❖ 文献 130. 鐵慎太郎ほか（2017）

(島田 直明)

キンロバイ

バラ目 バラ科

Dasiphora fruticosa (L.) Rydb.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～100cm になる夏緑広葉小高木。茎は分枝し、下部は木質、樹皮は赤褐色で薄くはがれる。葉は 5 個の小葉からなり、小葉は小さく、長楕円形で、裏面には伏毛がある。7～8 月、枝の先に数個の黄色の花をつける。萼片は草質で、背面は脈が隆起し、花弁は倒卵形となる。そう果は卵形で、長い毛がまばらにある。
- ❖ 分布の概要 焼石岳、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・朝鮮半島（北部）・中国・ヒマラヤに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山～高山帯の日当たりがよい岩場に生育する。
- ❖ 脅威 岩場の崩落、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

カワラサイコ

バラ目 バラ科

Potentilla chinensis Ser.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。根茎は太く、茎は長毛があり、根際で分枝し、四方に広がる。葉は羽状複葉で、小葉は 15～29 枚で、倒披針形、中肋近くまで羽状に深裂し、裂片は狭く尖る。茎の先端は分枝した花序となり、多数の黄色の花をつける。花弁は倒卵形、そう果は卵形で、背面は稜となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町、宮古市、釜石市などに分布するという。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・モンゴル・アムール・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい河原や海岸の砂地に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、刈取り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 これまで、普通種と考えられていたが、生育地、個体数とも少ないか、再確認されていない場所がある。また、海岸の砂地の個体は東日本大震災の津波で、全滅したと考えられる。
- ❖ 文献 132. 関根清正 (2018)

(島田 直明)

ミヤマキンバイ

バラ目 バラ科

Potentilla matsumurae Th.Wolf var. *matsumura*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の小型の多年草。根茎は太く、基部には枯死した褐色の枯葉が密に残る。葉は根生し、3 出複葉となる。小葉は倒卵形で、光沢があり、両面に長い剛毛、縁に粗い鋸歯がある。7～8 月、葉腋から数本の花茎を伸ばし、数個の花を上向きにつける。花弁は倒卵形で、花床に短毛がある。そう果は平滑で、卵形となる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、早池峰山、五葉山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、済州島・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の尾根や風衝草原、崩壊性の砂礫地などに生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 八幡平・早池峰・栗駒指定植物。心皮に長毛があるケミヤマキンバイも見られる。
- ❖ 文献 209. 井上幸三ほか (1983)

(鈴木 まほろ)

オオタカネバラ

バラ目 バラ科

Rosa acicularis Lindl.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1～1.5m になる夏緑広葉低木。幹の株は地面を這い、途中から立ち上がる。樹皮は紫褐色で、帯白色の刺針を多数つける。葉は 5～7 枚の小葉からなり、耳片は半卵形で先端は尖る。小葉は楕円形で、やや粗い短鋸歯がある。6～7 月、小枝の先に 1～2 個の花をつける。花は紅紫色で、花弁は平開し、倒卵形となる。果実は黄赤色に熟す。
- ❖ 分布の概要 八幡平、北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・済州島・中国（東北部）・サハリン・カムチャツカ・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯のダケカンバ林の林床、日当たりのよい岩礫地、風穴地に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・指定植物。いずれの生育地では個体数が少ない。
- ❖ 文献 110. 竹原明秀 (2001)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ナガボノワレモコウ

バラ目 バラ科

Sanguisorba tenuifolia Fisch. ex Link var. *tenuifolia*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80～130cm になる多年草。根茎は太く、葉を根生する。葉は奇数羽状複葉で、11～15 枚の小葉からなり、小葉は長楕円状線形で、粗い鋸歯がある。8～9 月、分枝した枝先にやや太い円筒状の穂状花序を垂れ下げる。花は白色でやや大きく、葯は暗紫色となり、花序の先端から開花する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州（東北・関東地方）、サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿った草原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地・草地開発、圃場整備、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数もそれほど多くない。
- ❖ 文献 221. 小水内長太郎（1994）、99. 関根清正（2011）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ミヤマカワラハンノキ

ブナ目 カバノキ科

Alnus fauriei H.Lév. et Vaniot

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 8～10m になる夏緑広葉小高木。枝は無毛で暗紫色を帯び、小さな皮目を散生する。葉はくさび状倒卵円形またはくさび状倒心円形、先端は円頭で凹入し、低い波状の鋸歯がある。側脈は 6～7 対で、裏面に隆起する。4～5 月、開葉前に枝先に雄花序、その直下の 1～2 個の節に雌花序を腋生する。堅果は扁平で、縁に狭翼がある。
- ❖ 分布の概要 北上市、金ケ崎町に分布する。本州（岩手県～岐阜県）に分布する。
- ❖ 生育状況 多雪地のやや湿った山地斜面、河川敷内、湿原に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、河川改修、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 多雪地を代表する植物で、岩手県は分布の北限・東限にあたる。個体数が少なく、認識されていないために、伐採されることが多い。
- ❖ 文献 222. 大森鉄雄（2009）、223. 鈴木實（2013）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

クロツリバナ

ニシキギ目 ニシキギ科

Euonymus tricarpos Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さは 2～3m になる夏緑広葉低木。前年枝は紫褐色で、当年枝は緑色でなめらか。葉は 1～3 対が対生し、楕円形、先端は鋭く尖り、基部はくさび形、両面が無毛で、いちじるしいしわがある。7～8 月、当年枝と前年枝の間にある芽鱗痕わきから、1 対の集散花序を垂れ下げる。暗紫色の花を 3 個つける。花弁は 5 個、ほぼ円形で、内面に微突起が密生する。さく果は紅色に熟し、長い 3 翼をもつ倒三角錐形になり、3 個に裂開する。
- ❖ 分布の概要 五葉山、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の林床から林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、ニホンジカによる食害など。

(竹原 明秀)

エゾオトギリ

キントラノオ目 オトギリソウ科

Hypericum yezoense Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の多年草。根茎は木質化し、多くの茎を叢生させる。茎には 2 条の隆起線が走り、その上に黒点が並ぶ。葉は小さな明点が密生し、長楕円形で、先端は鈍い円頭、基部はやや茎を抱く。7～8 月、茎の先端ととそれに近い小枝に少数の花をつける。花弁はやや大きく、ゆがんだ倒卵形で、星多数の明線と小さな明点があり、縁に黒点がある。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、一関市などに分布する。北海道・本州（北部）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩地帯や海岸の岩礫の割れ目や岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。生育地、個体数ともに少ない。北方系の植物が特殊土壌（石灰岩）に沿って南下したと考えられている。
- ❖ 文献 16. 清水建美（1958）、18. 村井三郎ほか（1978）

(鈴木 まほろ)

タカネスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola crassa Makino subsp. *crassa*

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の有茎性の多年草。根出葉は少なく、茎葉は 3～4 個ある。葉が腎円形で、先端は円く、基部は心形、厚く、光沢がある。7～8 月、黄色の花をつける。側弁は無毛で、唇弁は大きく、褐色の条がある。雌ずいの柱頭の背部と縁に乳頭状の突起物がある。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・チベット・サハリン・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい火山砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。高山帯の火山砂礫地において植生初期段階に出現する。
- ❖ 文献 210. 千葉博・小水内正明（2011）、144. 武田眞一（2019）

(竹原 明秀)

テリハタチツボスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola fauriana W.Becker

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる有茎性の多年草。根茎は木化して肥厚し、よく分枝する。葉は鈍三角形で、先端は鈍く尖り、基部は浅くへこむか切形、厚く、光沢がある。托葉は幅狭い裂片に深く羽裂する。5 月、根茎あるいは茎上に花柄がつき、淡紫色の花を開く。側弁は無毛、距は小さく尖る。
- ❖ 分布の概要 西和賀町に分布する。本州（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 多雪地の山地帯、夏緑広葉樹林のやや暗い湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。多雪地に適応し、地上部が積雪下で越冬する特徴がある。
- ❖ 文献 91. 大森鉄雄・高橋久（1984）、224. 武田眞一（2017）

(竹原 明秀)

アイヌタチツボスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola sacchalinensis H.Boissieu var. *sacchalinensis*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm になる有茎性の多年草。根茎は木化し肥厚する。葉は円心形で、やや厚く、光沢があり、裏面はやや紫色を帯びる。茎の上部の葉は急に尖る。托葉は浅く羽裂する。5～6 月、花柄は茎上に腋生し、淡紫色の花を開く。側弁に白毛があり、距は白色で、先端から背面にかけて縦溝がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、奥州市、宮古市、釜石市、住田町などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、南千島・サハリン・カムチャッカ・朝鮮半島（北部）・中国（東北部）・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 石灰岩地帯や蛇紋岩地帯の森林の林床に生育する場合が多い。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路工事など。
- ❖ 特記事項 近縁種のタチツボスミレと類似するが、生育環境は大きく異なる。個体数は少ない。
- ❖ 文献 225. 猪苗代正憲（2002）、144. 武田真一（2019）

(竹原 明秀)

ゲンジスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola variegata Fisch. ex DC. var. *nipponica* Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の無茎性の多年草。茎、葉柄、葉、花茎などに微毛が多い。根茎は短い。葉は円心形ないし広卵心形で、基部は心形、表面は暗緑色、裏面は紫褐色を帯びる。5 月、葉より短い花柄を伸ばし、帯紅紫色の花をつける。側弁は有毛で、距は細長い。
- ❖ 分布の概要 二戸市、一戸町、八幡平市、岩手町、盛岡市、岩泉町、久慈市などに分布する。本州（中部地方以北・岡山県）・四国（愛媛県）、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 林床や林縁の半陰地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地は少なく、攪乱依存性がある。
- ❖ 文献 226. 武田真一（2006）、227. 武田真一（2018）

(竹原 明秀)

ノウルシ

キントラノオ目 トウダイグサ科

Euphorbia adenochlora C.Morren et Decne.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。根茎は肥大し、長く水平に伸び、多数の茎を直立させる。葉は互生し、柄はなく、茎に密につき、薄質で裏面に細かい毛がある。4～5 月。茎頂に 5 個の葉を散状につけ、その葉腋から 5 本の散形枝を出し、杯状花序をつける。花序の下部の苞葉は小さく、鮮黄色をなし、花卉のように見える。球形の子房の外面にはいぼ状の突起が密生し、さく果になっても突起は残る。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地や沢沿いに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、湿地開発、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 いずれの生育地も個体数が少なく、発見されない生育地も多い。
- ❖ 文献 146. 吉田繁（1985）、55. 小山田智彰ほか（2012）

(竹原 明秀)

マルミノウルシ

キントラノオ目 トウダイグサ科

Euphorbia ebracteolata Hayata

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 40～50cm になる多年草。根茎は肥大する。若い茎や葉は紅紫色を帯びる。茎を直立し、互生する葉は長楕円形で鈍頭となる。4～5 月、上部の葉腋から散形枝を出し、杯状花序をつける。雄花には小苞片がない。子房とさく果の表面はいぼ状突起がなく、平滑となる。
- ❖ 分布の概要 北上山地、沿岸地域に分布する。北海道・本州（関東地方以北）、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草地や崖に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、草原開発、草刈り、道路工事（法面保護）、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。春植物で、6 月末には地上部が消失する。いずれの生育地も個体数が少ない。
- ❖ 文献 228. 吉田繁（2002）

（竹原 明秀）

チシマフウロ

フウロソウ目 フウロソウ科

Geranium erianthum DC.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm の多年草。根茎は太く、茎は直立し、上方でやや傾く。根出葉は長い柄があり、茎と共に下向きの毛がある。葉は掌状に 5～7 裂し、裂片はさらに中裂し、鋸歯がある。葉の表面と裏面脈上に粗い毛がある。7～8 月、茎頂に集散状に花が集まる。萼片は密に伏す細毛と開出する粗い毛を密生する。花弁は紅紫色で、基部に白毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 和賀岳、経塚山、早池峰山に分布する。北海道・本州（北部）、シベリア（東部）・北アメリカ（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。個体数は少ない。
- ❖ 文献 229. 大森鉄雄（1994）

（竹原 明秀）

ミズマツバ

フトモモ目 ミソハギ科

Rotala mexicana Cham. et Schltdl.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 3～10cm の小型の一年草。茎の基部は地表を這い、分枝しながら立ち上がる。葉は 3～4 個が輪生し、線形～長披針形で細かい。8～10 月、葉腋に花を単生し、淡い紅色を帯びる。花弁はなく、釣り鐘状の萼筒の中に雄ずいが 2～3 個ある。さく果は球形で、長さは萼の 2 倍で、3 裂する。
- ❖ 分布の概要 花巻市、西和賀町、北上市、奥州市などに分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・フィリピン・インド・中央～西アジア・アフリカ・中央アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 平地の水田や湿地など、わずかに地表水があるような泥質地に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、農薬汚染、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 従来は水田雑草と取り上げられてきたが、水田を取り巻く環境の変化によって、いずれの地域でも減少が進んでいる。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄（2010）、26. 大森鉄雄（2012）

(島田 直明)

ウリカエデ

ムクロジ目 ムクロジ科

Acer crataegifolium Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 5～10m になる夏緑広葉小高木。樹皮は帯青緑色、小枝は淡緑黄色となる。葉は対生し、葉身は卵状披針形で、基部は浅心形から円形となる。裏面は淡白色で、脈腋に水かき状の膜がある。4～5 月、開葉の直後に 1 対の幼少葉をともなって総状花序を出す。雌雄異株で、花は淡黄色で、子房には赤褐色の短毛があるが、果実は無毛となる。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州（福島県以南）・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵から山地のやや乾いた尾根や丘陵地の疎林内や林縁に見られる。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事など。
- ❖ 特記事項 分布の北限と考えられるが、植栽の可能性が高い。確認当時の個体は伐採されたという情報がある。
- ❖ 文献 230. 高橋大等（1999）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

モクゲンジ

ムクロジ目 ムクロジ科

Koelreuteria paniculata Laxm.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～12m になる夏緑広葉樹。樹皮は灰褐色。葉は互生につき、奇数羽状複葉となる。小葉は 3～7 対、卵形でふちには不ぞろいの粗い鋸歯がある。小葉がさらに全裂するものもある。7～8 月、枝先に大形の円錐花序を直立し、黄金色の小さな花を多数つける。花弁の基部には赤いハート形の付属体がある。さく果は三角状卵形で、風船状にふくらむ。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、一関市、釜石市などに分布する。本州・九州（対馬）、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸や河岸などの日当たりの良いところに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事（法面保護・拡幅工事など）など。
- ❖ 特記事項 寺院の境内に植栽されることが多く、中国から渡来したものとされていた。種子は数珠にする。
- ❖ 文献 231. 新井隆介（2023）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

マルバコンロンソウ

アブラナ目 アブラナ科

Cardamine tanakae Franch. et Sav. ex Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 7～20cm の小型の一年草。全体に白毛が密生する。葉は短い柄があり、奇数羽状複葉で 1～7 枚の小葉がある。小葉は円形～卵形で、基部は針形となる。4～6 月、総状花序を出し、白色の花を多数つける。花弁は倒卵形で、長角果は密に毛があり、広線形になる。
- ❖ 分布の概要 遠野市、一関市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 類似種が多いため、再検討する必要がある。生育地、個体数とも限定される。
- ❖ 文献 232. 大森鉄雄（1967）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

オオユリワサビ

アブラナ目 アブラナ科

Eutrema okinosimense Taken.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ約 20cm、花茎の長さ 30cm 以上になるやや大型の多年草。根生葉は卵心形で、ワサビほどは大きくなく、丸い波状の鋸歯があり、表面にワサビのような光沢はない。葉は夏（花後）に枯れ、秋に新しい根生葉が出る。根茎は肥厚せず、根生葉の付け根に丸い鱗茎を作って増える。
- ❖ 分布の概要 北上山地の各地に分布する。本州（日本海側）・四国（徳島県）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の溪流の岸辺に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。近年、ニホンジカの食害により、多くの生育地が急速に消失している。
- ❖ 文献 233. 鈴木まほろ（2011）

(鈴木 まほろ)

キバナハタザオ

アブラナ目 アブラナ科

Sisymbrium luteum (Maxim.) O.E.Schulz

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80～120cm の多年草。茎は直立し、白毛がある。葉は有柄で、卵形～卵状披針形、先端は鋭尖頭、基部はくさび形となり、両面に白毛がある。下部の葉は羽状に全裂し、頂片は三角状狭卵形になる。6～7 月、多数の黄色の花を総状につける。長角果は開出し、線形で円柱状、先は尖る。
- ❖ 分布の概要 軽米町、久慈市、葛巻町、岩泉町、宮古市、釜石市などに分布する。本州・九州、朝鮮半島・中国・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林縁や林道脇、海岸、石灰岩地帯の岩礫地に分布する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 230. 高橋大等 (1999)

(鈴木 まほろ)

ミヤマツチトリモチ

ビャクダン目 ツチトリモチ科

Balanophora nipponica Makino

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 8～14cm になる多肉質の多年草。カエデ属植物などの根に寄生する。根茎は表面に皮目を散在し、肥大化、多数の大小不同の小さな根茎をつける。根茎と寄主の根の接合部は肥大し、木化する。7～8 月、一つの根茎に 3～4 本、時には 10 本以上の花茎を出す。花穂は長楕円体～楕円形体、橙赤色～橙黄色で色の変化がある。雌花は多く、雄花はない。
- ❖ 分布の概要 一戸町、八幡平市、花巻市、西和賀町、奥州市、遠野市、宮古市などに分布する。本州(秋田県・岩手県以南)・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床、溪流近くの斜面などに見られる。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。雌雄異株とされているが、雄株は知られていないため、単為生殖すると考えられる。現在、いずれの生育地ともほぼ見られない。
- ❖ 文献 39. 鈴木實 (1989)

(竹原 明秀)

クリンユキフデ

ナデシコ目 タデ科

Bistorta suffulta (Maxim.) H.Gross

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～40cm になる多年草。茎は直立する。根出葉は長い柄があり、卵状心形で、先端は鋭尖形、表面には毛がなく、裏面は白色を帯びる。茎葉は無柄で、托葉鞘は膜質で 2 裂する。5～7 月、茎の上部に花序をつけ、密に花をつける。萼は白色、花弁はない。
- ❖ 分布の概要 北上山地、沿岸地域に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の暗い林床～湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。いずれの生育地とも個体数が少ない。
- ❖ 文献 65. 大森鉄雄 (2000)、49. 吉田繁 (2001)

(竹原 明秀)

ミヤマタニソバ

ナデシコ目 タデ科

Persicaria debilis (Meisn.) H.Gross ex W.T.Lee

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる一年草。茎は細く、下部は斜上し、節には下向きの刺毛がある。葉は薄く、三角形、先端は鋭尖形、基部は切形、両面に細毛がある。表面に八の字型の紫斑がある。7～10 月、枝頂に 2～5 個の花が集まってつく。萼は 5 裂し、白色で小さい。
- ❖ 分布の概要 住田町、大船渡市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）・済洲島に分布する。
- ❖ 生育状況 沢沿いの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事（改修工事）、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 県内の生育地はわずかししか知られていない。過去に増殖事業が行われた場所がある。
- ❖ 文献 234. 鈴木實・高野祐晃（1978）、214. 吉田繁（1980）、235. 吉田繁（2005）

(竹原 明秀)

タカネナデシコ

ナデシコ目 ナデシコ科

Dianthus superbus L. var. *speciosus* Rchb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。茎は細く斜上し、ゆるやかな株をつくる。葉は線形～披針形で細長く、粉白色を帯びる。7～9 月、茎の先端に 1～3 個の花をつける。苞は 2 対で細長く、花弁は 4 個で、縁は深く切れ込み、濃紅色になる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部）・ヨーロッパに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい岩礫地や草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰・栗駒指定植物。カワラナデシコの高山型で、茎が低くなる。
- ❖ 文献 9. 大森鉄雄・高橋久（1992）

(鈴木 まほろ)

ホソバツメクサ

ナデシコ目 ナデシコ科

Minuartia verna (L.) Hiern var. *japonica* H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 4～13cm の小型の多年草。茎は基部に枯れた葉を宿存し、多数に枝分かれし、大きな株になる。葉は針形、先端は鋭形、無毛となる。7～8 月、茎の先端あるいは葉腋に数個の花をつける。花柄は腺毛が密生し、小型の小苞をつける。萼片は長卵形～広披針形、腺毛をつける。花弁は白色で、萼片よりやや大きい。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の砂礫地で、大きな岩の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、岩礫の崩落、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地が限られている。高山荒原の指標植物となっている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ワダソウ

ナデシコ目 ナデシコ科

Pseudostellaria heterophylla (Miq.) Pax

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の小さな多年草。根は紡錘状で太く、細い枝状の根が出る。茎はあまり分枝することなく、直立し、2 列の短毛がある。葉は薄く、裏面の脈上に毛がある。5～6 月、葉腋から 1 列の短毛が並ぶ花柄を伸ばし、1 個の花を頂生する。萼片は披針形で、軟毛をつける。花弁は白色で倒卵形、先端はややへこむ。茎の下部に閉鎖花をつける。
- ❖ 分布の概要 一関市、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州（中部地方以北）・九州、朝鮮半島・中国・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発（太陽光パネルの設置など）、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地が限られている。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ナンブワチガイソウ

ナデシコ目 ナデシコ科

Pseudostellaria japonica (Korsh.) Pax

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。地下には太い紡錘状の根がある。茎は直立し、1～2 列の下向きの長毛がある。葉はまばらにつき、下部はへら状で、上部は柄がなく、両面と縁に長い毛がある。5～6 月、茎の先端付近に数個の花をつける。萼片は披針形～卵形で、縁や背面に毛がある。茎の下部の葉腋に閉鎖花をつける。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州（北部）、中国・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿った林床や湿った草原、林道の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地は多いが、いずれも個体数は少ない。
- ❖ 文献 236. 大森鉄雄（1989）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ギンレイカ

ツツジ目 サクラソウ科

Lysimachia acroadenia Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。茎は稜があり、直立し、上部で分枝する。葉は広披針形または狭卵形で、先端は鋭く尖り、下部は翼のある柄になる。裏面には赤褐色の細点がある。6～7 月、枝先に総状花序をつけ、まばらに小さな花を 10～30 個つける。花冠は赤みを帯びた白色で 5 裂し、あまり開かず、やや下向きにつける。
- ❖ 分布の概要 北上市、一関市、釜石市、大船渡市に分布する。本州・四国・九州、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の溪畔や水湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 237. 吉田繁（2004）

(竹原 明秀)

ヤナギトラノオ

ツツジ目 サクラソウ科

Lysimachia thyrsiflora L.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は長く伸び、そこから円柱形でやわらかい茎を直立させる。葉は対生し、披針形で先端は尖り、黒い腺点がある。6～7 月、下部の葉腋か総状花序を出し、花を密生する。花冠は黄色で深く 6 裂し、裂片は広線形で、上方に少数の黒点がある。さく果は球形で、黒点がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、盛岡市、山田町などに分布する。北海道・本州（中部以北）、北半球の寒帯に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地、ため池の縁、高層湿原の周縁部などに生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、圃場整備、乾燥化、踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。沿岸の休耕地では東日本大震災の津波を受けた後、圃場整備によりほとんど埋め立てられ、ごく一部が移植された。それ以外の生育地でも移植が行われた。
- ❖ 文 献 238. 小水内長太郎・鈴木弘文（1981）、23. 井上幸三（1986）、56. 島田直明（2012）
（島田 直明）

サクラソウ

ツツジ目 サクラソウ科

Primula sieboldii E.Morren

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 高さ 15～40cm になる多年草。根茎は太く短い。全体に白色の縮れた長い毛がはえる。葉には長い柄があり、葉身は長卵形または卵状長楕円形、表面にしわが多少ある。5～6 月、花茎を伸ばし、先端に 7～20 個の花を散形につける。花冠は一般的に紅紫色となるが、変化に富む。さく果は扁球形で、萼片よりも短く、裂開しない。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道（南部）・本州・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 春先に日当たりがよい沢沿いや川沿いの氾濫する場所などの湿性地に生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、河川改修、道路建設、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。市民活動や環境啓蒙活動によって個体の移植や保護が行われ、葛巻町では保護指定地がある。江戸時代から園芸化され、様々な品種が栽培される。
- ❖ 文 献 239. 高橋大等（1999）、240. 本城正憲ほか（2002）、92. 安藤亮太・国崎貴嗣（2009）、99. 関根清正（2011）、26. 大森鉄雄（2012）
（島田 直明）

ハイハマボッサ

ツツジ目 サクラソウ科

Samolus parviflorus Raf.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 高さ 10～30cm になる多年草。茎は細く、分枝して斜上する。全体に毛がない。葉は倒卵形または広楕円形で、先端は円く、下部は狭まって柄となる。裏面に赤褐色の細点がまばらにある。6～7 月、まばらな総状花序に 10～20 個の白色の花をつける。花冠は鐘形で、短い花筒がある。さく果は球形で、先端が 5 裂する。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳に分布する。北海道・本州、北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿地に生育する。
- ❖ 脅 威 登山者の踏みつけ、乾燥化による生育環境の悪化など。
- ❖ 特記事項 生育地が限定される。
- ❖ 文 献 241. 井上幸三（1978）、20. 高野祐晃（1998）
（竹原 明秀）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ヒメイワカガミ

ツツジ目 イワウメ科

Schizocodon ilicifolius Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 2～5cm の小型の多年草。葉は卵円形、1～5 対の尖った荒い鋸歯があり、質は硬く光沢がある。5～6 月、束生する葉の中央から細長い花茎を伸ばし、その上部に 2～7 個の白色の花をつける。花冠は漏斗形で、5 裂し、裂片の縁は多数の細かい裂片に分かれる。さく果は球形で小さい。
- ❖ 分布の概要 岩手山、烏帽子岳、策森山、秋田駒ヶ岳、和賀岳、早池峰山などに分布する。本州（中部地方以北の太平洋側・紀伊半島）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の草原や岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。個体数が少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ウラシマツツジ

ツツジ目 ツツジ科

Arctous alpinus (L.) Nied. var. *japonicus* (Nakai) Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の夏緑広葉小低木。茎は地面を這い、上部は斜上し、群生する。葉は厚く、倒卵形で、先端は円く、基部はしだいに柄となり、葉縁には多数の円い鋸歯がある。葉脈は網状で、秋には鮮やかに紅葉する。6 月、前年の枝の先端に短い総状花序をつくり、淡黄色の壺状花を開く。液果は球形で、黒色に熟す。
- ❖ 分布の概要 焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい砂礫地、乾燥した草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 早池峰・栗駒指定植物。生育地が限定される。
- ❖ 文献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵（1980）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

オオウメガサソウ

ツツジ目 ツツジ科

Chimaphila umbellata (L.) W.P.C.Barton

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 7～15cm の常緑広葉小低木。根茎は長く這い、茎は直立し、縦に稜がある。葉は厚く、倒披針形で、上半部に荒い鋸歯があり、3～6 個が群がってつく。6～7 月、茎の上部の葉腋から 3～4 本の花序を伸ばし、散房状に 3～9 個の花を下向きにつける。花冠は白色、広鐘形となる。花柱は短くて太く、上端は盾状に広がる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、葛巻町、岩泉町に分布する。北海道・本州（茨城県以北）、ヨーロッパ・北アメリカの亜寒帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 やや乾燥した林内、林縁に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 一般には海岸付近に生育するというが、県内では内陸部に見られる。個体数が少ない。
- ❖ 文献 242. 高橋大等ほか（1977）

(竹原 明秀)

アズマシャクナゲ

ツツジ目 ツツジ科

Rhododendron degronianum Carrière var. *degronianum*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 2～4m になる常緑広葉低木。若枝にはやわらかい黄褐色の軟毛が密生する。葉は革質で、長楕円形、先端は尖り、下部はくさび形で短く葉柄に流れ、表面は無毛、裏面は黄褐色の軟毛が密生する。5 月、枝先に総状花序を伸ばし、5～12 個の淡紅色の花をつける。花冠は漏斗状鐘形で、筒部内面に短毛がまばらに生える。
- ❖ 分布の概要 奥州市に分布する。本州（東北地方・関東地方・中部地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 尾根上部の乾燥した林内に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。宮城県には北限の生育地が国指定天然記念物となっているが、そこよりも県内の生育地は北方にあたる。
- ❖ 文献 243. 鈴木實 (1976)

(竹原 明秀)

シロヤシオ

ツツジ目 ツツジ科

Rhododendron quinquefolium Bisset et S.Moore

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 3～6m になる夏緑広葉小高木。若枝は赤褐色で無毛、老木の幹は亀甲状にはがれる。葉は枝先に 5 個が輪生し、ひし形または卵状ひし形、表面は主脈上に短毛が生え、裏面の主脈の両側に軟毛が密生する。5～6 月、枝先の花芽から新葉と同時に 1～2 個の白い花をつける。花冠は広漏斗状で、上側の裂片に緑色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市に分布する。本州（岩手県以南）・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の乾性地や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。分布の北限にあたる。生育地は限定され、個体数は少ない。

(竹原 明秀)

エゾツツジ

ツツジ目 ツツジ科

Therorhodon camtschaticum (Pall.) Small

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の夏緑広葉小低木。茎の下部は地面を這い、上部は斜向し、あらい長毛がある。葉は互生し、倒卵形で、先端は円く、鋸歯はなく、縁や両面にあらい毛が密生する。7～8 月、若枝の先に濃紅紫色の花を 1～3 個、横向きにつける。花には葉状の 1 個の苞と 2 個の小苞がある。花冠は皿形で、大きく開く。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳、岩手山などに分布する。北海道・本州（東北地方北部）、千島・カムチャツカ・アラスカ・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩礫地や草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。分布の南限にあたる。
- ❖ 文献 187. 千葉博・小水内正明 (2010)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

イワツツジ

ツツジ目 ツツジ科

Vaccinium praestans Lamb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 4～8cm の小型の夏緑広葉小低木。茎は細長く地中を這い、先は直立する。葉は枝先に互生し、広楕円形で、縁に毛状の細かい鋸歯がある。7 月、前年の枝先に総状花序をつくり、淡紅白色の花を 2～3 個、下向きにつける。花冠は筒状鐘形で、小さく、先端は 5 裂する。液果は球形で、鮮赤色に熟す。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳、焼石岳に分布する。北海道・本州（東北地方北部・木曾御岳）、ウスリー・サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、登山者の踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地が限定される。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

マルバウスゴ

ツツジ目 ツツジ科

Vaccinium shikokianum Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～120cm の夏緑広葉低木。若い枝には 4 個の稜があり、無毛で緑色となる。葉は互生し、葉身は広楕円形、卵円形または円形で、先端に小さな突起があり、両面無毛で、縁全体に細鋸歯がある。6～7 月、新枝の基部の葉腋に赤みを帯びた淡黄緑色の壺形の花を 1 個つける。液果は扁球形で、黒紫色に熟す。
- ❖ 分布の概要 栗駒山に分布する。本州（秋田県～富山県）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の雪田の周辺などの湿性地などに生育する。
- ❖ 脅威 登山道の開設、踏み荒らし、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。栗駒山で採集された標本に基づき命名されたというが、同地での生育状況は明らかでない。果実は食用となる。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②③

ミヤマムグラ

リンドウ目 アカネ科

Galium paradoxum Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönbl.-Tem.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm になる多年草。茎は細く直立し、毛はない。葉は 4 個が輪生し、2 個ずつ大きさにちがいがあり、3～5 個が輪生することもある。葉身は卵形または広卵形で、先端は尖り、葉縁と縁近くの表面に短い剛毛がある。7～8 月、茎頂に短い花序を出し、少数の花をまばらにつける。花冠は白色で、4 裂する。果実には長い鉤状の毛がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、宮古市、遠野市、住田町などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 林床の岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

オオキヌタソウ

リンドウ目 アカネ科

Rubia chinensis Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は細く、匍匐する。茎は無毛で、葉は 4 個が輪生し、薄く、卵形または広披針形で、先端は鋭く尖り、毛はなく、葉柄がある。5～7 月、茎頂や葉腋に集散花序をつくり、まばらに多数の花をつける。花冠は緑白色で 4～5 裂し、裂片は卵形となる。液果は黒く熟す。
- ❖ 分布の概要 葛巻町、雫石町、花巻市、一関市、久慈市、宮古市、住田町などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や林縁の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 91. 大森鉄雄・高橋久（1984）、244. 吉田繁（1996）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミヤマリンドウ

リンドウ目 リンドウ科

Gentiana nipponica Maxim. var. *nipponica*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm になる多年草。茎は帯赤紫色で、基部は長く這い、節から細い匍枝を出し、先端は立ち上がる。葉は卵状長楕円形で厚みがある。7～9 月、茎の上部に数個の花をつける。萼裂片は卵形鋭頭で、やや反り返る。花冠は青紫色あるいは白色で、副片は裂片とともに平開する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 229. 大森鉄雄（1994）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

コケリンドウ

リンドウ目 リンドウ科

Gentiana squarrosa Ledeb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 3～10cm の一年草。茎はよく分枝し、基部に狭菱卵形～卵状菱形の根出葉がロゼット状につく。茎葉は卵形で、基部は合着して短い鞘となる。4～5 月、茎頂に 1 個の淡青色の花をつける。萼筒の裂片は卵形で、先端は刺状で、上部は反り返る。花冠は筒状で、先端は 5 裂し、小型の副片がある。
- ❖ 分布の概要 葛巻町、一関市、洋野町に分布する。本州・九州、朝鮮半島・中国・台湾・インド（北部）・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、過放牧、放牧獣による踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 生育地が限られ、個体数は少ない。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか（2012）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ハルリンドウ

リンドウ目 リンドウ科

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb. var. *thunbergii*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm になる一年草。茎は基部が分枝し、束生する。根出葉はロゼット状につき、卵形でやや大きい。茎葉は卵状披針形で小さい。4～5 月、茎頂に 1 個の青紫色の花をつける。萼筒の裂片は披針形で、直立する。花冠は漏斗状鐘形で、裂片は三角状披針形、副片は半円形で縁に小歯がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、雫石町、花巻市、西和賀町、一関市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、宅地造成、放牧獣による踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 生育地が限られ、個体数もきわめて少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ホソバノツルリンドウ

リンドウ目 リンドウ科

Pterygocalyx volubilis Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 多年生のつる植物。茎は細く、緑色となる。葉は披針形で、先端は長く尖る。裏面は紫色にならない。9～10 月、葉腋に 1 個の花をつける。萼筒には 4 条の翼がある。花冠は筒状で、淡紫色を帯びる白色、先端は 4 裂し、裂片は長楕円形になる。さく果は狭長楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の草原や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 いずれの生育地とも個体数が少ない。
- ❖ 文献 212. 吉田繁（1997）、245. 鈴木實（2003）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ミヤマアケボノソウ

リンドウ目 リンドウ科

Swertia perennis L. subsp. *cuspidata* (Maxim.) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。根茎は発達し、4 稜がある茎を直立する。根出葉は楕円形または広卵形で、長い柄がある。茎葉は卵形で柄は短い。8～9 月、茎頂に少数個の花を散房状につける。萼裂片はやや不同長で広線形となる。花冠は 5 裂し、裂片は披針形で先端は尾状に尖り、暗紫色で、濃色の 7 脈と細点がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯のやや湿性な岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵（1980）

(竹原 明秀)

チシマセンブリ

リンドウ目 リンドウ科

Swertia tetrapetala Pall.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm の一年草。茎は多少分枝することもあり、直立し、4 稜がある。茎葉は三角状披針形で、基部は円い。8～9 月、茎頂と枝端にやや密な円錐花序をつけ、花はまばらにつける。萼裂片は披針形で、短い。花冠は 4 深裂し、裂片は平開し、淡紫色で暗紫色の細点がある。
- ❖ 分布の概要 和賀岳、焼石岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア・サハリン・千島・カムチャツカ・アラスカ・カナダに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が点在する。
- ❖ 文献 246. 大森鉄雄・高橋久（1985）

(竹原 明秀)

イヌセンブリ

リンドウ目 リンドウ科

Swertia tosaensis Makino

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～50cm の一年草。茎はしばしば基部から分枝し、紫褐色を帯びる。茎葉は倒披針形で、先端は鈍い。10～11 月、狭い円錐花序をつけ、淡紫色の条がある白色の花をつける。花冠は 5 深裂し、裂片は披針形で、基部に 2 個の蜜腺溝があり、そこに長毛がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池の縁などの低地の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、宅地造成、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 全草にしみはない。分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 193. 関根清正（2003）、26. 大森鉄雄（2012）

(竹原 明秀)

コカモメヅル

リンドウ目 キョウチクトウ科

Vincetoxicum floribundum (Miq.) Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形態 つる性の多年草。茎は巻きついて、細く長く伸びる。葉は対生し、三角状の卵形～卵状披針形で、先端は尖り、中肋上に微毛がある。7～8 月、葉腋から集散状の花柄を出し、つけ根の葉よりも長い。花冠は暗紫色、花冠裂片の上部には微毛があり、副花冠は短く直立し、基部は張り出す。種子に冠毛がある。
- ❖ 分布の概要 一戸町、紫波町、花巻市、奥州市、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の草原や低木林の林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 生育地が少ない。

(竹原 明秀)

スズサイコ

リンドウ目 キョウチクトウ科

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 40～100cm になる多年草。根茎は短く、太いひげ根がある。茎は細く、直立する。葉は対生し、長披針形～線状長楕円形で、表面の緑にわずかに短毛がある。7～8 月、茎の頂端や上部の葉腋から集散状の花序を出し、まばらに黄褐色の花をつける。萼裂片は三角状披針形で、花冠の裂片は開出、副花冠は直立し、卵形で短い。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・ダフリアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよいやや乾性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。各地から生育する報告があるが、いずれも個体数は少なく、草原の減少とともに絶滅した地域が多い。
- ❖ 文献 116. 千田貞蔵 (1991)、73. 藤元淳ほか (1996)、114. 大谷雅人ほか (2013)

(島田 直明)

ルリソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Nihon krameri (Franch. et Sav.) A.Otero, Jim Mejias, Valcarcel et P.Vargas

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。茎は直立し、全体に細かい開出毛が多い。葉は倒披針形で、根出葉は中部以下の茎葉よりも小さい。4～6 月、茎頂は二股に分かれ、それぞれに総状花序がつく。花冠は濃い藍色または白色で、5 裂する。分果は中央がへこみ、縁にかぎ状の刺がある。
- ❖ 分布の概要 岩手町、滝沢市、盛岡市、紫波町、花巻市などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿った林内に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 いずれの生育地も個体数が少ない。
- ❖ 文献 53. 北上彌逸 (1985)、92. 安藤亮太・国崎貴嗣 (2009)

(島田 直明)

ミズタビラコ

ムラサキ目 ムラサキ科

Trigonotis brevipes (Maxim.) Maxim. ex Hemsl. var. *brevipes*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。根茎は短く這う。茎にはやや圧毛がある。葉は楕円形で、下部のものは有柄、上部のものは無柄、表面に細かい毛があり、やわらかい。5～6 月、茎頂に総状花序をつけ、白色または淡青紫色の花を密につける。分果は黒褐色で、平滑、光沢がある。
- ❖ 分布の概要 奥州市に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の沢沿いの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数とも限られる。
- ❖ 文献 20. 高野祐晃 (1998)

(竹原 明秀)

ツルカメバソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Trigonotis iinumae (Maxim.) Makino

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形 態 高さ 7~20cm になる多年草。倒れると葉腋から長い走出枝を伸ばす。葉は互生し、卵形で、鋭頭、基部はやや心形または円形、下部は葉柄が長く、上部は葉柄が短い。5~6 月、茎の途中から 1 個の総状花序を伸ばし、淡青色の花を 7~10 個つける。
- ❖ 分布の概要 一関市、洋野町などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の沢沿いの湿性に生育する。
- ❖ 脅 威 土砂崩れなどによる生育環境の消失、森林開発など。
- ❖ 特記事項 生育地は少ない。
- ❖ 文 献 73. 藤元淳ほか（1996）

(竹原 明秀)

ヤマホロシ

ナス目 ナス科

Solanum japonense Nakai var. *japonense*

環境省 なし

- ❖ 形 態 つる性の多年草。根茎は這い、地上茎はつる状で、斜上する。葉は互生し、三角状卵形または三角状広披針形でまばらの鋸歯があり、先端は細く長く伸びる。葉縁や裏面には短毛がまばらに生じる。しばしば下部の葉は 3~5 片に深く裂ける。6~8 月、茎の途中から集散花序を出し、淡紫色の花を下向きにつける。液果は球形または楕円形で、赤色に熟す。
- ❖ 分布の概要 一関市、宮古市、山田町、釜石市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（中北部・東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林縁に生育する。
- ❖ 脅 威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。
- ❖ 文 献 214. 吉田繁（1980）

(竹原 明秀)

オオマルバノホロシ

ナス目 ナス科

Solanum megacarpum Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形 態 つる性の多年草。根茎は這い、地上茎はつる状となり、柔らかく、無毛かわずかに短毛がある。葉は互生し、卵形または狭卵形で鋸歯はなく、葉縁や脈上に短毛がある。8~9 月、茎の途中からまばらに分枝する集散花序を出す。花冠は紫色で、5 片に深裂し、背面に反り返る。液果は楕円形で、赤色に熟す。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、一関市などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 低地~山地の湿地や河岸に生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、河川改修など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文 献 43. 高野祐晃（2007）

(竹原 明秀)

オオアブノメ

シソ目 オオバコ科

Gratiola japonica Miq.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の一年草。茎は直立し、肉質でやわらかい。葉は対生し、やや肉質で、披針状長楕円形で、柄と鋸歯はなく、先端は尖る。6～8 月、花は茎の上部の葉腋ごとに 1 個つける。花冠は白色、筒形で、多くは花冠を開かず、閉鎖花となる。
- ❖ 分布の概要 北上市、西和賀町、奥州市に分布する。本州・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・ウズベキスタンに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地、河川、水路、水田に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、乾田化、除草剤の利用、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 耕作地周辺に生育するため、生育環境は不安定で、発生しない場合もある。典型的な攪乱遺存種で植生遷移が進むと埋土種子となり、休眠する。
- ❖ 文献 247. 鈴木實（1997）

(島田 直明)

スギナモ

シソ目 オオバコ科

Hippuris vulgaris L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～50cm になる多年生の水生植物。根茎は匍匐し、多数の節があり、それぞれから茎を単生する。流水域では茎は流れになびき、水中葉は薄い。止水域では茎の上部は水上に出し、気中葉は厚い。いずれの葉も各節に 6～12 個が輪生し、1 脈がある。6～8 月、気中葉の葉腋に花を単生する。花は濃紅紫色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、雫石町に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカ・グリーンランド・オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 湖沼や湿原内の池塘、河川などで貧養の冷水中に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・河川・湿地開発、水質汚濁、農薬汚染、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。貧養で冷水域に生育することから、環境の指標性を有している。特に低地に生育する個体は氷期からの残存個体と考えられ、貴重な存在といえる。しかし、平地の生育地はすべて絶滅した。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）、23. 井上幸三（1986）

(島田 直明)

イワブクロ

シソ目 オオバコ科

Pennellianthus frutescens (Lamb.) Crosswh.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～20cm になる多年草。根茎は地中を這って株を作り、鱗片葉がある。茎には 2 列の毛がはえる。葉は対生し、肉質で卵状長楕円形、先の鈍い鋸歯があり、葉縁に毛がある。7～8 月、茎の先に 5～15 個の花をやや密につける。花冠は淡紅紫色、筒形の外面、花柄、萼には長毛がはえる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳に分布する。北海道・本州（北部）、サハリン・シベリア（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。砂礫地に特有で、個体数が少ない。
- ❖ 文献 210. 千葉博・小水内正明（2011）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

エゾノカワヂシャ

シソ目 オオバコ科

Veronica americana Schwein. ex Benth.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。茎は円く、下部は地面を這いながら分枝し、上部は斜上する。葉は対生し、長楕円形または長楕円状披針形で、やや厚く、光沢があり、有柄、浅い鋸歯がある。7～8 月、葉腋からやや長い花序を出し、青紫色～淡紅色の花をまばらに 5～20 個つける。花冠は 4 深裂し、皿状に広く開く。
- ❖ 分布の概要 花巻市に分布する。北海道、千島・サハリン・カムチャッカ・アラスカ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿地や湿性地、川辺に生育する。
- ❖ 脅威 湿地・森林開発、河川改修など。
- ❖ 特記事項 近縁種が生育するため、再確認が必要とされる。生育地は限定される。
- ❖ 文献 196. 片山千賀志 (2009)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

エゾリトラノオ

シソ目 オオバコ科

Veronica ovata Nakai subsp. *miyabei* (Nakai et Honda) Albach

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。茎は直立し、上部で分枝し、短毛を散生する。葉は対生し、長卵形でやや厚く、先端は尖り、鋭い鋸歯があり、有柄、裏面に短い白毛を密生する。7～8 月、茎の先に総状花序を出し、多数の花を密につける。花冠は淡青紫色で、4 深裂し、2 本の雄ずいは花の外に突き出る。
- ❖ 分布の概要 二戸市、宮古市に分布するという。北海道（南部）・本州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地や海岸の日当たりのよい草原や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。複数の近縁変種が生育するため、再確認する必要がある。生育地が限定される。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ヤマルリトラノオ

シソ目 オオバコ科

Veronica ovata Nakai subsp. *miyabei* (Nakai et Honda) Albach var. *japonica* (Miq.) Albach

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～90cm になる多年草。茎は直立し、上部で分枝し、短毛を散生する。葉は対生し、広披針形で、先端は尖り、基部は狭まり、裏面はほとんど毛がなく、緑色となる。7～8 月、茎の先に総状花序を出し、多数の花を密につける。花冠は淡青紫色で、4 深裂し、2 本の雄ずいは花の外に突き出る。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。本州（青森県～山形県）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の日のあたりのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。複数の近縁変種が生育するため、再確認する必要がある。いずれの生育地とも個体数は少ない。
- ❖ 文献 200. 大森鉄雄・高橋久 (1993)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ビロードトラノオ

シソ目 オオバコ科

Veronica ovata Nakai subsp. *miyabei* (Nakai et Honda) Albach var. *villosa* (Furumi) Albach

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。茎は直立し、上部で分枝し、短毛を散生する。葉は対生し、広長卵形で、先端は尖り、鋭い鋸歯があり、有柄、両面に白い軟毛を密生する。6～8 月、茎の先に総状花序を出し、多数の花を密につける。花冠は白色～淡紫色で、4 深裂し、2 本の雄ずいは花の外に突き出る。
- ❖ 分布の概要 二戸市、宮古市に分布する。本州（東北地方と富山県）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の日当たりのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。複数の近縁変種が生育するため、再確認する必要がある。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 248. 高橋大等（1996）、193. 関根清正（2003）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

イヌノフグリ

シソ目 オオバコ科

Veronica polita Fr.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の一年草。茎の下部は分枝し、地を這って広がる。葉は下部で対生、上部で互生し、卵円形で、両面に毛が散生する。4～5 月、茎の上部の葉腋ごとに 1 個の花をつける。花柄は曲がった毛がある。花冠は淡紅白色で、紅紫色の条がある。さく果は平たい球形で、中央がくびれ、上部両端は円い。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州・琉球、東アジアに広く分布する。
- ❖ 生育状況 耕作地の縁、道端、空き地などに生育する。
- ❖ 脅威 宅地造成、踏みつけ、除草など。
- ❖ 特記事項 耕地雑草であるが、個体数は減少している。
- ❖ 文献 65. 大森鉄雄（2000）

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミヤマクワガタ

シソ目 オオバコ科

Veronica schmidtiana Regel subsp. *senanensis* (Maxim.) Kitam. et Murata

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm になる多年草。根茎は短く、茎を直立させ、まばらに毛をつける。葉は根出葉で、卵状長楕円形、先端が尖り、鋸歯がある。7～8 月、茎頂に総状花序を出し、5～15 個の花はまばらにつける。花冠は青紫色で、濃色の条があり、4 深裂し、横向きに広く開く。雄ずいと雌ずいは花外に突き出る。
- ❖ 分布の概要 北上市に分布する。本州（近畿地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地から高山帯の岩礫地や砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗採など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

ムシトリスミレ

シソ目 タヌキモ科

Pinguicula macroceras Pall. ex Link

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10cm の多年草。ロゼット状の根出葉は淡緑色でやや厚く、長楕円形で無柄、表面に腺毛が密生し、そこから粘液を分泌して虫を捕らえる。7～8 月、葉をつけない花茎を 1～3 本出し、先端に青紫色の花を 1 個つける。萼は 5 深裂し、花冠には細長くまっすぐな距がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳、焼石岳、栗駒山、早池峰山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山～高山帯の風衝草原や岩礫地、崖地などの湿性な岩上や側面に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒・早池峰指定植物。食虫植物で、個体数は多くない。

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

ホザキノミミカキグサ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia caerulea L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる小型の多年生の食虫植物。地下茎は白色で、糸状に這い、仮根に少数の捕虫囊をつける。地上葉はへら形で小さい。6～9 月、花茎に淡紫色の花を 4～10 個つける。花柄ははなはだ短く、花茎上の鱗片葉が盾状につく。萼には細い乳頭状の突起がある。距は前方に突き出す。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、雫石町、西和賀町、花巻市、奥州市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿原内で、泥質土壌上やミズゴケのなかに生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、踏みつけ、乾燥化による植生遷移など。
- ❖ 特記事項 生育する環境が限られ、湿原の減少とともに個体数も大きく減少した。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

オオタヌキモ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia macrorhiza Le Conte

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 長さ 1m 以上になる大型の浮遊生の多年草。水中葉の裂片は基部で大小 2 片に分かれ、細かく分裂し、大型から小型の捕虫囊を多数つける。最終裂片には歯状突起がほとんどない。7～9 月、高さ 10～40cm の花茎を伸ばし、3～16 個の黄色の花をつける。仮面部は三角形で大きく盛り上がり微小な有柄腺をもち、下唇の両側はやや垂れ下がり、急に細長く、湾曲して尖頭となる。
- ❖ 分布の概要 一関市などに分布する。北海道・本州（東北地方）、サハリン・アムール・シベリア・カムチャツカ・モンゴル・中国（北部）・北アメリカ（中部以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、水質汚染、浚渫、草取りなど。
- ❖ 特記事項 これまでタヌキモとされた種はオオタヌキモとイヌタヌキモの一代雑種であることが明らかになった。本種の生育地は限定され、開花個体も少ない。
- ❖ 文献 249. 高野祐晃 (2009)、173. 上野雄規 (2011)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ムラサキミミカキグサ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia uliginosa Vahl

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 5cm の多年草の食虫植物。地下茎は糸状で白色、ところどころに捕虫囊をつける。葉は地上に出し、へら状で小さい。8～9 月、花軸を伸ばし、青紫色の花を 1～4 個つける。明らかな花柄があり、距は下向きで、先端はやや前に曲がる。さく果は耳かき状になる。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、花巻市、西和賀町、奥州市、一関市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・屋久島に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地の泥質土壤上に生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、踏みつけ、自然遷移、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。食虫植物。生育環境が限られ、湿原の減少とともに個体数も大きく減少している。
- ❖ 文献 109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

カイジンドウ

シソ目 シソ科

Ajuga ciliata Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。茎は直立し、全体に多細胞の毛がある。上部の葉は狭卵形で鈍頭、粗い鋸歯があり、赤紫色を帯びることが多い。中部の葉は卵形～広卵形で、短い柄がある。5～6 月、瑠璃色の花は茎の上部に集まってつく。上唇は短い半円形で 2 裂、下唇は 3 裂して開出する。
- ❖ 分布の概要 北上山地に生育する。北海道・本州・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林のやや乾性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。個体数は少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

キセワタ

シソ目 シソ科

Leonurus macranthus Maxim.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 60～120cm になる多年草。茎は直立し、4 角、葉が対生する。葉は卵形または狭卵形で、葉縁には粗い鋸歯があり、全体に粗い毛がある。8～9 月、上部の葉腋に花を数個ずつつける。花冠の外面には密に白色毛があり、下唇の中央裂片は下に曲がり、紅紫色になる。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日当たりがよい草原や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林・草原開発、森林伐採、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 個体数は少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ヒメハッカ

シソ目 シソ科

Mentha japonica (Miq.) Makino

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。節に短い微毛がある以外は全体に毛がなく、細長い地下茎が引く。茎は直立し、葉を対生する。葉は卵状長楕円形で、ごく短い柄があり、全縁で、先端は鈍い。8～10 月、花は枝先や上部に集まってつき、淡紅紫色または白色になる。分果は扁平でほぼ円形となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町に分布する。北海道・本州に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 ハッカと同じ芳香がある。近年、生育の報告がないため、現状を確認する必要がある。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会 (1970)

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミソガワソウ

シソ目 シソ科

Nepeta subsessilis Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm の多年草。茎は 4 角形で細毛があり、直立する。葉は対生し、広卵形～広披針形、両面にまばらに毛があり、鈍い鋸歯がある。7～8 月、頂生する穂状花序を出し、青紫色まれに白色の花を多数つける。花冠は筒部が長く広くふくらみ、下唇は 3 裂し、中央裂片に紫色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。個体数が少ない。

(竹原 明秀)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ホソバコゴメグサ

シソ目 ハマウツボ科

Euphrasia insignis Wettst. subsp. *insignis* var. *japonica* (Wettst.) Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の半寄生の一年草。茎は褐色でよく分枝し、細毛がある。葉は対生から上部が互生で、倒卵状長楕円形あるいは倒披針形で細く、鈍頭の鋸歯がある。7～8 月、上部の葉腋ごとに 1 個の白色の花をつける。花冠は唇形で、上唇の裂片はそり返り 3 裂し、下唇の内側に黄色の斑点がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、和賀岳、焼石岳などに分布する。本州（東北地方～関東地方北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 同亜種にはいくつかの変種が含まれ、再検討する必要がある。生育地は少ない。
- ❖ 文献 250. 須川直義ほか (1980)

(竹原 明秀)

トモエシオガマ

シソ目 ハマウツボ科

Pedicularis resupinata L. subsp. *teucrifolia* (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. *caespitosa* Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 30～50cm になる半寄生の多年草。茎は基部で分枝して株を作る。葉は互生し、やや細い披針形で、先端は尖り、基部は丸みのある切形、葉縁に重鋸歯がある。8～9 月、茎の上部に花をつける。苞は披針形で、花冠の上唇は鎌形に曲がり、しだいに先が細くなる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、五葉山に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅 威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。母種のシオガマグキは山地帯に生育し、個体数が多いが、本種は亜高山帯に生育し、個体数は少ない。
- ❖ 文 献 242. 大森鉄雄・高橋久（1985）、251. 吉田繁（1999）

(竹原 明秀)

キヨスミウツボ

シソ目 ハマウツボ科

Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 5～10cm になる一年生の寄生植物。全体は肉質で、白色から黄色を帯びる。茎はやや太く、白色で卵形の鱗片葉を多数つける。5～7 月、茎頂に 5～10 個の花をつけ、白色から後に黄色になる。花冠は筒状で、上唇は 2 浅裂、下唇は 3 裂する。
- ❖ 分布の概要 雫石町、紫波町、西和賀町、奥州市に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（中北部・東北部）・ウスリー・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の夏緑広葉樹の林床などに生育する。
- ❖ 脅 威 森林開発、森林伐採、森林管理法の変更など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。ムラサキシキブ、サクラ属、エゾアジサイ、ヒメアオキ、ヤマハンノキなどの根に寄生する。生育地、個体数とも多くない。

(竹原 明秀)

フクシマシャジン

キク目 キキョウ科

Adenophora divaricata Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 50～100cm になる多年草。茎はやや太く、開出毛があるものからないものまである。葉は卵状楕円形～披針形で、輪生あるいは互生する。8～9 月、側枝を長く張り出し、まばらな円錐状の花序をつける。萼筒は短く、萼裂片は披針形となる。花冠は鐘形で、淡紫色または白色、浅く 5 裂する。花柱は花冠より少し長い。
- ❖ 分布の概要 一関市、久慈市、岩泉町などに分布する。本州（中部地方以北）・四国、朝鮮半島・中国（北部・東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の夏緑広葉樹林の林縁や草地、乾性な斜面に生育する。
- ❖ 脅 威 道路工事（改修・法面保護工事）、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。石灰岩地帯に生育することが多いが、個体数は少ない。

(竹原 明秀)

ミョウギシャジン

キク目 キキョウ科

Adenophora nikoensis Franch. et Sav. var. *petrophila* (H.Hara) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎はやや太く、茎は斜上から横に伸び、先端は垂れ下がる。葉は披針形で、先が鎌形に湾曲し、3 輪生あるいは対生する。8～9 月、茎頂に 1～数個の花を総状につき、下向きに開く。萼裂片はふつう全縁で、細鋸歯があるものもある。花冠は壺形で、淡紫色、花柱は花冠より少し突き出る。
- ❖ 分布の概要 久慈市、岩泉町、一関市などに分布する。北海道（南西部）・本州（埼玉県以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地、特に石灰岩地帯の岩上に生育する。
- ❖ 脅威 道路工事（改修・法面保護工事）、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が特殊のため、個体数は少ない。

(竹原 明秀)

イワギキョウ

キク目 キキョウ科

Campanula lasiocarpa Cham.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm になる多年草。根茎は横に這い、よく分枝する。根出葉に小さい歯牙があり、草質で光沢はない。7～8 月、茎頂に 1 個の花を斜め上向きに開く。萼片にはあらい毛が多く、萼裂片には歯牙がある。花冠は壺状で、青紫色、内面や裂片の縁には毛がない。
- ❖ 分布の概要 岩手山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・カムチャツカ・アラスカ・アリューシャンに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏み荒らし、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 209. 井上幸三ほか（1983）、252. 千葉博・小水内正明（2009）

(竹原 明秀)

キキョウ

キク目 キキョウ科

Platycodon grandiflorus (Jacq.) A.DC.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。根茎は太く、深く地中に伸びる。葉は狭卵形で、先端は尖り、鋭鋸歯がある。表面は無毛、裏面は短毛があり、粉白色を帯びる。7～8 月、茎頂近くに数個の花をつける。花冠には柄があり、青紫色または白色、広鐘形で 5 浅裂する。さく果は倒卵形となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州・奄美諸島、朝鮮半島・中国・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の草原や日当たりのよい林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、草原の管理放棄、自然遷移、園芸・薬用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。かつてススキ草地に普通に生育していた。草原開発や野焼き、山焼きなどによる草原の維持活動がみられなくなり、主な生育環境である草原が大幅に減少した。アカマツ林の林縁や人の立ち入りができないような場所に細々と生育する。観賞用としても広く庭園に栽培され、園芸品種も多く、根茎は漢方薬として薬用にされる。
- ❖ 文献 99. 関根清正（2011）、186. 亀山喜作（2011）、114. 大谷雅人ほか（2013）、140. 藤澤英俊（2024）

(島田 直明)

キタノコギリソウ

キク目 キク科

Achillea alpina L. subsp. *japonica* (Heimerl) Kitam.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。根茎を横に伸ばし、茎をまばらに叢生する。茎の上方でよく分岐する。葉は無柄で、くしの歯状に中～深裂し、裂片に鋭鋸歯があり、しばしば反り返る。7～9 月、茎頂に頭花を密な散房花序につける。頭花の舌状花は白色あるいは淡紅色でやや大きく、6～8 個つける。総苞に散毛がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、葛巻町、洋野町、久慈市などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸に近い草原や山地の草原で、日当たりのよい乾性地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸周辺での草原開発（太陽光パネルの設置など）、人の立入による踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。東日本大震災の津波で一部の生育地は影響を受けた。
- ❖ 文献 99. 関根清正（2011）、55. 小山田智彰ほか（2012）、60. 小山田智彰ほか（2020）、80. 関根清正（2020）

(鈴木 まほろ)

タカネヤハズハハコ

キク目 キク科

Anaphalis alpicola Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。茎は叢生し、全体は灰白色の軟毛で覆われる。根出葉は倒披針形で、直立する。茎葉は披針形で、先端は短く尖るか鈍頭で、基部は茎に沿って流れる。7～8 月、茎頂に頭花を 10 個ほど、散房状に密につける。総苞は球形で、片は白色で、下部は紅褐色または紅色を帯びる。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 蛇紋岩の高山帯で、日当たりのよい湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰・栗駒指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

サマニヨモギ

キク目 キク科

Artemisia arctica Less. subsp. *sachalinensis* (F.Schmidt) Hultén

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。地下茎はやや太く、垂直に伸び、走出枝は出さない。茎は叢生し、若い茎には黄褐色の長軟毛があるが、のちに脱毛する。ロゼット葉は 2 回羽状深裂で、はじめ両面に白色～褐色の長軟毛があり、後に無毛となる。7～9 月、頭花は総状または複総状花序につき、半球形となる。総苞は無毛で、暗褐色、3 列ある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、早池峰山に分布する。北海道・本州（東北地方北部）、サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい草原や岩塊地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 八幡平国立公園・早池峰国立公園指定植物。分布の南限にあたり、生育地も少ない。
- ❖ 文献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵（1980）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

アサギリソウ

キク目 キク科

Artemisia schmidtiana Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～40cm の常緑性の亜低木から多年草。茎は叢生し、白色の絹毛があり、銀緑色となる。茎葉は 2 回羽状に全裂し、裂片は細く、両面に銀白色の絹毛を密生する。7～8 月、頭花は総状円錐花序に多数つける。総苞にも密に絹毛がある。花冠の上部に毛や腺毛が多く、少し黄色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 奥州市、岩泉町に分布する。北海道・本州（北陸地方・東北地方）、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日当たりのよい岩場や崩壊地に生育する。
- ❖ 脅威 斜面崩壊などの生育地の消失、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。観賞用として古くから栽培されている。生育地が少ない。
- ❖ 文献 253. 清水建美（1958）、254. 高野祐晃（1996）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

シロヨモギ

キク目 キク科

Artemisia stelleriana Besser

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。地下茎は長く伸び、やや疎に茎を出す。短茎のロゼット葉と花茎下部の葉は 2～3 対に羽状中裂し、卵形～楕円形で、厚い。全体に白綿毛を密生する。8～10 月、頭花は狭い円錐花序につき、球形となる。総苞は白綿毛に包まれ、4 列あり、やや同長となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町、久慈市、宮古市に分布する。北海道・本州（茨城県・新潟県以北）、朝鮮半島・サハリン・千島・カムチャツカ・オホーツク海沿岸に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい海岸の砂丘に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、時化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が少なく、海岸整備や時化などによって生育立地が消失するリスクが高い。個体群ごとの個体数も少ない。
- ❖ 文献 99. 関根清正（2011）、60. 小山田智彰ほか（2020）、80. 関根清正（2020）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

サワシロギク

キク目 キク科

Aster rugulosus Maxim. var. *rugulosus*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～50cm になる多年草。根茎は硬質で長く這う。茎は細く、やや硬く、紫色を帯び、上部で少し分岐する。下部の葉は長柄があり、狭長、中部の葉は短柄があり、上部ほど葉柄と葉身は短くなる。葉の表面の葉脈はくぼむ。8～10 月、枝の先端に少数の頭花をつける。総苞は半球形、片は 3 列、外片の縁に微毛がある。舌状花は 1 列で白色、のちに赤色に変わる。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、北上市に分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい湿地の酸性土に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、強度の草刈り、乾燥化による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られている。
- ❖ 文献 217. 高野祐晃ほか（2007）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ヒメガンクビソウ

キク目 キク科

Carpesium rosulatum Miq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。地下茎はやや太く伸び、白く長いヒゲ状根を出している。茎は細く、少数の枝を出す。根出葉はロゼット状、さじ形で、不ぞろいの鋸歯がある。茎葉はまばらにつく。8～10 月、円柱状卵形の頭花を枝先に点頭する。総苞は筒状鐘形で、3 列あり、外片は短く、反り返る。
- ❖ 分布の概要 一関市、宮古市に分布する。本州・九州、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床の乾性地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数とも少ない。

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

イワギク

キク目 キク科

Chrysanthemum zawadskii Herbieh s.l.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。根茎は細く横走する。根出葉は長柄があり、葉身は広卵形で草質、羽状に 5 深裂し、さらに小裂片に分裂する。茎葉は楕円形となる。8～10 月、茎の上部は数本に分枝し、それぞれの頂に大型の頭花をつける。総苞は 3 列で、ほぼ同長となる。舌状花は白色で、12～15 個ある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、久慈市、岩泉町に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 主として石灰岩地の岩場に生育する。
- ❖ 脅威 斜面崩落、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が少なく、全国的に隔離分布するため、石灰岩地での残存植物とみられている。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄 (1965)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ガンジュアザミ

キク目 キク科

Cirsium ganjuense Kitam.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 1～1.5m になる多年草。葉はやや硬く、長楕円形～披針形で羽状に浅裂する。中下部の茎葉は広く茎を抱く。根出葉は花時にはない。8～9 月、枝の先端近くに数個の紅紫色の頭花を横向きにつける。総苞片はやや厚く、開出し、3 列の片はほぼ同長で、刺はごく短い。
- ❖ 分布の概要 岩手山、早池峰山、薬師岳、五葉山に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。岩手県準固有種で、岩手山で採集された標本にもとづき原記載された。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、49. 吉田繁 (2001)

(鈴木 まほろ)

キセルアザミ

キク目 キク科

Cirsium sieboldii Miq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～70cm になる多年草。根茎は伸ばし、根出葉を花時まで残る。葉は倒披針形で、羽状にやや深く分裂し、基部は下方に狭まり、上から 1/3 の所が最も幅広い。茎は分岐せず、小さな葉が少数つける。9～10 月、茎の先端に 1 個の紅紫色の頭花を下向きに開き、のちに横向きからやや上向きとなる。総苞片は覆瓦状に並び、開出しない。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、盛岡市、岩泉町などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿原に生育する。
- ❖ 脅威 湿原事業、森林伐採などによる湿原の縮小、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 中間湿原を代表する植物で、生育地が少ない。
- ❖ 文献 110. 竹原明秀 (2001)、109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)

(鈴木 まほろ)

ミヤマアズマギク

キク目 キク科

Erigeron thunbergii A.Gray subsp. *glabratus* (A.Gray) H.Hara var. *glabratus* A.Gray

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～35cm になる多年草。根茎は短く、やや株状となり、数本の長軟毛を持つ茎を叢生する。根出葉はへら形で、全縁またはまばらに鋸歯があり、まばらに長軟毛がある。7～8 月、茎頂に頭花を 1 個つける。舌状花は 2～3 列で、紅紫色を帯びる。そう果は有毛で、冠毛は汚白色となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・中国（東北部）・カムチャツカ・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよいやや乾性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。アズマギクに似る高山帯に生育する変種にあたる。生育地は少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)

(鈴木 まほろ)

クモマニガナ

キク目 キク科

Ixeridium dentatum (Thunb.) Tzvelev subsp. *kimuranum* (Kitam.) Pak et Kawano

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。根出葉は楕円形で、やや鋭頭、葉縁に尖った小歯牙状の突出が散在する。茎は中部より上部で分枝する。6～8 月、多数の頭花を散房状につける。頭花は 9～11 個の黄色あるいは白色の舌状花からなる。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。ニガナに似るが、高山帯に生育する。個体数が少ない。
- ❖ 文献 187. 千葉博・小水内正明 (2010)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

タカサゴソウ

キク目 キク科

Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. et Vaniot) Kitam.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる多年草。根は直根状で、根出葉が発達する。茎葉は 1～2 個で、上部にはつかない。葉は卵状披針形で鋭尖、基部はくさび状に狭まり、ときに矢尻形となって茎を抱く。5～7 月、分岐した茎の小枝の先に 2～4 個の頭花をつける。頭花は白～淡紫色の舌状花が 23～27 個からなる。冠毛は白色となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原で、やや乾性地に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発（太陽光パネルの設置のための造成など）、植林、樹木の侵入による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 193. 関根清正（2003）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミヤマウスユキソウ

キク目 キク科

Leontopodium fauriei (Beauverd) Hand.-Mazz. var. *fauriei*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 6～15cm の小型の多年草。茎は叢生し、根出葉はロゼット状で、狭倒披針形、灰白色の綿毛を密生する。茎葉は線形で、両面に黄灰白色の綿毛がある。7～8 月、茎頂に星状の苞葉を 8～13 個つけ、そこに 4～10 個の頭花が密生する。そう果は長楕円形で、冠毛がある。
- ❖ 分布の概要 秋田駒ヶ岳、和賀岳、焼石岳に分布する。本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい岩場に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。特定の生育地しかない。

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①②

ミチノクヤマタバコ

キク目 キク科

Ligularia fauriei (Franch.) Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～100cm になるやや大形の多年草。太い地下茎があり、地上茎は直立する。茎、葉ともに粉緑色となる。葉は卵状長楕円形～広卵形で、先端は円頭、基部は切形または広いくさび形、葉縁に歯牙がある。6～7 月、茎頂は長い総状花序となり、多数の黄色の頭花をつける。総苞は狭筒形、総苞片は 5 個で離生する。舌状花は 2～3 個で、やや鋭頭となる。
- ❖ 分布の概要 洋野町、久慈市、山田町などに分布する。本州（東北～関東地方北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 林内や林縁、海岸に近い草原などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数が減少している。
- ❖ 文献 99. 関根清正（2011）

(島田 直明)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

クルマバハグマ

キク目 キク科

Pertya rigidula (Miq.) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。根茎をやや長く伸ばし、細く硬質の茎を直立する。葉は長倒卵形で無柄、茎の中程に 7～8 個を輪生状につける。8～9 月、円錐花序を出し、8～15 個の頭花をつける。頭花は白色で、7～11 個の筒状花があり、花冠は線形で反り返る。総苞片は円頭になる。
- ❖ 分布の概要 雫石町、花巻市、西和賀町などに分布する。本州（近畿地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 255. 高橋大等（2004）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

カンチコウゾリナ

キク目 キク科

Picris hieracioides L. subsp. *kamtschatica* (Ledeb.) Hultén

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる一年草。根は紡錘状に伸び、茎はやや硬く、剛毛が密生し、下部から中部はよく分枝する。葉は倒披針形で、基部はしだいに狭まり、葉縁には粗い鋸歯がある。7～8 月、葉腋より数本の小枝を出し、それぞれに頭花をつける。頭花は濃黄色、総苞は黒緑色で、剛毛が多い。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・カムチャツカ・シベリアに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原で、日当たりのよいやや乾性地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。低地に生育するコウゾリナの高山帯型で、全国的に生育地は少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

アキノハハコグサ

キク目 キク科

Pseudognaphalium hypoleucum (DC.) Hilliard et B.L.Burt

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる一年草。茎は上部で分枝し、白い綿毛がある。葉は披針形で、先端は尖り、表面は緑色、裏面は密に白綿毛がある。9～11 月、散房状に多くの頭花花序をつける。総苞は球鐘形で、総苞片は淡黄色、花が終わると開く。そう果に細点があり、冠毛は汚白色となる。
- ❖ 分布の概要 一関市、沿岸地域に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・東南アジア・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山野の荒地や路傍、岩礫地などに生育する。
- ❖ 脅威 道路工事（新設・法面保護など）、草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。近年、沿岸地域で生育地が増加している。

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミヤマキタアザミ

キク目 キク科

Saussurea franchetii Koidz.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。茎は直立し、葉柄から流れる狭い翼があり、上部に褐色の軟毛がある。葉は三角形～三角状卵形で、基部は心形に深くくぼみ、先端は鋭く尖る。8～9 月、茎の上部に散房状に 5～8 個の頭花をつける。頭花は白紫色で、総苞は鐘形球形で、白いくも毛がある。外片は細長く、反り返る。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山に分布する。本州（東北地方・新潟県）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯のやや湿性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 早池峰・栗駒指定植物。生育地はいくつかあるが、いずれも個体数が少ない。Kadota (2015) は、従来ミヤマキタアザミとされていた種を複数の種に分ける見解を発表した。これに従う場合、当県の奥羽山脈のものはウゴトウヒレン *S. ugoensis* となる。
- ❖ 文献 200. 大森鉄雄・高橋久 (1993)、256. Kadota (2015)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ミヤコアザミ

キク目 キク科

Saussurea maximowiczii Herder

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。根出葉は長柄があり、花時に残る。茎葉は互生し、長楕円形で羽状に深裂する。9～10 月、散房状に多数の淡紅紫色の頭花を上向きにつける。総苞は細い筒形で、くも毛があり、片は 8 列で、外片は卵形で小さい。
- ❖ 分布の概要 奥州市、平泉町に分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 これまでに確認された生育地は限られている。
- ❖ 文献 42. 鈴木實 (1996)、257. 大森鉄雄 (2003)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

トガヒゴタイ

キク目 キク科

Saussurea muramatsui Kitam.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。茎には葉柄から流れる狭い翼がある。根出葉は卵形で長柄があり、花時に残る。茎葉は長卵形で、上部になるほど小さい。8～9 月、散房状に頭花を多数つける。総苞はくも毛が多く、総苞片は開出する。
- ❖ 分布の概要 二戸市、雫石町、花巻市、西和賀町、北上市に分布する。本州（青森県～山形県の日本海側）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の沢沿いや崩壊地などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、斜面崩壊など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。ナンブトウヒレン *S. sugimurae* Honda に類似し、これまで混同、あるいは同一視されてきたため、これまでの記録を再検討する必要がある。
- ❖ 文献 9. 大森鉄雄・高橋久 (1992)、50. 大森鉄雄 (1995)、258. Kadota (2008)

(鈴木 まほろ)

ハチノヘトウヒレン

キク目 キク科

Saussurea neichiana Kadota

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～120cm になる多年草。茎にはよく発達した翼があり、鋸歯縁になることがある。根出葉は長卵形、革質で、長柄があり、花時にはなくなる。9～10 月、多数の頭花を総状につける。総苞片は 8 列あり、鋭角的に斜上するか、あるいは圧着する。外片は長卵形で、先端は鋭形となり、尾状に伸長しない。
- ❖ 分布の概要 洋野町に分布する。本州（青森県太平洋側）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸沿いの草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発（太陽光パネルの設置などの造成）、草原の管理方法の変更など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。2008 年に命名された植物で、ナンブトウヒレン *S. sugimurae* Honda に類似するため、これまでの記録を再検討する必要がある。
- ❖ 文献 258. Kadota (2008)

(鈴木 まほろ)

ヒメヒゴタイ

キク目 キク科

Saussurea pulchella (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～150cm になる大型の一年草。根は地中に深く入る。茎には縦の隆起線があり、紫色の細毛をつける。根出葉は長披針形で、羽状深裂または全縁となり、花時にはなくなる。茎葉の基部は茎に流れて狭い翼となる。8～10 月、茎頂に多数の頭花を散房状につける。頭花は淡紅紫色または白色で、総苞は広鐘形、総苞片の先端に付属体がある。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・サハリン・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発（太陽光パネルの設置などの造成）、ニホンジカなどの食害など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 259. 小水内長太郎 (1965)

(鈴木 まほろ)

ヤハズトウヒレン

キク目 キク科

Saussurea sagitta Franch.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～45cm になる多年草。根出葉は花時にはなくなる。茎葉はやじり状三角形で、裏面や縁に毛があり、鋭尖頭、基部は柄があり、茎に沿下しない。7～8 月、淡紫色の頭花を 1～5 個、散房状につく。総苞は筒形で緑色、6 列で、外片は短く、卵形で鋭先頭となる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、焼石岳、早池峰山などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の日当たりのよい湿性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 自然災害、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地が限られている

(鈴木 まほろ)

オナモミ

キク目 キク科

Xanthium strumarium L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 50～100cm の一年草。全体に短毛がある。茎は茶褐色を帯び、硬い。葉は互生し、長柄があり、卵状三角形、3～5 浅裂、基部は心形で、不ぞろいの鋸歯がある。8～10 月、茎頂や葉腋から出た枝の先に円錐花序様に雌雄が異なる白色の頭花をつける。さく果は長楕円形でやや扁平、短いかぎ状の刺を密につけ、黄緑色で、灰褐色に熟す。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布したが、現在でも確認できる生育地は少ない。北海道・本州・四国・九州・琉球、アジア大陸に分布する。
- ❖ 生育状況 耕作地の縁や道端などに生育する。
- ❖ 脅威 耕地整備、圃場整備、草刈り、自然遷移、雑種形成など。
- ❖ 特記事項 アジア大陸原産で、史前帰化植物と考えられるが、ここでは一応、対象とする。生育地、個体数とも減少が著しい。オオオナモミなど外来種との交雑が進んでいると考えられる。
- ❖ 文献 260. 沼宮内明 (1995)、261. 関根清正 (2009)

(鈴木 まほろ)

リンネソウ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Linnaea borealis L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の常緑矮小低木。茎は針金状で、地上を長く這い、常緑の葉を対生する。葉は倒卵形～広楕円形で、少数の鋸歯があり、両面に毛を散生する。7～8 月、腺毛をもつ細い花茎を伸ばし、2 分枝した先端に小さな花を 1 個つける。萼裂片は線形、花冠の内面に長毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、早池峰山、薬師岳、五葉山に分布する。北海道・本州（長野県以北）、朝鮮半島（北部）・中国・モンゴル・サハリン・千島・カムチャツカ・シベリア～ヨーロッパ・アリューシャン・北アメリカ（北西部）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯針葉樹林の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰指定植物。生育地が限られ、個体数も少ない。
- ❖ 文献 49. 吉田繁 (2001)

(竹原 明秀)

クロミノウグイスカグラ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera caerulea L. subsp. *edulis* (Regel) Hultén var. *emphyllocalyx* (Maxim.) Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる夏緑広葉低木。若い枝は緑色で、のちに淡黄褐色となり、古くなると樹皮は薄く剥離する。葉は短い柄を持ち、卵形～倒卵形で、先端は鈍頭または円頭で、両面ともに有毛からほぼ無毛となる。5～6 月、短い枝の葉腋から出た短い柄の先に黄白色の花を 2 個下向きにつける。液果は黒紫色に熟す。
- ❖ 分布の概要 姫神山、焼石岳、早池峰山、六角牛山、五葉山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の日当たりのよい湿性な斜面に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。毛の多少、葉、苞、花冠の形などに変異があり、母種（ケヨノミ）と区別することができない個体も多い。黒紫色に熟す果実は甘く、北海道ではハスカップとして栽培されている。
- ❖ 文献 200. 大森鉄雄・高橋久（1993）

（竹原 明秀）

ハクサンサイコ

セリ目 セリ科

Bupleurum nipponicum Koso-Pol. var. *nipponicum*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～60cm になる多年草。根茎は細く伸ばし、茎を直立させる。全草は青白色を帯びる。根出葉や下部の茎葉は長楕円形～へら形、上部の葉は長卵形で、茎を抱く。複散形花序は広い総苞片があり、小総苞片は 5 個で、卵形で尖り、小花序よりも長い。7～8 月、黄色の花を開く。果実は長楕円形で、油管はやや太い。
- ❖ 分布の概要 和賀岳、焼石岳などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、登山者による踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地は限られる。
- ❖ 文献 89. 工藤公也（1982）

（竹原 明秀）

ハマゼリ

セリ目 セリ科

Cnidium japonicum Miq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～50cm になる多年草。葉は単羽状複葉で、小葉には柄がなく、羽状に切れ込み、小裂片は短く、先は鈍形となる。複散形花序をなし、総苞片や小総苞片は細く、縁に毛がある。8～10 月、小さな白色の花を少数つける。果実は球形で、分果の隆条はすべて太い。
- ❖ 分布の概要 洋野町、田野畑村、宮古市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂浜や岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 生育地は限られていることから存続基盤が脆弱である。東日本大震災の津波の影響を受け、生育地が減少した。いずれも個体数が少ない。
- ❖ 文献 99. 関根清正（2011）、80. 関根清正（2020）

（島田 直明）

ハマボウフウ

セリ目 セリ科

Glehnia littoralis F.Schmidt ex Miq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～50cm になる。根はゴボウ状で長い。全体に白毛が多い。茎は多少、枝に分かれる。葉は 1～2 回 3 出羽状複葉で、小葉や裂片は広く、先端は丸く、鋸歯があり、厚い。6～7 月、密な複散形花序をつけ、白色あるいは淡紫色の花をつける。果実は広楕円形で、分果は多肉で、隆条は太く、背面に毛がある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、久慈市、田野畑村、宮古市、釜石市、陸前高田市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・アムール・ウスリー・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂丘に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備（防潮堤建設など）、砂浜整備、盗掘など。
- ❖ 特記事項 以前に比べ、生育地が少なくなった。東日本大震災の津波の影響を受け、生育地が減少した。一部、防潮堤建設により影響を受けた。海水浴場の開設などにあたり、過度な砂浜整備により回復した個体群も大きく減少した場所もある。
- ❖ 文献 248. 高橋大等 (1996)、99. 関根清正 (2011)、55. 小山田智彰ほか (2012)、58. 島田直明 (2014)、154. 島田直明ほか (2014)、60. 小山田智彰ほか (2020)、80. 関根清正 (2020)

(島田 直明)

イワセントウソウ

セリ目 セリ科

Pternopetalum tanakae (Franch. et Sav.) Hand.-Mazz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の小型の多年草。根茎は細長く、弱々しい。根出葉は長い柄があり、2 回 3 出羽状複葉で、小葉は深く切れこむ。茎は細く、直立し枝を出さず、1 個の線形の羽状複葉をつける。5～6 月、複散形花序を頂部に 1 個つけ、総苞片はなく、白色の花をまばらにつける。果実は卵形で、無毛となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山、五葉山などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国などに分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の針葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。

(竹原 明秀)

クロバナウマノミツバ

セリ目 セリ科

Sanicula rubriflora F.Schmidt

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。茎は単一で、花茎となる。葉は根出葉で 3 全裂し、側片はさらに 2 裂し、あらい鋸歯がある。茎頂には 1 対の葉状の総苞片があり、その中心から 3 個の花柄を出し、小散形花序をつける。5～7 月、暗紫色の小さい花を球状に密生する。果実はかぎ状に曲がった刺毛を密につける。
- ❖ 分布の概要 葛巻町、岩手町、岩泉町、盛岡市などに分布する。本州（岩手県・長野県）、朝鮮半島・中国（東北部）・モンゴル・アムール・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 いずれの生育地も個体数が少ない。
- ❖ 文献 262. 大森鉄雄 (1974)

(竹原 明秀)

ミヤマウイキョウ

セリ目 セリ科

Tilingia tachiroei (Franch. et Sav.) Kitag.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。全体に毛はない。茎は直立し、上部は枝を出す。葉は有柄、1～4 回 3 出羽状複葉で、裂片は細い。複散形花序には総苞片と小総苞片があり、線形で数個ある。8～9 月、白色の花を開く。果実は長楕円形で、分果の隆条はとがった脈上で、油管は太い。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩石地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。生育地がきわめて少なく、個体数も少ない。
- ❖ 文献 263. 井上幸三（1975）

（竹原 明秀）

ハイビャクシン

ヒノキ目 ヒノキ科

Juniperus chinensis L. var. *procumbens* Siebold ex Endl.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1m 以下の匍匐性の常緑針葉低木。幹や枝は地面を這って広がり、横走する枝の多くは先端を上向きに伸ばし、マット状になる。葉はほとんどが針形状で、三輪生から十字対生となる。4～5 月、雄花あるいは雌花を小枝の先端につける。毬果は球形で、2 年目に熟し、紫黒色で上半部は少し白粉を帯びる。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 奥州市に分布する。九州（壱岐・対馬・福岡県）、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の崖や砂丘に生育する。県内の個体は蛇紋岩の露岩地に生育する。
- ❖ 脅威 過度の樹木伐採、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 従来から自然分布であるが疑問視されている。生育地は「正法寺及び黒石寺環境緑地保全地域」に指定されている。
- ❖ 文献 264. 岩手県（1982）

（沼宮内 信之）

ジュンサイ

スイレン目 ジュンサイ科

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

環境省 なし

- ❖ 形態 多年生の浮葉植物。根茎は匍匐し、明らかな節から少数の水中茎を出す。はじめにつく数個の葉は沈水葉でうすく、あとからつく葉は浮葉となり、葉柄は盾状に葉身につく。葉身は楕円形で、裏面は赤紫色となる。6～8 月、花は葉腋から伸びた花茎の先端に 1 個つき、暗赤色で目立たない。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、花巻市、遠野市、一関市などに分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、アジア東部・アフリカ・オーストラリア・北中アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 やや酸性の腐植栄養または貧～中栄養の湖沼、ため池などで、深さ 1～2m の水域に生育する。
- ❖ 脅威 池沼開発、浚渫、水質汚濁、農薬汚染、富栄養化、商業的な若芽の採取など。
- ❖ 特記事項 生育地は少なく、商業的な採取が行われている。
- ❖ 文献 171. 竹原明秀（1985）、77. 高野祐晃・須川直義（2007）、25. 宮崎佑介ほか（2010）、173. 上野雄規（2011）、26. 大森鉄雄（2012）、197. 遠藤慎一ほか（2017）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

コウホネ

スイレン目 スイレン科

Nuphar japonica DC.

環境省 なし

- ❖ 形態 浅い水域に群生する多年生の抽水植物。根茎は太くて地中は這い、葉柄痕が残り、節から太い白色のひげ根を出す。葉は根茎の先端から3種類が出る。抽水葉と浮葉は長卵形～長楕円形で、基部が矢尻形、沈水葉は細長く、薄い膜質で、葉縁は波打つ。6～9月、葉腋から円柱形の花茎を水上に出し、黄色の花を開く。果実は緑色の卵形で、水中で結実する。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、西和賀町、花巻市、北上市、奥州市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 湖沼やため池、河川、水路などの水深1～2mの水域で、深い沼では浮葉のみ、流水域では沈水葉のみというように、環境に応じて体制を変える性質を持つ。
- ❖ 脅威 池沼・河川・湿地の開発、浚渫、水質汚濁、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地が少ない。地下茎を乾燥したものを強壮・止血剤、種子は食用として利用される。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄 (2010)、114. 大谷雅人ほか (2013)、132. 関根清正 (2018)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミミガタテンナンショウ

オモダカ目 サトイモ科

Arisaema limbatum Nakai et F.Maek.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ40～80cmになる多年草。扁球形の地下茎があり、子球をつくる。葉は2個で、7～13枚の小葉を鳥足状につける。小葉は卵形～楕円形で幅が広い。4～5月、開葉する前に、葉よりの高いところに花序をつける。仏炎苞は濃紫色～暗紫色で、多くの場合、白条がある。口辺部は耳状にいちじるしく開出し、附属体は棒状から棍棒状で、先端は円い。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州（東北地方～中部地方東部の太平洋側・兵庫県）・四国（高知県）・九州（大分県）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られ、個体数が減少している。分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 64. 笹村祥二 (1971)、245. 鈴木實 (2003)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ナベクラザゼンソウ

オモダカ目 サトイモ科

Symplocarpus nabekuraensis Otsuka et K.Inoue

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ20～50cmになる多年草。根茎は短く、2～3個の葉を根生する。葉は長柄があり、葉身は腎円形で、幅広い。5～6月、葉の展開と同時に葉柄の根もとに暗紫褐色の仏炎苞を出す。仏炎苞と肉穂花序は小さい。果実はその年の夏に熟す。
- ❖ 分布の概要 花巻市、西和賀町、奥州市などに分布する。本州（岩手県～福井県）に分布する。
- ❖ 生育状況 湿地から湿性な夏緑広葉樹林の林床に生育する。いずれも多雪地にあたる。
- ❖ 脅威 森林開発、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 2002年に新種として記載された種で、生育地、個体数ともあまり多くない。
- ❖ 文献 265. Otsuka *et al.* (2002)、266. 大塚孝一 (2002)、267. 猪苗代正憲 (2004)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

アギナシ

オモダカ目 オモダカ科

Sagittaria aginashi Makino

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる抽水性の多年草。根茎は短く、走出枝を出さず、葉腋に多数の小球茎を形成して繁殖する。葉は根生し、長い柄がある。葉身は矢じり形、頂裂片は披針形で鈍頭、側裂片は頂裂片よりも少し短い。7～10 月、葉の間から花茎を伸ばし、輪状総状花序をつけ、雄花は上部、雌花は下部につける。萼片は緑色、花弁は白色で、いずれも 3 個。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 水田や浅い池、ため池の縁、山間地の湿原などに生育する。
- ❖ 脅威 池沼・湿地開発、水質汚濁、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 自然性の高い湿地に生育する。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄 (2010)、26. 大森鉄雄 (2012)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

キンコウカ

ヤマノイモ目 キンコウカ科

Narthecium asiaticum Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は横に這い、根出葉を叢生する。葉は剣状線形で、中脈から左右が表面を内側に折りたたまれている。7～9 月、花茎は数個の短い葉をつけ、茎頂に総状花序をつける。花被片は線形で、黄色、花後は緑色になり、落ちない。雄ずいは花被片よりも短く、花糸に白色の縮毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の湿原、雪田などの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。山地帯にある生育地では絶滅した場所がある。
- ❖ 文献 268. 菅原亀悦・竹原明秀 (1990)、217. 高野祐晃ほか (2007)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

ギンラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる多年草。根茎は短く、細くて弱々しい茎を直立させる。葉は 3～6 個で、狭長楕円形、鋭尖頭、基部は鞘となって茎を抱く。5～6 月、あまり開かない白色の花を総状につける。苞は狭三角形で、下位は長い。萼片は披針形で、側花弁は広披針形、萼片よりもすこし短い。唇弁は基部が短い距となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 低山～山地帯の森林で、やや乾いた林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、草地開発、強度の草刈り、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも年々減少傾向にある。
- ❖ 文献 236. 大森鉄雄 (1989)、269. 関根清正 (2002)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

オノエラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Chondradenia fauriei (Finet) P.F.Hunt.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～15cm になる多年草。根茎は発達せず、茎の基部に 2 個の長楕円形の葉をつける。葉の基部は鞘となる。7～8 月、茎頂に 2～6 個の白色の花を総状につける。萼片は長楕円形で、側花弁は狭長楕円形、萼片と同長になる。唇弁はくさび形で、基部に黄色の W 字形の模様がある。距は太く、楕円形、基部は強くくびれる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。本州（中部地方以北・紀伊半島）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩石混じりの日当たりのよい湿性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者による踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。
- ❖ 文献 193. 関根清正 (2003)、187. 千葉博・小水内正明 (2010)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②③

カキラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Epipactis thunbergii A.Gray

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。根茎は横に這い、節から根を出す。茎は紫色を帯び、少数の鞘状葉に包まれる。葉は狭卵形で、縦脈があり、基部は短い鞘で茎を抱く。6～8 月、黄褐色の花を 10 個前後、総状につける。萼片は狭長卵形で鋭頭、側花弁は卵形で鈍頭、萼片と同じ長さになる。唇弁は内面に紅紫色の斑紋がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい湿地や沢沿いの傾斜地に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも年々、減少傾向にある。
- ❖ 文献 217. 高野祐晃ほか (2007)、99. 関根清正 (2011)、114. 大谷雅人ほか (2013)、197. 遠藤慎一ほか (2017)、93. 藤澤英俊 (2022)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

コフタバラン

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Neottia cordata (L.) Rich.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は短く細く、横に這う。茎は直立し、中部に 2 個の葉を対生状につける。葉は三角状腎形で、鈍頭で凸端、基部は浅心形となる。6～8 月、花を 4～10 個をまばらに総状につける。花は淡緑色で小さく、萼片は狭長楕円形、側花弁は狭卵形、唇弁は開出し、先端は 2 深裂し、広く開く。
- ❖ 分布の概要 岩手山、早池峰山、五葉山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国、千島・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林の林床などに生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、49. 吉田繁 (2001)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①③

ジンバイソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera florentii Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。茎は細く、葉は 2 個が根生状に出る。葉は長楕円形で、表面には光沢があり、縁は波状に縮れる。茎の上部には小さな鱗片葉がまばらにある。8～9 月、淡緑色の花を 5～10 個、穂状につける。背萼片は広卵形、側萼片は披針形で湾曲し、側花弁は三角状斜卵形、唇弁は広線形となる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山などに分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯のブナ林などの林床に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地は多いが、個体数はいずれも少ない。
- ❖ 文献 27. 大森鉄雄 (1982)、246. 大森鉄雄・高橋久 (1985)、270. 関根清正 (1985)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

タカネサギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *maximowicziana* (Schltr.) K.Inoue
var. *maximowicziana*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～15cm の小形の多年草。葉は最下が大きく、長楕円形で、鈍頭、基部は茎を抱く。鱗片葉は披針形で、上方のものほど小さくなる。7～8 月、淡黄緑色の花を 5～10 個、穂状につける。苞は花よりも長い。背萼片は卵形、側萼片は披針形、側花弁は長卵形、唇弁は舌状となる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、焼石岳、早池峰山、薬師岳などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯のやや湿性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも限られている。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎 (1961)、246. 大森鉄雄・高橋久 (1985)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①③

オオキソチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera ophrydioides F.Schmidt var. *ophrydioides*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。根は一部が肥厚する。茎は単一で直立する。最下の一番大きい葉は楕円形で、基部は少し茎を抱く。上部の葉は小さい披針形となる。7～8 月に総状花序に淡黄緑色の小さな花を 10 個程度つける。苞は狭披針形で子房より少し短い、最下方のものは子房より長い。唇弁は広線形で、距はやや長く、前方にやや下垂する。
- ❖ 分布の概要 北上市、奥州市などに分布する。北海道・本州（東北地方～中部地方の日本海側）、サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山の針葉樹林の林床から湿原の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。広義のキソチドリで、これまでの報告を再整理する必要がある。生育地・個体数ともに少ない。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

オオヤマサギソウ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera sachalinensis F.Schmidt

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～60cm になる多年草。茎はわずかに稜があるが、翼はない。葉は倒卵状狭長楕円形で、下方の 2 個が大きく、光沢がある。上方はしだいに小さくなり、鱗片葉となる。7～8 月、淡緑色の花をやや密に多数、穂状につける。背萼片は狭卵形、側萼片と側花弁は半切卵形となる。唇弁は広線形で、距はやや下垂する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、サハリン・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 低山～亜高山帯の森林や草原に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地、個体数とも減少している。
- ❖ 文献 110. 竹原明秀 (2001)、109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)、186. 亀山喜作 (2011)、114. 大谷雅人ほか (2013)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

ホソバノキソチドリ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) ラン科

Platanthera tipuloides (L.f.) Lindl. var. *sororia* (Schltr.) Soó

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。葉は狭長楕円形または線状楕円形で、上部のものは次第に小形になる。7～8 月、黄緑色の花を密にやや多数、穂状につける。背萼片は卵形、側萼片は長楕円形、側花弁は斜長楕円形となる。唇弁は肉質、広線形で、距は下垂または湾曲する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州 (中部地方以北)・四国、サハリン・千島・カムチャツカ・アリューシャンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯以上の湿原や湿性草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。個体数が少ない。
- ❖ 文献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵 (1980)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

ヒメシャガ

クサスギカズラ目 (キジカクシ目) アヤメ科

Iris gracilipes A.Gray

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。根茎は横に這い、長い走出枝を出す。葉は剣形で、先端は尖り、光沢がなく、薄い。5～6 月、数個の淡紫色の花を総状につける。外花被片は中央が白色で、紫色の脈と黄斑がある。内花被片は小形で開出する。さく果は球形で、先端から 3 裂する。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、紫波町、花巻市、西和賀町、奥州市などに分布する。北海道 (南西部)・本州・四国・九州 (北部) に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の尾根沿いなどの日当たりのよい林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 271. 大森鉄雄 (1999)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヤマトミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium fallax Graebn.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 高さ 50～120cm の抽水性の多年草。根茎は横に這い、茎を直立させる。葉は背面が稜となり、断面は三角状となる。5～9 月、伸びた花茎は分枝せず、下部に腋上生の雌性頭花を 3～6 個、上部に雄性頭花を 4～8 個、まばらにつける。雌性頭花がつく花茎の部分はジグザグに曲がる。堅果は紡錘形となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、西和賀町、一関市などに分布する。本州・九州、ミャンマー・インドの温帯から暖温帯に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池、水田放棄地、河川などの停水域に生育する。
- ❖ 脅 威 池沼・湿原・河川開発、水路改修、水量の減少、水質の悪化など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られている。
- ❖ 文 献 71. 高野祐晃 (2005)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミヤマヒナホシクサ

イネ目 ホシクサ科

Eriocaulon nanellum Ohwi var. *nanellum*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 2～8cm の小形の一年草。葉は線形で、3～5 脈が格子状で、少数つく。8～9 月、細い花茎に頭花を 1 個つける。頭花は少数の花からなり、総苞片は 3～5 個で、長楕円形、黒藍色を帯び、先端は鈍頭で、ときに小毛がある。雄花の萼は上部に単細胞の小毛がある。雌花の萼では内面と外面は無毛、上部は有毛となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳、焼石岳などに分布する。本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 高層湿原内の水がわずかにある小凹地に生育する。
- ❖ 脅 威 乾燥化、木道などの敷設、登山者の踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。特殊な環境に生育するため、生育地は少ない。
- ❖ 文 献 272. 竹原明秀・菅原亀悦 (1996)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハナビゼキショウ

イネ目 イグサ科

Juncus alatus Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～40cm の多年草。根茎は節間が短く、ゆるく叢生する。茎は圧扁の 2 稜形で、広い翼がある。葉は剣状線形、多菅質で隔壁は明らかで、葉耳は小さい。5～7 月、茎頂に頭花を多数つける。最下の苞は花序よりもいちじるしく短い。花は柄がなく、花被片は披針形で、同長、先端は尖る。雄ずいは花被片の 2/3、葯は花糸よりはるかに短い。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 湿地に生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

ホソコウガイゼキショウ

イネ目 イグサ科

Juncus fauriensis Buchenau

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は短く、茎は直立する。葉は円筒状の単管質で、隔壁があり、茎より短く、葉耳は大きい。下部の葉鞘は紅紫色を帯びる。7～8 月、頭花は多数つき、それぞれ 2～3 個の花がある。花被片は披針形で、内片は鈍頭、外片は鋭頭となる。雄ずいは 3 個で、葯は花糸とほとんど同長となる。さく果は小さい。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、岩手町、雫石町、滝沢市などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、サハリン・千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地～高山帯の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。近縁種があるため、これまでの記録を再検討する必要がある。
- ❖ 文献 272. 竹原明秀・菅原亀悦（1996）、109. 鈴木まほろ・小水内正明（2010）

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ドロイ

イネ目 イグサ科

Juncus gracillimus (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～70cm になる多年草。根茎は長く這い、節間は短い。全体はやや粉白色を帯びる。茎は円筒状、葉は線形で、鞘は短く、葉耳は小さい。5～7 月、花は集散花序の小枝につく。花被片は卵形で、背部は暗紫色、その両側は赤褐色、円頭となる。雄ずいは花被片の約 2/3 で、葯は花糸とほとんど同長となる。さく果はやや光沢があり、花被片より長い。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・サハリン・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸近くにある日当たりよい湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 海岸・河川開発、海岸・河口整備など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波により、個体数が減少した。
- ❖ 文献 159. 高橋大等（1997）

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヒラギシスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex augustinowiczii Meinsh. ex Korsh.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。根茎は密に叢生し、短く細い匍匐枝をつける。基部の鞘は栗褐色から紫褐色で、一部は黄褐色の小さな葉身となる。葉は軟弱で扁平となる。小穂は長楕円形で、4～6 個が無柄で接近してつくが、最下のものは少し離れる。頂小穂は雌性または雄性、側小穂は雌性または基部に雄花をつけることがある。果胞は狭卵形で短く外曲しない嘴がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈と北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、東アジア（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数とも少ない。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミヤマジュズスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex dissitiflora Franch.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。根茎は短く叢生し、まばらに葉を出す。基部の鞘は黄褐色で、後に黒褐色になり、繊維状に細裂する。葉は鮮緑色でやわらかい。小穂は線形で、4～6 個、各苞から 1～2 個を出し、小花をつける枝を出すこともある。小花はまばらにつき、小穂の上部に雄花、下部に雌花がつく。果胞は直立し、狭卵状紡錘形で、淡緑色、3 稜形で膜質、細い多数の脈があり、しだいに長い嘴になる。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、奥州市、一関市に分布する。北海道・本州・四国・九州、南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 樹林下、滝の周辺など湿性な薄暗い所にまばらに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地が少ない。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミヤマクロスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex flavocuspis Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～50cm になる多年草。根茎は短い匍枝を出し、まばらに叢生する。基部の鞘は一部が無葉で暗褐色、繊維状に細裂する。小穂は 3～5 個がつき、頂小穂は雄性で長楕円形、側小穂は雌性で長い柄があって點頭し、長楕円形または円柱状、密に花をつける。果胞は淡黄緑色で、楕円形、細脈があり、上部は急に狭くなり短小嘴で、花穎より短い。そう果ははなはだゆるく果胞に包まれる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、栗駒山、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、千島・サハリン・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の火山碎石や砂礫のあるやや乾いた草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、登山路の整備、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 252. 千葉博・小水内正明（2009）

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヒナスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex grallatoria Maxim. var. *grallatoria*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～20cm の小形の多年草。根茎は繊細で短く分枝し、叢生する。基部の鞘は灰褐色または赤紫色で、わずかに糸網になる。稈は糸状 3 稜形で、上部はざらつく。葉は糸状で、上面に刺毛が散生する。雌雄異株で、小穂は異なる。雄小穂は稈頂に単生し、線形で、赤褐色になる。雌小穂は広線形で、まばらに 3～5 個の雌花をつける。果胞は楕円形、3 稜形で、淡黄緑色、両側に 2 肋脈がある。
- ❖ 分布の概要 山田町、大槌町、釜石市、住田町、大船渡市などに生育する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 明るい森林の林床や岩上に生育する。一面に覆われているところもある。
- ❖ 脅威 森林開発、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

チュウゼンジスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex longirostrata C.A.Mey. var. *tenuistachya* (Nakai) Yonek.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎はわずかに叢生し、繊細な長い匍匐枝を伸ばし、まばらに稈を出す。基部の鞘はわら色で、繊維状に細裂する。稈は繊細で、3 稜形でざらつく。小穂は 2 個、直立、接近または離れてつく。頂小穂は雄性で、棍棒状となり、側小穂は雌性で、球卵形、4～7 個の花を密につける。果胞は球卵形、上部は細長い嘴となり、短毛を疎生する。
- ❖ 分布の概要 北上市、奥州市、宮古市、大槌町、住田町などに分布する。本州・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 草原や岩場の丘陵地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 個体数が少なく、生育地も限られている。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

コアゼガヤツリ

イネ目 カヤツリグサ科

Cyperus haspan L. var. *tuberiferus* T.Koyama

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～60cm の多年草。根茎は細長く伸び、稈を節ごとに単生し、無葉身の鞘となる葉をつけるか、あるいは叢生し、葉身が発達する葉をつける。8～11 月、複生または単生で、まばらに小穂をつける。苞は 1～2 個、葉状で、花序と同長か少し長い。鱗片は狭長楕円形、鈍頭で、上端はへこむ。そう果は白色で、鱗片の 1/3 の長さで小さい。
- ❖ 分布の概要 雫石町、花巻市、奥州市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、全世界の暖地に分布する。
- ❖ 生育状況 湿地、沼地、水田などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、圃場整備、草刈り、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 個体数がやや少ない。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄 (2010)、26. 大森鉄雄 (2012)、114. 大谷雅人ほか (2013)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

アオガヤツリ

イネ目 カヤツリグサ科

Cyperus nipponicus Franch. et Sav. var. *nipponicus*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～25cm になる一年草。稈は密に叢生する。基部の鞘は褐色で、一部、赤紫色を帯びる。葉は稈よりも短く、淡緑色で、やわらかい。8～10 月、頭状球形の花序を稈の先端につけ、小穂を多数つける。苞は 2～3 個で、葉状となる。小穂は淡緑色、披針形から狭卵形、卵形の鱗片が密に 2 列する。そう果は鱗片の半分以下で、楕円形～倒卵形となる。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、山田町などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 湿地、沼畔、水田などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、圃場整備、草刈り、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 個体数がやや少ない。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

セイタカハリイ

イネ目 カヤツリグサ科

Eleocharis attenuata (Franch. et Sav.) Palla

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる一年草または多年草。根茎はなく、叢生する。稈は細い円柱形で、基部は赤褐色の鞘に包まれる。7～10 月、稈頂に 1 個の小穂を頂生する。小穂は卵形～広卵形で、基部に近い部分が最も幅広い。鱗片は広卵形で、膜質となる。そう果は倒卵形で、3 稜がある。柱基はそう果とほぼ同じ幅になる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、一関市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・ニューギニアに分布する。
- ❖ 生育状況 湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、水質汚染、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 個体数がやや少ない。
- ❖ 文献 43. 高野祐晃 (2007)、13. 大森鉄雄 (2010)、26. 大森鉄雄 (2012)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

コアゼテンツキ

イネ目 カヤツリグサ科

Fimbristylis aestivalis (Retz.) Vahl

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm の小形の一年草。葉はやわらかく、糸状で、鞘に毛がある。8～10 月、散形花序に披針形の小穂を多数つける。鱗片は凸頭で。外曲しない。そう果は倒卵形～広卵形で、淡黄褐色、柱頭は 2 個、花柱の基部は無毛で、平滑になる。
- ❖ 分布の概要 二戸市、奥州市、一関市、宮古市、山田町、大槌町などに分布する。本州、中国・台湾・アムール・インド・インドネシアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、圃場整備、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ミチノクホタルイ

イネ目 カヤツリグサ科

Schoenoplectiella orthorhizomata (Kats.Arai et Miyam.) Hayas.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～50cm になる多年草。稈はまばらに叢生し、円柱形で、基部より上には節がない。地下茎は直立する。葉は根生で鞘状となる。花序は緑褐色の小穂を 6～13 個からなる。総苞片が果実期に開出する。果実は倒卵形の扁 3 稜形で、暗褐色～黒褐色で光沢がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、北上市、奥州市、平泉町などに生育する。北海道・本州（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地の埋め立て、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。生育地、個体数ともに少ない。
- ❖ 文献 273. 早坂英介ほか (2008)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

マツカサススキ

イネ目 カヤツリグサ科

Scirpus mitsukurianus Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1～1.5m になる大型の多年草。茎は直立し、太くて硬く、やや円形で、5～7 個の節がある。葉は線形で、革質で長く伸びる。8～10 月、散房花序をつける。苞は葉状で、花序よりも長い。小穂は柄がなく、10～20 個ずつかたまって球形の小集団をつくる。そう果は扁三角形、刺針は 5～6 個、上方に上向きの小刺針がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、花巻市、北上市、奥州市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりの良い湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地は少ない。
- ❖ 文献 207. 須川直義 (2007)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヒメコヌカグサ

イネ目 イネ科

Agrostis valvata Steud.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 40～70cm になる多年草。根茎は短く、まばらに稈をつける。葉は扁平で、毛はなく、ざらつく。5～6 月、円錐花序は広卵形～披針形で、まばらに小穂をつける。小花は淡緑色、ときにすこし赤紫色を帯びる。苞穎は披針形で同形、鋭頭で 1 脈がある。護穎は苞穎よりもすこし長く、鈍頭で、芒はない。
- ❖ 分布の概要 宮古市、釜石市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 林内や林縁のやや湿性に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヒナザサ

イネ目 イネ科

Coelachne japonica Hack.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 5～20cm の小さな一年草。稈は地表を這って節ごとに直立、分枝し、先端は直立する。葉は披針形で、先端は尖り、基部は円く、葉舌は発達しない。8～10 月、稈頂に円錐花序を出し、まばらに 10～20 個の小穂をつける。枝は横に開出し、細い。小穂は 1～2 個の小花があり、苞穎は不同長で、護穎も淡緑色となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、金ケ崎町、奥州市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地やため池の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、踏み荒らし、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 以前に生育した湿地の多くは開発され、現在、生育する場所は少ない。
- ❖ 文献 274. 中村心一・北上彌逸 (1975)、171. 竹原明秀 (1985)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オガルカヤ

イネ目 イネ科

Cymbopogon tortilis (J.Presl) Hitchc. var. *goeringii* (Steud.) Hand.-Mazz.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 60～100m になる多年草。根茎は短く、やや株立ちになる。稈は硬く、平滑で、短く分枝し、葉とともに香気がある。8～10 月、円柱状の花序をつける。分花序に 2 個ずつつく総は、緑色またはすこし赤紫色を帯びる。1 個の総を作る小穂のうち、最下の 1 対は無柄で雄性、ほかは有柄で雌性となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、一関市から報告されている。本州・四国・九州・琉球・小笠原に分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山地の乾性な草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、圃場整備など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

イワタケソウ

イネ目 イネ科

Hystrix duthiei (Stapf) Bor subsp. *japonica* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 60～80cm になる多年草。根茎はごく短く、叢生する。葉は線形でやや広く、基部でよじれて上下面が逆転する。6～8 月、穂状花序を出し、無柄の小穂を各節に 1 個ずつつける。小穂は 1 小花からなり、包穎は短い針状で小さく、護穎は広披針形、5 脈あり、背面に硬い毛があり、先端に直立した長い芒がある。無毛。
- ❖ 分布の概要 遠野市、宮古市から報告されている。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたると考えられるが、再確認する必要がある。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

タチネズミガヤ

イネ目 イネ科

Muhlenbergia hakonensis (Hack.) Makino

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 40～80cm になる多年草。根茎は長く地中を横に這い、鱗片は硬く、紫色を帯びることもある。稈は直立し、細い。葉は線状で先端は尖る。8～9 月、円錐花序は細く立ち、線形で、枝は圧着する。小穂は狭披針形で、1 小花からなる。苞穎は先が鋭く尖り、護穎には長い芒がある。
- ❖ 分布の概要 宮古市、山田町、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、済州島に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

キダチノネズミガヤ

イネ目 イネ科

Muhlenbergia ramosa (Hack.) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～100cm になる多年草。根茎は長く地中を横に這い、短い鱗片は硬くない。稈は直立し、中部で斜上し、上方はいちじるしく分枝する。葉は線状で濃緑色となる。8～10月、円錐花序は狭長で、枝は1節から1～2個出て、多くは先端が少し傾く。小穂は狭披針形で、1小花からなる。苞穎は広披針形で、先端は鋭く尖る。
- ❖ 分布の概要 北上市、田野畑村、釜石市に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地や丘陵地の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。個体数は少ない。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

タマミゾイチゴツナギ

イネ目 イネ科

Poa acroleuca Steud. var. *submoniliformis* Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる一年草。稈は少数が束生する。稈の基部は数珠状にふくれる。葉は光沢があり、やわらかく、葉鞘はやや扁平で、背は鈍い稜となる。4～7月、円錐花序をつけ、先端は傾くまたは垂れ、枝には小刺針が多少ある。小穂は枝の中部以上にややまばらにつき、3～5個の小花からなる。穎には長軟毛がある。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、山田町、大槌町、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 陰地、溝や小川の縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ムカゴツヅリ

イネ目 イネ科

Poa tuberifera Faurie ex Hack.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎はなく、稈を束生する。稈の基部は数珠状にふくれる。葉は明るい緑色でやわらかく、葉鞘は基部から中央部以上まで縁が癒着し、扁平で背に稜がある。4～6月、稈頂に枝をまばらに出し、それぞれの枝に1～3個の小穂をまばらにつける。小穂は2～3個の小花からなり、護穎と内穎に長軟毛がある。
- ❖ 分布の概要 山田町、釜石市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 151. 高野祐晃 (2003)

(沼宮内 信之)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ミチノクエンゴサク

キンポウゲ目 ケシ科

Corydalis orthoceras Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の小型の多年草。地下に球形の小さな塊茎がある。葉は柄があり、1～3 回 3 出複葉で、小葉は線形～狭円形が多い。全体がやや細長く、小さい。4～5 月、花茎を伸ばし、総状に淡青紫色の小さな花をまばらにつける。苞は欠刻があるかまたは全縁となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、花巻市、西和賀町、北上市、奥州市、宮古市などに分布する。本州（中部地方以北）の日本海沿岸に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒・早池峰指定植物。生育地が少ない。
- ❖ 文献 216. 小水内長太郎・鈴木弘文（1985）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オサバグサ

キンポウゲ目 ケシ科

Pteridophyllum racemosum Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～25cm になる多年草。根茎は短く、全体がやや肉質となる。葉は数個が根生し、深緑色で、羽状に全裂し、広倒披針形で鈍頭、基部は短い柄となる。6～8 月、花茎を伸ばし、先端にまばらな総状花序をつける。花弁は白色、長楕円形で、下向きに開く。
- ❖ 分布の概要 真昼岳、早池峰山、薬師岳などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林の林床にやや密生から散在する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。生育地が限定される。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）、7. 大森鉄雄・高橋久（1980）

（鈴木 まほろ）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

センウズモドキ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Aconitum jaluense Kom. subsp. *iwatekense* (Nakai) Kadota

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 0.8～1.8m になる多年草。地下に紡錘状にふくらんだ塊根があり、1 本の茎が出る。茎は長く伸び、直立し、あまり分枝しない。葉は 3 深裂し、側裂片はさらに 2 深裂し、粗い鋸歯がある。8～9 月、総状散房状に花をつけ、花柄に開出毛がある。花の外面には曲がった毛と開出した毛が混じる。雄ずいとは雌ずいには毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、花巻市、遠野市、北上山地などに分布する。本州（東北地方～関東地方・長野県）に分布する。
- ❖ 生育状況 谷筋などの湿性な林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、河川改修、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。トリカブト類の塊根を乾燥したものを漢方薬として使われるが、本種は不明。個体数が減少している。
- ❖ 文献 236. 大森鉄雄（1989）、99. 関根清正（2011）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

サンリンソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Anemone stolonifera Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～30cm の多年草。根茎は太く短く、匍匐枝を出す。根出葉は 3 出複葉で、小葉には小葉柄があり、側小葉はさらに 2 深裂する。茎葉は 3 個が輪生し、3 深裂し、裂片はさらに欠刻する。6～7 月、花茎の先端に 1～4 個の花を頂生する。萼片は 5 個、楕円形で、白色となる。
- ❖ 分布の概要 葛巻町、盛岡市、岩泉町、住田町などに分布する。北海道・本州（中部以北）、朝鮮半島・中国（東北部）・台湾（山地）に分布する。
- ❖ 生育状況 谷筋などの湿性な林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、河川改修、道路工事など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。個体数は多いが、生育地は限られている。
- ❖ 文献 110. 竹原明秀（2001）、140. 藤澤英俊（2024）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

エゾノリュウキンカ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Caltha fistulosa Schipcz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。根出葉は腎形で大きく、鋸歯は細かい三角状で、規則正しくつく。5～7 月、茎頂および茎葉の腋から花柄を伸ばし、1 個の大型の花をつける。萼片は楕円形で、黄色、5～7 個ある。袋果には花柱が果時にも残る。
- ❖ 分布の概要 八幡平などに分布する。北海道・本州（北部）、朝鮮半島・ウスリー・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の水辺や湿原に生育する。
- ❖ 脅威 水量の変化による自然消滅、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地が限られている。

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

エンコウソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Caltha palustris L. var. *enkoso* H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm の多年草。根出葉は心円形、基部は深くへこみ、低い鈍鋸歯がある。花茎は直立し、上部に数個の茎葉をつける。5～6 月、茎頂および茎葉の腋から花柄を伸ばし、1 個の黄色の花をつける。花後、茎は倒れるように曲がって地につき、地を這うように伸長し、節から発根して新芽をつける。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、盛岡市、花巻市、宮古市などに分布する。北海道・本州、サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿地に生育する。しばしば観賞用として池などに植えられる。
- ❖ 脅威 湿地開発、乾燥化、踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られる。
- ❖ 文献 152. 大森鉄雄（2008）、13. 大森鉄雄（2010）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミツバノバイカオウレン

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Coptis trifoliolata (Makino) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm の常緑性の多年草。根茎は細く長く横に這い、匍匐枝を出す。根出葉はやや厚く、光沢があり、3 個の小葉からなる。小葉は倒卵状くさび形で、上半分に鋸歯がある。5～8 月、花茎の先端に 1 個の白色の花を頂生する。花茎は褐色、萼片は広卵形で円みがあり、花弁は小さい。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。本州（東北地方・中部地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山針葉樹林の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地が限定されている。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

アズマシロカネソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Dichocarpum nipponicum (Franch.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の小形の多年草。根茎は短く、大きな鱗片に被われる。根生葉はほとんどなく、茎葉がある。下部の茎葉はややずれてつき、上部の茎葉は対生する。頂小葉は広卵形で、基部はくさび形、鈍鋸歯がある。5～6 月、外側が紫色を帯びた黄緑色の花をやや下向きに開く。2 つの袋果は離れてつく。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、奥州市に分布する。本州（秋田県～福井県）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地が限られる。
- ❖ 文献 9. 大森鉄雄・高橋久 (1992)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

バイカモ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Ranunculus nipponicus Nakai var. *submersus* H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 長さ 1～2m に伸張する多年生の沈水植物。茎の節から白い根を出す。沈水葉は 3～4 回 3 出複葉で、裂片はさらに 2 分裂して房状になる。6～8 月、葉腋から花茎を水上に伸ばし、白色の花を開く。花弁は 5 個で、ほぼ円形、基部は黄色となる。花床に長毛があり、そう果の背面に短毛がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の用水路や山地の沢など、水温が一定で、透明度が高い流水中に生育する。
- ❖ 脅威 水質汚濁、水辺の開発、河川浚渫、流量の低下による水温変化、強度の刈取りなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。きれいな流水であることの指標となり、水生生物の生息地にもなる。
- ❖ 文献 275. 竹原明秀 (2002)、13. 大森鉄雄 (2010)、26. 大森鉄雄 (2012)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

マンセンカラマツ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Thalictrum aquilegiifolium L. var. *sibiricum* Regel et Tiling

環境省 絶滅危惧 I B 類

- ❖ 形 態 高さ 50～150cm になる多年草。茎は上部で分枝し、全体に毛や腺毛はない。茎葉は 3～4 回 3 出複葉で、托葉は大きく、膜質で、小托葉も目立つ。7～8 月、茎の先端に複散房状花序をつけ、白色または淡紫色を帯びた小型の花を多数つける。そう果は 10 個以下で、倒卵形、先端は切形となる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、軽米町、一戸町、洋野町、久慈市などに分布する。本州・四国・九州、中国（北部・東北部）・シベリア・サハリン・千島に広く分布する。
- ❖ 生育状況 山地や河川敷などの明るい草原に生育する。
- ❖ 脅 威 開発事業、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地は点在するが、個体数は少ない。
- ❖ 文 献 99. 関根清正（2011）、276. 小守一男・千葉高男（2011）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

アラシグサ

ユキノシタ目 ユキノシタ科

Boykinia lycoctonifolia (Maxim.) Engl.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は細長く横に這い、褐色の長毛が密生する。根出葉は 1 個つき、葉柄は長く、葉身は腎円形で、7～9 浅裂～中裂し、裂片はさらに浅裂する。茎は短白腺毛で被われ、数個の茎葉がつく。7～8 月、集散状円錐花序をつける。萼裂片は三角形で黄緑色、花弁は黄緑色で萼裂片よりやや小さい。裂開直前の葯は淡黄色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯～高山帯のやや湿った草原や緩斜面などに生育する。
- ❖ 脅 威 登山者による踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地、個体数ともに少ない。

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ウチワダイモンジソウ

ユキノシタ目 ユキノシタ科

Saxifraga fortunei Hook.f. var. *obtusocuneata* (Makino) Nakai

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～40cm になる多年草。根茎は短く、葉を束生する。葉は倒卵形、基部はくさび形または切形で、3～7 浅裂～中裂し、裂片は卵形となり、無毛～やや毛がある。7～10 月、葉の間から集散花序を出し、花をややまばらにつける。萼裂片は斜開し、花弁は平開し、白色まれに淡紅色になる。裂開直前の葯は橙赤色か暗紅色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 西和賀町に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 湿性な谷壁に着生するように生育する。
- ❖ 脅 威 自然崩落、乾燥化、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。母種のダイモンジソウは県内各地に生育するため、再検討する必要がある。生育地、個体数ともに少ない。

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

アオノイワレンゲ

ユキノシタ目 ベンケイソウ科

Orostachys malacophylla (Pall.) Fisch. var. *aggregeata* (Makino) H.Ohba

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多肉の多年草。ロゼットの葉は倒卵状披針形から楕円形で、緑色、偏平で先端に針状の突起はない。9～10 月、ロゼットの中心から花茎を伸ばし、白色の花を円錐状につける。花弁は倒卵形～倒皮針形で、鈍頭、花時には斜上する。蜜腺は広線形で、淡黄色、裂開直前の葯は濃赤紫色になる。
- ❖ 分布の概要 二戸市、一戸町、洋野町、普代村、岩泉町、宮古市、釜石市などに分布する。北海道・本州（東北地方）・九州（北部）、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリー・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸や内陸の岩上に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、自然崩落、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地が特殊で、個体数もそれほど多くはない。
- ❖ 文献 99. 関根清正 (2011)、58. 島田直明 (2014)、60. 小山田智彰ほか (2020)、80. 関根清正 (2020)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ムラサキモメンヅル

マメ目 マメ科

Astragalus laxmannii Jacq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～40cm になる多年草。茎ははじめ地上を這って広がり、先端は斜上する。葉は互生し、奇数羽状複葉で、小葉は 11～21 枚ある。葉の上面は無毛で、裏面はまばらに白色の短伏毛がある。7～8 月、葉腋から花茎を出し、総状に多数の花をつける。花は紅紫色で、細長く、旗弁はほかの 2 弁よりもいちじるしく長い。
- ❖ 分布の概要 岩泉町、大船渡市に分布する。北海道（南西部）・本州（岩手県・中部地方）、中国（東北部）・モンゴル・シベリア・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地～高山帯の砂礫地、岩場の崩壊地などの日当たりのよい裸地に生育するが、海岸にも生育する。
- ❖ 脅威 自然災害による崩壊、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。個体数が少ない。県内では石灰岩地帯や花崗岩地帯の尾根などに見られる。
- ❖ 文献 18. 村井三郎ほか (1978)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

カワラケツメイ

マメ目 マメ科

Chamaecrista nomame (Makino) H.Ohashi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm の一年草で、根元から分枝することがある。葉は偶数羽状複葉、小葉は対生、15～35 対、線形または狭卵形で、葉柄の上部に 1 個の腺がある。8～10 月に葉腋のやや上に 1～2 個の黄色の花をつける。豆果は扁平な長楕円形で、伏した短毛があり、黒褐色に熟す。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、花巻市、一関市に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりの良い河原、土手、道ばたなどの草地に生育する。
- ❖ 脅威 河川開発、河川整備、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地・個体数が少なくなっている。

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ノササゲ

マメ目 マメ科

Dumasia truncata Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 長さ 3m になる多年生のつる植物。茎は針金状に細長い。葉は互生で、3 枚の小葉からなる。小葉は薄く、表面は無毛で、裏面にまばらな短毛があり、緑白色を帯び、頂小葉は頂卵形になる。托葉は広線形、小托葉は針状となる。8～9 月、葉腋から花序を出し、数個の淡黄色の花をつける。豆果は倒披針形、無毛で、熟すと濃紫色になる。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市、宮古市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 12. 大森鉄雄 (2001)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

マキエハギ

マメ目 マメ科

Lespedeza virgata (Thunb.) DC.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～60cm の夏緑広葉半低木。茎は基部が木質化し、まばらな株となって枝を横に広げる。枝は細く、角張る。葉は互生し、3 小葉からなる。頂小葉は長楕円形で、先端は針状の突起があり、裏面には短毛がある。8～9 月、短い総状花序に蝶形の小さな花を 2～5 個つける。花弁は白色で、旗弁の基部に赤い斑がある。
- ❖ 分布の概要 一関市に分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地や低山の道端、草原などに生育する。
- ❖ 脅威 河川改修工事、道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

チョウセンキンミズヒキ

バラ目 バラ科

Agrimonia coreana Nakai

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 40～70cm になる多年草。茎は直立し、長軟毛が多く、細い。葉は羽状複葉で、3～5 枚の小葉からなり、小葉は菱状の卵形で、縁にはあらい鋸歯があり、裏面に長い軟毛と腺点がある。托葉は大きく、扇状に広がる。7～8 月、花は細長い花穂にまばらにつき、花軸には長軟毛が多く、小苞は小さい。花弁は黄色で、萼筒は伏毛が多い。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道（南西部）・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山地の林床から林縁、高原に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、踏みつけ、強度の草刈り、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 近縁種があるため、再確認が必要といえる。生育地が限られている。
- ❖ 文献 277. 菊地政雄 (1964)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

クロバナロウゲ

バラ目 バラ科

Comarum palustre L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。地下茎は太く、泥の中を這うように広がる。地上茎はやや太く、下部は這いながら分枝し、上部は直立する。葉は互生し、5～7 枚の小葉からなる羽状複葉、葉柄の基部は鞘になって茎を包む。葉の裏面は粉白色で、絹毛がある。7～8 月、枝の先端に暗紅褐色の花を数個つける。萼と花床に毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、北半球の亜寒帯に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の湿地や湖沼の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 踏み荒らし、湿地の乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。周北極植物で、太い根茎が広がることで、池沼の陸化を進める。葛巻町の生育地は絶滅した可能性が高い。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

エゾノコリンゴ

バラ目 バラ科

Malus baccata (L.) Borkh. var. *mandshurica* (Maxim.) C.K.Schneid.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10m になる夏緑広葉樹。短枝はしばしば刺状になり、若い枝は赤褐色になる。葉は互生し、楕円形～長楕円形または広卵形で、両面に軟毛があり、のちに無毛となる。5～6 月に短枝の先にまとまって花がつき、つぼみ時に桃色から紅色で、開花時に白色となる。果実は倒卵状球形のナシ状果で、濃紅色に熟する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部・北部）・ウスリー・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸から山地のやや湿性な草原や湿原の周縁部などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、海岸開発、草原開発（太陽光パネル・風車の設置）、ニホンジカによる食害、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 庭園樹や街路樹として植栽される場合がある。
- ❖ 文献 278. 池谷祐幸ほか（2017）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

オオウラジロノキ

バラ目 バラ科

Malus tschonoskii (Maxim.) C.K.Schneid.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～20m になる夏緑広葉樹。新枝は黄緑色で綿毛がある。葉は互生し、葉身は広卵形～楕円形で、葉縁には不揃いの鋸歯か重鋸歯がある。若葉は綿毛が多く、成葉では表面は無毛、裏面は白い綿毛がやや密生する。4～5 月、短枝の先に 4～6 個の花を散状につける。花卉は桃色から白色になり、花床筒は鐘型で萼片とともに白い軟毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、雫石町、宮古市、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯のやや乾燥した尾根などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、道路工事など。
- ❖ 特記事項 いずれの生育地とも個体数は少ない。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ヒロハノカワラサイコ

バラ目 バラ科

Potentilla niponica Th.Wolf

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。根茎は太く、茎は這うように広がり、根出葉がある。葉は互生し、羽状複葉で中裂し、小葉は 8～12 枚で少ない。7～8 月、茎の先端に分枝した花序をつけ、多数の花をつける。花は黄色で、萼片は大型、背面には白い綿毛が多い。副萼は萼片と同形となる。そう果は平滑となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい河原や砂地、シバ草地のような半自然草原などに生育する。
- ❖ 脅威 河川開発、草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。分布は広域的であるが、個体数は少ない。
- ❖ 文献 99. 関根清正 (2011)、118. 新井隆介・大窪久美子 (2014)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②④

ミチノクナシ

バラ目 バラ科

Pyrus ussuriensis Maxim. var. *ussuriensis*

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 15m になる夏緑広葉高木。樹皮は老木では短冊状にはがれる。長枝と短枝があり、短枝は刺状に残ることがある。葉は卵状楕円形または広卵形で、葉縁は芒状の鋭鋸歯があり、両面は軟毛、のちに無毛となる。5 月、開葉と同時に開花する。花は白色で、萼裂片の内面に長軟毛を密生する。果実は小さな球形で、褐色に熟す。果頂に萼裂片が宿在する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に生育する。本州（岩手県）、ウスリー・中国（北部・東北）・朝鮮に分布する。
- ❖ 生育状況 草原の縁、谷筋や水路の縁などのやや湿性で日当たりのよい場所に生育する。また、家屋や耕作地に近い場所にも植栽される。
- ❖ 脅威 道路工事、河川改修など。
- ❖ 特記事項 九戸村、花巻市などで市町村指定天然記念物がある。自生型と逸出型があり、前者は北上山地の高地に限定的に生育し、後者は広く分布する。前者は絶滅危惧Ⅰ類相等として扱う必要がある。また、利用・普及・保全を目的とするイワテヤマナシ研究会が活動している。
- ❖ 文献 279. Iketani, Ohashi (2003)、280. 池谷祐幸ほか (2006)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

クサイチゴ

バラ目 バラ科

Rubus hirsutus Thunb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～60cm の夏緑広葉小低木。地下茎は横に這い、所々から新しい苗を出す。枝には開出する短軟毛と紫褐色の長い腺毛を密生する。葉は 3～5 小葉で、小葉は薄く、両面に腺毛が多い。3～4 月、茎の上部の葉腋から大型の花を 1～2 個上向きにつける。小花柄は軟毛と腺毛が多い。集合果は大型の球形で、紅色に熟す。
- ❖ 分布の概要 一関市、宮古市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 平地の日当たりのよい林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、強度の草刈りなど。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

エゾノシロバナシモツケ

バラ目 バラ科

Spiraea miyabei Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1～2m になる夏緑広葉低木。枝はわずかに稜があり、無毛またはまばらに毛がある。葉は薄い膜質で、広披針形から倒卵形で、鋭い欠刻状二重鋸歯があり、表面は無毛、仮面と縁にまばらに毛が生える。6～7 月、枝先に複散房状花序がつき、50 個以上の小型の花からなる。花弁は白色で円形、円頭。果実は開出し、短毛が生える。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、岩泉町、宮古市、陸前高田市などに分布する。北海道・本州（北部）、朝鮮半島・中国（中央部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日があまり当たらない岩場や斜面などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。同じような場所に近縁種が生育することから、分布を含めて再検討する必要がある。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ホナガクマヤナギ

バラ目 クロウメモドキ科

Berchemia longiracemosa Okuyama

環境省 なし

- ❖ 形態 夏緑性の木本つる植物。枝は上向きで広がる。葉は薄く、卵形または楕円形で、円頭、基部は円く、全縁となる。裏面の脈腋にわずかに黄褐色の毛がある。7～8 月、枝の先端に細長い総状花序をつけ、花を密生する。花は小さく、黄褐色で、萼裂片は三角形で、先端はやや鈍い。核果は狭長楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 雫石町、西和賀町に分布する。本州（日本海側）に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 生育地が限られ、個体数は少ない。
- ❖ 文献 94. 大森鉄雄 (1975)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ナラガシワ

ブナ目 ブナ科

Quercus aliena Blume

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 25m になる夏緑広葉高木。樹皮は黒褐灰色で堅く、深く不規則に割れる。若い枝は淡緑色で、短毛があるがすぐに無毛となる。葉は倒卵状長楕円形で、鋭頭から鈍頭の鋸歯を持ち、星状毛を葉の裏面に密生から散生させる。4 月、開葉とともに開花し、年内に熟する。堅果は楕円形となる。
- ❖ 分布の概要 紫波町、花巻市、金ケ崎町、奥州市、平泉町などに分布する。本州（岩手県・秋田県以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国・台湾・インドシナ～ヒマラヤに分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の夏緑広葉樹林内などに生育するが、森林を形成することはほとんどない。
- ❖ 脅威 森林伐採、森林開発、道路開発など。
- ❖ 特記事項 花巻市に岩手県指定天然記念物「北笹間のならかしわ」がある。分布の北限で、個体数は少ない。しばしば大径木がある。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

タチガシワ

ブナ目 ブナ科

Vincetoxicum magnificum (Nakai) Kitag.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm の多年草。茎は直立し、分枝はなく、細毛がある。葉は茎の上部に数対つき、広楕円形またはやや菱状広楕円形で、葉脈上にわずかに細毛が生える。6～7 月、茎頂に緑褐色の花をやや密につける。花冠は 5 裂して平開し、裂片の先端は鈍い円頭になる。種子は白い縞糸状の冠毛を持ち、飛散する。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、紫波町、一関市、洋野町、岩泉町、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や草原に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移（草原の管理方法の変更）、草原開発（太陽光パネルの設置、風力発電所の開設）など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地は多いが、いずれも個体数は少ない。
- ❖ 文献 281. 大森鉄雄（2005）、99. 関根清正（2011）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ネコシデ

ブナ目 カバノキ科

Betula corylifolia Regel et Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 17m になる夏緑広葉高木。樹皮は灰白色または帯白色で、横にはげる。小枝は暗紫褐色、無毛で光沢がある。葉は長枝で互生につき、短枝では 2 個が対生状に互生する。葉身の裏面は粉白色となる。5 月、開葉と同時に開花する。雄花序は長枝の先端に 3～4 個下垂し、雌花序は短枝に頂生し下向きに開く。果穂は円柱状で、上向きあるいは斜上する。
- ❖ 分布の概要 岩手山、焼石岳、経塚山、早池峰山、五葉山などに分布する。本州（近畿地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の斜面に生育する。オオシラビソなどの針葉樹と混生することがしばしばある。
- ❖ 脅威 登山道の開設、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

クマシデ

ブナ目 カバノキ科

Carpinus japonica Blume

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 12～15m になる夏緑広葉高木。樹皮は帯褐黒色で、老木では浅く裂け、薄くはげる。若い枝は長い絹毛があるが、後に無毛となる。葉身は卵状楕円形で細長く、基部はわずかに浅心形からまれに円形となる。側脈は 15～24 対で、裏側に突出する。4～5 月、開葉と同時に開花する。雄花序は前年枝に側生、雌花序は新枝に頂生し、それぞれ下垂する。
- ❖ 分布の概要 一関市、宮古市、山田町、釜石市、大船渡市などに分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日当たりがよい谷斜面の湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 木材が堅いため、家具、器具、荷棒などに利用される。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

イワウメヅル

ニシキギ目 ニシキギ科

Celastrus flagellaris Rupr.

環境省 なし

- ❖ 形 態 夏緑性の木本つる植物。枝に円形や楕円形の葉柄痕が残り、一、二年枝の托葉は1対の刺となって宿存する。三年枝より古い枝は次第に灰色、平滑となり、節から太く短い気根を出す。5～6月、葉腋あるいは芽鱗のわきに白色の花をつける。さく果は球形で、黄熟し、宿存する花柱をつける。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 遠野市、山田町に分布するという。本州（関東地方以西）・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・アムールに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林内に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、生け花材としての採取、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 従来から知られている自然分布から大きく離れていること、近縁種が分布することから、分布状況を再確認する必要がある。
- ❖ 文 献 97. 大森鉄雄（2011）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

キバナノコマノツメ

キントラノオ目 スミレ科

Viola biflora L. var. *biflora*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 5～20cm になる有茎の多年草。根茎は短く匍匐し、節は密に接近する。茎は細く、斜上することが多い。葉は腎円形でやわらかく、先端は円く、基部は深い心形となり、表面や縁に毛がある。6～7月、小形の黄色の花をつける。上弁と側弁はそり返り、唇弁は大きく、基部に褐色の多数の条がある。距はきわめて短い。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山、五葉山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）・四国・屋久島、北アメリカ北西部～アジア・ヨーロッパに広く分布する。
- ❖ 生育状況 山地～高山帯のやや湿性な草原や林縁、雪田の周辺に生育する。
- ❖ 脅 威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。氷河期の残存植物で、全国的に生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文 献 282. 須川直義（1999）、144. 武田眞一（2019）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

フモトスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola sieboldii Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 5～10cm になる無茎の多年草。葉は卵形で、基部は心形、表面の脈に沿って白い斑が入るものが多く、裏面は紫色を帯びる。4～5月、白色の花をつける。側弁にはふつう毛があり、唇弁はほかの弁より短く、幅が狭く、紫条が入る。距は短く、円く、紅色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 北上市、金ヶ崎町、奥州市、平泉町、一関市、大船渡市に分布する。本州（関東地方以西）・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山地帯のアカマツ林などの林床や林縁、乾燥気味な半陰地から陽地に生育する。
- ❖ 脅 威 森林開発、道路工事、里山管理の変化による環境変化など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文 献 282. 須川直義（1999）、227. 武田眞一（2018）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

コフウロ

フウロソウ目 フウロソウ科

Geranium tripartitum R.Knuth var. *tripartitum*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～80cm になる多年草。茎はよく分枝し、基部は倒れ、上部は斜上し、葉柄とともに下向きの屈毛と圧毛をつける。葉は互生し、3 全裂し、側小葉はさらに 2 深する。表面と裏面脈上に粗い毛がある。8～9 月、淡紅色～白色の花をまばらにつける。花柄と小花柄には下向きの屈毛と圧毛が密生する。萼片の外面には開出毛がある。
- ❖ 分布の概要 一関市、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の日の当たらない湿性な林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採などに伴う生育環境の変化，ニホンジカによる食害増大など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地、個体数とも少ない。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハクサンフウロ

フウロソウ目 フウロソウ科

Geranium yesoense Franch. et Sav. var. *nipponicum* Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる多年草。茎はよく分枝し、基部は倒れ、下向きの圧毛、葉柄には下向きの粗い毛をつける。葉は掌状に 5 深裂し、裂片は 3 出状、さらに 2～3 中裂し、表面には細毛、裏面には密に粗い毛がある。7～8 月、淡紅色～紅紫色の花を多数つける。萼片には細い伏毛が多く、花卉の基部には白毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 八幡平、真昼岳、焼石岳、早池峰山などに分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 湿り気のある雪崩斜面から雪田周囲の広葉草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、登山道の開設や拡幅、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。県内では個体数が少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）、246. 大森鉄雄・高橋久（1985）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

エゾフウロ

フウロソウ目 フウロソウ科

Geranium yesoense Franch. et Sav. var. *yesoense*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる多年草。茎や葉柄には開出する粗毛が多い。7～8 月、紅紫色の花を多数つける。萼片には密に開出毛がはえる。花卉は 5 個あり、それぞれが重なり合うようにつき、濃紅色の脈が目立つ。
- ❖ 分布の概要 洋野町などに分布する。北海道・本州（東北地方）、千島（シムシル島以南）に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸に近い草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発（太陽光パネルの設置など）、草原の維持管理方法の変更に伴う自然遷移、自然消失など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 129. 関根清正（2007）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハクサンハタザオ

アブラナ目 アブラナ科

Arabidopsis halleri (L.) O'Kane et Al-Shehbaz subsp. *gemmifera* (Matsum.) O'Kane et Al-Shehbaz var. *senanensis* (Matsum.) Yonek.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 10～30cm になる多年草。茎は細くて弱く、倒れて地面についたところで腋芽から発根し、新苗となる。根生葉は頭大羽状に分裂し、表面に毛がある。茎葉は細く、粗い鋸歯がある。花弁は白色で、蒴果は線形で数珠状にくびれる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、台湾・朝鮮半島・中国（東北部）・ロシア（極東）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の岩場に生える。沢沿いなどの湿性な場所を好む。
- ❖ 脅 威 森林伐採、林道工事、登山道整備など。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ホザキヤドリギ

ビャクダン目 オオバヤドリギ科

Loranthus tanakae Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～40cm になる寄生夏緑広葉低木。樹皮は濃褐色で無毛、新枝は赤褐色となる。葉はやや肉質、楕円形～長楕円形で、全縁、先端は円頭で、基部は次第に狭まる。6～7 月、枝の先端に穂状花序をつけ、小さな黄緑色の花を散生する。花は両性で、雄ずいは長短がある。液果は楕円形で、淡黄色に熟す。種子の周りは粘液があり、他物に付着する。
- ❖ 分布の概要 二戸市、滝沢市、雫石町、奥州市、西和賀町、久慈市などに分布する。本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 ミズナラ、クリ、ブナなどの夏緑広葉樹の大木の枝に寄生する。
- ❖ 脅 威 森林開発、道路工事、樹木伐採など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。個体数が少ない。
- ❖ 文 献 283. 吉田稔ほか（1996）

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

イブキトラノオ

ナデシコ目 タデ科

Bistorta officinalis Delarbre subsp. *japonica* (H.Hara) Yonek.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 50～120cm になる多年草。根茎は太く、短い。茎は細く、直立し、枝をあまり出さない。葉は長い葉柄を持つ根出葉と、葉柄が短い茎葉がある。葉柄の上部には翼がある。葉身は卵状長楕円形～披針形で、薄く、先端は尖り、基部は広くさび形～心形となる。7～9 月、細長い総状花序を伸ばし、白色または淡紅色の花を多数つける。花弁はなく、萼は 5 裂する。そう果は卵円形、黒褐色で光沢がある。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の日当たりのよい風衝草原、斜面崩壊跡などに生育する。
- ❖ 脅 威 登山者の踏みつけ、園芸用の盗掘、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。いずれの生育地では個体数が少ない。
- ❖ 文 献 7. 大森鉄雄・高橋久（1980）

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ムカゴトラノオ

ナデシコ目 タデ科

Bistorta vivipara (L.) Delarbre

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～30cm になる多年草。茎は直立し、枝分かれはしない。葉は長い柄のある根出葉と、葉柄がない茎葉がある。葉身は広楕円形～披針形で、表面は光沢があり、裏面は粉白色を帯びる。6～9 月、細長い穂状花序に多数の花をつける。下部の花はむかごとなる。花弁はなく、萼は淡紅色または白色で、5 深裂する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、北半球に広く分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯から高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地が限られている。
- ❖ 文献 246. 大森鉄雄・高橋久（1985）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

シロバナサクラタデ

ナデシコ目 タデ科

Persicaria japonica (Meisn.) Nakai ex Ohki var. *japonica*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。地下茎は長く伸び、分枝する。茎は直立し、よく分枝する。葉は披針形、両端は鋭形で、脈上や縁に伏毛があり、互生する。托葉鞘は長い筒形で、伏毛と長い縁毛がある。8～10 月、総状花序はややまばらに花をつけ、先は下垂する。萼は 5 深裂し、白色で、腺点がある。そう果は 3 稜形、黒色で光沢がある。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島（南部）・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の日当りのよい水辺に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、河川改修、乾燥化、埋め立てなど。
- ❖ 特記事項 個体数は減少している。

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

サクラタデ

ナデシコ目 タデ科

Persicaria odorata (Lour.) Soják subsp. *conspicua* (Nakai) Yonek.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。地下茎を長く伸ばす。茎は直立し、わずかに分枝する。葉は披針形で、両端は鋭形でやや厚く、両面に短毛、裏面に腺点があり、互生する。托葉鞘は短い筒形で、縁に長い剛毛がある。8～10 月、総状花序はやや密に花をつけ、先は下垂する。萼は 5 裂し、淡紅色で、腺点がある。そう果は 3 稜形で、鈍い光沢がある。雌雄異株。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の日当りのよい水辺に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、河川改修、乾燥化、埋め立てなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。個体数は減少している。
- ❖ 文献 281. 大森鉄雄（2005）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

タチハコベ

ナデシコ目 ナデシコ科

Arenaria trinervia L.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 7~20cm になる軟弱な一年草。茎は下部から枝状に分かれて広がり、下向きの短毛を密生する。葉は卵形~広卵形で、両面に短毛があり、薄い。4~8 月、茎の上部の葉腋から伸ばした花柄の先に小型の花をつける。萼片は広い披針形で、白色の花弁の 2 倍の長さがある。さく果は萼片よりも短い。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈を除く県内各地に分布する。北海道・本州（北部）・四国・九州、北半球の温帯に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の夏緑広葉樹林の林床や周辺の岩石上に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、砂防堰堤工事、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。個体数は多くない。
- ❖ 文献 216. 小水内長太郎・鈴木弘文（1985）、38. 小水内長太郎・高野祐晃（1986）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

カワラナデシコ

ナデシコ目 ナデシコ科

Dianthus superbus L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30~80cm になる多年草。茎や葉は粉白色を帯びる。茎は直立し、上部は分枝する。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を抱く。7~10 月、茎頂に淡紅紫色の花を数個、まばらにつく。苞は 3~4 対つき、先は芒状にとがる。花弁の先端は深裂し、下部は深紅褐色のひげ状の毛がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、花巻市、奥州市、一関市、久慈市、宮古市、岩泉町、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 低地や山地の日当たりのよい草原や河原などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、園芸用の盗掘、管理放棄による自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。普通に見られる植物であったが、地域によっては減少が著しい。
- ❖ 文献 281. 大森鉄雄（2005）、99. 関根清正（2011）、114. 大谷雅人ほか（2013）、60. 小山田智彰ほか（2020）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オオヤマハコベ

ナデシコ目 ナデシコ科

Stellaria monosperma Buch.-Ham. ex D.Don var. *japonica* Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40~120cm になる多年草。茎はやや直立し、上部で分枝し、節がふくらみ、片側に毛が並ぶ。葉は対生し、短い柄があり、長楕円形~長楕円形状披針形で、先端は尖る。8~10 月、茎頂に集散花序をつけ、白色で目立たない花を多数つける。小花柄には腺毛があり、小さい苞をつける。花弁は萼片より短く、2 深裂する。
- ❖ 分布の概要 花巻市、遠野市、田野畑村、宮古市、大槌町、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、アフガニスタン・ヒマラヤ・インド・インドシナに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の森林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、砂防堰堤工事、道路の新設など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。
- ❖ 文献 284. 大森鉄雄（1970）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ツルナ

ナデシコ目 ハマミズナ科

Tetragonia tetragonoides (Pall.) Kuntze

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～60cm になる肉質の多年草。茎や葉の表面には粒状の突起がある。茎は分枝し、下部は横に這う。葉は互生し、菱形から卵状三角形となる。4～10 月、葉腋に 1～2 個の緑黄色の花をつけるが、花弁はない。萼筒は 5 稜があり、果時に肩の部分に 4～5 個の突起が出る。果実は木質で硬く、裂開しない。
- ❖ 分布の概要 洋野町、山田町、釜石市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。北海道（南西部）・本州・四国・九州・琉球、太平洋沿岸に広く分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂地に生育する。海岸の漂着物が打ち上げられた付近に見られることが多い。
- ❖ 脅威 海岸整備・開発（埋め立てなど）、海岸清掃（草刈り・草取り）、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波により、多くの個体が失われた可能性が高い。今後の海岸整備によって絶滅することが懸念される。
- ❖ 文献 146. 吉田繁（1985）、129. 関根清正（2007）、58. 島田直明（2014）、80. 関根清正（2020）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オオイワカガミ

ツツジ目 イワウメ科

Schizocodon soldanelloides Siebold et Zucc. var. *magnus* (Makino) H.Hara

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の多年草。根茎は細く、地面を這い、数個の葉を束生する。葉は円形で、多数の尖った鋸歯があり、革質となる。5～7 月、花茎を伸長させ、茎頂に 3～10 個の花をまばらにつける。花は淡紅色～白色で、花冠は漏斗形で 5 裂し、裂片の縁は多数の細い裂片にさらに分かれる。さく果は球形となる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、花巻市、西和賀町、北上市、一関市などに分布する。北海道（南西部）・本州（東北地方～中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山の草原や林床に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 形態や分布は母種のイワカガミと連続する場合がある。
- ❖ 文献 285. 大森鉄雄（1977）、200. 大森鉄雄・高橋久（1993）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

コメバツガザクラ

ツツジ目 ツツジ科

Arcterica nana (Maxim.) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm の常緑小低木。茎は半分が木質化し、地面を這い、よく分枝し、上部は直立する。葉は 3 個が輪生し、楕円形、革質、葉縁はやや裏側に反り返る。6～7 月、枝の先端に 3 個、あるいは 3 個ずつ輪生し、花を下向きにつける。花には 1 個の苞と 2 個の小苞があり、花冠は白色の壺形で、先端は 5 浅裂する。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、八幡平、焼石岳、早池峰山、栗駒山などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の山頂付近や稜線の岩場・砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、自然洗堀など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。高山の岩場などの開放地を覆うように群生する。
- ❖ 文献 209. 井上幸三ほか（1983）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

イワヒゲ

ツツジ目 ツツジ科

Cassiope lycopodioides (Pall.) D.Don

環境省 なし

- ❖ 形態 長い草状の常緑小低木。茎はひも状で、分枝して広がる。葉は厚く、無毛、菱形で茎に密着する。7～8月、葉腋から伸び出した細い花柄の先に白色の花を1個、下向きにつける。萼片は卵形で、先端は円い。花冠は壺形で、さく果は球形で、小さい。
- ❖ 分布の概要 八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳、和賀岳、焼石岳、栗駒山、早池峰山、薬師岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、千島・カムチャツカ・アラスカに分布する。
- ❖ 生育状況 高山の岩場の割れ目に、強い風を避けるように生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。高山帯で、パイオニア的に生育する。
- ❖ 文献 209. 井上幸三ほか（1983）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

シャクジョウソウ

ツツジ目 ツツジ科

Hypopithys monotropa Crantz

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ10～20cmの多年生の菌従属栄養植物。全体が淡黄褐色で、茎の上部に剛毛がある。茎には葉の退化した鱗片葉が多数互生する。鱗片葉は広卵形で、先端は尖る。7～8月、茎の先端に総状花序をつけ、4～8個の花を下向きに開き、その後、上向きになる。萼片は長楕円形で、外面に剛毛がはえ、花卉にも長めの毛がある。さく果は直立する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、アジア・北アメリカ・ヨーロッパに広く分布する。
- ❖ 生育状況 暗い腐植土が多い林床に生育するが、時に踏み固められた歩道の淵などにも見られる。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、微妙な環境変化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも減少している。
- ❖ 文献 117. 千葉高男ほか（2002）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ネジキ

ツツジ目 ツツジ科

Lyonia ovalifolia (Wall.) Drude var. *elliptica* (Siebold et Zucc.) Hand.-Mazz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ3～7mの夏緑広葉小高木。若枝と葉は赤みを帯びる。葉は卵形または長卵形で、先端は細長く鋭く尖り、伏毛が散生し、裏面の基部付近に白毛が密生する。5～6月、前年の枝の葉腋から総状花序を横に伸ばし、多数の白色の花を下向きに開く。花冠は筒型で、先端はやや狭まり、外側に短い軟毛が散生する。
- ❖ 分布の概要 一関市、陸前高田市に分布する。本州（岩手県・山形県以南）・四国・九州、中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の日当たりのよい林内や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。生育地が限定され、個体数が少ない。
- ❖ 文献 73. 藤元淳ほか（1996）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ナガバツガザクラ

ツツジ目 ツツジ科

Phyllodoce nipponica Makino subsp. *tsugifolia* (Nakai) Toyok.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の常緑の小低木。茎はよく分枝し、地面を這うように広がる。葉は密に互生し、線形で、縁にまばらな鋸歯があり、裏面にわずかに毛がある。7～8 月、枝先に淡紅色の花を 2～6 個つけ、横向きに開く。花柄は細長く、微毛と腺毛がはえる。萼片は狭卵形、花冠は淡紅色、鐘形で、先端は 5 浅裂する。さく果は扁球形となる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、焼石岳、栗駒山に分布している。北海道・本州（東北地方北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の岩場の割れ目や岩棚、岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。多雪地に分布し、その南限にあたる。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オオバツツジ

ツツジ目 ツツジ科

Rhododendron nipponicum Matsum.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1～2m の夏緑広葉低木。古い樹皮は紫褐色で縦に裂ける。若枝には開出する毛が散生する。葉は倒卵形で、両面に腺毛が散生する。6～7 月、開葉すると同時に前年の枝先に 5～10 個の花がやや散形状に開く。花柄には開出する長い腺毛が密生し、萼片の背面や縁にも腺毛がある。花冠は黄白色で、先端は赤色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、焼石岳、真昼岳、和賀岳、駒頭山、栗駒山などに分布する。本州（秋田県～福井県）の日本海側に分布する。
- ❖ 生育状況 温帯上部～亜寒帯の湿った低木林内や湿原、雪崩地の縁に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、大規模な雪崩の発生など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。個体数は少ない。
- ❖ 文献 27. 大森鉄雄（1982）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

リンドウ

リンドウ目 リンドウ科

Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～100cm になる多年生。葉は対生し、卵状披針形、3 脈が目立ち、裏面は粉白色を帯びることがなく、縁に細かい突起があり、ざらつく。9～11 月、茎頂および上部の葉腋に固まって、上向きに鐘形の青紫色の花を咲かせる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 草地、林縁、明るい雑木林に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、森林開発、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。草地の草刈り管理がされなくなり、自然遷移が進み、生育環境が消失している。
- ❖ 文献 118. 新井隆介・大窪久美子（2014）

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

タテヤマリンドウ

リンドウ目 リンドウ科

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb. var. *minor* Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm の一年草。茎は基部が分枝し、束生する。秋に出現する根出葉はロゼット状、卵形で小さい。茎葉は 3～4 対あり、披針形で、基部は合着して短い鞘になる。5～7 月、茎頂に 1 個の花をつける。花冠は淡青紫花で、筒状鐘形、裂片は平開する。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の湿原や雪田、その周辺の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地が限定されている。
- ❖ 文献 113. 鈴木實（1974）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②③

センブリ

リンドウ目 リンドウ科

Swertia japonica (Schult.) Makino var. *japonica*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～20cm の一年草。茎は直立し、淡紫色を帯び、上部で分枝する。葉は対生し、細長い線形、縁は多少外側に反り返る。8～10 月、円錐花序に花をつける。花冠は 5 深裂し、裂片は白色で紫色の脈がある。基部付近に淡紫色の 2 個の蜜腺溝があり、長毛がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道（南西部）、本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 シバ草原や道路脇の芝地、荒れ地などの日当たりが良い場所に生育する。
- ❖ 脅威 道路工事、管理方法の変更、薬草利用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 全草に強い苦味があり、健胃薬として利用される。
- ❖ 文献 118. 新井隆介・大窪久美子（2014）、114. 大谷雅人ほか（2013）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

テングノコヅチ

リンドウ目 リンドウ科

Tripterospermum japonicum (Siebold et Zucc.) Maxim. var. *involutibile* (N.Yonez.) J.Murata

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 長さ 30～50cm になる多年生のつる植物。茎は細く、地面を這い、巻きつかない。葉は三角状披針形で、先端は尖り、基部はやや心形または円形で、対生する。7～9 月、茎頂に淡紫色の花を 1～2 個つける。萼片は線状披針形で、偏平、液果とともに翌年まで残る。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林の林縁、登山道の縁に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、刈り払いなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。1988 年に命名された植物で、形態や生態などはツルリンドウに連続する。
- ❖ 文献 286. Yonezawa（1988）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

オニルリソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Cynoglossum asperimum Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～120cm になる大型の一年草。茎は直立し、上部でよく分枝する。葉は長楕円状披針形で、両端ともに尖る。茎、葉ともに全体に開出毛がある。6～8 月、分枝した枝先に総状花序を伸ばし、淡青紫色の花をつける。分果は縁と面にかぎ状の毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿った草原や林縁、林内の道端などに生育する。伐採跡地に一時的に繁茂することもある。
- ❖ 脅威 草原開発、森林開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地は多いが、個体数は少なくなっている。

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ハマベンケイソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Mertensia maritima (L.) Gray subsp. *asiatica* Takeda

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30cm で、やや多肉質となる多年草。茎は倒れて多く分枝し、大きな株を作る。葉は青白色、毛がなく、長楕円形～広卵形で、株のものには長い柄がある。7～8 月、花序を頂生し、先端に花をぶら下がるようにつける。花ははじめに淡紅色から青紫色に変化する。果実は 4 つの分果からなる。
- ❖ 分布の概要 久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、釜石市などに分布する。北海道・本州（日本海側・岩手県）、朝鮮半島・サハリン・千島・アリューシャンなどに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂浜や礫浜の礫間の隙間などに生育する。
- ❖ 脅威 海岸整備・開発（埋め立て、港湾工事など）、道路建設、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。東日本大震災の津波によっていくつかの生育地が消失した。砂浜が残存した場所では一時的に個体数は増加したが、全体的に個体数は減少した。さらに海岸整備により、今後、絶滅が懸念される。
- ❖ 文献 159. 高橋大等 (1997)、129. 関根清正 (2007)、58. 島田直明 (2014)、154. 島田直明ほか (2014)、60. 小山田智彰ほか (2020)、80. 関根清正 (2020)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハシリドコロ

ナス目 ナス科

Scopolia japonica Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。地下茎は太く、塊になって横に這う。茎は直立し、無毛でやわらかい。葉は互生し、長楕円形で、先端は尖り、両面に毛はない。4～5 月、葉腋に 1 個の花をつける。花冠は外面が暗紅紫色、内面が黄緑色で、鐘形となる。さく果は球形となる。
- ❖ 分布の概要 一戸町、盛岡市、花巻市、北上市、金ケ崎町、西和賀町などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の沢沿い湿った木陰などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事、薬草として盗掘など
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたり、個体数が少ない。全体が猛毒（全体にアルカロイドのスコポリンを含む）で、幻覚を起こす。地下茎を薬草として採取されたことがあるが、一般には使用しない。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

マルバノサウトウガラシ

シソ目 オオバコ科

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 10～20cm の小形の一年草。茎は直立し、やわらかい。葉は柄がなく、対生し、卵円形で、5～7 本の脈がある。7～9 月、茎の上部の葉腋から花柄を伸ばし、1 個の花をつける。花冠は淡紫色、2 唇形で、下唇は大きく、中央裂片は大きく 2 裂する。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 湿地、水田、水田放棄地などの湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、圃場整備、除草剤の散布など。
- ❖ 特記事項 水田雑草といわれたが、個体数は大きく減少した。
- ❖ 文献 71. 高野祐晃（2005）、24. 高野祐晃・須川直義（2009）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

アブノメ

シソ目 オオバコ科

Dopatrium junceum (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～25cm の軟弱な一年草。葉は狭長楕円形で柄がなく、上部の葉はしだいに小さくなる。8～9 月、上部に柄のある通常花をまばらにつける。花冠は淡紫色で小さい。茎の中部の葉腋には柄のない閉鎖花をつける。
- ❖ 分布の概要 花巻市、北上市、西和賀町などに分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島（南部）・中国・東南アジア・インドに広く分布する。
- ❖ 生育状況 水田や湿地に生育する。
- ❖ 脅威 宅地造成、圃場整備、乾田化、乾燥化など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。生育地が少ない。

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

エゾオオバコ

シソ目 オオバコ科

Plantago camtschatica Cham. ex Link

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる白い軟毛をやや密生する多年草。太い根茎に 7～11 個の根出葉が束生する。葉は長楕円～倒長卵形で、基部は細くなって葉柄となる。5～8 月、葉の間から 1～7 本の花茎を伸ばし、穂状花序に多数の白色の花をつける。さく果は淡褐色、狭卵形で萼の長さの 1.5～2 倍となる。種子は一つの果に 4 個ある。
- ❖ 分布の概要 二戸市、葛巻町、洋野町、久慈市、野田村、田野畑村、岩泉町、宮古市などに分布する。北海道・本州・九州、朝鮮半島・サハリン・千島・オホーツクに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸砂丘や崖地に生育し、山地の砂質土壌にも見られる。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、草原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波で一部が消失したが、以前から個体数は減少している。
- ❖ 文献 117. 千葉高男ほか（2002）、99. 関根清正（2011）、118. 新井隆介・大窪久美子（2014）、154. 島田直明ほか（2014）、60. 小山田智彰ほか（2020）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハクサンオオバコ

シソ目 オオバコ科

Plantago hakusanensis Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 7～15cm になる多年草。やや塊状に肥大した根茎に 5～10 個の根出葉が束生する。葉は長楕円または倒卵状楕円形でやわらかく、無毛、先端は円いか短く尖る。葉縁は不規則な少数の歯牙がある。7～8 月、葉の間から 1～5 本の無毛の花茎を伸ばし、穂状花序にまばらに花をつける。雄ずいは長く花冠の外に伸び、葯は円心形で、赤紫色を帯びる。さく果は卵状楕円形で、萼の長さの 1.5～2 倍となる。種子は一つの果に 1 個ある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、和賀岳、焼石岳に分布する。本州（白山以北）の日本海側に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯以上の雪田などの湿性な岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、登山道の開設、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ヒヨクソウ

シソ目 オオバコ科

Veronica laxa Benth.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 25～70cm の多年草。茎は直立または斜上し、軟毛がやや密に生える。葉は対生し、卵形で先端は尖り、基部は円く、全体に白い軟毛が生え、縁に不規則な鈍鋸歯がある。6～7 月、茎の上部の葉腋から花序を出し、多数の花をつける。花冠は淡紅紫色または淡青紫色で小さく、皿形となる。さく果は倒心形で、先端は尖り、縁に毛がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道（南西部）・本州・四国、中国・ヒマラヤ・小アジアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。個体数が少ない。
- ❖ 文献 38. 小水内長太郎・高野祐晃（1986）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

クワガタソウ

シソ目 オオバコ科

Veronica miqueliana Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。根茎は短く、分枝し、数本の茎を直立させる。茎は全体に曲がった毛が散生する。葉は対生し、卵形で先端は尖り、基部はくさび形となる。5～6 月、上部の葉腋から出る花序にまばらに 1～5 個の花をつける。花冠は淡紅白色で、紅紫色の条があり、皿状に広く開く。さく果は扁平な三角状扇形となる。
- ❖ 分布の概要 宮古市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州（中部地方以北・紀伊半島）に分布する。
- ❖ 生育状況 イヌブナ林などの暗い林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。分布の北限にあたる。個体数が少ない。
- ❖ 文献 257. 大森鉄雄（2003）

（竹原 明秀）

カワヂシャ

シソ目 オオバコ科

Veronica undulata Wall.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～50cm になる一年草。茎は直立し、無毛となる。葉は対生し、披針形または長楕円状披針形で、先端はやや尖り、縁にはやや尖る鋸歯があり、やわらかい。5～6 月、葉腋から細長い花序を出し、15～50 個の花をつける。花柄には腺毛が散生する。花冠は淡紅紫色で、皿状に広く開く。さく果は球形で先端はわずかにへこむ。
- ❖ 分布の概要 沿岸地域に分布する。本州・四国・九州・琉球、中国・東南アジア・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい河川敷内で、浅い流水中などに生育する。
- ❖ 脅威 河川工事、水質汚染、遺伝的攪乱など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。東日本大震災の津波で生育地が消失した場所もある。特定外来生物に指定されているオオカワヂシャと交雑し、雑種ホナガカワヂシャに置き換わりつつあるとされている。
- ❖ 文献 287. 小水内長太郎 (1991)、42. 鈴木實 (1996)、55. 小山田智彰ほか (2012)、60. 小山田智彰ほか (2020)

(島田 直明)

イヌタヌキモ

シソ目 タヌキモ科

Utricularia australis R.Br.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 長さ 1m を超えることもある沈水生の多年草。葉は基部で 2 本の枝に分かれ、さらに 2 叉状に数回分裂する。捕虫嚢を多くつけるが、ほとんどないこともある。8～9 月、花茎を空中に伸ばし、分枝した先端に 1 個の花を 3～10 個つける。花弁は黄色で、距は下唇より短く鈍頭。長楕円形の殖芽で越冬する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、アジア・ヨーロッパ・中央・南アフリカ・オーストラリア・ニュージーランド（北島）に分布する。
- ❖ 生育状況 低地の池沼、水田、特に貧栄養のため池などの滞水域に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、圃場整備、富栄養化、乾燥化などの水環境の変化など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。タヌキモはイヌタヌキモとオオタヌキモの雑種であることが確認され、従来、県内各地から報告されていたタヌキモは本種の可能性が高い。しかし、検討は進められておらず、早急に対応する必要がある。
- ❖ 文献 288. 高橋大等 (2001)、77. 高野祐晃・須川直義 (2007)、173. 上野雄規 (2011)、26. 大森鉄雄 (2012)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オオムラサキシキブ

シソ目 シソ科

Callicarpa japonica Thunb. var. *luxurians* Rehder

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 2～3mの夏緑広葉低木。若枝には微細な星状毛が密生するが、後に無毛となる。葉は対生し、楕円形で、縁には細かい鋸歯があり、厚く、やや光沢があり、裏面には細かな腺点が多い。6～7 月、腋生またはやや腋上生の大きい集散花序を出し、淡虹紫色の花を密につける。果実は球形で、紫色に熟す。
- ❖ 分布の概要 宮古市、山田町、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸近くの低木林の林内や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 崖崩れ防止施設の設置・改修工事、庭園木としての盗掘など。
- ❖ 特記事項 母種のムラサキシキブよりも葉は大形、肉厚なることが多いが、中間形もある。
- ❖ 文献 175. 吉田繁 (1994) 、289. 吉田繁 (2000)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

オオヤマジソ

シソ目 シソ科

Mosla hadae Nakai

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～30cm になる一年草。茎は4角形で、開出する白色の短毛があり、やや紅紫色を帯びる。葉は対生し、卵形～長卵形で、両面や縁に白色の開出毛がある。9～10 月、枝頂に総状花序をつけ、淡紅紫色の花を密につける。苞は卵円形で、花冠は唇形、萼片とともに白色の開出毛がある。
- ❖ 分布の概要 花巻市などに分布する。本州（西部）・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい丘陵地や裸地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、土地の改変、踏みつけ、刈り払いなど。
- ❖ 特記事項 カルバクロールを含むため、ハーブとして利用されている。県内では導入した個体からの逸出の可能性はある。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ヤマジソ

シソ目 シソ科

Mosla japonica (Benth. ex Oliv.) Maxim.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 10～40cm になる一年草。茎は四角形で直立し、すこし分枝し、白色の短毛があり、しばしば紅紫色を帯びる。葉は対生し、卵形～狭卵形で、低い鋸歯があり、両面に短毛を散生する。9～10 月、枝頂に総状花序をつけ、淡紅紫色の花を密につける。花冠は唇形で小さく、上唇は2浅裂し、下唇は3裂して中央裂片は大きい。
- ❖ 分布の概要 洋野町、岩泉町、住田町などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい丘陵地や水田の縁などの裸地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、圃場整備、土地の改変、踏みつけ、刈り払いなど。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。チモール臭がある。個体数は少ない。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミヤマタムラソウ

シソ目 シソ科

Salvia lutescens (Koidz.) Koidz. var. *crenata* (Makino) Murata

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 25～50cm になる多年草。茎は直立し、わずかに開出する毛をつける。葉は対生し、3 出葉、または 1～2 回羽状複葉になり、羽片はやや円く、縁には鋸歯がある。6～8 月、茎頂に穂状の花序をつけ、ややまばらに淡青紫色の花を開く。花冠の外面に長い軟毛が多い。雄ずいは 2 個で、花冠の中央から突き出る。
- ❖ 分布の概要 雫石町、一関市に分布する。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山や谷間などの半日陰に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたり、個体数は少ない。
- ❖ 文献 34. 鈴木實（2000）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ナミキソウ

シソ目 シソ科

Scutellaria strigillosa Hemsl.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～40cm の多年草。地下に細長い匍匐枝を出す。茎は 4 角で毛があり、多数に分枝する。葉は長楕円形で、先端は円く、やや厚く、両面にわずかに毛があり、葉縁には低い鈍鋸歯がある。6～9 月、上部の葉腋に花を 1 個つける。花は青紫色で、基部で曲がってほぼ直立する。分果は半円形、円い小突起がある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、久慈市、野田村、岩泉町、陸前高田市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・サハリン・千島に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂浜に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 東日本大震災の津波の影響を強く受けたが、比較的早期に回復した。しかし、その後の整備によって多くが絶滅の危機にある。
- ❖ 文献 159. 高橋大等（1997）、129. 関根清正（2007）、99. 関根清正（2011）、55. 小山田智彰ほか（2012）、58. 島田直明（2014）、154. 島田直明ほか（2014）、60. 小山田智彰ほか（2020）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

テイネニガクサ

シソ目 シソ科

Teucrium teinense Kudô

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。茎は直立し、開出する長毛を散生し、特に節の近くでは目立つ。ときに下向きに曲がったやや短い毛を混生する。株の基部から細長い走出枝を出す。8 月、茎の先端付近の葉腋から短い花序を出し、少数の花をつける。花冠は白色となる。萼にはまばらに細い腺毛がある。
- ❖ 分布の概要 二戸市、八幡平市などの奥羽山脈に分布する。久慈市、宮古市にも記録がある。北海道・本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや暗い林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、植林、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。近似種との判別が難しく、過去に報告されたものの中には誤同定が含まれる可能性がある。
- ❖ 文献 290. 高田順（1988）

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ミヤマママコナ

シソ目 ハマウツボ科

Melampyrum laxum Miq. var. *nikkoense* Beauverd

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる半寄生の一年草。茎は直立し、褐色を帯びる。葉は狭卵形または長楕円状披針形で柄があり、対生につく。8～9 月、上部の葉腋あるいは茎頂にまばらに花をつける。苞は卵形から狭披針形で、先端は鈍く、縁に鋸歯はない。花冠は紅紫色、筒形で、先端は唇形、花喉の両側に黄色の斑がある。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。北海道（南西部）・本州（中部地方以北・中国地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 深山の林縁や草原に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 個体数は少ない。
- ❖ 文献 39. 鈴木實（1989）、291. 小水内正明・千葉博（2008）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミヤマシオガマ

シソ目 ハマウツボ科

Pedicularis apodochila Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 7～20cm になる多年草。茎は根ざわで分枝し、直立し、白毛を散生する。根茎の先に鱗片状の葉がある。葉は根ざわに群生し、茎葉は互生する。葉身は長楕円形で尖り、羽状に全裂し、裂片はさらに羽状に深裂する。7～8 月、茎の上部に上向きの花を密に互生する。花冠は紅紫色で、上唇は舟形で先は曲り、下唇は広く開く。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

イワテシオガマ

シソ目 ハマウツボ科

Pedicularis iwatensis Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。茎は斜上し、やや細く、剛毛を散生する。葉は対生し、根ぎわに集まり、長い柄がある。葉身は卵形で、羽状に全裂し、裂片は羽状に深裂し、大きく尖った鋸歯がある。表面はほとんど無毛で、裏面に毛が散生する。8～9 月、まばらに分枝した枝先に紫紅色の花をつける。上唇は舟形で湾曲し、下唇は開いて 3 裂する。
- ❖ 分布の概要 雫石町、花巻市、西和賀町などに分布する。本州（岩手県と秋田県）に分布する。
- ❖ 生育状況 ブナ林内の急斜面や沢沿いの湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 乾燥化、土砂崩れによる埋没など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。分布域は狭く、生育地が限られ、個体数も少ない。
- ❖ 文献 9. 大森鉄雄・高橋久（1992）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

エゾシオガマ

シソ目 ハマウツボ科

Pedicularis yezoensis Maxim. var. *yezoensis*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる多年草。茎は根ぎわで分枝し、直立する。葉は互生し、三角状披針形で、先端は尖り、基部は切形、葉縁は重鋸歯で、両面とも無毛か曲がった毛がある。8～9 月、枝の先端に黄白色の花を 1 個つける。上唇は細長く尾状にとがり、下唇は斜めに広く開く。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～高山帯の明るい草原、湿原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、表土洗堀、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 193. 関根清正（2003）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

シデシャジン

キク目 キキョウ科

Asyneuma japonicum (Miq.) Briq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。根茎は横に這い、根出葉がある。茎は直立し、縦の隆起線がある。下部の茎葉は卵形～長楕円形で、先端は尖り、基部はくさび形となり、柄がある。上部の茎葉は無柄となる。7～8 月、茎頂と上部の葉腋に総状花序をつける。花冠は青紫色、基部まで 5 深裂し、裂片は線形で反り返る。花柱は長く突き出、柱頭は 5 裂する。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州（関東地方以北）・九州、朝鮮半島・中国（東北部）・アムール・ウスリーに分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿った林縁や岩上などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、踏みつけ、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 個体数が減少している。
- ❖ 文献 49. 吉田繁（2001）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

カワラハハコ

キク目 キク科

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. et Hook.f. var. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 30～50cm になる多年草。茎は叢生し、下部から中部でよく分枝する。葉は互生し、線形で、無柄、縁は裏側に巻き込む。茎と葉の裏面に灰白色の綿毛を密生する。8～9 月、枝の先に頭花を散房状につける。総苞は球形で、5～6 列、白色の乾いた膜質となる。雌雄異株。そう果は長楕円形で、上向きの刺がある冠毛をつける。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 中流域の河川敷内の日当たりのよい砂礫地に生育する。
- ❖ 脅 威 河川改修、降雨増水による砂礫の流失、水位調整による河川敷の水没、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 かつては県内各地に生育地があったが、各地で減少している。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

エゾウサギギク

キク目 キク科

Arnica unalaschcensis Less. var. *unalaschcensis*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 15～35cm になる多年草。地下茎は長く伸び、やや接近して茎を立てる。茎は直立し、分枝せず、縮毛を密生する。茎の下部の葉は対生し、さじ形で、有柄があり、葉縁は微凸細鋸歯がある。茎の中部の葉は少なく、互生する。7～8 月、茎の先端に黄色の頭花を 1 個つける。舌状花は一列で、筒状花の花冠筒部には毛がない。
- ❖ 分布の概要 焼石岳に分布する。北海道・本州（東北地方）、千島・アリューシャンに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原で、雪田の周辺などの湿性地に生育する。
- ❖ 脅 威 斜面崩壊、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 全国的にも生育地は少なく、県内には焼石岳のみに分布する。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヒロハウラジロヨモギ

キク目 キク科

Artemisia koidzumii Nakai var. *koidzumii*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 35～100cm になる多年草。地下茎は長く伸長させて広がる。茎は叢生し、灰白色の毛を密生する。茎の中部の葉は倒卵形で、厚く、2～3 対の羽状に中裂し、裂片の先端は鈍頭となる。表面ははじめくも毛があるが後に無毛、裏面は灰白色の毛が残る。8～10 月、円錐状に頭花が多数つく。総苞は鐘球形で、密にくも毛がある。
- ❖ 分布の概要 大船渡市に分布する。北海道、ウスリー・サハリン・南千島・カムチャツカに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸に近い草原や岩場に生育する。
- ❖ 脅 威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 北海道に分布するとされていたが、以前、県内からの報告があった。再確認をする必要がある。
- ❖ 文 献 48. 村井三郎 (1973)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

エゾノタウコギ

キク目 キク科

Bidens maximowicziana Oett.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さは 50cm の一年草。茎葉ともに毛がない。対生する葉は羽状深裂し、2~3 の対裂片がある。裂片は狭披針形で鋭尖頭、やや粗い鋸歯がある。花は舌状花がない。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、金ケ崎町に分布する。北海道、朝鮮半島・中国（東北部）・サハリン・南千島・ダフリアに分布する。
- ❖ 生育状況 やや日当たりのよい湿地、池沼や用水路などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、ため池の改修、水質汚濁、水利環境の変化など。
- ❖ 特記事項 水田雑草とされるが、生育地は多くない。
- ❖ 文献 126. 高野祐晃（2006）、292. 鈴木實（1997）

（鈴木 まほろ）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

オオガクビソウ

キク目 キク科

Carpesium macrocephalum Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80~120cm になる大型の多年草。茎は直立し、中~上方でよく分枝し、ちぢれた毛が密生する。葉は互生し、下部の葉は広卵形で、縁に不ぞろいの重鋸歯がある。上部の葉は披針形となる。8~10 月、枝頂にやや下向きの頭花をつける。頭花は大きく、淡黄色で、線形の葉状苞が直下に輪生する。総苞はお碗状となる。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈、北上山地に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の半日陰で、やや湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事（新設・改修など）、自然災害による土砂崩れなど。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。生育地は少ないが、場所によっては個体数が多い。

（鈴木 まほろ）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②④

キクタニギク

キク目 キク科

Chrysanthemum seticuspe (Maxim.) Hand.-Mazz. f. *boreale* (Makino) H.Ohashi et Yonek.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 1~1.5m になる多年草。根茎は短く、茎は叢生、直立し、上部は分枝する。葉は有柄で互生し、広卵形で、羽状に 3~5 深裂し、先端は尖る。10~11 月、濃黄色の頭花をやや散状に多数つける。総苞片は 3~4 列、外片は線形~狭長楕円形となる。舌状花は短い。そう果には冠毛はない。
- ❖ 分布の概要 一関市などに分布する。本州（東北地方南部~近畿地方）・九州（北部）、朝鮮半島・中国（中部~東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 林縁や山地の崖、耕作地の縁、道ばたなどに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、強度の草刈り、移入種との交雑など。
- ❖ 特記事項 道路沿いに生育している個体は中国・韓国から導入された個体（法面緑化用）、あるいはそこから逸出したものと考えられる。自生する個体は少ないと考えられる。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

（鈴木 まほろ）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オニアザミ

キク目 キク科

Cirsium borealinipponense Kitam.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。茎は太く直立し、全体に縮れた毛が多い。根出葉は花時にも残り、楕円状披針形または長楕円形で羽状に中裂し、刺針がある。茎葉も同じで、基部は広く茎を抱く。7～9 月、茎頂に大型の紅紫色の頭花を 2～3 個接してつく。総苞片は粘着する。花冠の狭頭部は、総苞片を含めた全体の半分で短い。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈に分布する。本州（東北地方～中部地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～亜高山帯の日当たりがよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 道路改修工事、強度の草刈り、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。近似種のハチマンタイアザミと混同されており、精査が必要である。
- ❖ 文献 293. 高野祐晃 (1982)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

モリアザミ

キク目 キク科

Cirsium dipsacolepis (Maxim.) Matsum.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。根は直根状で深く、地中に伸びる。茎はほとんど分枝せず、直立する。根出葉は花時になくなる。茎葉はやや硬い草質で、長楕円状披針形、羽状に切れ込む。9～10 月、枝頂に 1 個の紅紫色の頭花を上向きにつける。総苞片は粘らず、外片は披針形で、外側に張り出し、しばしば縁に毛がある。
- ❖ 分布の概要 北上山地に分布する。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや乾いた草原で、表土の深い所。
- ❖ 脅威 森林伐採、山菜としての盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 根が太く垂直に伸び、地域によってはキクゴボウ、ヤマゴボウなどの名で漬物として賞味されている。
- ❖ 文献 186. 亀山喜作 (2011)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハチマンタイアザミ

キク目 キク科

Cirsium hachimantaiense Kadota

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 80～120cm になる多年草。茎は太く直立し、葉裏とともに白色の毛が密生する。根出葉は大型で、楕円状披針形または長楕円形で羽状に中裂し、鋭い刺針があり、花時にも残る。茎葉も同じで、基部は茎を抱く。7～8 月、茎頂に大型の紅紫色の頭花を 2～4 個が接して下向きにつける。総苞片は鐘球形で、開花直前はいちじるしく粘着する。
- ❖ 分布の概要 八幡平に分布する。ここ以外にも奥羽山脈の高山にも生育するという見解がある。
- ❖ 生育状況 日当たりがよい草原に生育する。
- ❖ 脅威 強度の刈り払い、道路法面の崩壊など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。八幡平のアスピーテライン沿いに分布する。県内で従来オニアザミとされてきたものについても、ハチマンタイアザミとみなすべきとする見解がある。
- ❖ 文献 294. Kadota (2004)、295. 國京順一 (2016)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ナンブタカネアザミ

キク目 キク科

Cirsium nambuense Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～50cm になる多年草。茎は直立し、白色の毛が密生する。根出葉は大きく、深く切れ込み、刺針は鋭く、花時に残る。茎葉は硬く、基部は完全に茎を抱き、羽状に中裂～深裂する。7～8 月、赤紫色の頭花を横向きから下向きに 1～4 個まとまってつく。総苞は鐘球形で、外片は伸びて直立から斜上し、粘らない。
- ❖ 分布の概要 栗駒山に分布する。本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 295. 國京順一 (2016)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

エゾノキツネアザミ

キク目 キク科

Cirsium setosum (Willd.) M.Bieb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～180cm の多年草。茎は直立し、上部でよく分枝する。雌雄異株。8～9 月、多数の頭花が枝先につき、上向きに開花する。雄性頭花は雌性頭花より小型。総苞は狭筒形、総苞片は圧着し先端は直立～斜上し、粘らない。花冠は紅紫色となる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。南千島・北海道・本州（東北地方）、朝鮮半島・台湾・中国・モンゴル・ロシア・東ヨーロッパに広く分布する。
- ❖ 生育状況 平地の路傍、土木工事後の荒地など不安定な環境に生える。
- ❖ 脅威 草刈り、道路工事など。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ミヤマコウゾリナ

キク目 キク科

Hieracium japonicum Franch. et Sav.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～40cm になる多年草。地下茎を伸ばし、やや群生する。根出葉が発達し、茎葉は上部ほど小さくなる。全体に開出した褐色の長毛と白灰毛が混じり、やや密生する。7～8 月、茎頂に 2～12 個の黄色の頭花をつける。総苞は黒色で、総苞片は 2 列、外片は披針形で黒い腺毛と白い短毛、内片は線状披針形で白い腺毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平、秋田駒ヶ岳、岩手山、和賀岳、焼石岳、栗駒山、早池峰山に分布する。本州（中部地方以北）・四国（剣山）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の草原や湿原、雪田にやや群生する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。生育地は限られているが、個体数は多い。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄 (1965)、209. 井上幸三ほか (1983)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

ノニガナ

キク目 キク科

Ixeris polycephala Cass.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～50cm の一年草あるいは多年草。全体が灰緑色から緑色となる。根出葉は線状披針形で、縁に粗い鋸歯がある。茎葉は広線形で、基部が矢じり状で茎を抱く。4～5 月、頭花はやや散状につき、黄色になる。頭花は花後に下を向き、その後、また上を向き、果実となる。そう果には翼がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 平地の草原、畑地、水田の畦畔、河原などに生育する。
- ❖ 脅威 河川工事、草原開発、除草剤の撒布、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 生育地、個体数ともに少なく、絶滅した地域もいくつかある。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

メタカラコウ

キク目 キク科

Ligularia stenocephala (Maxim.) Matsum. et Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～80cm のやや大形の多年草。茎はやや細めで直立する。根出葉には長柄があり、三角状心形となり、葉縁には鋭歯がある。茎葉は 3 個あり、上部ほど小さく、葉柄は広い鞘となる。茎や葉柄は赤紫色を帯びる。6～9 月、茎の先端は長い総状となり、多数の黄色の頭花をつけ、下から開く。総苞は細い筒形で、舌状花は 1～3 個と少ない。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州、中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 やや日陰となる湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、強度の草刈り、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。生育地も少ない。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

オオニガナ

キク目 キク科

Nabalus tanakae Franch. et Sav. ex Y.Tanaka et Ono

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～90cm になる多年草。地下茎は短く横走する。茎は分枝せず、長い粗毛をつける。茎葉は卵形～卵状楕円形で、翼のある長柄があり、基部は茎を抱く。羽状に中裂～深裂する。9～10 月、茎頂に円錐花序状に頭状をつける。頭花は黄色で、20～40 個の小花からなり、舌状花は 10～20 個ある。総苞は太い円柱形で、3 列ある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州（近畿地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 低山帯の湿地、沼沢周辺に生育する。
- ❖ 脅威 湿原開発、自然遷移、踏み荒らしなど。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。生育地が減少している。
- ❖ 文献 277. 菊地政雄 (1964)、248. 高橋大等 (1996)、109. 鈴木まほろ・小水内正明 (2010)、114. 大谷雅人ほか (2013)、197. 遠藤慎一ほか (2017)

(島田 直明)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

オヤリハグマ

キク目 キク科

Pertya trilobata (Makino) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～70cm になる多年草。根茎は横に這い、木化する。根出葉と下部の葉は鱗片状で小さく、中部に長柄をもった広卵形の葉をやや輪状につける。葉は 3 浅裂し、縁に粗い鋸歯がある。9～10 月、頭花は茎の上部の円錐花序状に多数つける。総苞は狭い円柱状で、総苞片は 7 列で、覆瓦状につく。花冠は白色で、そう果は円柱状、上部に短毛が密生する。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市に分布する。本州（東北地方～関東地方北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 平地、山地の疎林内でやや乾燥地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。生育地は少ない。
- ❖ 文献 113. 鈴木實 (1974)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

レンブクソウ

マツムシソウ目 ガマズミ科

Adoxa moschatellina L. var. *moschatellina*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 8～15cm の小型の軟弱な多年草。地下茎は細長く伸ばし、広がる。根出葉は 2 回 3 出複葉で、小葉は羽状で中裂し、裂片は鈍頭となる。茎葉は 1 対で 3 裂する。4～5 月、茎頂に 5 個の黄緑色の花が集まる。頂生の花は 4 数性、側生の花は 5 数性で、萼、花冠、雄ずいのが異なる。果実は小核の石果となる。
- ❖ 分布の概要 九戸村、盛岡市、西和賀町、遠野市、一関市などに分布する。北海道・本州（近畿地方以北）、北半球の温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や沢沿いで、やや陰湿の場所に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、砂防堰堤工事、道路工事など。
- ❖ 特記事項 個体数が少ない。
- ❖ 文献 39. 鈴木實 (1989)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ソクズ

マツムシソウ目 ガマズミ科

Sambucus chinensis Lindl. var. *chinensis*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1～1.5m になる大型の多年草。地下茎を伸ばし広がる。茎はやや太く直立する。葉は有柄でやや大きく、5～7 個の小葉からなり、広披針形または狭卵形となる。7～8 月、やや大形の散房状集散花序をつけ、白色の小さな花を多数つける。花冠は 5 裂し、液果は球形で、赤く熟す。花序の所々に黄色い杯形の腺体がある。
- ❖ 分布の概要 一戸町、軽米町、盛岡市、北上市、奥州市、一関市、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州、中国・タイに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の草原、道端、人家の付近に生育する。
- ❖ 脅威 刈り払い、薬用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 葉と根を乾かし漢方薬（利尿薬、リュウマチや神経痛のための浴湯料）として利用される。人家付近に生育することから、薬用として導入されたものが、その後、野生化したとも考えられる。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ケヨノミ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera caerulea L. subsp. *edulis* (Regel) Hultén var. *edulis* Regel

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 0.8～1.5m の夏緑広葉低木。若枝は葉と共に長短の軟毛が多く、古くなると表皮は剥離する。葉は長楕円形～卵状楕円形で鈍頭、基部は円形ないしくさび形、両面に毛が多い。5～7 月、花柄は下向き、先端に 2 個の花をつける。花冠は黄白色、漏斗状筒型で、外面に毛と腺があり、裂片は斜上する。液果は楕円形で、粉白を帯びた青黒色となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に生育する。北海道・本州（岩手県）、サハリン・千島・朝鮮半島北部・中国（北部）・モンゴル・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 毛の多少、葉、苞、花冠の形態などに変化が多く、クロミノウゲイスクグラ、マルバヨノミの 2 型が認められることから、これまでの資料を再検討する必要がある。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

マルバヨノミ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera caerulea L. subsp. *edulis* (Regel) Hultén var. *venulosa* (Maxim.) Rehder

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 0.8～1.5m の夏緑広葉低木。全体的に毛がまったく無いか、時に葉裏や花冠に長毛を散生する程度で、後に無毛となる。葉は楕円形～長楕円形で、裏面の網脈は隆起する。5～7 月、黄白色の花が下向きに 2 個つける。液果は楕円形で、青黒色となる。
- ❖ 分布の概要 牛形山、早池峰山、六角牛山、五葉山などに分布する。北海道（南部）・本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の湿性な場所に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 近縁変種のクロミノウゲイスクグラと類似するため、検討する必要がある。
- ❖ 文献 200. 大森鉄雄・高橋久（1993）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

オミナエシ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Patrinia scabiosifolia Link

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～100cm になる多年草。茎は直立し、下部は粗い毛がある。葉は対生し、羽状に深裂する。8～9 月、茎の上部に上部が平になる集散花序をつけ、黄色の小花を多数つける。花冠は 5 裂し、小さい。果実は長楕円形で、やや扁平し、腹面に 1 脈がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 平地や丘陵地、山地の日当たりのよい草原、河原などに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 以前は里山の草地に普通に生育していたが、自然遷移により、個体数が急激に減少している。
- ❖ 文献 271. 大森鉄雄（1999）、99. 関根清正（2011）、186. 亀山喜作（2011）、114. 大谷雅人ほか（2013）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ウコンウツギ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Weigela middendorffiana (Carrière) K.Koch

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1.5m 以下の夏緑広葉低木。枝の表皮がよく剥脱し、若枝には 2 縦稜上に屈毛がある。葉は長楕円形または狭卵形で、基部はくさび状となる。葉脈上には粗毛がある。5～7 月、葉腋あるいは枝の先端に散房花序をつけ、2～3 個の花がある。花冠は淡黄色で、下部 1/3 は細筒状、上部 2/3 は鐘状で腹側がふくらむ。
- ❖ 分布の概要 岩手山、焼石岳、早池峰山などに分布する。北海道・本州（東北地方）、千島・オホーツク沿岸・アムール・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の低木林に生育する。
- ❖ 脅威 園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。分布の南限にあたる。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①

トベラ

セリ目 トベラ科

Pittosporum tobira (Thunb.) W.T.Aiton

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 2～3m になる常緑広葉低木。幹は下部からよく分枝し、大きな株になる。葉は互生し、枝の上部に集まってつく。葉身は倒披針形または倒卵形で、革質で全縁、乾くと葉縁は内側に巻く。5～6 月、枝の先端に多数の花を散状につける。花は芳香があり、はじめ白色で、のちに黄色に変化する。さく果は円形で、その年の秋に熟し、その後、3 片に裂開する。そこには粘着質の物質に包まれた赤朱色の種子がある。
- ❖ 分布の概要 山田町、大船渡市、陸前高田市に分布する。本州（岩手県・新潟県以南）・四国・九州・琉球、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の日当たりがよい岩角地に生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発、海岸整備、庭木のための盗掘など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。林床に群生する陸前高田市青松島は県の名勝及び天然記念物に指定されている。
- ❖ 文献 296. 笹村祥二（1975）、11. 吉田繁（1985）、289. 吉田繁（2000）

（島田 直明）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

トウキ

セリ目 セリ科

Angelica acutiloba (Siebold et Zucc.) Kitag. var. *acutiloba*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～80cm になるやや大型の多年草。全体が無毛で、独特の香りがある。茎から多くの枝を広げ、葉は 2～3 回 3 出羽状複葉で、表面に光沢がある。6～8 月、複散形花序を出し、白色の小さな花を多数つける。花序には総苞片はなく、小総苞片は数個ある。果実は長楕円形、分果の側隆条は狭い翼状となる。強いセロリに似た芳香を持つ。
- ❖ 分布の概要 北上市、一関市、陸前高田市などに分布する。北海道・本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地～高山帯の岩石上に生育する。
- ❖ 脅威 薬用としての盗掘など。
- ❖ 特記事項 根を生薬「当帰」として古くから利用され、栽培されることもある。生育地、個体数とも少ない。
- ❖ 文献 73. 藤元淳ほか（1996）

（竹原 明秀）

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ハナビゼリ

セリ目 セリ科

Angelica inaequalis Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～100cm になる多年草。茎は直立し、少数の枝を分ける。葉は 2～3 回 3 出羽状複葉で、葉柄の下部あるいは全部が長い鞘状となる。小葉は長卵形～広卵形で、表面は深緑色、裏面は淡色で、荒い鋸歯がある。8～9 月、小形の複散形花序をつけ、白色の花をややまばらにつける。花柄や小花柄は不同長となる。果実は広楕円形で、薄い側翼がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、雫石町、奥州市、久慈市、宮古市、釜石市などに分布する。本州（関東地方以西）・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

エゾノシシウド

セリ目 セリ科

Coelopleurum gmelinii (DC.) Ledeb.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1～1.5m の大型の多年草。茎は直立し、中空で太い。葉は 1～2 回羽状複葉で、小葉は卵形、広卵形で、厚くて光沢があり、重鋸歯、脈上に毛がある。葉柄は下部または全部が袋状にふくらむ。7～8 月、複散形花序に白色の花を多数つける。果実は長楕円形、分果の油管は細く、多数ある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、久慈市に分布する。北海道・本州（東北地方）、アムール・ウスリー・オホーツク沿岸・サハリン・千島・カムチャツカ・アラスカに分布する。
- ❖ 生育状況 海岸の砂浜や岩場に生育する。
- ❖ 脅威 砂浜の減少、帰化植物の侵入による競争、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。分布の南限にあたる。
- ❖ 文献 99. 関根清正 (2011)

(竹原 明秀)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ムカゴニンジン

セリ目 セリ科

Sium ninsi L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～100cm になる多年草。茎には多くの枝をつけ、葉腋にはむかごができる。葉は単羽状複葉で、下部は円形で上部に行くにしたがい細長いものになる。9～10 月、白色の花をつける。果実は球形で、分果の横断面は五角形で、湯灌は隆条下にもあり、11 個ある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、盛岡市、花巻市、北上市、一関市などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、水環境の変化など。
- ❖ 特記事項 ヌマゼリ（絶滅危惧Ⅰ類）によく似るが、むかごをつけることで区分される。
- ❖ 文献 114. 大谷雅人ほか (2013)

(竹原 明秀)

留意		選定要件 ④
モミ		マツ目 マツ科
<i>Abies firma</i> Siebold et Zucc.		環境省 なし

❖ 形態	樹高 35～40m、胸高直径 1.8m になる常緑針葉樹。樹皮は灰白色～灰褐色、鱗片状に剥離する。枝は太く輪生し、上向きに出る。葉は針状、先端は鋭形で、若い時期には鋭く 2 裂する。5 月、開花し、その年の秋に熟する。毬果は円筒形で先が円く、大きく、直立する。種子は倒卵状くさび形で、同長の翼がある。
❖ 分布の概要	奥州市、一関市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市などに分布する。本州（秋田県・岩手県以南）・四国・九州・屋久島に分布する。
❖ 生育状況	丘陵地などの低山、時に屋敷林や社寺林に残存あるいは植栽される。
❖ 脅威	森林伐採、道路工事など。
❖ 特記事項	分布の北限にあたる。中間温帯林を形成する主要な樹種にあたる。モミ林や大径木は市町村指定天然記念物（一関市、大槌町など）に指定され、県環境緑地保全地域（宮古市黒森山）の主要な植生となっている。植栽や逸出した個体も多く、自然分布であるのか、検討する必要がある。
❖ 文献	297. 菅原亀悦（1978） （島田 直明）

留意		選定要件 ②③
イブキ		ヒノキ目 ヒノキ科
<i>Juniperus chinensis</i> L. var. <i>chinensis</i>		環境省 なし

❖ 形態	樹高 15～20m、胸高直径 50cm になる常緑高木。樹皮は赤褐色で剥離しやすく、主幹はねじれることが多い。葉は 2 型で、成長すると鱗片葉、幼時あるいは下枝は針状葉がある。4 月に開花し、2 年目の秋に熟する。毬果は紫黒色で白粉を帯び、直径 5～8mm の球形で、中に 2～4 個の褐色の種子がある。雌雄異株。
❖ 分布の概要	久慈市、田野畑村、宮古市、山田町、釜石市、大船渡市などに分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州、朝鮮半島・中国・モンゴルに分布する。
❖ 生育状況	海岸の岩の上で、時に石灰岩上にも生育する。
❖ 脅威	森林伐採、庭園木、床柱、彫刻材、器具材などに利用による盗掘など。
❖ 特記事項	自然性の高い海崖の指標となる。寺院や庭園木として植栽され、なかには大木として天然記念物に指定されている。また、園芸品種にカイヅカイブキがある。 （沼宮内 信之）

留意		選定要件 ②③
イヌガヤ		ヒノキ目 イチイ科
<i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight ex Forbes) K.Koch		環境省 なし

❖ 形態	樹高 3～10m、胸高直径 40cm になる常緑小高木。樹皮は暗褐色～灰褐色で、繊維質に剥がれ、浅く縦裂する。葉は互生し、側枝の葉は基部がねじれて水平に 2 列に並ぶ。先端は尖るがやわらかい。3～4 月、雄花は前年の枝の葉腋につき、淡緑色～黄色でよく目立つ。種子の外種皮は赤色に熟する。雌雄異株。
❖ 分布の概要	一関市、宮古市、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州・屋久島、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
❖ 生育状況	日当たりのよい山地斜面で、積雪量が多くない場所に生育する。
❖ 脅威	森林伐採、植栽用の盗掘など。
❖ 特記事項	積雪が少ない地域に生育することから、暖地の指標となる。社寺や庭園に植栽されている。 （沼宮内 信之）

イチイ

ヒノキ目 イチイ科

Taxus cuspidata Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 常緑高木。葉は線形で、先端はとがる。花は 3～4 月、雌雄異株。種子は 10 月頃に成熟し、卵状球形で緑褐色、周囲の多肉の仮種皮は熟すると赤くなり、食べられる。
- ❖ 分布の概要 県内の山地各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・シベリア東部に分布する。
- ❖ 生育状況 山地にまとまった森林をつくことが多い。
- ❖ 脅威 森林開発、生育環境の悪化など。
- ❖ 特記事項 イチイ林として早池峰山系高檜山や葛巻町安家森などが知られている。葛巻町自然保護地区の「袖山イチイ群落地区」として指定、保護されている。宮古市木の博物館分館 13 号「イチイの森」として高檜山の群落が指定されている。高檜山のイチイ林は高木に幹折れ、幹割れなどの冠雪害や氷雪害の被害を受け、後継樹となる中高木が見られないなど、更新が順調に行われていない可能性がある。
- ❖ 文献 298. 高橋大等 (2009)、299. 高橋大等・中村博文 (2010)、300. 高橋大等・小水内正明 (2011)

(島田 直明)

カヤ

ヒノキ目 イチイ科

Torreya nucifera (L.) Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 25m、胸高直径 2m になる常緑高木。樹皮は灰褐色で、老木になると縦裂し、薄片にはがれる。葉は線形で、小枝の左右に 2 列につき、先端は鋭く尖り、触れれば痛い。4 月に開花し、翌年 10 月に成熟する。種子ははじめ緑色でのちに紫褐色になる仮種皮に全面包まれるが、熟すと裂けて種子が現れる。
- ❖ 分布の概要 奥州市、一関市、釜石市、住田町、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州・屋久島に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山地斜面で、積雪量が多くない場所に生育する。
- ❖ 脅威 用材としての伐採など。
- ❖ 特記事項 積雪が少ない地域に生育することから、暖地の指標となる。用材として造船、彫刻、櫛、碁盤、将棋盤などに使用される。また、種子から採れる油はカヤの油として食用や頭髮用になる。天然記念物の指定を受けた大径木が多い。

(沼宮内 信之)

ウマノスズクサ

コショウ目 ウマノスズクサ科

Aristolochia debilis Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 長さ 1m 以上になる多年生のつる植物。茎や葉は無毛で、粉白色を帯び、臭気がある。根は地中を這い、ところどころから芽を出す。葉は 3 角状狭卵形で、先端は鈍頭、基部は心形となる。6～8 月、葉腋から 1 個の花を出す。花は黄緑色で、先端の良縁は少し反り返り、内面は紫褐色を帯びる。
- ❖ 分布の概要 二戸市、盛岡市、紫波町、北上市、一関市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、中国に分布する。
- ❖ 生育状況 平地の畑地や道ばた、土手、原野などの明るい場所に生育する。
- ❖ 脅威 開発事業、強度の草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 ジャコウアゲハの食草のため、保護している場所がある。

(島田 直明)

タブノキ

クスノキ目 クスノキ科

Machilus thunbergii Siebold et Zucc.

環境省 なし

- ❖ 形態 常緑高木。葉は無毛、倒卵状長楕円形、羽状脈があり、裏面は灰白色となる。4～5 月に黄緑色の花を全体につける。果実は扁球形で、黒紫色に熟する。
- ❖ 分布の概要 山田町、釜石市、陸前高田市などに分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島（南部）・中国・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 海岸沿いの傾斜地や尾根沿いに単木状に生育する。タブノキ林は山田町船越大島、釜石市三貫島に発達する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 太平洋側の分布北限で、山田町には県指定天然記念物「タブノキ自生地」、陸前高田市には県指定名勝及び天然記念物「青松島」（タブノキの高木が生育する）がある。東日本大震災の津波跡地に植栽された場所がある。
- ❖ 文献 48. 村井三郎（1973）、289. 吉田繁（2000）、301. 林田光祐（2004）

(島田 直明)

ザゼンソウ

オモダカ目 サトイモ科

Symplocarpus renifolius Schott ex Tzvelev

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40cm になる大形の多年草。葉は長柄があり、円心形で、花後に伸びる。3～5 月、葉に先立って花序を出す。仏炎苞は普通、暗紫褐色まれに緑色となる。先端は尖る。液果はその年の夏に熟する。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、盛岡市、西和賀町、奥州市などに分布する。北海道・本州、朝鮮半島・アムール・ウスリー・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地湿地に発達する湿生林の林床に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、森林伐採、道路工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。同様の環境に生育するミズバショウにくらべ、生育地・個体数とも少ない。そのため、自然性の高い湿生林の指標となる。
- ❖ 文献 54. 戸澤順子（1988）

(沼宮内 信之)

留意

選定要件 ①

アマモ

オモダカ目 アマモ科

Zostera marina L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1m になる海産沈水生の多年草。根茎は横走し、各節から根と葉を出し、先端に花茎をつける。葉は 2 列互生し、長さ 50~100cm、幅 5~12mm、葉脈 5~11 本、リボン状で扁平となる。4~5 月、葉鞘に包まれた花序をつける。種子は楕円形、黒色で硬く、縦に 15~20 本の条がある。
- ❖ 分布の概要 洋野町、宮古市、大船渡市などの沿岸に分布する。北海道・本州・四国・九州、北半球の寒帯から温帯域までに広く分布する。
- ❖ 生育状況 内湾の水深 1~数m の浅い海水域、砂泥質で、塩分濃度 0.3% ほどの汽水域にも生育する。
- ❖ 脅威 海岸開発（埋め立て）、陸からの雑排水による水質汚染、富栄養化、植物プランクトンの増加（赤潮）、透明度の低下、無酸素層の発生などの複合的な環境変化など。
- ❖ 特記事項 もっとも普通に見られる海草で、群生することによってアマモ場を形成する。水質浄化、消波機能、海産動物の生息・産卵・保育場としての機能を持つ。

(沼宮内 信之)

留意

選定要件 ①

トンボソウ

クサスギカズラ目（キジカクシ目）ラン科

Platanthera ussuriensis (Regel et Maack) Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15~35cm になる多年草。根茎はやや肥大し、横に這う。葉は狭長楕円形または倒披針形で、下部にやや接してつく。上部には鱗片葉がある。7~8 月、淡緑色の花をやや多数、穂状につける。背萼片は広楕円形、側萼片は狭長楕円形、側花弁は狭卵形で、かぶとをつくる。唇弁は白色で、距は前方にたれ下がる。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・ウスリー・南千島に分布する。
- ❖ 生育状況 林内の湿性地や沢沿い、山地草原などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、草原開発、河川改修、砂防堰堤工事、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。生育地が減少している。
- ❖ 文献 236. 大森鉄雄（1989）、117. 千葉高男ほか（2002）、281. 大森鉄雄（2005）、92. 安藤亮太・国崎貴嗣（2009）、114. 大谷雅人ほか（2013）、197. 遠藤慎一ほか（2017）

(沼宮内 信之)

留意

選定要件 ①④

ノハナショウブ

クサスギカズラ目（キジカクシ目）アヤメ科

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40~120cm になる多年草。葉は剣状で、太い中脈が目立つ。6~7 月に花茎が立ち、数個の花をつける。花は赤紫色で、外花被中央から基部にかけて黄色部がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 湿地や草原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、草原開発、自然遷移など
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・栗駒指定植物。花巻市ではノハナショウブの群落が、国の天然記念物「花輪堤ハナショウブ群落」として指定されている。
- ❖ 文献 171. 竹原明秀（1985）、114. 大谷雅人ほか（2013）、130. 鐵慎太郎ほか（2017）、132. 関根清正（2018）

(島田 直明)

ミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium erectum L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 0.5～2m になる多年草の抽水植物。茎は直立し、基部から葉が袴状に立つ。葉はやわらかいが裏面に稜が発達する。6～9 月、葉よりも短い花茎を出し、枝の下部に 1～3 個の雌性頭花、上部に 7～15 個の雄性頭花をつける。雌花の柱頭は 3～6mm で、長くて目立つ。雌性頭花は熟すと球形の集合果となる。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、雫石町、花巻市、北上市、奥州市、一関市などの県内各地に分布する。北海道・本州・四国・九州、アジア・ヨーロッパ・北アフリカの温帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 湖沼、ため池、河川の中・下流域、水路などの停水域に生育し、流水域では少ない。
- ❖ 脅威 護岸工事、池沼・湿地開発、圃場整備、水量減少、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 県内の低地に広く分布し、水域の自然性や生物相の豊かさの指標となる。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄（2010）、25. 宮崎佑介ほか（2010）、26. 大森鉄雄（2012）

(沼宮内 信之)

ナガエミクリ

イネ目 ガマ科

Sparganium japonicum Rothert

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 沈水・浮葉状態が普通であるが、抽水状態だと高さ 1.5m になる多年草。葉は、背稜が顕著な場合（抽水状態）と背稜が目立たない場合（沈水・浮葉状態）がある。6～9 月、茎の上部に花序をつける。花茎の上部は雄性頭花で 4～9 個つき、雌性頭花から離れる。最下部から 3 個までの雌性頭花は柄を持つ。中間の雌性頭花は軸に着性か、腋上性となることがある。果実は紡錘状で細長い。最下の頭花が腋生で、果実には柄がある。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、花巻市、北上市、金ケ崎町、奥州市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池、河川、水路内などで、湧水地付近や水が途絶えないような流水中に生育する。
- ❖ 脅威 河川・池沼・湿地開発、土地造成、圃場整備、水路補修、水質汚濁、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 安定した流水中に生育することから、自然性が保たれていることなどの指標となる。
- ❖ 文献 26. 大森鉄雄（2012）

(沼宮内 信之)

ナガミノツルケマン

キンポウゲ目 ケシ科

Corydalis raddeana Regel

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 長さ 1m になる一年生のつる植物。全草が柔らかく、毛はない。茎には稜があり、分枝しながら広がる。葉は互生し、葉柄があり、三角状、2～3 回 3 出の複葉で、小葉は 3 深裂する。7～10 月、鮮やかな黄色の花をつける。さく果は線状倒披針形で、種子はほぼ 1 列に並ぶ。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。本州・九州、朝鮮半島・中国・台湾・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿った林縁や草地、畑地の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、圃場整備、道路工事、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 近縁種のツルケマンとは未開花個体では区分できないことがあり、これまで報告された情報を再検討する必要がある。

(島田 直明)

シナノキンバイソウ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Trollius shinanensis Kadota

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～80cm になる多年草。葉身は円心形で 3 つに全裂し、裂片は羽状に切れ込む。7～9 月に黄色の花をつける。
- ❖ 分布の概要 八幡平、焼石岳、早池峰山に分布する。北海道・本州（中部地方以北）、朝鮮半島（北部）・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高山の湿性草原に生育する。
- ❖ 脅威 登山者の踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。早池峰山の隔離個体群は個体数が少ない。
- ❖ 文献 13. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（鈴木 まほろ）

チョウジザクラ

バラ目 バラ科

Cerasus apetala (Siebold et Zucc.) Masam. et Suzuki var. *tetsuyae* H.Ohba

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 4～7m になる夏緑広葉小高木。樹形は傘状となる。樹皮は灰褐色または暗紫褐色で、皮目が点在する。葉柄は開出毛が密生し、葉身は倒卵形、先端は尾状に伸びた鋭尖形で、2 重鋸歯、裏面脈上に開出毛が密生する。4～5 月、開葉と同時に花を開く。花柄、萼筒とも開出毛を密生する。6 月、黒色に熟する。
- ❖ 分布の概要 花巻市、金ケ崎町に分布するという。本州（太平洋側）・九州（熊本県）に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地などの低山に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 多雪地には亜種のオクチョウジザクラが分布する。これに対して、本種の分布は限られ、太平洋側に分布することから寡雪地の指標となっている。
- ❖ 文献 1. 岩手植物の会（1970）

（竹原 明秀）

サナギイチゴ

バラ目 バラ科

Rubus pungens Cambess.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 20～50cm になる夏緑広葉小低木。茎は細く伸長し、細い刺を散生し、はじめ軟毛がある。葉は 5～7 小葉からなり、頂小葉は菱形状卵形で鋭尖頭、時に 3 裂、側小葉は披針形となる。5～6 月、葉腋から 1～数個の花をつける小枝を出す。花柄や小花柄は長腺毛を密生する。花弁は白色～淡紅色で、集合果は球形、紅色に熟す。
- ❖ 分布の概要 九戸村、八幡平市、葛巻町、岩手町、滝沢市、盛岡市、遠野市、一関市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島に分布する。
- ❖ 生育状況 夏緑広葉樹林の林床や林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、森林伐採、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。県内ではナンブサナギイチゴと称している種があるが、ここでは本種に該当させることとする。
- ❖ 文献 39. 鈴木實（1989）、92. 安藤亮太・国崎貴嗣（2009）

（島田 直明）

イヌブナ

ブナ目 ブナ科

Fagus japonica Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形 態 樹高 25m、胸高直径 70cm になる夏緑広葉高木。樹皮は灰黒色で、しばしば多くの幹を出す。若い枝は淡褐色の軟毛を密生するがすぐに無毛となり、黒紫色になる。葉は長楕円形で、先端は鋭尖形で、側脈が 10～14 対、裏面の脈上に長い軟毛が残存する。4～5 月、雄花序は下向き、雌花序は上向きにそれぞれつける。
- ❖ 分布の概要 一戸町、花巻市、一関市、葛巻町、宮古市、山田町、大船渡市などに分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州（熊本県以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地斜面で、時に傾斜 30° 以上の急傾斜地にも生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、森林開発、土砂崩れなど。
- ❖ 特記事項 分布の北限にあたる。イヌブナ林、ブナ・イヌブナ林は冷温帯下部の自然植生の指標となる。一戸町の自生地は「平糠のイヌブナ自然林」として国の天然記念物、葛巻町下冬部の自生地は「七滝・北限のイヌブナ」として町の天然記念物にそれぞれ指定されている。
- ❖ 文 献 302. 小守一男（1982）、303. 石塚和雄ほか（1992）、304. 菅原亀悦・小水内正明（1998）
(島田 直明)

シハイスミレ

キントラノオ目 スミレ科

Viola violacea Makino var. *violacea*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 10cm になる多年草。地下茎は短く、数個の葉を出す。葉は 3 角状狭卵形、長く尖り、低い鋸歯があり、基部は深い心形、表面は深緑色、裏面は帯紫色となる。4～5 月、高さ 5～8cm の花柄を伸ばし、濃紅紫色の花をつける。萼片は広披針形、側弁は無毛、距は細く、上へ曲がる。
- ❖ 分布の概要 大槌町、釜石市などに分布する。本州・四国・九州、朝鮮半島（南部）に分布する。
- ❖ 生育状況 丘陵地のアカマツ林やコナラ林などの林床などに生育する。
- ❖ 脅 威 森林開発、道路建設、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 変種のマキノスミレは県内各地に分布するが、本種は限られた場所で確認されている。そのため、遺存的隔離分布の可能性が高い。
- ❖ 文 献 305. 武田真一（2009）
(竹原 明秀)

留意

選定要件 ①②④

トカチャナギ

キントラノオ目 ヤナギ科

Salix cardiophylla Trautv. et C.A.Mey.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30m になる夏緑広葉樹。枝は秋～春にかけて赤褐色で光沢がある。葉身は狭楕円形～卵状形楕円形で、両面が無毛からわずかに綿毛があり、乾くと黒化する。5～6 月、下垂する花穂をつけ、多数の花をつける。雌雄異株。雄花には黄緑色の腺体が複数つく。雌花の腺体は淡緑色で、2 個つける。子房は狭卵形で、無毛または灰白色毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、雫石町、奥州市、岩泉町、宮古市、山田町などに分布する。北海道・本州（中部地方以北・大山）、朝鮮半島・中国（東北部）・シベリア・アムール・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の明るい河辺などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、河川工事、砂防堰堤工事など。
- ❖ 特記事項 子房全体から上半分に有毛がある個体をオオバヤナギと呼び、県内ではこのタイプが多い。中部地方では亜高山帯に分布するが、本県では河口に近い場所にも生育する。

(竹原 明秀)

留意

選定要件 ①②④

ホソバアカバナ

フトモモ目 アカバナ科

Epilobium palustre L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～80cm になる多年草。地表に鱗片葉をまばらにつけた細長い匍枝があり、先に越冬芽をつける。茎には稜線がなく、全面に短毛がある。葉は柄がなく、線形～線状披針形で、先端は尖り、突起状の鋸歯がまばらにつけ、短毛がある。6～9 月、花は白色～淡紅色、萼に毛と繊毛が密生する。柱頭は倒卵状棍棒形。さく果は短い白毛がある。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、奥州市、遠野市、釜石市などに分布する。北海道・本州（中部地方以北）、ユーラシア・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の湿原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、林道工事、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。個体数は少ない。
- ❖ 文献 306. 大森鉄雄（2017）

(竹原 明秀)

留意

選定要件 ②

マツカゼソウ

ムクロジ目 ミカン科

Boenninghausenia albiflora (Hook.) Rchb. ex Meisn. var. *japonica* (Nakai ex Makino et Nemoto) Suzuki

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～80cm になる多年草。茎は円柱状で、黄緑色、無毛でやや木質化する。葉は互生し、長い葉柄があり、3 回 3 出羽状複葉となり、小葉は無毛でやわらかく、大きさはふぞろい、最終の小葉はほぼ倒卵形で先は円い。8～10 月、白色の小さな花をややまばらにつける。一種の臭気がある。
- ❖ 分布の概要 一関市、大船渡市、陸前高田市に分布する。本州（岩手県以南）・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 スギ植林地の谷筋など、日当たりのよい湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 道路の工事、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 ニホンジカの忌避植物と知られ、ニホンジカの食害が多い地域では個体数が増加する傾向が認められる。岩手県内での生育地は限られている。
- ❖ 文献 235. 吉田繁（2005）、307. 吉田繁（2010）

(竹原 明秀)

ノダイオウ

ナデシコ目 タデ科

Rumex longifolius DC.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 1～1.5m になる多年生。茎は直立し、多く分枝する。根出葉や下部の茎葉は大きく、有柄で、長卵状楕円形、縁は波状、先端は鈍頭、基部は円形となる。上部の茎葉は小型で細くなる。6～8 月、花は各節に輪生し、大型の円錐状花序をつくる。翼状内萼片は広倒心形で、縁は低鋸歯または全縁となる。果柄に関節がある。
- ❖ 分布の概要 県内各地に分布する。北海道・本州（中部地方以北・和歌山県）、北半球に広く分布する。
- ❖ 生育状況 道路や田畑の縁にある水路とその周辺の湿性、低地の湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 開発事業、圃場整備、乾燥化、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興指定植物。多くの生育地が確認されているが、ギンギシとエゾノギンギシとの関係など、再検討する必要がある。純系の個体は少ないと考えられる。

(島田 直明)

ユキツバキ

ツツジ目 ツバキ科

Camellia rusticana Honda

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 3m になる常緑広葉低木。枝は積雪のために這うことが多く、地表に接した枝から根が出ることもしばしばある。葉は互生し、無毛で、表面は濃緑色で光沢がある。葉柄の上部両側から背部に白毛がある。3～5 月、花は冬芽の最下に腋生し、1～2 個つける。果実はまれにしか成熟せず、やや細長い。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、奥州市に分布する。本州（東北地方～北陸地方）の日本海側に分布する。
- ❖ 生育状況 山地に群生することがしばしばある。
- ❖ 脅威 森林開発、道路工事など。
- ❖ 特記事項 母種のヤブツバキは暖地性で、県内では分布を異にする。庭木として植栽される場合もある。奥州市に県指定天然記念物「胆沢川流域ユキツバキ群落」がある。
- ❖ 文献 91. 大森鉄雄・高橋久（1984）

(竹原 明秀)

ミチノクコゴメグサ

シソ目 ハマウツボ科

Euphrasia maximowiczii Wettst. var. *arcuata* F.Maek. ex T.Yamaz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる一年草。茎は少数の枝を出して直立し、短い剛毛をやや密にはえる。葉は円形から卵円形で、基部は円形で、鋸歯は鋭く尖る。8～9 月、上部の葉腋ごとに 1 個の花をつける。萼には短い剛毛をやや密につける。
- ❖ 分布の概要 平庭高原、早坂高原などの北上山地に分布する。北海道（南西部）・本州（東北地方北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 高原の草原や道ばたに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、林道開設、踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・早池峰指定植物。タチコゴメグサの変種で、同じ場所から母種の生育が報告されている。

(竹原 明秀)

ミツガシワ

キク目 ミツガシワ科

Menyanthes trifoliata L.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 50cm になる根茎は太く這う。根出葉は 3 小葉からなり、柄は基部が鞘となる。小葉は卵状楕円形から菱状楕円形で、先は鈍く、葉縁にはわずかに鋸歯がある。5～8 月、花は総状花序につき、萼は 5 深裂、花冠は漏斗状で白色、内面に毛がある。さく果は球形。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、滝沢市、花巻市、奥州市、一関市などの奥羽山脈、遠野市、釜石市、陸前高田市に分布する。北海道・本州・九州、千島・サハリンなどの北半球に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯以上の湿原内の小凹地、浅い湖沼の岸などに普通であるが、時に低地の湿性地に生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、埋め立て、道路工事、乾燥化、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・三陸復興・栗駒指定植物。山地帯以上では普通の植物であるが、低地の湿性（休耕田などを含め）に見られる場合、自然環境の指標となり、寒冷期から残存してきた貴重な存在といえる。
- ❖ 文 献 308. 大森鉄雄（2009）

（島田 直明）

オクノミズギク

キク目 キク科

Inula ciliaris (Miq.) Maxim. var. *pubescens* Sugim.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 20～50cm になる多年草。地下茎は短く横にはい、ロゼット状となる。根出葉はさじ形で、ほぼ全縁、裏面主脈上に長毛が密生する。茎は直立し、上部には長毛が密生する。7～9 月、茎頂や枝先に黄色い頭花をつける。総苞は半球形で、長毛を密生する。葉裏の脈上、茎上部、総苞にはしばしば短柄のある腺が混じる。
- ❖ 分布の概要 八幡平に分布する。本州（岩手県・青森県・尾瀬ヶ原）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の湿原に生える。
- ❖ 脅 威 湿原開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。腺点がないミズギクの変種で、別変種のオゼミズギクは茎の中部以上の葉の裏面に腺点をもち、尾瀬ヶ原と東北地方の冷温帯湿原に生育する。県内におけるミズギク、オクノミズギク、オゼミズギクの分布状況は明らかにされていない。

（鈴木 まほろ）

ハンゲシヨウ

コシヨウ目 ドクダミ科

Saururus chinensis (Lour.) Baill.

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 50～100cm になる多年草。葉は互生、葉身は卵形から狭卵形、基部は心形で、葉柄は長い。6～8 月に開花する。開花時に花序に近い数個の葉の下半部が白くなり、昆虫を誘引する。
- ❖ 分布の概要 紫波町、北上市、一関市、陸前高田市に分布する。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・ベトナム・フィリピン・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の水辺や湿地に生育する。
- ❖ 脅 威 湿原開発、薬用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興指定植物。東日本大震災の津波前に陸前高田市小友町に生育し、野生絶滅したが、移植されたものが残っているという。いずれ、野生のものであるか検討が必要である。

（島田 直明）

情報不足

スジヌマハリイ

イネ目 カヤツリグサ科

Eleocharis equisetiformis (Meinsh.) B.Fedtsch.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。稈はまばらに生え、長い匍匐根茎からなる。有花茎は明らかな縦の数条があり、円くて平滑で軟らかく、内部は綿状となる。基部の鞘は赤褐色。小穂は披針形または卵形。柱頭は 2 個、刺針状の花被片は 4 本またはない。
- ❖ 分布の概要 県内の分布は不明。本州（青森県～神奈川県）・九州、中央アジア・モンゴル・朝鮮半島（南部）・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の湿地や池の周辺で、やや砂が混じる場所に群生する。
- ❖ 脅威 湿地の埋め立て、乾燥化による生育環境の悪化など。
- ❖ 特記事項 生育地・個体数ともに少ないと考えられる。

(沼宮内 信之)

情報不足

ヒメカラマツ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Thalictrum alpinum L. var. *stipitatum* Y.Yabe

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる多年草。地中に匍匐枝を伸ばし、根生葉を出す。葉は 2～3 回 3 出複葉で小托葉はなくい。頂小葉は卵形～広卵形で、葉の先端は 2～3 浅裂し、質はやや厚く、葉脈は下面に隆起する。茎葉は 1～2 個ある。7～8 月、総状花序で 10 個程度の下垂する花をつける。萼は 4 個あり、早落性。葯は淡黄色で、花糸は赤味を帯び、葯より細い。そう果は柄があり、両側に縦に隆起する 5 脈がある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山に分布するというが、確認されていない。本州（早池峰山・中部地方）・四国、ヒマラヤに分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の垂直に近い岩場、砂礫地、乾いた草原などに生育する。
- ❖ 脅威 踏み荒らし、園芸用の盗掘、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 国立科学博物館（TNS）に 1924 年、内川目村で採集されたさく葉標本がある。

(竹原 明秀)

情報不足

ヤナギヌカボ

ナデシコ目 タデ科

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる一年草。茎の下部ははい、上部は直立し、赤紫色をおび、無毛。葉は長披針形～線形で、基部はやや丸みをおび、質はやや厚く、両面の中央脈上と表面の縁付近に毛があり、下面には腺点がある。托葉鞘には縁毛がある。7～9 月、花序は細く、偽総状花序に淡紅色の小さな花がややまばらにつける。種子は黒色で光沢がある。
- ❖ 分布の概要 陸前高田市で採集された標本があるが、その後、確認されていない。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 ため池の縁、休耕田、水路などの湿性に生育する。
- ❖ 脅威 池沼・河川・湿地開発、土地造成、水質汚濁、農薬汚染など。
- ❖ 特記事項 生育地は少ないと思われる。

(竹原 明秀)

情報不足

ヒナノウスツボ

シソ目 ゴマノハグサ科

Scrophularia duplicatoserrata (Miq.) Makino

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 50～100cm になる多年草。地下茎は肥大し、細い根を出す。茎はやや軟弱で、やや角張った 4 稜がある。葉は対生し、葉身は卵状長楕円形で尖った重鋸歯がある。7～9 月、茎の先端に円錐花序をつけ、まばらに多くの暗赤紫色の花をつける。花柄に腺毛がまばらにつける。花が開くと雌蕊が先に花外に伸び出し、受粉後は下垂し、その後、雄蕊が伸びて葯が裂開する。さく果は球形。
- ❖ 分布の概要 久慈市、宮古市、山田町、釜石市、遠野市などから報告されている。本州（東北地方以南）・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の林床や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 近縁種が複数あり、検討する必要がある。自然分布であれば、北限にあたる。

（竹原 明秀）

情報不足

クマツヅラ

シソ目 クマツヅラ科

Verbena officinalis L.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる多年草。茎や葉に細かい短毛がある。茎は 4 稜で直立し、上部で枝分かれし、基部は木質化する。葉は線卵形から楕円形で、羽状に中～深裂する。6～9 月、長く細い穂状花序をつける。花軸と苞には腺毛があり、花冠は淡紅紫色で、上部で少し曲がる。分果は赤褐色で、背面に縦の肋がある。
- ❖ 分布の概要 西和賀町、遠野市に分布する。本州・四国・九州・琉球、アジア・ヨーロッパ・アフリカ（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 山野の道端、耕作地の縁などに生育する。
- ❖ 脅威 草刈り、草原開発、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 自然分布であれば北限に近いと考えられるが、国内外来とも考えられる。
- ❖ 文献 306. 大森鉄雄（2017）

（竹原 明秀）

情報不足

クザカイトンポポ

キク目 キク科

Taraxacum kuzakaiense Kitam.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 ロゼット状に生育する多年草。根出葉は倒披針状線形で、羽状深裂する。4～5 月、黄色い頭花をつける。総苞は角がなく、外片は反転せず、おおむね緑色、外片は内片の 1/2 長で長楕円形をなし、やや鋭尖頭となる。舌状花の先端が黒変する。そう果はやや短い。
- ❖ 分布の概要 宮古市区界高原で初めて記録された。県内各地で記録があるが、誤同定の場合が多い。
- ❖ 生育状況 山地の草原や林縁などの日当たりがよい場所に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、強度の草刈り、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 岩手県の固有種とされていたが、近年はエゾタンポポの一型とみなす見解があり、分類学的位置づけが不確定になっている。
- ❖ 文献 140. 藤澤英俊（2024）

（鈴木 まほろ）

情報不足

カノコソウ

マツムシソウ目 スイカズラ科

Valeriana fauriei Briq.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 40～80cm になる多年草。細長い地下茎を伸ばす。茎は直立し、節に白長毛がある。葉は対生し、羽状に全裂、粗い鋸歯がある。5～7 月、茎の上部に集散花序をつけ。密に淡紅色を帯びた白色の小さな花を多数つける。花冠は 5 裂し、花筒の片側はややふくれる。そう果は披針形で、白色の羽状冠毛がある。
- ❖ 分布の概要 雫石町、金ケ崎町などに分布する。北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・サハリンに分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや湿った草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、道路工事、園芸用や薬用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 以前から個体数が少ないとされたが、現在、生育情報は得られていない。根を漢方薬として利用したことがある。
- ❖ 文献 114. 大谷雅人ほか（2013）

（竹原 明秀）

情報不足

ムカゴソウ

クサスギカズラ目（キジカクシ目） ラン科

Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) Vuijk

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 20～45cm になる多年草。茎はやや細く、中部に 3～5 個の葉が互生する。葉は線形から広線形で鋭尖頭となる。6～8 月、茎の上部に淡緑色の小さな花を多数穂状につける。苞は卵状 3 角形、先端は鋭尖頭、萼片は長楕円形、鈍頭、側花弁は線状披針形、萼片より少し短い。中裂片ははなはだ短く突起状で、距はない。
- ❖ 分布の概要 滝沢市、花巻市、一関市などで記録されているが、現在、確認されていない。北海道（南西部）・本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国（東北部）・台湾に分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿った草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 三陸復興・栗駒指定植物。自然草原の減少とともに急速に減少していると考えられるが、現状に関する情報が少ない。
- ❖ 文献 262. 大森鉄雄（1974）、6. 大森鉄雄（1996）

（沼宮内 信之）

情報不足

ミヤマイ

イネ目 イグサ科

Juncus beringensis Buchenau

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 15～40cm になる多年草。根茎は這い、節間はきわめて短い。茎は円筒状、葉は茎の下部に鱗片状になってつく。7～9 月、花序は仮側生で、2～5 個の花をつける。花被片は黒褐色で光沢があり、披針形で先端は尖る。雄ずいは 6 個。種子は長楕円形で、両端に尾のあるおがくず状となる。
- ❖ 分布の概要 早池峰山から報告されている。北海道・本州（中部地方以北）、千島・カムチャツカ・アリューシャン・ベーリング沿岸地方に分布する。
- ❖ 生育状況 高山帯の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 水環境の変化、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 現在、確認されている個体数はきわめて少ない。
- ❖ 文献 51. 大迫町立山岳博物館編（1983）、151. 高野祐晃（2003）

（沼宮内 信之）

情報不足

ニッコウコウガイゼキショウ

イネ目 イグサ科

Juncus nikkoensis Satake

環境省 なし

- ❖ 形態 20～40cm になる多年草。小型な個体が多く、白色の小粒状突起が茎や葉に現れることがある。6～8 月、頭花を 2～3 個つけ、雄ずいは花被片と同長になる。さく果は披針形でやや太い。
- ❖ 分布の概要 雫石町、奥州市、山田町から報告されている。北海道・本州・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地帯の湿性地に生育する。
- ❖ 脅威 水環境の変化など。
- ❖ 特記事項 早池峰指定植物。普通種のアオコウガイゼキショウに似るため、分布を含め、再検討する必要がある。

(沼宮内 信之)

情報不足

ホスゲ

イネ目 カヤツリグサ科

Carex senanensis Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。根茎は短く、稈を叢生し、やや軟弱で稈上はざらつく。葉は鮮緑色となる。小穂は淡緑色で、7～9 個つき、頂部雌花、基部は狭形の雄花からなる。果胞は卵状披針形となる。嘴が長く、果胞の半分の長さになり、ふちは翼状となり、鋭い歯がある。
- ❖ 分布の概要 焼石岳から報告されたことがあるが、現在、確認されていない。本州（中部地方以北）に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の草原や林縁に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 自然分布であれば、北限にあたるが、再検討する必要がある。

(沼宮内 信之)

情報不足

タカネコウボウ

イネ目 イネ科

Anthoxanthum horsfieldii (Kunth ex Benn.) Mez ex Reeder var. *japonicum* (Maxim.) Veldkamp

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30～80cm になる多年草。根茎は斜上し、まばらに稈を叢生する。稈の上部は無毛、下部ではしばしば稈の直下に下向きの粗毛をつける。葉鞘の外面と上縁に開出か下向きの長毛をつける。6～7 月、やや密な円錐状の花序を出し、頂部が點頭するために一方向に傾く。2 個の苞穎は膜質で、不同長。小花は第 2 苞穎にくらべ著しく小さい。
- ❖ 分布の概要 栗駒山に分布するという。本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の草原に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 栗駒指定植物。分布の北限となっているが、県内でほかの生育地は確認されていない。

(沼宮内 信之)

情報不足

タチイチゴツナギ

イネ目 イネ科

Poa nemoralis L.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 40～60cm になる弱々しい多年草。稈は少数が束生し、ほぼ直立する。葉身は平たく、すべての葉身が葉鞘よりも長い。葉鞘は円筒形、平滑、葉舌は微小で、時に消失する。7～8月、円錐花序を出し、上半分にまばらに小穂をつけ、先が垂れる。小穂は扁平で、2～4個の小花からなる。苞穎の竜骨の上半分はざらつく。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、釜石市から報告されているが、誤同定を含めて、確認されていない。本州（中部地方以北）、朝鮮半島・千島・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 深山の日陰地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事など。
- ❖ 特記事項 県内から報告された個体も誤同定の可能性があり、検討する必要がある。

（沼宮内 信之）

情報不足

エゾキケマン

キンポウゲ目 ケシ科

Corydalis speciosa Maxim.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm の一年草。茎は円形で柔らかく、分枝し、やや直立する。葉は互生し、狭卵形、羽状複葉、小葉は細かく羽状に裂ける。6月、花序をまっすぐ伸ばし、その先端にやや密に黄色の花を多数つける。種子は表面に細かい凹点をつける。
- ❖ 分布の概要 八幡平、早池峰山、室根山に記録がある。北海道・本州（北部）、朝鮮半島・中国・サハリン・シベリア（東部）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山中の草原や荒れ地に生育する。
- ❖ 脅威 自然災害による表土攪乱、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 早池峰・栗駒指定植物。自然分布であれば、南限となる。近似種との判別が難しく、精査が必要である。
- ❖ 文献 10. 菊地政雄・小水内長太郎（1961）

（鈴木 まほろ）

情報不足

イワカラマツ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Thalictrum minus L. var. *sekimotoanum* (Honda) Kitam.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 80～100cm になる多年草。茎の上部はよく分枝する。葉は2～4回3出複葉で、茎、葉柄、小葉の両面には微腺毛を密生し、粘る。6月、大型の円錐花序を広げ、多数の花をつける。萼の外面、雄ずいなどにも微腺毛が密生し、粘る。
- ❖ 分布の概要 久慈市、二戸市、岩泉町に分布する。本州（青森県・秋田県・栃木県・長野県など）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい岩壁や礫地、特に石灰岩地に生育する。
- ❖ 脅威 自然災害による岩礫の崩壊、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 近縁変種のアキカラマツとは、微腺毛が密生することで区分される。県内に分布するかを含め、再検討する必要がある。
- ❖ 文献 309. 安本広静（1965）

（竹原 明秀）

情報不足

ノカラマツ

キンポウゲ目 キンポウゲ科

Thalictrum simplex L. var. *brevipes* H.Hara

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 60～120cm になる多年草。全体に毛がなく、茎には鋭い稜があり、分枝しないことで近縁種と区分される。小葉はくさび形で、長さは幅より明らかに大きく、裏面は白色を帯びる。花序は細い円錐状で、花柄は長く伸びない。花は黄緑色で、早落性のがく片をつける。
- ❖ 分布の概要 洋野町、久慈市、二戸市から報告されている。本州（東北地方南部以南）・四国・九州、朝鮮半島（南部）・中国（中北部・東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい草原などに生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、堤防建設など。
- ❖ 特記事項 近縁種のアキカラマツと誤同定されている場合があるため、再検討する必要がある。

（竹原 明秀）

情報不足

トカチスグリ

ユキノシタ目 スグリ科

Ribes triste Pall.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 1m になる夏緑広葉小低木。幹の下部は地上を匍匐する。若枝は緑色または紅色を帯びることがあり、短毛と腺毛を散生する。葉身は丸みをおびた五角形で、基部はやや深く心形、両面にまばらに短軟毛をつける。5～7 月、総状花序を下垂させ、紫色の両生花をつける。赤く熟する液果には腺毛がない。
- ❖ 分布の概要 花巻市、葛巻町、岩泉町から報告されている。北海道・本州（岩手県・山梨県）、朝鮮半島・サハリン・シベリア（東部）・南千島～北アメリカに分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床や溪流沿いの岩上や岩礫地に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 近縁種が数種あり、開花・結実期以外では誤同定される場合がある。

（竹原 明秀）

情報不足

シオカゼオトギリ

キントラノオ目 オトギリソウ科

Hypericum iwatellitorale H.Koidz.

環境省 情報不足

- ❖ 形態 高さ 30cm になる多年草。茎に 2 条の隆起線が走り、その上に黒点がある。葉にある腺点は淡色、縁に黒色からやや赤い腺点がある。花弁の腺点は淡色、縁には黒色の腺点がある。花弁は小さく、がく片の縁には腺点がほとんどない。
- ❖ 分布の概要 宮古市トドヶ崎から報告されているが、沿岸各地に分布する可能性がある。岩手県以外からの報告はない。
- ❖ 生育状況 岩壁の割れ目や岩礫の堆積した場所に生育する可能性が高い。
- ❖ 脅威 自然災害による斜面崩壊、道路工事（改修や法面保護など）など。
- ❖ 特記事項 宮古市トドヶ崎から採集された標本に対して命名された。現地調査が数回行われているが、再確認はできていない。近似種との識別が難しい。
- ❖ 文献 310. Koizumi (1937)

（鈴木 まほろ）

情報不足

オオイタヤメイゲツ

ムクロジ目 ムクロジ科

Acer shirasawanum Koidz.

環境省 なし

- ❖ 形態 樹高 18m になる夏緑広葉高木。樹皮は灰白色で、縦に裂け目がある。葉は対生し、葉柄はやや長く、葉身と同長ないし 2/3 程度で、毛はない。葉身は洋紙質で、掌状に浅く 9~13 裂し、葉縁には重鋸歯がある。5~6 月、黄白色の花を開く。雄花と両生花が同株につく。子房と分果には軟毛を密生~散生する。
- ❖ 分布の概要 花巻市、奥州市、大船渡市に分布するというが、再調査の必要がある。本州（福島県以南）・四国に分布する。
- ❖ 生育状況 山地に生育し、やや湿った所では純林をつくることがある。
- ❖ 脅威 森林伐採など。
- ❖ 特記事項 分布の北限と考えられるが、誤同定の可能性が高い。

(竹原 明秀)

情報不足

ミズタガラシ

アブラナ目 アブラナ科

Cardamine lyrata Bunge

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30~60cm になる多年草。茎は直立するが、開花後、倒伏し、地を這う。茎の基部から細長い伸びる匍匐枝を出し、単葉をつける。茎につく葉は羽状複葉、頂小葉は大きく、広卵形で、側小葉は小さく、卵形、2~7 対ある。4~6 月に総状花序をつけ、白色の小さな花を 10~30 個つける。長角果は線形となる。
- ❖ 分布の概要 花巻市、洋野町、岩泉町から報告がある。本州・四国・九州、朝鮮半島・中国・モンゴル・シベリア（東部）に広く分布する。
- ❖ 生育状況 水田や低湿地に生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、強度の草刈り、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 近年、生育しているという情報は得られていない。生育環境が不安定であるため、生育の有無は年による変動があると考えられる。
- ❖ 文献 13. 大森鉄雄（2010）

(竹原 明秀)

情報不足

イトハコベ

ナデシコ目 ナデシコ科

Stellaria filicaulis Makino

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30~50cm になる多年草。茎は株状に叢生、直立し、上部は分枝する。葉は対生につき、線形で先端は尖り、無毛で薄い。5~7 月、葉腋から糸状の花柄を伸ばし、花を単生させる。萼片は披針形で 5 個ある。花弁は 5 弁、白色で深く二つに裂ける。
- ❖ 分布の概要 大槌町、大船渡市、陸前高田市に分布する。本州（東北地方・関東地方）、朝鮮半島・中国・モンゴルに分布する。
- ❖ 生育状況 低地の湿地に生育する。
- ❖ 脅威 森林開発、湿地開発、草原開発など。
- ❖ 特記事項 以前に採集された記録があるが、現在は不明である。自然分布かどうかを含め、検討する必要がある。

(竹原 明秀)

情報不足

ミドリアカザ

ナデシコ目 ヒユ科

Chenopodium bryoniifolium Bunge ex Trautv.

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 60cm になる一年草。茎は細く、直立し、上部は分岐し、粉状物が多少付着する。葉は柄が長く、3 角状卵形、菱状卵形で先端は鋭形、基部は広いくさび形になる。縁は全縁から歯牙があり、薄い。8～9 月にまばらに花をつける。胞果は水平、レンズ型で、黒色の種子がある。
- ❖ 分布の概要 北上山地、特に石灰岩地帯に分布する。本州・四国・九州、シベリア（東部）・アムール・ウスリー・朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山地の崩壊地などの不安定な場所に生育する場合が多い。
- ❖ 脅威 森林伐採に伴う林道整備、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 イワアカザとの混同もありうるため、過去の記録を精査する必要がある。
- ❖ 文献 17. 菊地政雄（1965）

（鈴木 まほろ）

情報不足

キクムグラ

リンドウ目 アカネ科

Galium kikumugura Ohwi

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 20～40cm になる多年草。茎は柔らかく、無毛で斜上する。葉は 4 個輪生し、楕円形または狭倒卵形で、先端は円いか短く尖り、縁にのみ上向きの剛毛が生じる。5～6 月、枝先や葉腋から花序を出す。小花柄は細く、長さが不同で、ほとんど柄がないものから短い柄があるものまでである。花は白色で、4 深裂し、小さい。
- ❖ 分布の概要 奥羽山脈を除く各地から分布することが報告されているが、不明な地域が含まれる。北海道・本州・四国・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林縁などに生育する。
- ❖ 脅威 森林開発など。
- ❖ 特記事項 近縁種が多く、これまでに報告があった資料に関して再検討する必要がある。

（竹原 明秀）

情報不足

ハナムグラ

リンドウ目 アカネ科

Galium tokyoense Makino

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 30～60cm になる多年草。茎は横に広がり斜上し、4 稜があり、稜上に下向きの刺状毛がある。葉は 4～6 個が輪生し、狭倒披針形、先端はやや丸くやや凹頭または鈍頭する。5～7 月、枝先と葉腋から花序を伸ばし、白色の花を多数つける。果実には毛がない。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、北上市、奥州市などに分布するというのが、確認されていない。本州（中部地方以北）・九州、朝鮮半島・中国（東北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 河岸の湿った草原に生育する。
- ❖ 脅威 河川・湿地の開発、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 類似する種が多いため、誤同定の可能性がある。

（竹原 明秀）

情報不足

ヒメナエ

リンドウ目 マチン科

Mitrasacme indica Wight

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 高さ 5～10cm の小さな一年草。茎は軟弱で、下部で分枝することがある。葉は茎にまばらにつき、披針形または線形で、先端は尖り、中脈のみが目立つ。花は茎の上部の葉腋に1個ずつつき、白色、花冠は先が4裂する。
- ❖ 分布の概要 北上川低地に分布したという情報があるが、再確認する必要がある。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・インド・マレーシア・オーストラリアに分布する。
- ❖ 生育状況 日当りのよい低湿地に生育する。
- ❖ 脅威 湿地開発、水環境の変化、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 生育環境が不安定のため、現在、絶滅した可能性が高い。

(竹原 明秀)

情報不足

チョウジソウ

リンドウ目 キョウチクトウ科

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 高さ 80cm になる多年草。茎は直立し、群生する。葉は互生するが、一部が対生、披針形で、先は鋭く尖る。5～6月、茎の先端に多数の青紫色の花を集散状につける。花冠は高杯状、裂片は狭長楕円形で、平開する。
- ❖ 分布の概要 山田町から報告されていたが、環境が改変されたため、確認が取れていない。北海道・本州・九州、朝鮮半島・中国に分布する。
- ❖ 生育状況 河岸や原野などのやや湿った草原に生育する。
- ❖ 脅威 湿地・草原開発など。
- ❖ 特記事項 報告があった生育地は現在、埋め立てられ、絶滅した可能性が高い。

(竹原 明秀)

情報不足

オオルリソウ

ムラサキ目 ムラサキ科

Cynoglossum furcatum Wall. var. *villosulum* (Nakai) Riedl

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 60～120cm になる一年草。茎にはやや密な短い圧毛がある。葉は長楕円状披針形で、両端とも尖り、短毛が多い。7～8月、淡青紫色の花を総状にやや密につける。果実には鈎状の刺がある。
- ❖ 分布の概要 奥州市、陸前高田市からの報告がある。本州・四国・九州・琉球、朝鮮半島・中国・台湾・東南アジア・インドに分布する。
- ❖ 生育状況 山地に草原に生育する。
- ❖ 脅威 草地開発、草刈りなど。
- ❖ 特記事項 近縁種にオニルリソウがあり、誤同定の可能性も含めて再検討する必要がある。

(竹原 明秀)

情報不足

ヒロハスズメノトウガラシ

シソ目 アゼナ科

Lindernia antipoda (L.) Alston var. *verbenifolia* (Colsm.) Ohba

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 10～20cm になる一年草。茎は根元で枝分かれして斜上する。葉は互生し、葉柄はなく、倒披針形、両面とも毛はない。8～10 月、上部の葉腋から花柄を出し、1 個の花をつける。花冠は淡紅紫色で、萼の約 2 倍の長さがある。
- ❖ 分布の概要 北上川低地に分布したが、近年の情報はない。本州・四国・九州・琉球、東南アジアに広く分布する。
- ❖ 生育状況 やや湿り気のある田や畑などに生育する。
- ❖ 脅威 圃場整備、土地造成など。
- ❖ 特記事項 同じ生育環境には類縁種が複数生育するため、再同定が必要と考えられる。

(竹原 明秀)

情報不足

ミヤマナミキ

シソ目 シソ科

Scutellaria shikokiana Makino var. *shikokiana*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 5～15cm になる多年草。細長い地下茎があり、茎は直立し、節より枝を出す。葉は対生し、長い葉柄がある。7～8 月、茎頂に花序をつけ、まばらに花をつける。花冠は白色でわずかに淡紅色を帯び、基部からゆるやかに斜上する。
- ❖ 分布の概要 北上山地で発見されたが、その後、確認されていない。本州（関東地方以西）・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床などの木陰に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 特記事項 全国的な分布状況から、県内の報告は再検討する必要がある。

(竹原 明秀)

情報不足

イヌニガクサ

シソ目 シソ科

Teucrium veronicoides Maxim. var. *brachytrichum* Ohwi

環境省 絶滅危惧ⅠA類

- ❖ 形態 高さ 20～30cm になる多年草。茎は直立し、開出毛は短く、少ない。葉は卵形～広卵形、先端はやや尖り、基部は広いくさび形、鋸歯は粗大で荒々しい。8 月、まばらに一方向に偏って淡紅色の花をつける。萼は上方にまばらに腺毛があり、果時には下向きになる。
- ❖ 分布の概要 八幡平市、岩泉町に分布するという。盛岡市、北上市などから以前に報告されたが、最近の情報はない。本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地のやや暗い林床に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平指定植物。母種のエゾニガクサとともに生育地は少ないと考えられる。

(竹原 明秀)

情報不足

タチコゴメグサ

シソ目 ハマウツボ科

Euphrasia maximowiczii Wettst. var. *maximowiczii*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～30cm になる一年草。茎は少数の枝を出して直立し、曲がった毛がはえる。葉は卵円形、基部は円形で、葉柄はなく、両面とも毛がない。8～9 月、上部の葉腋ごとに 1 個の花をつける。萼は筒形で、中裂する。さく果は長楕円形で、十数個の種子がある。
- ❖ 分布の概要 平庭高原、早坂高原などの北上山地に分布する。本州（東北地方以南）・四国（西部）・九州に分布する。
- ❖ 生育状況 高原の草原や道ばたに生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、林道開設、踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 類似する種が多く、誤同定の可能性がある。
- ❖ 文献 151. 高野祐晃（2003）

（竹原 明秀）

情報不足

エゾコゴメグサ

シソ目 ハマウツボ科

Euphrasia maximowiczii Wettst. var. *yezoensis* (H.Hara) H.Hara ex T.Yamaz.

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15～20cm になる一年草。茎は分枝することが少なく、直立する傾向にある。葉は円形から卵円形で、基部は狭まった鈍形で、鋸歯はあまり尖らない。8～9 月、上部の葉腋ごとに 1 個の花をつける。
- ❖ 分布の概要 葛巻町、釜石市からの報告がある。北海道・本州（東北地方）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地草原に生育する。
- ❖ 脅威 草原開発、林道開設、踏みつけ、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 タチコゴメグサの変種で、同じ場所から母種の分布が報告されているため、再検討する必要がある。

（竹原 明秀）

情報不足

ホソバエゾノコギリソウ

キク目 キク科

Achillea ptarmica L. subsp. *macrocephala* (Rupr.) Heimerl var. *yezoensis* Kitam.

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形態 高さ 80 cm ほどになる多年草。葉は披針状線形で、細かい鋸歯がある。7～8 月、茎頂に頭状花序を散房状につける。頭花は白色で、舌状花は 2 列に並ぶ。
- ❖ 分布の概要 久慈市から報告されているが、確認されていない。北海道に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい岩場に生育する。
- ❖ 脅威 自然災害などによる自然遷移、園芸用の盗掘など。
- ❖ 特記事項 本変種は北海道の蛇紋岩地帯から報告された個体に対してで、県内から報告された個体とは生育環境（海崖）が異なること、母種にあたる亜種も同じ場所に分布することなどから、亜種の変異の範囲に含まれ、誤同定の可能性がある。
- ❖ 文献 55. 小山田智彰ほか（2012）、60. 小山田智彰ほか（2020）

（鈴木 まほろ）

情報不足

ミネアザミ

キク目 キク科

Cirsium alpicola Nakai

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 1m ほどになる多年草。葉は羽状中裂する。鋸歯縁には 2~3mm の刺がある。8~10 月、枝の先に直立し、上向きに開く、中型の頭花をつける。総苞片はやや革質で、8~9 列で斜上から開出する。外片は内片よりも明らかに短い。
- ❖ 分布の概要 岩手山、秋田駒ヶ岳、早池峰山などから報告されているが、確認されていない。北海道（南西部）・本州（北部）に分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山地の林縁や湿地などに生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・早池峰・栗駒指定植物。現在の知見では岩手県は分布域外とされており、これまでに報告された情報は再検討する必要がある。
- ❖ 文献 51. 大迫町立山岳博物館編（1983）、246. 大森鉄雄・高橋久（1985）、311. 門田裕一（2008）

（鈴木 まほろ）

情報不足

エゾムカシヨモギ

キク目 キク科

Erigeron acris L. var. *acris*

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 15~55cm の多年草。茎にはやや密に白毛がある。下部の葉は倒披針形で、有翼の葉柄があり、葉縁には伸びした微突の鋸歯がある。中部の葉はやや狭く、基部は無柄となり茎を抱く。8 月、茎頂に汚白色または帯赤白色の頭花を散房状につける。総苞片に白毛があり、そう果は有毛で、帯赤色の冠毛がある。
- ❖ 分布の概要 奥州市牛形山に分布するという。北海道・本州（中部地方以北）、北半球の寒帯に広く分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山地の砂礫地に生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 十和田八幡平・栗駒指定植物。これまでに 1 ヲ所からの報告しかなく、現在の生育状況の確認と新たな生育地を調査する必要がある。
- ❖ 文献 246. 大森鉄雄・高橋久（1985）

（鈴木 まほろ）

情報不足

ムカシヨモギ

キク目 キク科

Erigeron acris L. var. *kamtschaticus* (DC.) Herder

環境省 なし

- ❖ 形態 高さ 30~50cm になる多年草。下部の葉は倒披針形、上部の葉は披針形で母種に比べてやや長い。8 月、茎頂に汚白色または帯赤白色の頭花をつける。総苞片に粉状の細網があり、白毛はない。
- ❖ 分布の概要 奥州市で採集されたが、最近、確認されていない。北海道・本州（中部地方）、朝鮮半島・サハリン・千島・カムチャツカ・アラスカに分布する。
- ❖ 生育状況 日当たりのよい山地の砂礫地などに生育する。
- ❖ 脅威 自然遷移など。
- ❖ 特記事項 本属には帰化植物もあり、本種以外にも母種エゾムカシヨモギにはいくつかの変種がある。これらを総合的に検討する必要がある。
- ❖ 文献 312. 鈴木實（1979）

（鈴木 まほろ）

情報不足

ナガバノコウヤボウキ

キク目 キク科

Pertya glabrescens Sch.Bip. ex Nakai

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 1m ほどになる夏緑広葉低木。葉にはほとんど毛がなく、1 年生の枝につくものは卵形で互生し、2 年生の枝につくものは細長く、各節に 5～6 個が輪生する。8～10 月、2 年生の枝先に頭花を 1 個つける。花冠は白色で、5 深裂する。そう果には圧軟毛がある。
- ❖ 分布の概要 一関市で採集されている。本州（宮城県以南）・四国・九州・対馬に分布する。
- ❖ 生育状況 やや乾燥した山地に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、林道工事など。
- ❖ 特記事項 1 ヶ所からの報告のみで、絶滅したという情報もある。
- ❖ 文 献 113. 鈴木實（1974）

（竹原 明秀）

情報不足

スルガヒョウタンボク

マツムシソウ目 スイカズラ科

Lonicera alpigena L. subsp. *glehnii* (F.Schmidt) H.Hara var. *watanabeana* (Makino) H.Hara

環境省 絶滅危惧ⅠB類

- ❖ 形 態 樹高 2～3m になる夏緑広葉低木。葉は薄く、長楕円形、先は長く尾状に尖り、縁毛があり、上面の中肋には葉柄とともに微細な腺毛をつける。下面は淡緑色で無毛となる。6 月、花冠は褐紅色で、果実は紅色に熟す。
- ❖ 分布の概要 六角牛山に分布するという。本州（北部・長野県・山梨県・静岡県）に分布する。
- ❖ 生育状況 山地の林床に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、自然遷移など。
- ❖ 特記事項 同種亜種のエゾヒョウタンボクに形態が類似し、同じ地域からの報告のため、同じ亜種の変異内に含まれる可能性がある。また、同じ亜種とする見解もあるため、再検討を要する。
- ❖ 文 献 32. 小水内長太郎・三浦徳蔵（1980）

（竹原 明秀）

情報不足

トウヌマゼリ

セリ目 セリ科

Sium suave Walter var. *suave*

環境省 なし

- ❖ 形 態 高さ 100cm になる多年草。茎は中空で、無毛。葉は有柄で、単羽状複葉、小葉は 7～17 対ある。7～9 月、茎の先端に小型の複散形花序をつける。花には 3 角形の目立たない萼齒片があり、花卉は白色で小さい。
- ❖ 分布の概要 盛岡市、野田村、宮古市などに分布する。北海道・本州、北半球に広く分布する。
- ❖ 生育状況 湿地に生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、踏みつけなど。
- ❖ 特記事項 記録がある場所では現在、確認はされていない。基準変種のヌマゼリも平地の湿性に生育し、本種との違いは不明確で、誤同定の可能性がある。そのため、分布を含め、再検討する必要がある。

（竹原 明秀）